

Nikon

デジタル一眼レフカメラ

D_f

使用説明書

Jp

このたびはニコンデジタル一眼レフカメラをお買い上げくださいまして、誠にありがとうございます。お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

本文中のマークについて

この使用説明書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。



カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。



カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。



使用説明書上で関連情報が記載されているページです。

表記について

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- バッテリーチャージャーを「チャージャー」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。
- この使用説明書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。

ヘルプ機能

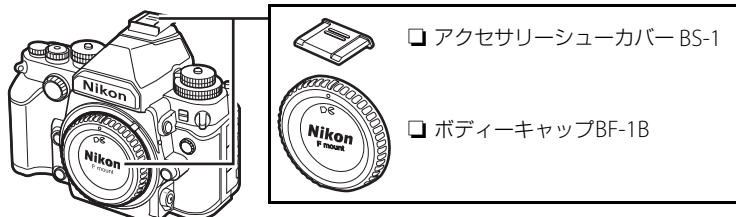
このカメラにはヘルプ機能が付いています。メニュー操作時などに、液晶モニターでその項目の意味などを調べることができます。詳しくは□□14をご覧ください。

⚠ 安全上のご注意

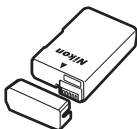
安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは□□ix～xivをご覧ください。

カメラと付属品を確認する

お使いになる前に、カメラと付属品が全てそろっていることを確認してください。



□ Dfカメラ本体



□ Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL14a (端子カバー付)



□ バッテリーチャージャー MH-24



□ アイピースキャップ DK-26 (□22)

□ ストラップ AN-DC9 (□17)

□ USB ケーブル UC-E6

□ アイピースキャップ用ひも (□22)

□ ViewNX 2 CD-ROM

□ 保証書

□ 使用説明書 (本書)

□ 登録のご案内

- レンズキットの場合はレンズも付属しています。
- SDメモリーカード (以下、SDカード) は付属していません。このカメラで使えるSDカードについては、□364をご覧ください。
- 日本国内でご購入いただいたカメラは、画面の表示言語を日本語または英語に設定できます。
- 万一、不足のものがありましたら、ご購入店にご連絡ください。

目次

安全上のご注意.....	ix
ご確認ください.....	xv
お使いになる前に	1
各部の名称と機能.....	1
メニューを使う.....	14
撮影前の準備.....	17
撮影と再生の基本操作	27
撮影する.....	27
画像を確認する.....	33
画像を削除する.....	34
露出モード	35
P (プログラムオート).....	37
S (シャッター優先オート).....	38
シャッタースピードを1/3ステップで設定する (露出モード S、M).....	39
A (絞り優先オート).....	40
M (マニュアル).....	41
長時間露出で撮影する (露出モード M のみ).....	43
レリーズモード	46
1 コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、レリーズモードを変更する.....	46
セルフタイマーを使って撮影する (Ⓢ).....	48
ミラーアップして撮影する (MUP).....	49
画像の記録	50
撮像範囲を変更する.....	50
画質モードを変更する.....	55
画像サイズを設定する.....	58

フォーカス 59

オートフォーカスで撮影する	59
AF モードを設定する	59
AF エリアモードを変更する	62
フォーカスポイントを自分で選ぶ	64
フォーカスロックしてピントを固定する	66
マニュアルフォーカスで撮影する	68

ISO 感度 70

ISO 感度を設定する	70
感度自動制御機能を使う	72

測光・露出 74

測光モードを設定する	74
AE ロックして露出を固定する	76
露出補正して画像の明るさを調整する	78

ホワイトバランス 80

ホワイトバランスを変更する	80
ホワイトバランスを微調整する	83
色温度設定で色温度を指定する	87
プリセットマニュアルで基準となる白を設定する	89
ファインダー撮影時にプリセットマニュアルデータを 新規取得する	90
スポットホワイトバランスでライブビュー撮影時に プリセットマニュアルデータを取得する	93
プリセットマニュアルデータを管理する	96

画像処理 100

ピクチャーコントロールを使って画像の仕上がりを簡単に設定したり、 思い通りに調整する	100
カスタムピクチャーコントロールを登録する	106
白とびや黒つぶれを抑えて撮影する	111
アクティブ D- ライティングで撮影する	111
HDR (ハイダイナミックレンジ) 合成を行う	113

フラッシュ撮影 117

使用できるスピードライト（別売フラッシュ）.....	117
スピードライトの調光方式について.....	126
フラッシュモードを設定する.....	127
フラッシュモードを切り換える.....	128
調光補正してフラッシュの発光量を変更する.....	130
FV ロックして調光量を固定する.....	132

撮影の便利な機能 134

ツーボタンリセットで基本的な機能を初期設定に戻す.....	134
オートブラケティングで露出や調光、ホワイトバランス、 アクティブ D- ライティングを変えながら撮影する.....	136
多重露出撮影で 1 つの画像に重ねて写し込む.....	147
インターバルタイマー撮影で設定した間隔で撮影する.....	152
非 CPU レンズを使用する（レンズ情報手動設定）.....	158
非 AI 方式レンズを使う.....	162
位置情報を画像に記録する.....	164

ライブビュー撮影 166

AF モードを変更する.....	168
AF エリアモードを変更する.....	169
i ボタンを使う.....	171
ライブビュー撮影中の情報表示について.....	172
ライブビュー時の表示を切り換える.....	173
マニュアルフォーカスで撮影する.....	174

画像の再生 178

1 コマ表示モードで画像を 1 コマずつ再生する.....	178
画像情報を表示する.....	181
サムネイル表示モードで複数の画像を一覧表示する.....	189
カレンダー表示モードで撮影した日付ごとに画像を表示する.....	191
画像を拡大表示する.....	193
プロテクトで画像を削除できないように保護をする.....	195
画像を削除する.....	196

パソコン、プリンター、テレビとの接続

200

ViewNX 2 をインストールする	200
ViewNX 2 を使う	203
パソコンに画像を取り込む	203
画像を見る	205
画像をプリンターで印刷する	207
画像をテレビで見る	215
HDMI ケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する	215
HDMI 対応機器との接続時の設定を変更する	216

メニューガイド

218

初期設定一覧	218
▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能	223
再生フォルダー設定	223
非表示設定	224
再生画面設定	225
撮影直後の画像確認	226
削除後の次再生画像	226
縦位置自動回転	226
スライドショー	226
📷 撮影メニュー：撮影で使える便利な機能	228
撮影メニューの管理	229
記録フォルダー設定	230
ファイル名設定	232
色空間	233
ヴィネットコントロール	234
自動ゆがみ補正	235
長秒時ノイズ低減	236
高感度ノイズ低減	236
🔧 カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定	237
カスタムメニューの管理	239
a：オートフォーカス	240
a1：AF-C モード時の優先	240
a2：AF-S モード時の優先	240
a3：AF ロックオン	241
a4：半押し AF レンズ駆動	241

a5: フォーカスポイント表示.....	242
a6: フォーカスポイント循環選択.....	242
a7: AF 点数切り換え	242
b: 露出・測光.....	243
b1: 中央部重点測光範囲.....	243
b2: 基準露出レベルの調節.....	243
c: AE ロック・タイマー	244
c1: 半押し AE ロック	244
c2: 半押しタイマー	244
c3: セルフタイマー.....	245
c4: 液晶モニターのパワーオフ時間	245
d: 撮影・記録・表示	246
d1: 電子音設定.....	246
d2: ファインダー内格子線表示	246
d3: ISO 感度表示.....	247
d4: インフォ画面のガイド表示	247
d5: 低速連続撮影速度	247
d6: 連続撮影コマ数	247
d7: 連番モード.....	248
d8: インフォ画面の表示設定	249
d9: イルミネーター点灯.....	249
d10: 露出ディレーモード.....	250
e: フラッシュ・BKT 撮影.....	251
e1: フラッシュ撮影同調速度	251
e2: フラッシュ時シャッタースピード制限.....	252
e3: 外付けフラッシュ発光	252
e4: フラッシュ使用時の露出補正.....	253
e5: モデリング発光.....	253
e6: オートブラケティングのセット.....	253
e7: BKT 変化要素 (M モード).....	254
e8: BKT の順序	254
f: 操作.....	255
f1:  ボタンの機能	255
f2: OK ボタンの機能.....	255
f3: マルチセクターの半押し起動.....	256
f4: Fn ボタンの機能.....	257
f5: プレビューボタンの機能.....	260

f6: AE/AF ロックボタンの機能.....	261
f7: コマンドダイヤルの設定	261
f8: ボタンのホールド設定	264
f9: カードなし時リリース	264
f10: インジケーターの+ / - 方向	265
f11: シャッタースピードの簡易シフト	265
Y セットアップメニュー: カメラを使いやすくする基本設定	266
カードの初期化 (フォーマット)	267
液晶モニターの明るさ	268
インフォ画面の自動表示	268
イメージダストオフデータ取得	269
フリッカー低減	271
地域と日時	272
言語 (Language)	273
縦横位置情報の記録	273
画像コメント	274
著作権情報	275
カメラ設定の保存と読み込み	276
水準器表示	278
AF 微調節	279
ワイヤレスリモートコントローラーの Fn ボタン	280
ワイヤレスモバイルアダプター	280
Eye-Fi 送信機能	281
ファームウェアバージョン	282
 画像編集メニュー: 撮影した画像に行う編集機能	283
D- ライティング	286
赤目補正	287
トリミング	288
モノトーン	289
フィルター効果	290
カラーカスタマイズ	291
画像合成	292
RAW 現像	
(パソコンを使わずに RAW 画像を JPEG 画像に変換する) ...	295
リサイズ	297
簡単レタッチ	299
傾き補正	299

ゆがみ補正	300
魚眼効果	301
塗り絵	301
カラススケッチ	302
アオリ効果	303
ミニチュア効果	304
セレクトカラー	305
編集前後の画像表示	307
 マイメニュー /  最近設定した項目	309
 マイメニュー：よく使うメニューを登録する	309
 最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる	313

資料

314

使用できるレンズ	314
使用できるアクセサリ	319
カメラのお手入れについて	325
保管について	325
クリーニングについて	325
ローパスフィルターのお手入れについて	326
カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意	332
露出モード P （プログラムオート）のプログラム線図	337
故障かな？と思ったら	338
電源・表示関連	338
撮影関連	339
再生関連	343
その他	345
警告メッセージ	346
主な仕様	354
AF-S NIKKOR 50mm f/1.8G（Special Edition）について	361
使用できる SD カード	364
記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数	365
撮影可能コマ数（電池寿命）について	368
索引	369
アフターサービスについて	379

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。表示と意味は、次のようになっています。



危険

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例



△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。



警告 (カメラとレンズについて)



分解禁止

分解したり修理や改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。



接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。



すぐに修理依頼を

バッテリー、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



バッテリーを取る

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかにバッテリーを取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。



すぐに修理依頼を

バッテリーを取り出す際、やけどに充分注意してください。
バッテリーを抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火や感電などの事故や故障の原因になります。



使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使わない

プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。



使用禁止

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。



発光禁止

車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと

事故の原因となります。



発光禁止

フラッシュを人の目に近づけて発光しない

視力障害の原因になります。

撮影時には、1m以上離れてください。

特に乳幼児の撮影には注意してください。



保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届くところに置かない

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだときは直ちに医師にご相談ください。



警告

ストラップが首に巻き付かないようにすること

特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと。

首に巻き付いて窒息の原因となります。



使用禁止

ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。

雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

警告 (カメラとレンズについて)



警告

指定のバッテリーまたは専用ACアダプターを使用すること
指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。

注意 (カメラとレンズについて)



感電注意

ぬれた手でさわらないこと
感電の原因になることがあります。



使用注意

カメラの電源がONの状態、長時間直接触れないこと
使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



保管注意

製品は幼児の手の届くところに置かない
ケガの原因になることがあります。



使用注意

逆光撮影では、太陽を画角から十分にずらすこと
太陽光がカメラ内部で焦点を結び、火災の原因になることがあります。
画角から太陽をわずかに外しても火災の原因になることがあります。



保管注意

使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること
太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。



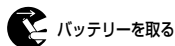
移動注意

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと
転倒したりぶつかったりして、ケガの原因となる場合があります。



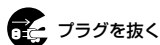
使用注意

航空機内では、離着陸時に電源をOFFにする
飛行中は無線通信機能を使わない
病院では、病院の指示に従う
本機器が出す電磁波などが、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
無線通信機器は、あらかじめカメラから取り外してください。



バッテリーを取る

長期間使用しないときは電源 (バッテリーやACアダプター) を外すこと
バッテリーの液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となる場合があります。



プラグを抜く

ACアダプターをご使用の際には、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となる場合があります。



禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと
熱がこもりケースが変形し、火災の原因になる場合があります。



注意 (カメラとレンズについて)



放置禁止

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない

故障や火災の原因になることがあります。



禁止

付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと

機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。



危険 (専用リチウムイオン充電電池について)



禁止

バッテリーを火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。



分解禁止

バッテリーを分解しない

液もれ、発熱、破裂の原因となります。



危険

バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げたりしない

液もれ、発熱、破裂の原因となることがあります。



危険

専用の充電器を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。



危険

ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと

ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。

持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。



使用禁止

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL14aに対応していない機器には使用しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL14aは、Df1に対応しています。



危険

バッテリーからもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。



警告 (専用リチウムイオン充電電池について)



保管注意

バッテリーは幼児の手の届くところに置かない

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。



水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱の原因となります。



警告 (専用リチウムイオン充電機について)



警告

変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと

液もれ、発熱・破裂の原因となります。



警告

充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときには、充電をやめること

液もれ、発熱・破裂の原因となります。



警告

バッテリーをリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはビニールテープなどで接点部を絶縁する

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関やリサイクル協力店にご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。



警告

バッテリーからもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。



注意 (専用リチウムイオン充電機について)



使用注意

充電中のバッテリーに長時間直接触れないこと

充電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



警告 (チャージャーについて)



分解禁止

分解したり修理や改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。



接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。



すぐに修理依頼を

チャージャーをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



プラグを抜く

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかにチャージャーをコンセントから抜くこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。



すぐに修理依頼を

チャージャーをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火や感電などの事故や故障の原因になります。

警告 (チャージャーについて)



使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使わない

プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。



警告

電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること

そのまま使用すると火災の原因になります。



使用禁止

雷が鳴り出したらチャージャーに触れないこと

感電の原因となります。

雷が鳴り止むまで機器から離れてください。



感電注意

ぬれた手でチャージャーをコンセントから抜き差ししないこと

感電の原因になることがあります。



禁止

チャージャーを海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わないこと

発熱、故障、火災の原因となります。

注意 (チャージャーについて)



感電注意

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。



使用注意

通電中のチャージャーに長時間直接触れないこと

通電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



放置注意

製品は幼児の手の届くところに置かない

ケガの原因になることがあります。



禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録ができます。

<https://reg.nikon-image.com/>

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

●カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

<http://www.nikon-image.com/support/>

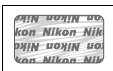
●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリ（レンズ、スピードライト、バッテリー、チャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14aには、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。



●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。

<http://www.nikon-image.com/support/manual/>

二コサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

SDカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。SDカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

SDカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にSDカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、プリセットマニュアルの画像（□89）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。SDカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

●電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としています。この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

アクセサリーについてのご注意

このカメラには、当社製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカatalogや当社のホームページなどでご確認ください（□xv）。

カメラなどの点検サービスについて

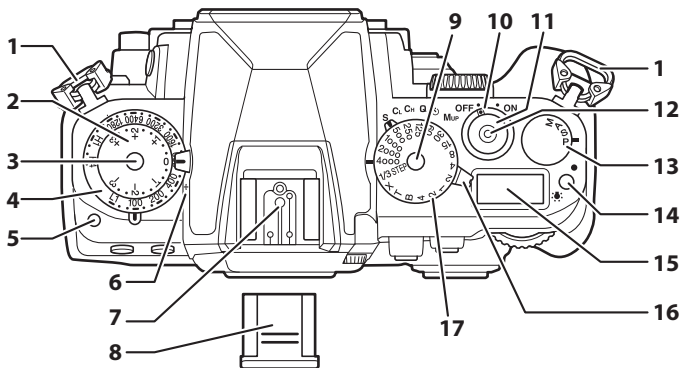
カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズや別売スピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

お使いになる前に

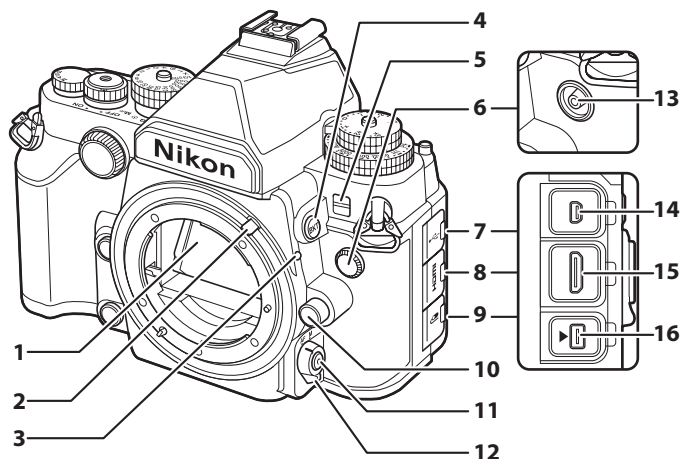
各部の名称と機能

カメラ本体

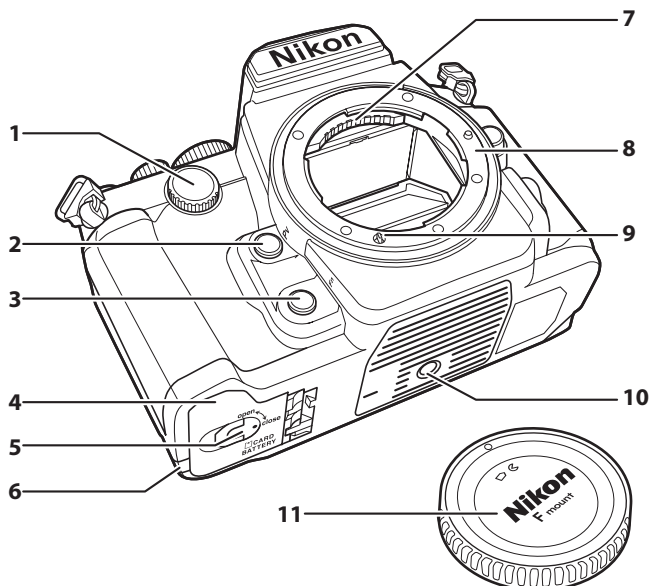


1	ストラップ取り付け部（吊り金具）	10	電源スイッチ	5
2	露出補正ダイヤル	11	シャッターボタン	30
3	露出補正ダイヤルロックボタン	12	レリーズソケット	319
4	ISO感度ダイヤル	13	露出モードダイヤル	7
5	ISO感度ダイヤルロックボタン	14	⬮ ボタン	
6	☉ 距離基準マーク		イルミネーター点灯	5
7	フラッシュ取り付け部 （アクセサリシュー）		ツーボタンリセット	134
8	アクセサリシューカバー	15	表示パネル	7
9	シャッタースピードダイヤル ロックボタン	16	レリーズモードダイヤル	6
		17	シャッタースピードダイヤル	38

カメラ本体 (つづき)



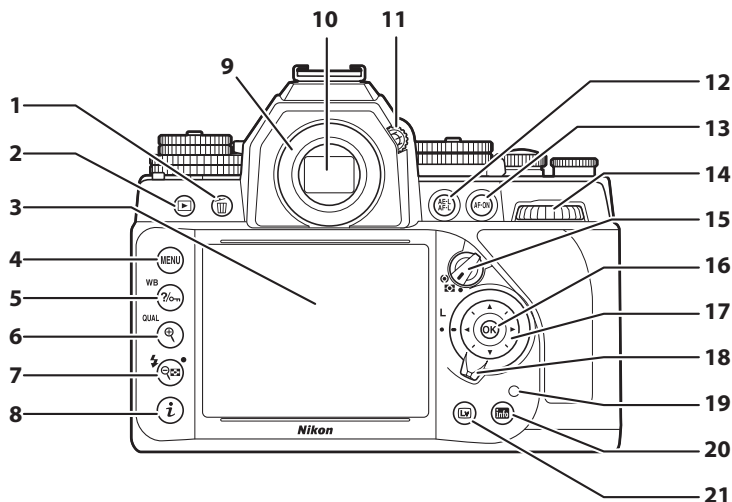
1	ミラー	49	9	アクセサリターミナルカバー	
2	露出計連動レバー	162	10	レンズ取り外しボタン	24
3	レンズ着脱指標	23	11	AFモードボタン	
4	BKT ボタン ブラケットング	137、141、144	12	フォーカスモード セレクター	59、68、168
5	セルフタイマーランプ	48	13	シンクロターミナル	118
6	シンクロターミナルカバー		14	USB端子	203、207
7	USB端子カバー		15	HDMIミニ端子	215
8	HDMI端子カバー		16	アクセサリターミナル	322



1	サブコマンドダイヤル	261
2	Pv ボタン プレビューボタン	40、167、260
3	Fn ボタン ファンクションボタン	257
4	バッテリー /SDカードカバー... 18	
5	バッテリー /SDカードカバー 開閉ノブ.....	18

6	パワーコネクターカバー.....	323
7	レンズ信号接点	
8	レンズマウント	23
9	AFカップリング	
10	三脚ネジ穴	
11	ボディキャップ	23、321

カメラ本体 (つづき)



1	削除ボタン 削除 34、196
2	再生ボタン 再生 33、178
3	液晶モニター 撮影時の設定を確認する 10 画像を確認する 33 ライブビューで撮影する 166 画像を1コマずつ再生する 178
4	MENUボタン メニュー 14、218
5	WB (WB) ボタン ヘルプ 14 プロテクト 195 ホワイトバランス 81
6	QUAL (QUAL) ボタン 拡大表示 193 画質モード/画像サイズ 55、58

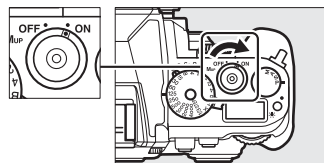
7	AE-L/AF-ON (AE-L/AF-ON) ボタン 縮小/サムネイル表示 189、191 ツーボタンリセット 134 フラッシュモード 128 調光補正 130
8	INFO ボタン 撮影時の設定を変更する 13 ライブビューの設定を 変更する 171 画像編集メニューを使う 285
9	接眼目当て 26
10	ファインダー接眼窓 26
11	視度調節ダイヤル 26
12	AE-L/AF-ON ボタン AE/AFロックボタン 66、76、261
13	AF-ON ボタン AF動作 60

14	メインコマンドダイヤル	261	19	SDカードアクセスランプ ...	19、31
15	測光モードダイヤル	75	20	info ボタン インフォ	10
16	OK OKボタン	15、255	21	Lv ボタン	166
17	マルチセレクター	15			
18	フォーカスポイントロック レバー	64			

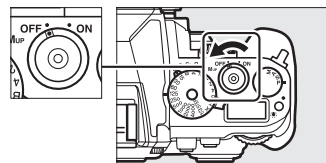


電源スイッチ

電源スイッチを矢印の方向に回して「ON」に指標を合わせると、カメラの電源がONになります。

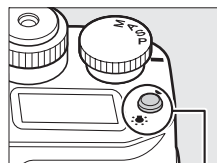


電源スイッチを矢印の方向に回して「OFF」に指標を合わせると、カメラの電源がOFFになります。



表示パネルのイルミネーター（照明）について

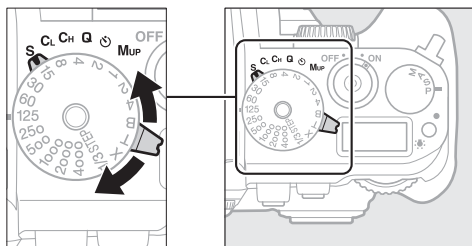
カメラの電源がONの状態ではボタンを押すと、表示パネルのイルミネーター（照明）が約6秒間点灯します。シャッターをきるか、もう一度ボタンを押すと消灯します。



ボタン

リリースモードダイヤル

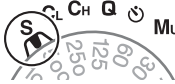
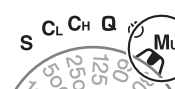
リリースモードダイヤルを回すと、リリースモードを切り換えられます (図46)。



リリースモードダイヤル

リリースモード

内容

 1コマ撮影	シャッターボタンを全押するたびに1コマずつ撮影します。
 低速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、低速連続撮影します。
 高速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、高速連続撮影します。
 静音撮影	1コマ撮影に比べて静かに撮影できます。
 セルフタイマー撮影	セルフタイマー撮影ができます。
 ミラーアップ撮影	ミラーアップ撮影ができます。

露出モードダイヤル

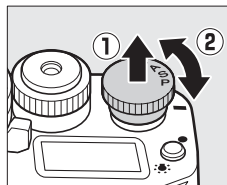
露出モードダイヤルを引き上げて回すと、次の各モードに切り換えられます。

P：プログラムオート (□37)

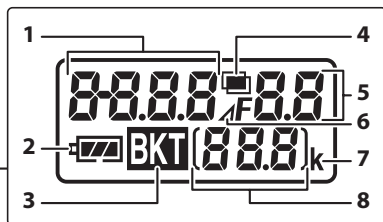
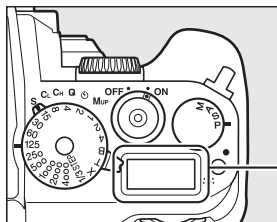
S：シャッター優先オート (□38)

A：絞り優先オート (□40)

M：マニュアル (□41)



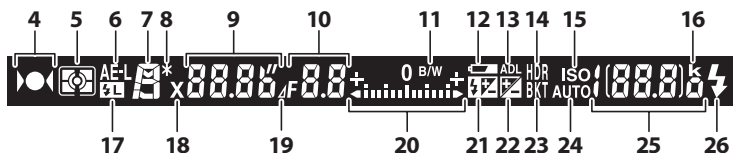
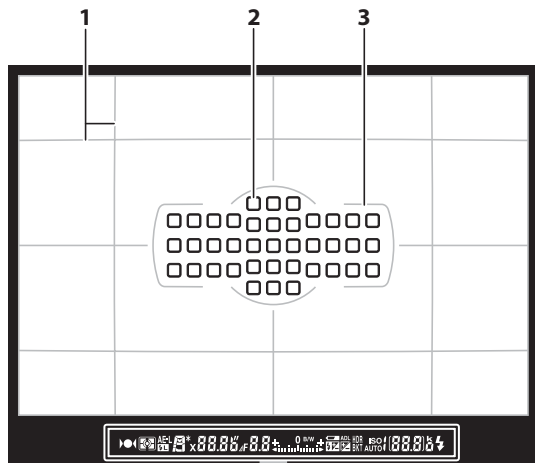
表示パネル (説明のため、全ての表示を点灯させています)



1	シャッタースピード	38、41
2	インターバル回数	155
3	オートブラケティングマーク ...	137
	WBブラケティングマーク	141
	ADLブラケティングマーク	144
4	多重露出マーク	148
5	絞り値	40、41
	絞り込み段数	36
	インターバルタイマー	
	撮影コマ数	155
	PC接続中マーク	321

6	絞り込み段数マーク	36
7	1000コマ以上補助表示	28
8	記録可能コマ数	28
	連続撮影可能コマ数	47
	ホワイトバランスプリセット	
	マニュアルデータ取得モード	
	表示	91
	PCカメラモード表示	321
	HDMI-CEC接続中マーク	216

ファインダー



✓ ファインダーについてのご注意

カメラにバッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなります。充電したバッテリーを入れると明るくなります。

✓ 高温、低温下での液晶表示について

表示パネルやファインダーの液晶表示は、高温・低温下で色の濃さが変わったり、低温下で応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

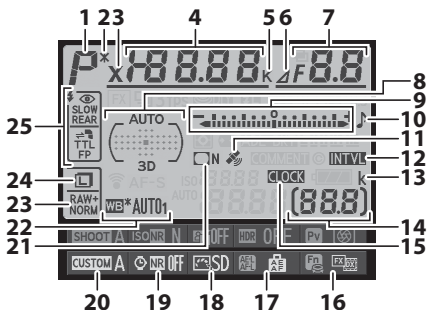
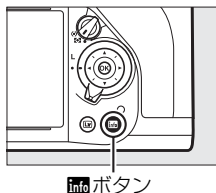
1	構図用格子線.....246 (カスタムメニュー d2 [ファイン ダー内格子線表示] を [する] に設 定している場合のみ表示されます)	15	ISO感度マーク70
2	フォーカスポイント表示 64、242 AFエリアモード表示 62	16	1000コマ以上補助表示28
3	AFエリアフレーム 26、182	17	FVロックマーク 133
4	ピント表示.....30、69	18	フラッシュシンクロマーク ... 251
5	測光モード.....74	19	絞り込み段数マーク36
6	AEロックマーク76	20	インジケーター 露出42 露出補正.....78 ローリング方向の水準器... 259
7	露出モード.....35	21	調光補正マーク 130
8	プログラムシフトマーク 37	22	露出補正マーク79
9	シャッタースピード38、41 AFモード60	23	オートブラケティングマーク ...137 WBブラケティングマーク 141 ADLブラケティングマーク ... 144
10	絞り値40、41 絞り込み段数.....36	24	感度自動制御設定マーク.....72
11	白黒マーク100 (ピクチャーコントロールが [モ ノクローム] の場合または [モノ クローム] を元にしたカスタムピ クチャーコントロールの場合にの み表示されます)	25	記録可能コマ数28 連続撮影可能コマ数47 ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ取得モード 表示.....91 露出補正值78 調光補正量 130 ISO感度70 AFエリアモード62
12	バッテリー警告表示 27	26	レディーライト※ 123
13	アクティブD-ライティング マーク112		
14	HDRマーク113		

※ 別売のスピードライト (□□119) 使用時のみ点灯します。スピードライトの充電が完了してフラッシュ撮影できることを示します。



インフォ画面 (説明のため、全ての表示を点灯させています)

info ボタンを押すと、液晶モニターに「インフォ画面」が表示されます。シャッタースピードや絞り値、記録可能コマ数、AFエリアモードなど、撮影に関する情報や設定の確認ができます。ホワイトバランスや画質モードなど、ボタンとコマンドダイヤルを組み合わせることで設定を変更した場合、インフォ画面が自動的に点灯します。



インフォ画面を消灯するには

- シャッターボタンを半押しする
- インフォ画面の表示中に、**info** ボタンを押す

操作を行わないまま約10秒経過したときも、インフォ画面は消灯します。

関連ページ

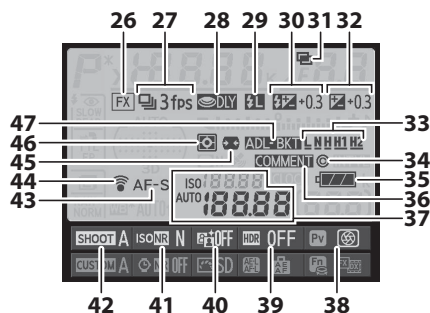
- 液晶モニターの点灯時間を変更する → **c4** [液晶モニターのパワーオフ時間] (245)
- インフォ画面の表示を手動で白黒反転する → **d8** [インフォ画面の表示設定] (249)
- シャッターボタンを半押ししてインフォ画面を点灯する → **Y** [インフォ画面の自動表示] (268)

1	露出モード.....	35	9	インジケーター	
2	プログラムシフトマーク	37		露出	42
3	フラッシュシンクロマーク.....	251		露出補正.....	78
4	シャッタースピード.....	38、41		オートブラケットング	137
	オートブラケットング			WBブラケットング.....	141
	撮影コマ数.....	137	10	電子音マーク	246
	WBブラケットング		11	衛星受信状態マーク	165
	撮影コマ数.....	142	12	インターバルタイマー	
	多重露出撮影コマ数.....	148		設定マーク	155
	非CPUレンズ焦点距離.....	161	13	1000コマ以上補助表示	28
	ホワイトバランス色温度	87	14	記録可能コマ数	28
5	ホワイトバランス色温度表示			多重露出自動ゲイン表示.....	149
		87		手動設定レンズNo.	161
6	絞り込み段数マーク	36	15	時刻未設定マーク	25、272
	非AIマーク	163	16	Fn ボタンの機能表示	257
7	絞り値	40、41	17	AE/AFロックボタンの機能表示	
	絞り込み段数.....	36			261
	オートブラケットング		18	ピクチャーコントロールマーク	
	補正ステップ.....	138			101
	WBブラケットング		19	長秒時ノイズ低減マーク.....	236
	補正ステップ.....	142	20	カスタムメニュー設定表示....	239
	ADLブラケットング		21	ヴィネットコントロール.....	234
	撮影コマ数.....	144	22	ホワイトバランスモード.....	80
	多重露出モード	148		ホワイトバランス微調整	
	非CPUレンズ開放絞り値.....	161		設定マーク	86
8	オートエリアAF設定マーク	64	23	画質モード.....	55
	フォーカスポイント表示	64	24	画像サイズ.....	58
	AFエリアモード表示	64	25	フラッシュモード	127
	3D-トラッキング設定マーク	64			



インフォ画面 (つづき)

(説明のため、全ての表示を点灯させています)



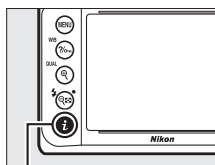
26	撮像範囲表示.....50	38	プレビューボタンの機能表示 ...260
27	リリースモード.....46	39	HDRマーク 113
	連続撮影速度.....247		HDR露出差 115
28	露出ディレーマーク250	40	アクティブD-ライティング マーク..... 112
29	FVロックマーク133	41	高感度ノイズ低減マーク..... 236
30	調光補正マーク130	42	撮影メニュー設定表示..... 229
	調光補正量.....130	43	AFモード.....60
31	多重露出マーク148	44	Eye-Fi通信マーク 281
32	露出補正マーク 78	45	自動ゆがみ補正 235
	露出補正值..... 78	46	測光モード.....74
33	ADLブラケティング 度合い表示.....112	47	オートブラケティングマーク ...137
34	著作権情報設定マーク275		WBブラケティングマーク 141
35	カメラのバッテリー残量表示...27		ADLブラケティングマーク 144
36	画像コメント入力設定マーク ...274		
37	ISO感度マーク70		
	ISO感度70		
	感度自動制御設定マーク72		

iボタン

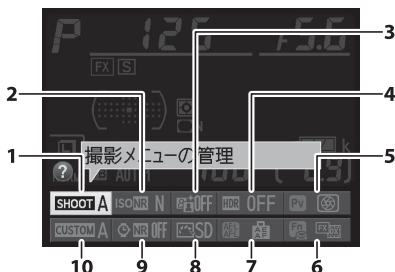
ファインダー撮影時、ライブビュー時、再生時に、それぞれのシーンで便利な機能に簡単にアクセスできます。

ファインダー撮影時に **i** ボタンを押すと、インフォ画面下部に表示されている撮影時の設定を変更できるようになります。

- マルチセクターで項目を選んで **OK** ボタンを押すと、設定したいメニュー項目へ直接ジャンプします。



iボタン



- インフォ画面からジャンプできるメニュー項目は次の通りです。

1 撮影メニューの管理 229	6 Fnボタンの機能 257
2 高感度ノイズ低減 236	7 AE/AFロックボタンの機能 261
3 アクティブD-ライティング 112	8 ピクチャーコントロール 100
4 HDR (ハイダイナミックレンジ) 113	9 長秒時ノイズ低減 236
5 プレビューボタンの機能 260	10 カスタムメニューの管理 239

インフォ画面のガイド表示

選択しているメニュー項目名を表示します。カスタムメニュー d4 [インフォ画面のガイド表示] (□247) では、ガイドを表示させないようにできます。



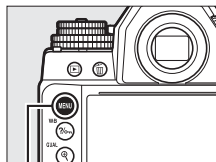
関連ページ

- ライブビュー撮影時の設定を変更する→「**i** ボタンを使う」(□171)
- 再生モードで画像編集メニューを表示する→「1コマ表示モードで選んだ画像を編集する」(□285)

メニューを使う

撮影や再生、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニューを使います。

MENU ボタンを押すと、液晶モニターに次のようなメニュー画面（例：セットアップメニュー）を表示します。



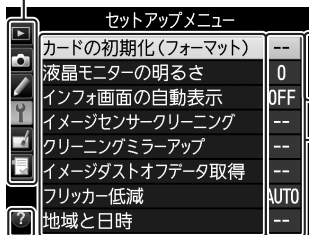
MENU ボタン

メニュー切り換えタブ

次の各メニューのアイコンのタブを選ぶと、選んだメニュー画面が表示されます

再生メニュー (P223)	セットアップメニュー (P266)
撮影メニュー (P228)	画像編集メニュー (P283)
カスタムメニュー (P237)	マイメニュー (P309) / 最近設定した項目 (P309) ※

※どちらかに設定できます。初期設定は [マイメニュー] です。



項目がそのメニュー全体のどの位置にあるかを示しています

各項目の設定をアイコンで表示します

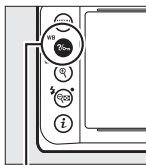
メニュー項目

タブで選んだメニュー内にある設定項目を一覧表示します



ヘルプがある場合に表示します
このアイコンを表示しているときに **?** (WB) ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）を表示します

- 説明が 2 ページ以上ある場合は、**?** (WB) ボタンを押しながらマルチセレクターの **▼** を押して、次のページを表示してください。
- ?** (WB) ボタンを放すと、メニュー画面に戻ります。



? (WB) ボタン

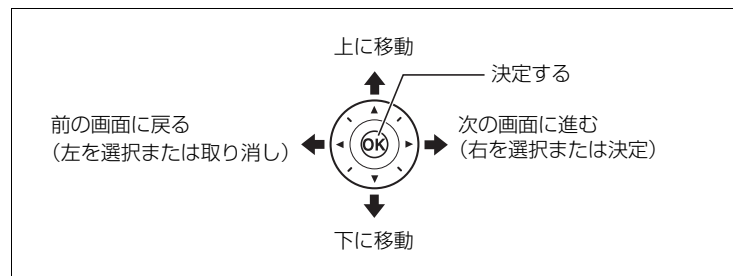
? 多重露出

【コマ数】で設定した回数、撮影した画像を合成して 1 枚の画像として記録できます。

半押しタイマーの作動時間は自動的に 30 秒延長されます。
撮影途中で半押しタイマーがオフになると、多重露出は解除され、それまでに撮影した画像で合成して記

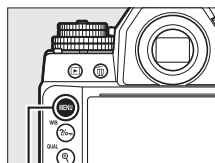
■ メニュー項目の設定方法

メニューの操作には、マルチセクターと $\odot$ ボタンを使います。



1 メニュー画面を表示する

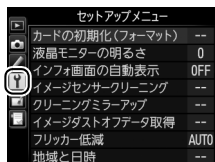
- MENUボタンを押します。



MENUボタン

2 メニューのタブを選ぶ

- マルチセクターの $\blacktriangleleft$ を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。



3 メニューを切り換える

- $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して、メニューのタブを切り換えます。



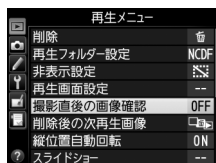
4 選んだメニューに入る

- ▶を押して、選んだメニューに入ります。



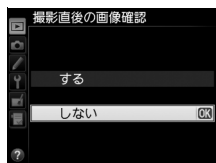
5 メニュー項目を選ぶ

- ▲または▼で項目を選びます。



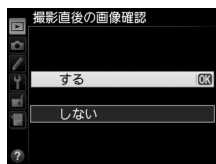
6 設定内容を表示する

- ▶を押して設定内容を表示します。



7 設定内容を選ぶ

- ▲または▼で設定内容を選びます。



8 決定する

- OK ボタンを押して決定します。
- メニュー操作をキャンセル (中止) するには、MENU ボタンを押してください。

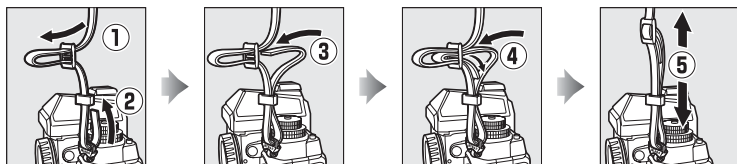


- カメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
- OK ボタンの代わりに ▶ を押しても決定できますが、画像の削除や SD カードの初期化などの重要な設定項目については、OK ボタンしか使えないことがあります。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押し (□31) してください。

撮影前の準備

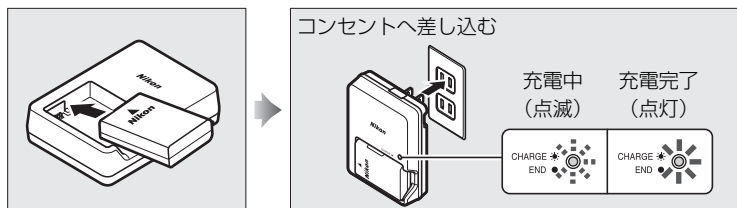
ストラップを取り付ける

ストラップの取り付け手順は次の通りです。



バッテリーを充電する

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14aは、お使いになる前に付属のバッテリーチャージャー MH-24でフル充電してください。使い切ったバッテリー1個を充電するには約1時間50分かかります（残量の少ないバッテリーの場合）。



充電が完了したら、チャージャーをコンセントから抜き、バッテリーを取り外します。

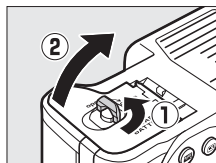
☑ チャージャーの「CHARGE」ランプが速く（1秒間に8回）点滅する場合

- バッテリーのセットミス：電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、チャージャーにセットし直してください。
- 指定温度外での使用：チャージャーを指定温度範囲内（0℃～40℃）でお使いください。上記の処置をしても不具合が続く場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、充電を中止してください。販売店またはニコンサービス機関にチャージャーおよびバッテリーをお持ちください。

カメラにバッテリーとSDカードを入れる

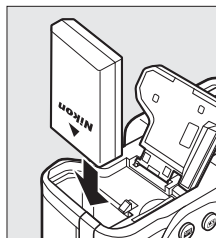
カメラの電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。

- 1 バッテリー /SDカードカバー開閉ノブを矢印の方向に回して (①)、カメラ底面のバッテリー /SDカードカバーを開ける (②)

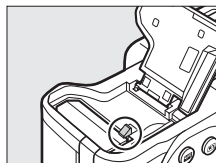


2 充電したバッテリーを入れる

- 右図のように、正しい向きで入れてください。



- バッテリーロックレバーをバッテリー側面で押しながら、バッテリーを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがバッテリーに掛かり、バッテリーがロックされます。

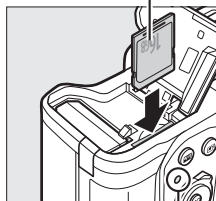


バッテリーロックレバー

3 SDカードを入れる

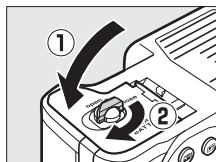
- 右図のように正しい向きで、カチッと音がするまで挿入してください。
- 向きを間違えて挿入すると、カメラおよびSDカードが破損するおそれがあります。正しく挿入していないと、バッテリー/SDカードカバーが閉まりません。正しい方向で挿入しているか、必ずご確認ください。
- SDカードが正しく挿入されると、SDカードアクセスランプが数秒間点灯します。

おもて面



SDカード
アクセスランプ

4 バッテリー /SDカードカバーを閉じる

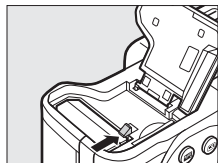


✓ バッテリーやSDカードを出し入れするときは

バッテリーやSDカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

✎ バッテリーを取り出すときは

電源をOFFにしてから、バッテリー/SDカードカバーを開けてください。バッテリーロックレバーを矢印の方向に押すと、バッテリーが少し飛び出しますので、引き抜いて取り出してください。

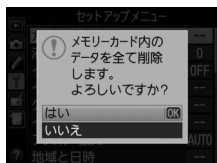


❏ バッテリーとチャージャーの使用上のご注意

- お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」(□ix~xiv)、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」(□332~336)をお読みにになり、記載事項をお守りください。
- バッテリーは0℃~40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。周囲の温度が5℃~35℃の室内で充電してください。バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- バッテリーの温度が0℃~15℃、45℃~60℃のときは、充電できる容量が少なくなる、または充電時間が長くなることがあります。
- 充電中にチャージャーをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはバッテリーを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- チャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャー MH-24に対応していないバッテリーは、バッテリーチャージャー MH-24で充電しないでください。

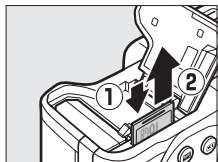
🔑 SDカードのフォーマット

このカメラに初めて入れるSDカードや、他の機器でフォーマットされたSDカードは、セットアップメニュー[カードの初期化(フォーマット)](□267)で、画面の指示に従ってフォーマットしてください。SDカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。必要なデータがある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください。



🔑 SDカードを取り出すときは

バッテリー/SDカードカバーを開ける前に、SDカードアクセスランプの消灯を確認して、電源をOFFにしてください。バッテリー/SDカードカバーを開けて、SDカードを奥に押し込むと(①)、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください(②)。

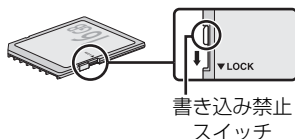


✓ SDカード取り扱い上のご注意

- カメラの使用後はSDカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- SDカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やSDカードの故障の原因となります。
 - SDカードの着脱をしないでください
 - カメラの電源をOFFにしないでください
 - バッテリーを取り出さないでください
 - ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- 無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

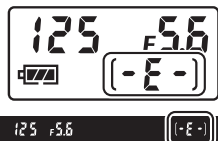
📎 SDカードの書き込み禁止スイッチについて

- SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「LOCK」の位置にすると、データの書き込みや削除が禁止され、カード内の画像を保護できます。
- 「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとすると、警告メッセージが表示され、撮影できません。撮影時や、画像を削除するときは「LOCK」を解除してください。



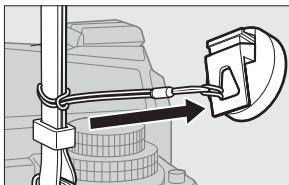
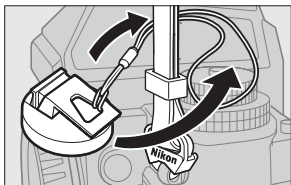
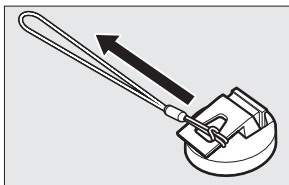
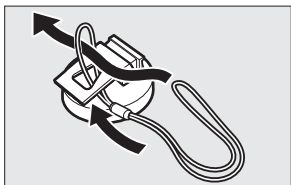
📎 SDカードが入っていないときの表示について

SDカードが入っていないときは、表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部に「(-E-)」マークが表示されます。電源をOFFにしても、バッテリー残量があるときは、表示パネルの「(-E-)」マークが点灯します。

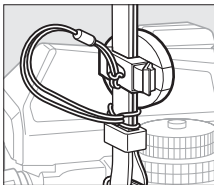
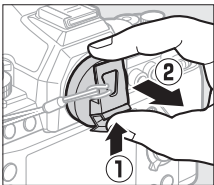
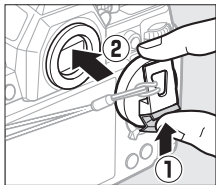


● 付属のアイピースキャップについて

- アイピースキャップ用ひもを付属のアイピースキャップに取り付けてから、カメラのストラップに取り付けます。



- アイピースキャップは向きに注意して図のように取り付けます。取り外すときはクリップをつまんで引っ張ってください。アイピースキャップを使用しないときは、カメラのストラップに取り付けてください。

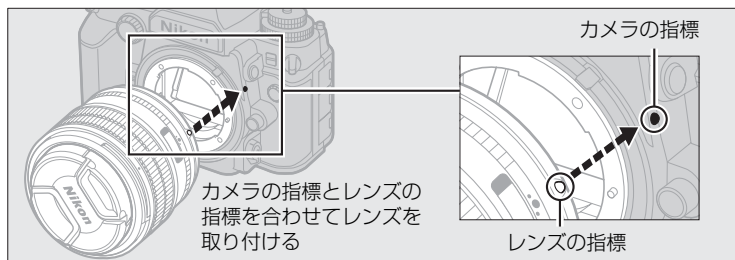


レンズを取り付ける

レンズを取り付けるときは、カメラ内部にほこりなどが入らないようにご注意ください。

この使用説明書では、主にAF-S NIKKOR 50mm f/1.8G (Special Edition) のレンズを使用して、説明しています。

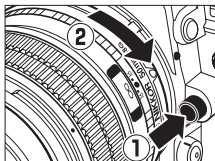
図のようにレンズを取り付けます。



レンズを取り外すには

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら (①)、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し (②)、引き抜いてください。

- レンズを取り外した後は、カメラのボディーキャップとレンズの裏ぶたをそれぞれ取り付けてください。



A-M切り換えスイッチまたはフォーカスモード切り換えスイッチのあるレンズを使用する場合

オートフォーカス (A、M/A、またはA/M) に設定してください。



絞りリングのあるCPUレンズについてのご注意

絞りリングのあるCPUレンズ (□316) を取り付ける場合は、最小絞り (最大値) にして、ロックしてください。

非CPUレンズ/非AI方式レンズを使用するには

このカメラは、非CPUレンズ/非AI方式レンズを取り付けて使用できます。詳しくは「非CPUレンズを使う」 (□158) をご覧ください。

撮像範囲について

DXレンズを装着すると、撮像範囲がDXフォーマットに切り替わります (□51)。



撮像範囲

日付と時刻を設定する

ご購入後、初めて電源をONにすると、カメラの内蔵時計の日付と時刻を設定する画面が表示されます。日時の設定が完了するまで、撮影や他の設定はできません。

1 カメラの電源をONにする

2 日付と時刻を合わせる

- マルチセレクターの▲または▼を押して、選択中の項目の数値を合わせます。
- ▶を押して、次の項目に移動します。◀を押すと元の項目に戻ります。



3 設定を完了する

- OKボタンを押して日付と時刻の設定を完了します。



🔧 セットアップメニュー [地域と日時]

設定した日付と時刻は、セットアップメニュー [地域と日時] (□272) の [日時の設定] で変更できます。[地域と日時] では、日時の他に、[現在地の設定] (現在地のタイムゾーン)、[日付の表示順]、[夏時間の設定] を設定できます。

🔧 時計用電池について

カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のパワーコネクタとACアダプターを接続すると (□319)、時計用電池が充電されます。フル充電するには約2日間かかります。充電すると、約3カ月の間時計を動かすことができます。液晶モニターに「時計がリセットされました」と表示された場合は、内蔵時計の設定が初期化されているため、撮影日時が正しく記録されません。もう一度日時設定してください。内蔵時計の設定が初期化されている場合、インフォ画面で🕒が点滅します。

🔧 カメラ内蔵の時計について

カメラの内蔵時計は、一般的な時計 (腕時計など) ほど精度は良くありません。定期的に日時設定してください。

🔧 GPSユニットを使用して日時合わせをする (□165)

GPSユニット (□164) との接続時には、GPSユニットが取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせられます。

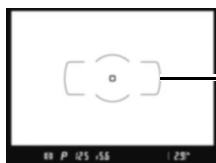
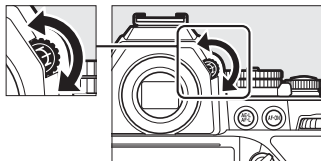
ファインダーを見やすくする（視度調節）

撮影する前に、ファインダー内がはっきり見えるように調節してください。

1 レンズキャップを取り外し、カメラの電源をONにする

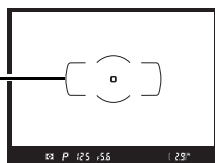
2 視度調節ダイヤルを回して調節する

- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。
- ファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを回し、AFエリアフレームが最もはっきり見えるように調節してください。



視度調節前

AFエリアフレーム



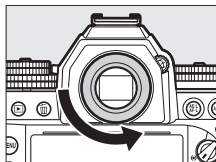
視度調節後

視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は

- AFモード（□59）を**AF-S**、AFエリアモード（□62）をシングルポイントAFに設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。
- 視度調節ダイヤルの範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします（□320）。

接眼目当てを取り外すには

別売の接眼補助レンズを取り付けるには、接眼目当てを取り外す必要があります。軽くはさむように二本の指で持ち、図の方向に回して取り外します。



撮影と再生の基本操作

撮影する

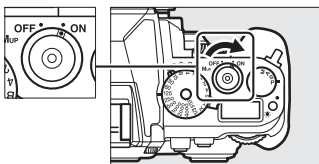
バッテリーとSDカードの残量を確認する

撮影を始める前に、バッテリーの残量と記録可能コマ数を確認してください。

1 カメラの電源をONにする

- 表示パネルとファインダー内の表示が点灯します。

電源スイッチ



2 バッテリーの残量を確認する

- 表示パネルまたはファインダー内表示のバッテリー残量表示を確認します。



表示パネル	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	残量が減り始めました。
		残量は残りわずかです。予備のバッテリーを準備するか、バッテリーを充電してください。
 (点滅)	 (点滅)	バッテリーが消耗して撮影できません。バッテリーを交換するか、バッテリーを充電してください。

3 SDカードの残量を確認する

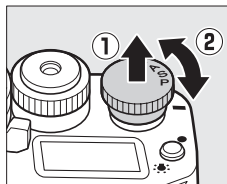
- 表示パネルで記録可能コマ数（これから撮影できるコマ数）を確認します。
- 記録可能コマ数が1000 コマ以上あるときは「k」マークが点灯します。「k」は1000倍を意味しており、たとえば2960コマ撮影できるときは、右のように表示されます。



- 記録可能コマ数がゼロの場合、表示パネルとファインダー内表示のシャッタースピード表示部にF~~u~~L (Full) が、記録可能コマ数表示部に0が点滅します。不要な画像を削除するか（□196）、別のSDカードに交換してください。

露出モードを設定する

露出モードダイヤルを引き上げて回し、露出モードを設定します。



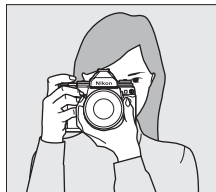
イメージセンサークリーニングについて

カメラの電源をON/OFFするたびに、撮像素子の前面にあるローパスフィルターを振動させてゴミをふり落とすイメージセンサークリーニングが作動します（□328）。

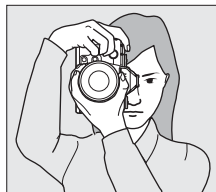
カメラを構える

撮影するときは、カメラをしっかりと構え、ファインダーをのぞいて構図を決めます。

- 脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。
- 片足を少し前に踏み出すと、上半身が安定します。



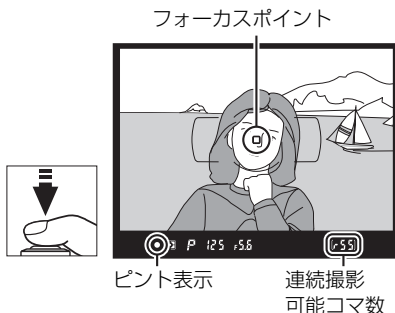
- 人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。



ピントを合わせて撮影する

1 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- シャッターボタンを軽く押す（半押しする）と、被写体に自動的にピントが合います。
- ピントが合った位置には、フォーカスポイントが表示されます。



2 ファインダー内のピント表示（●）を確認する

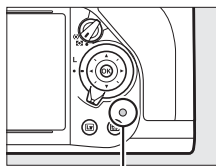
- ピントが合うとファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

ファインダー内ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
▶（点灯）	目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
◀（点灯）	目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶ ◀（点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません。

- シャッターボタンを半押ししている間、ピントは固定されます。
- シャッターボタンを押している間、続けて撮影できるコマ数（連続撮影可能コマ数）がファインダーに表示されます。連続撮影可能コマ数の先頭には、「」が付きま
- ピント合わせができない場合の対処方法については「オートフォーカスの苦手な被写体について」(□61)をご覧ください。

3 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）、撮影する

- シャッターがきれ、画像がSDカードに記録されます。
- SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。SDカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプター（別売）を取り外さないでください。



SDカード
アクセスランプ



シャッターボタンの半押し

シャッターボタンは、2段階に押し込むようになっています。まず、シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「シャッターボタンを半押しする」といいます。次に、そのまま深く押し込む（これを「シャッターボタンを全押しする」といいます）と、シャッターがきれます。

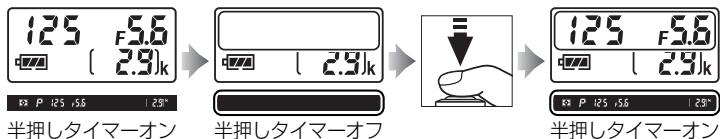


半押しして
ピントを合わせる

全押しして
撮影する

半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを半押しするとオンになり、何も操作が行われないまま約6秒経過すると、オフになります。半押しタイマーがオフになると、表示パネルのシャッタースピード、絞り値表示とファインダー内の全ての表示が消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□□244) で変更できます。



電源OFFの時の表示について

バッテリーが入っていると、カメラの電源がOFFのときも、表示パネルの記録可能コマ数が点灯します。

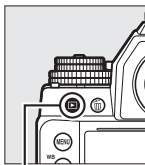


表示パネル

画像を確認する

1 再生ボタンを押す

- 撮影した画像をカメラ背面の液晶モニターに表示します。

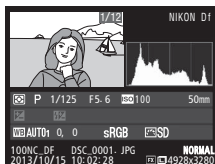


▶ ボタン



2 マルチセクターの◀または▶を押して他の画像を確認する

- ▲または▼を押すたびに、撮影情報の表示が切り替わります (□181)。



- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。



撮影直後の画像確認について

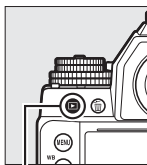
再生メニューの [撮影直後の画像確認] (□226) を [する] に設定すると、▶ ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に液晶モニターに表示します。

画像を削除する

表示中の画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのご注意ください。

1 削除したい画像を表示する

- ▶ ボタンを押して液晶モニターに画像を表示してから、マルチセレクターの◀ または ▶ で削除したい画像を選びます。

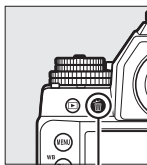


▶ ボタン



2 画像を削除する

- ⌂ ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。もう一度⌂ ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。
- 削除確認画面で、▶ ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。



⌂ ボタン



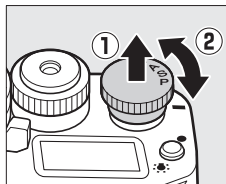
✓ 再生メニュー【削除】

再生メニューの【削除】(□ 197) では、次の操作ができます。

- 複数の画像を選択して削除
- 同じ日付の画像をまとめて削除
- 再生フォルダー内の全画像を一括して削除

露出モード

露出モードダイヤルを引き上げて回すと、露出モードを設定できます。



P プログラムオート (□37)	シャッターチャンスを見逃さないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S シャッター優先 オート (□38)	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A 絞り優先オート (□40)	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M マニュアル (□41)	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出（バルブ、タイム）撮影も、このモードで行います。

✓ 使用レンズについての注意

- CPUレンズ（Gタイプ、Eタイプレンズを除く）の絞りリング（□316）は、必ず最小絞り（一番大きい数値）にセットしてください。
- 非CPUレンズをお使いの場合は、露出モード**A**または**M**で撮影してください。絞りの設定や確認はレンズの絞りリングで行って撮影してください。露出モードが**P**または**S**のときに非CPUレンズ（□158）を装着すると、露出モードを自動的に**A**に切り換えて制御します。このとき、ファインダー内表示に**A**が点灯します。詳しくは「使用できるレンズ」（□314）をご覧ください。

非CPUレンズを取り付けた場合

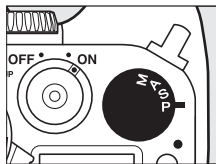
非CPUレンズ（□158）を装着してセットアップメニューの【レンズ情報手動設定】（□158）でレンズの開放絞り値（開放F値）を設定した場合は、表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。絞り値の設定は、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。

- 開放絞り値を設定しない場合は、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り段数表示（ ΔF 、開放絞りは $\Delta F0$ ）となりますので、絞り値の設定と確認は、レンズの絞りリングで行ってください。
- 非AI方式レンズを装着した場合、絞り値の設定はレンズの絞りリングで行ってください。レンズで絞り値を変更しても、表示パネルとファインダー内に表示されている絞り値は連動しません。サブコマンドダイヤルを回して、レンズで設定した絞り値をカメラにセットしてください（□163）。



P (プログラムオート)

被写体の明るさに応じて露出が適正になるように、カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変える「プログラムシフト」も行えます。

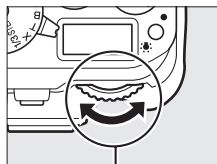


PS
AM

プログラムシフト

露出モードPでは、カメラがシャッタースピードと絞り値を決めますが、半押しタイマーがオンのときに次の方法で「プログラムシフト」を行うと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。プログラムシフト中はファインダー内表示にプログラムシフトマーク*が点灯します。

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さくする）場合や動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードにする）場合にはメインコマンドダイヤルを右に回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたい（絞り値を大きくする）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードにする）場合にはメインコマンドダイヤルを左に回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク*が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたときや、他の露出モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。



メインコマンド
ダイヤル



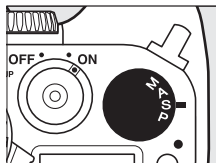
ファインダー内表示

関連ページ

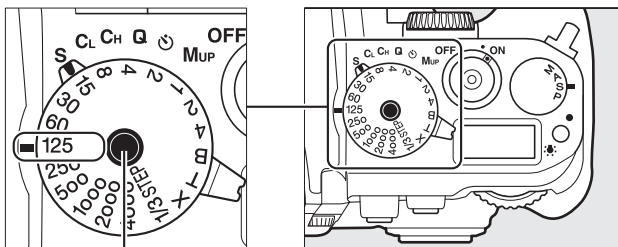
「露出モードP（プログラムオート）のプログラム線図」(P337)

S (シャッター優先オート)

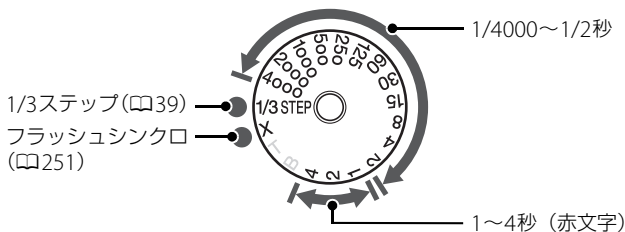
シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。シャッタースピードを設定するには、シャッタースピードダイヤルを回します。**1/3STEP**、**X**、**T**から他のポジションに合わせるには、シャッタースピードダイヤルロックボタンを押しながら回してください。



シャッタースピードダイヤル



シャッタースピードダイヤルロックボタン



- 露出モード**S**では、シャッタースピードダイヤルを**T** (Time) または**B** (Bulb) に合わせても、長時間露出撮影 (□43) できません。長時間露出撮影をする場合、露出モードを**M**に設定してください。

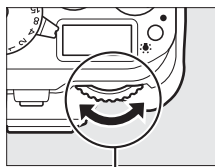
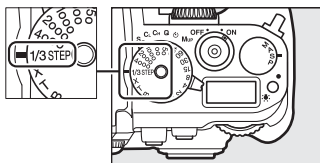
関連ページ

- シャッタースピードダイヤルで設定したシャッタースピードをコマンドダイヤルでシフトする → f11 [シャッタースピードの簡易シフト] (□265)
- 表示パネルで**b u l b / -** が点滅したときは → 「警告メッセージ」 (□349)

シャッタースピードを1/3ステップで設定する (露出モードS、M)

シャッタースピードダイヤルを**1/3STEP**に合わせると、メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを変更できます。

- シャッタースピードは1/3ステップで1/4000～30秒に設定できます。露出モード**M**の場合、Bulb、Timeも設定できます。



メインコマンドダイヤル

PS
AM

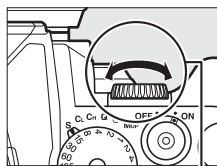
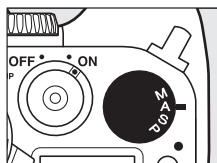
- 設定したシャッタースピードは、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



A (絞り優先オート)

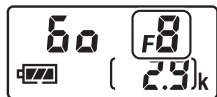
絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞り値を設定するには、半押しタイマーがオンのときにサブコマンドダイヤルを回します。

- 設定できる最小絞り、開放絞りはレンズによって異なります。



サブコマンドダイヤル

- 設定した絞り値は、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。

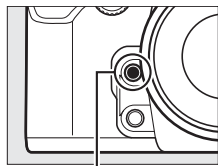


レンズで絞り値をセットする

カスタムメニュー f7 [コマンドダイヤルの設定] の [絞り値の設定方法] を [絞りリング] に設定している場合、レンズの絞りリングで絞り値をセットできます (□262)。

被写界深度のプレビュー

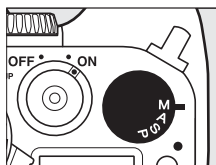
Pv ボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞り値のおおよその被写界深度 (ピントの合う前後の範囲) が確認できます。別売のニコンクリエティブライティングシステム (□119) 対応スピードライト使用時は、モデリング発光をします。モデリング発光をしないようにするには、カスタムメニュー e5 [モデリング発光] を [しない] に設定してください (□253)。



Pv ボタン

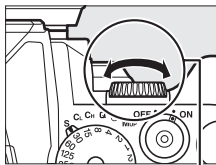
M (マニュアル)

シャッタースピードと絞りの両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ撮影、タイム撮影、□43）で撮影する場合にはこの露出モードを使います。半押しタイマーがオンのときに、ファインダー内表示の露出インジケータを確認しながら、シャッタースピードと絞り値を設定します。

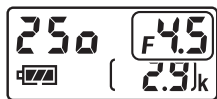


■■ 絞り値の設定

サブコマンドダイヤルを回して、絞り値を設定します。設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。



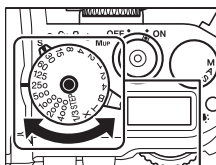
サブコマンドダイヤル



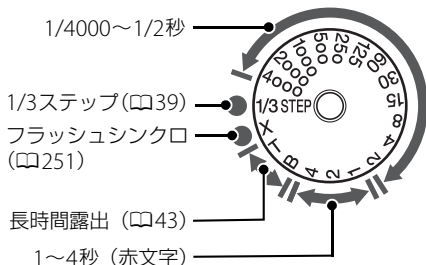
PS
AM

■■ シャッタースピードの設定

シャッタースピードダイヤルロックボタンを押しながら、シャッタースピードダイヤルを回して、シャッタースピードを設定します。



シャッタースピード
ダイヤル



レンズで絞り値をセットする

カスタムメニュー f7 [コマンドダイヤルの設定] の [絞り値の設定方法] を [絞りリング] に設定している場合、レンズの絞りリングで絞り値をセットできます (□262)。

露出インジケーターについて

露出モードが **M** のときの適正露出との差が、ファインダー内表示に表示されます。この「露出インジケーター」の見方は次の通りです。

ファインダー内表示	内容
	適正露出
 (1/3段アンダー)	インジケーターが-側に振れているときは画像が適正露出よりも暗いことを意味しています。
 (2段以上オーバー)	インジケーターが+側に振れているときは画像が適正露出よりも明るいことを意味しています。

- 被写体が明るすぎ、または暗すぎてカメラの測光範囲を超えた場合は、露出インジケーターが点滅します。
- 長時間露出 (バルブ、タイム) 撮影時 (□43) は、露出インジケーターは表示されません。

露出の制御ができないときの警告について

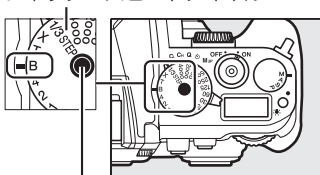
光量がカメラの測光範囲を超えて露出の制御ができない場合や、ライブビューでの露出制御範囲を超えた場合には、露出インジケーターが点滅して警告します。

関連ページ

- シャッタースピードダイヤルで設定したシャッタースピードをコマンドダイヤルでシフトする →  f11 [シャッタースピードの簡易シフト] (□265)
- インジケーターの+/-方向を変更する →  f10 [インジケーターの+/-方向] (□265)

3 シャッタースピードダイヤル ロックボタンを押しながら シャッタースピードダイヤル を回して、シャッタースピー ドをB (Bulb) またはT (Time) に合わせる

シャッタースピードダイヤル

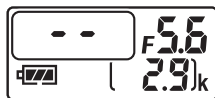


シャッタースピードダイヤル
ロックボタン

- シャッタースピードダイヤルを**1/3STEP**に合
わせている場合は、メインコマンドダイヤ
ルでBulbまたはTimeに設定します。
- BulbまたはTimeに設定すると、表示パネル
とファインダー内表示に**bulb**または**--**
と表示されます。



バルブ撮影



タイム撮影

4 ピントに合わせて、長時間露出撮影を開始する

バルブ撮影：

- シャッターボタンを全押しして、長時間露出撮影を開始します。
シャッターボタンは押し続けてください。

タイム撮影：

- シャッターボタンを全押しすると、シャッターが開き、長時間露出撮
影を開始します。

5 長時間露出撮影を終了する

バルブ撮影：

- シャッターボタンを放すと、長時間露出撮影は終了します。

タイム撮影：

- もう一度シャッターボタンを全押しします。
- シャッターが開いてから、ボタンを押さないまま30分経つと、シャッターが自動的に閉じて撮影を終了します。

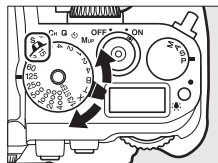
長時間露出について

- 露光時間が長くなると、画像にノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生することがあります。このノイズは、あらかじめ撮影メニューの[長秒時ノイズ低減]（□236）を[する]にしておくことで低減できます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクタとACアダプターを組み合わせるをおすすめします。
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前に付属のアイピースキャップDK-26を取り付けてください（□22）。

リリースモード

1コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、リリースモードを変更する

リリースモードダイヤルを回すと(□6)、シャッターをきる(リリースする)ときの動作を設定できます。



リリースモード	内容
S 1コマ撮影	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。
CL 低速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約1～5コマ/秒※1で連続撮影できます※2。
CH 高速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約5.5コマ/秒で連続撮影できます※2。動きのある被写体などに使用すると便利です。
Q 静音撮影	1コマ撮影時より静かに撮影したい場合に適しています。静音撮影では、シャッターボタンを全押ししている間はミラーダウンしません。シャッターボタンを半押し状態に戻すとミラーダウンするため、ミラーダウン音のタイミングを遅らせることができます。また、ミラーダウンする音も1コマ撮影に比べ静かです。 • 静音撮影時には、カスタムメニュー d1 [電子音設定] (□246) の設定にかかわらず、電子音は鳴りません。
 セルフタイマー撮影	セルフタイマー撮影ができます (□48)。
MUP ミラーアップ撮影	カメラ本体のミラーアップを行い、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます (□49)。超望遠撮影時や接写撮影時に効果的です。

※1 カスタムメニュー d5 [低速連続撮影速度] (□247) で設定した連続撮影速度になります。

※2 連続撮影速度は、AFモードが**AF-C**、露出モード**S**または**M**、1/200 秒以上の高速シャッタースピード、電源がEN-EL14aで、その他が初期設定のときの値です。

連続撮影可能コマ数について

- シャッターボタンを半押しすると、連続撮影可能コマ数が、表示パネルとファインダー内に表示されます。右図の場合、撮影速度を維持しながら最低55コマ続けて撮影できることを示しています。
- 連続撮影は最大100コマまでできます。ただし、「r00」と表示されたとき、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によって増減することがあります。



ライブビュー撮影時の連続撮影について

ライブビュー時に連続撮影をする場合、シャッターボタンを全押ししている間、撮影した画像が表示されます。画像が表示されている間は、ライブビューは表示されません。

連続撮影時の記録について

- SDカードの性能や撮影条件によっては、数十秒から1分間程度SDカードアクセスランプが点灯します。SDカードアクセスランプの点灯中にカメラからSDカードを取り出さないでください。データが消失するだけでなく、カメラとSDカードに不具合が生じるおそれがあります。
- SDカードアクセスランプ点灯中に電源をOFFにすると、撮影された全ての画像がSDカードに記録されてから電源が切れます。
- 連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、撮影は行わず、撮影済みの画像データがSDカードに記録されて終了します。

連続撮影速度について

次の場合は連続撮影速度が遅くなることがあります。

- シャッタースピードが低速の場合
- VRレンズ使用時にレンズの手ブレ補正スイッチをONにしたとき
- 感度自動制御を「する」にして感度が自動制御されているとき (□72)
- レンズの絞りを著しく絞り込んだ場合
- バッテリー残量が少ないとき

関連ページ

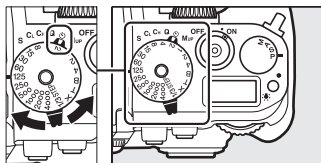
- 連続撮影時に撮影コマ数を制限する →  d6 [連続撮影コマ数] (□247)
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」 (□365)



セルフタイマーを使って撮影する (㊦)

セルフタイマーによる撮影は記念写真など、撮影者自身もいっしょに写りたいときなどに便利です。セルフタイマー撮影時は、三脚などを使ってカメラを固定してください。

1 リリースモードダイヤルを ㊦ (セルフタイマー撮影) に 合わせる



リリースモード
ダイヤル

2 構図を決め、ピントを合わせる

- AFモードがAF-Sでピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。



3 セルフタイマー撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが約8秒間点滅後、約2秒間点灯して合計で約10秒後にシャッターがきれます。
- リリースモードダイヤルを他のモードに切り換えると、セルフタイマーは解除されます。



ファインダーから顔を離して撮影するときは

ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップDK-26を取り付けることをおすすめします (㉒22)。

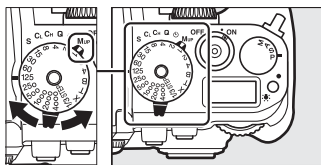
関連ページ

- セルフタイマーの作動時間、撮影コマ数、撮影間隔を設定する →  c3 [セルフタイマー] (㉒245)
- セルフタイマー撮影時の電子音を設定する →  d1 [電子音設定] (㉒246)

ミラーアップして撮影する (MUP)

ミラーアップ撮影すると、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。

1 レリーズモードダイヤルを MUP (ミラーアップ撮影) に合わせる



レリーズモード
ダイヤル

2 構図と露出を決めて、シャッターボタンを全押しする

- 半押ししてピントを合わせた後、シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。



3 撮影する

- もう一度シャッターボタンを全押しすると、撮影できます。
- ブレを防ぐため、シャッターボタンは静かに押してください。
- 撮影が終了すると、ミラーダウンします。



✓ ミラーアップ中のご注意

- ファインダーで構図を確認できません。
- オートフォーカスと測光は使えません。

📎 ミラーアップ撮影について

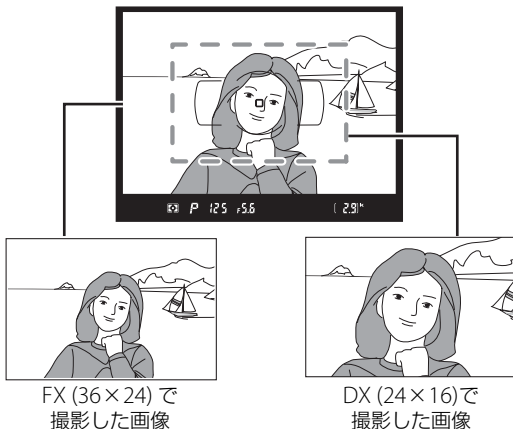
- 三脚の利用をおすすめします。
- ミラーアップ開始後約30秒経過すると、自動的にシャッターがきれます。

画像の記録

撮像範囲を変更する

撮像範囲を「FX (36×24) 1.0×」(FXフォーマット)と「DX (24×16) 1.5×」(DXフォーマット)に切り換えて撮影できます。

ファインダー表示



■ 撮像範囲設定

撮像範囲を設定できます (□53)。



 FX (36 × 24) 1.0× (FXフォーマット)	35mm判カメラに準じた画角のFXフォーマット (36.0 × 23.9 mm) で画像を記録します。35mm判カメラ用のニッコールレンズを装着して撮影するときに設定します。
 DX (24 × 16) 1.5× (DXフォーマット)	DXフォーマット (23.4 × 15.5 mm) で画像を記録します。レンズに表記されている焦点距離の約1.5倍のレンズに相当する画角になります。

■ DX自動切り換え

DXレンズを装着すると、自動的に撮像範囲を [DX (24 × 16) 1.5×] (DXフォーマット) に切り換えるように設定できます。



する	DXレンズを装着すると、自動的に撮像範囲を [DX (24 × 16) 1.5×] に切り換えます。
しない	自動的に切り換えません。

✓「ケラレ」について

DXレンズは通常の35mm判カメラ用レンズに比べ、イメージサークルが小さくなっています。このため、DXレンズを装着して [DX自動切り換え] を [しない] に設定して [撮像範囲設定] を [FX (36 × 24) 1.0×] にして撮影すると、画面周辺部が黒くなることがあります。これを「ケラレ」といいます。ファインダー上ではケラレがないように見えても、撮影した画像を再生すると周辺部が暗くなっていることや、充分な解像度が得られないことがあります。

ファインダーの表示について

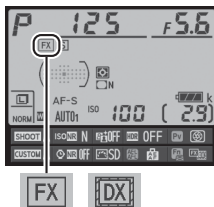
撮像範囲が [DX (24×16) 1.5×] のときは、右図のように表示します。カスタムメニュー a5 [フォーカスポイント表示] の [フォーカスポイント照明] (□242) を [しない] に設定すると、記録されない部分が薄暗く表示されます。



DX (24×16) 1.5×

撮像範囲の表示について

撮像範囲は、インフォ画面に表示されます (□10)。

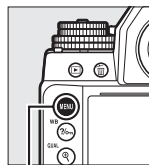


撮像範囲は、撮影メニューの「撮像範囲」の「撮像範囲設定」で設定するか、ボタンとコマンドダイヤルで設定します。

■■ 撮影メニューの「撮像範囲」で設定する場合

1 撮影メニューの「撮像範囲」を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの「撮像範囲」を選んでマルチセレクターの▶を押すと、「撮像範囲」画面が表示されます。



MENUボタン



2 「撮像範囲設定」を選ぶ

- 「撮像範囲設定」を選んで▶を押すと、「撮像範囲設定」画面が表示されます。



3 設定したい撮像範囲を選ぶ

- 設定したい撮像範囲を選んで、OKボタンを押します。
- 設定に応じた撮像範囲がファインダー内で確認できます (□52)。



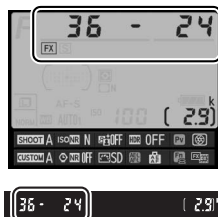
■ ボタンとコマンドダイヤルで設定する場合

- 1 カスタムメニュー f4 [Fnボタンの機能] (□257)、f5 [レビューボタンの機能] (□260)、f6 [AE/AFロックボタンの機能] (□261) のいずれかの [コマンドダイヤル併用の動作] を [撮像範囲選択] に設定する

- ボタンとコマンドダイヤルの組み合わせに対して、撮像範囲の選択機能が割り当てられます。

- 2 [撮像範囲選択] を割り当てたボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回す

- 設定に応じた撮影範囲がファインダー内で確認できます (□50)。
- [撮像範囲選択] を割り当てたボタンを押すと、ファインダー内表示やインフォ画面で撮像範囲の設定を確認できます。



撮像範囲	表示
FX (36 × 24) 1.0 × (FXフォーマット)	36 - 24
DX (24 × 16) 1.5 × (DXフォーマット)	24 - 16

☑ 撮像範囲の切り換えについて

撮像範囲の [DX自動切り換え] を [する] (□51) に設定してDXレンズを装着している場合、[撮像範囲選択] を割り当てたボタンでは撮像範囲は切り換えられません。

🔍 撮像範囲を変更したときの画像サイズについて

同じ画像サイズでも、[撮像範囲] の設定によって、撮影画像のピクセル数が変化します (□58)。

画質モードを変更する

画像を記録する際の画質モードを選びます。

画質モード		ファイル形式	内容
RAW		NEF	撮像素子の生データ（RAW形式）を記録します。撮影時に設定したホワイトバランスやコントラストなどを、撮影後に変更できます。
TIFF（RGB）		TIFF（RGB）	画像を8ビット非圧縮のTIFF-RGB形式で記録します。多くの画像アプリケーションで使用できます。
FINE	高 ↑ 画質 ↓ 低	JPEG	画像データを約1/4に圧縮して記録します（サイズ優先時）。
NORMAL			画像データを約1/8に圧縮して記録します（サイズ優先時）。
BASIC			画像データを約1/16に圧縮して記録します（サイズ優先時）。
RAW + FINE		NEF + JPEG	RAWとJPEG（FINE）の2種類の画像を同時に記録します。
RAW + NORMAL			RAWとJPEG（NORMAL）の2種類の画像を同時に記録します。
RAW + BASIC			RAWとJPEG（BASIC）の2種類の画像を同時に記録します。



関連ページ

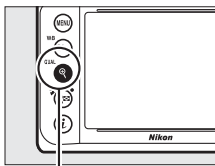
「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」(P.365)



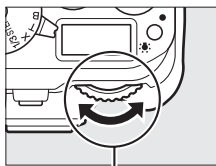
■ 画質モードの設定方法

④ (QUAL) ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 画質モードは、インフォ画面に表示されます。



④ (QUAL) ボタン



メインコマンドダイヤル



インフォ画面

RAW画像について

- 画質モードでRAWを選んだ場合、画像サイズは設定できません。RAWで保存した画像を付属のViewNX 2や別売のCapture NX 2 (□321) などで表示すると、画像サイズはLと同じになります。
- 現像には画像編集メニューの[RAW現像] (□295)、または付属のソフトウェアViewNX 2や別売のCapture NX 2を使います。
- ViewNX 2は付属のViewNX 2 CD-ROMを使ってインストールできます。

RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- 画質モード[RAW + FINE]、[RAW + NORMAL]、[RAW + BASIC]で撮影したとき、カメラではJPEG画像のみを再生します。JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでのみ再生できます。
- RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。

画質モードについて

画質モードは撮影メニュー (□228) でも設定できます。



■ JPEG画像の圧縮方式を選ぶ

MENUボタンを押して、撮影メニュー [JPEG圧縮] を選んで、画質モードがJPEG (FINE)、JPEG (NORMAL)、JPEG (BASIC) の画像を記録するときの圧縮方式を設定します。

 サイズ優先	ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。
 画質優先	画質の劣化を抑えて圧縮します。画像によってファイルサイズは異なります。

■ RAW画像の圧縮方式を選ぶ

MENUボタンを押して、撮影メニュー [RAW記録] で [記録方式] を選んで、RAW画像の記録時の圧縮方式を設定します。

ON  ロスレス 圧縮RAW	可逆圧縮します（データを完全に復元できます）。[非圧縮RAW] に対してファイルサイズが約60～80%になります。記録した画像は [非圧縮RAW] と同等の画質になります。
ON  圧縮RAW	非可逆圧縮します（データは完全には復元できません）。[非圧縮RAW] に対してファイルサイズが約45～65%になります。非可逆圧縮ですが、記録した画像は [非圧縮RAW] とほぼ同等の画質になります。
非圧縮RAW	圧縮しないため、[ロスレス圧縮RAW] や [圧縮RAW] に比べ、ファイルサイズが大きくなります。



■ RAW画像の記録ビット数を選ぶ

MENUボタンを押して、撮影メニュー [RAW記録] で [記録ビットモード] を選んで、RAW画像の記録ビット数を設定します。

12-bit 12ビット記録	RAW画像を12ビットで記録します。
14-bit 14ビット記録	RAW画像を14ビットで記録します。[12ビット記録] の場合よりもさらに豊かな階調表現になります。画像のファイルサイズは [12ビット記録] よりも大きくなります。

画像サイズを設定する

画像を記録する際の画像サイズ（大きさ）を、[L]、[M]、[S] から設定できます。画像サイズは撮像範囲との組み合わせで変わります（□50）。

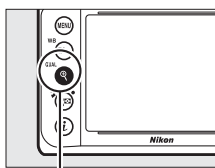
撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ (出力解像度300dpiの場合) ※
FX (36 × 24) 1.0×	L (4928 × 3280ピクセル)	約41.7 × 27.8 cm
	M (3696 × 2456ピクセル)	約31.3 × 20.8 cm
	S (2464 × 1640ピクセル)	約20.9 × 13.9 cm
DX (24 × 16) 1.5×	L (3200 × 2128ピクセル)	約27.1 × 18.0 cm
	M (2400 × 1592ピクセル)	約20.3 × 13.5 cm
	S (1600 × 1064ピクセル)	約13.5 × 9.0 cm

※ ピクセル数 ÷ 出力解像度 (dpi) × 2.54 cm で計算しています。

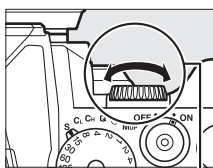
■ 画像サイズの設定方法

④ (QUAL) ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- 画像サイズは、インフォ画面に表示されます。



④ (QUAL) ボタン



サブコマンドダイヤル



インフォ画面

🔧 【画像サイズ】について

画像サイズは撮影メニュー（□228）でも設定できます。

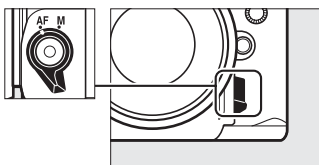


フォーカス

オートフォーカスで撮影する

フォーカスモードセクターを**AF**に合わせると、オートフォーカスになります。ここでは、ファインダーを見ながら撮影するときの、オートフォーカスでのピントの合わせ方について説明しています。

フォーカスモードセクター



AFモードを設定する

オートフォーカスでのピントの合わせ方を選びます。

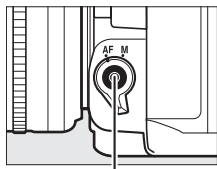
AF-S シングル AFサーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。 初期設定はピントが合うとシャッターがきれるフォーカス優先モードです (□240)。
AF-C コンティニュアス AFサーボ	ファインダー内のピント表示 (●) がいったん点灯してもフォーカスロックはされず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けるモードです。スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカス (□60) に切り替わり、被写体の動きに合わせてピントを追いつけます。 初期設定ではピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれるレリーズ優先モードです (□240)。



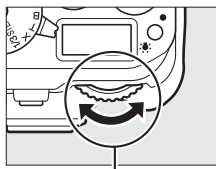
■■ AFモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- AFモードは、ファインダー内表示に表示されます。



AFモードボタン



メインコマンドダイヤル



AF-S



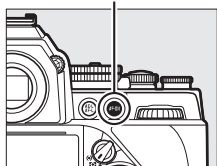
AF-C



🔧 AF-ONボタンについて

AF-ONボタンを押すと、カメラが自動的に被写体にピントを合わせます。

AF-ONボタン



🔧 予測駆動フォーカスについて

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のときは、シャッターボタンの半押し時または**AF-ON**ボタンを押したときに被写体が近づいてきたり遠ざかっていくのをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがきれる時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

オートフォーカスの苦手な被写体について

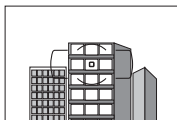
次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合わなくてもピント表示（●）が点灯し、シャッターがきれることがあります。このような場合は、マニュアルフォーカス（□68）でピントを合わせるか、フォーカスロック（□66）を利用してください。



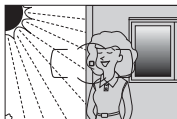
被写体の明暗差がはっきりしない場合
(白壁や背景と同色の服を着ている人物など)



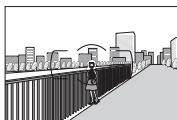
フォーカスポイント内に遠くのと近くのもの混在する被写体
(オリの中の動物など)



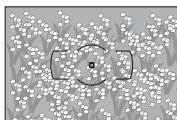
連続した繰り返しパターンの被写体
(ビルの窓やブラインドなど)



被写体の明暗差が極端に異なる場合
(太陽を背景にした日陰の人物など)



背景に対して被写体が小さい場合
(遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など)



絵柄が細かい場合
(一面の花畑など)

関連ページ

- AF-Cをフォーカス優先モードにする →  a1 [AF-Cモード時の優先] (□240)
- AF-Sをレリーズ優先モードにする →  a2 [AF-Sモード時の優先] (□240)
- ライブビュー撮影時のAFモードを設定する → 「AFモードを変更する」(□168)



AFエリアモードを変更する

オートフォーカスでピントを合わせるフォーカスポイントをカメラがどのように選択するかを設定します。

AFエリアモード	内容
シングル ポイントAF	フォーカスポイントを自分で選べます (□64)。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。静止している被写体の撮影に適しています。
ダイナミック AF・9点	AFモードの AF-C (□59) との組み合わせで、撮影者が選択した1つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。
ダイナミック AF・21点	● ダイナミックAF・9点：構図を決めて撮影するときや、被写体の動く方向が予測でき、フォーカスポイントで被写体を捉えやすい撮影に適しています (例：陸上競技やモータースポーツ)。 ● ダイナミックAF・21点：動きがランダムで予測しにくい被写体の撮影に適しています (例：フィールドスポーツ)。
ダイナミック AF・39点	● ダイナミックAF・39点：被写体の動きが速く、選択したフォーカスポイントで被写体を捉えにくい場合の撮影に適しています (例：野鳥撮影)。
3D-トラッキング	AFモードのAF-C (□59) との組み合わせで、39点全てのフォーカスポイントを使って被写体を追尾する3D-トラッキングになります。選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間は被写体の動きに合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えて被写体にピントを合わせ続けます。左右に動く被写体を自由な構図で撮影するのに適しています (例：テニス)。 ● カメラが途中で被写体を見失ってしまった場合は、いったんシャッターボタンを放して、もう一度被写体にフォーカスポイントを合わせてください。



オートエリア AF

カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。また、Gタイプ、EタイプまたはDタイプのレンズ(□316)を使用しているときは、人物と背景を自動的に判別して、主要被写体にピントが合う精度が高くなります。

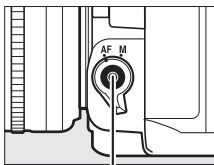


- AFモードが**AF-S**のときは、ピントが合ったフォーカスポイント全てを約1秒間表示します。**AF-C**のときは、ピントが合った複数のフォーカスポイントを一瞬表示してから、主に使用するフォーカスポイント1点を表示します。

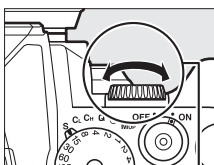
■■ AFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

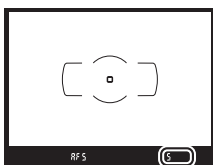
- AFエリアモードは、ファインダーに表示されます。



AFモードボタン



サブコマンドダイヤル



ファインダー内表示

3D-トラッキングについて

3D-トラッキングでは、半押ししていったんピントが合った時点で、選択したフォーカスポイント周辺の色を記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていたり、半押し開始時の被写体が小さいと、うまく動作しない場合があります。

マニュアルフォーカス時のAFエリアモードについて

AFエリアモードは自動的にシングルポイントAFになります。



AFエリアモードの表示について

ファインダー内表示の各AFエリアモードの表示は次のようになります。

AFエリアモード	ファインダー内表示	AFエリアモード	ファインダー内表示
シングルポイントAF	5	ダイナミックAF・39点※	d39
ダイナミックAF・9点※	d 9	3D-トラッキング	3d
ダイナミックAF・21点※	d21	オートエリアAF	Auto

※ 実際にファインダーに表示されるフォーカスポイントは1点のみです。

ピント情報として利用する周辺のフォーカスポイントの数を選択できます。

関連ページ

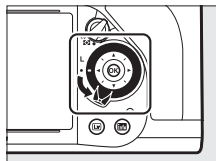
- AFロックオンを解除する →  a3 [AFロックオン] (□241)
- ライブビュー撮影時のAFエリアモードを設定する → 「AFエリアモードを変更する」 (□169)

フォーカスポイントを自分で選ぶ

このカメラには、39カ所のフォーカスポイント（ピント合わせを行う領域）があります。フォーカスポイントを自分で選ぶことで、構図を自由に変えられます。

1 フォーカスポイントロックレバーのロックを解除する

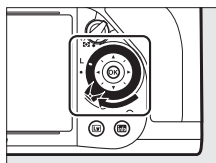
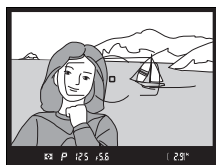
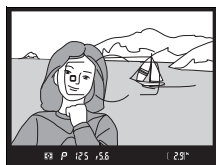
- フォーカスポイントロックレバーを回して・に合わせ、ロックを解除すると、マルチセクターでフォーカスポイントを選ぶようになります。



フォーカスポイント
ロックレバー

2 半押しタイマーがオンのときに、ファインダーをのぞきながらマルチセレクターを操作してフォーカスポイントを選ぶ

- ファインダー内で、フォーカスポイントが移動します。
- OK ボタンを押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。
- フォーカスポイントロックレバーをLの位置に回すと、フォーカスポイントをロック（固定）します。



✓ オートエリアAFモードについて

AFエリアモードがオートエリアAFの場合、フォーカスポイントをカメラが自動的に選択するため、自分ではフォーカスポイントを選べません。

📎 関連ページ

- フォーカスポイントの点灯に関する設定を変更する → a5 [フォーカスポイント表示] (242)
- フォーカスポイントの選択を循環方式にする → a6 [フォーカスポイント循環選択] (242)
- マルチセレクターで選べるフォーカスポイントの数を変える → a7 [AF点数切り換え] (242)
- OK ボタンを押したときの機能を変更する → f2 [OK ボタンの機能] (255)

フォーカスロックしてピントを固定する

フォーカスロックをしたい場合は、次の手順で行ってください。また、ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らないときや、オートフォーカスが苦手な被写体（□61）を撮影するときには、次の手順でピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。フォーカスロックを行う前に、AFエリアモード（□62）をオートエリアAF以外に設定することをおすすめします。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする

- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

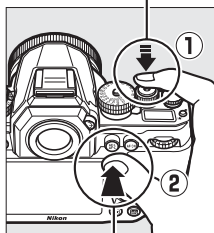


2 ピントを固定する

AFモード（□59）がAF-Cのとき

シャッターボタンを半押ししたまま（①）、AE/AFロックボタンを押すと（②）、ピントが固定されます。AE/AFロックボタンを押している間は、シャッターボタンから指を放しても、ピントと露出が固定されます。

シャッターボタン



AE/AFロックボタン

- AE/AFロックボタンを押している間、ファインダー内にはAE-Lマークが点灯します。

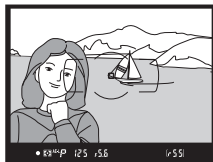


AFモードがAF-Sのとき

シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。AE/AFロックボタンを押してピントを固定することもできます。

3 フォーカスロックを行ったまま まで構図を変え、シャッター ボタンを全押しして撮影する

- 被写体との距離は変えないでください。フォーカスロック後に被写体との距離が変化した場合、いったんフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。



シャッターボタンの半押しで露出を固定するには

カスタムメニュー c1 [半押しAEロック] を [する] に設定すると、シャッターボタンの半押しで露出を固定できます (□244)。

ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
- AE/AFロックボタンでフォーカスロックを行った場合は、AE/AFロックボタンを押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

AF-ONボタンを使ったフォーカスロックについて

- シャッターボタンの代わりに **AF-ON** ボタンを押してピントを合わせることもできます (□60)。
- ファインダー撮影時にカスタムメニュー a4 [半押しAFレンズ駆動] (□241) が [しない] に設定されている場合は、**AF-ON** ボタンを押したときだけピント合わせを行い、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。このとき、**AF-ON** ボタンでピントを合わせた後で **AF-ON** ボタンから指を放してもフォーカスロックの状態を維持し、AFモードのカスタム設定 (カスタムメニュー a1 [AF-Cモード時の優先] (□240) または a2 [AF-Sモード時の優先] (□240)) にかかわらず、常にシャッターをきることができます (ただし、ファインダー内にはピント表示 (●) は点灯しません)。フォーカスロックを解除してピントを合わせ直すには、もう一度 **AF-ON** ボタンを押してください。

関連ページ

AE/AFロックボタンを押したときの機能を変更する →  f6 [AE/AFロックボタンの機能] (□261)

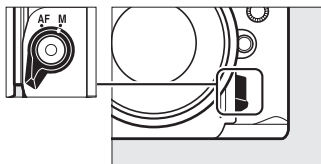


マニュアルフォーカスで撮影する

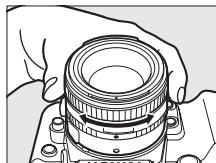
使用するレンズの種類によって、ピントを手動（マニュアル）で合わせるときの設定が異なります。各レンズでのマニュアルフォーカスの設定は次の通りです。

- **AF-S レンズを使用している場合**：レンズのフォーカスモード切り換えスイッチを**M**にしてください。
- **AF レンズを使用している場合**：カメラのフォーカスモードセクターを**M**にしてください。レンズにフォーカスモード切り換えスイッチがある場合は、レンズ側のフォーカスモードも**M**にしてください。
- **マニュアルフォーカスレンズを使用する場合**：カメラのフォーカスモードセクターを**M**にしてください。

フォーカスモードセクター



ピントは、レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体がはっきり見えるように合わせます。



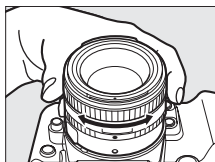
✓ AFレンズでマニュアルフォーカスをする場合のご注意

AFレンズでマニュアルフォーカスをする場合は、必ずカメラのフォーカスモードセクターを**M**にしてください。フォーカスモードセクターが**AF**のままマニュアルフォーカスをすると、カメラやレンズの故障の原因になります。

フォーカスエイドによるピント合わせ

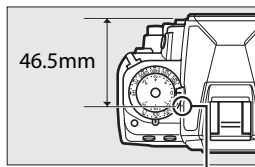
マニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内のピント表示（●）でピントが合っているかどうかを確認できます。ピントが合っているかどうかの基準となるフォーカスポイントは39カ所から選べます。

- ピントが合うとピント表示（●）が表示されます（□30）。
- オートフォーカスの苦手な被写体（□61）では、ピントが合っていないくてもピント表示（●）が点灯することがありますので、ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。
- 別売のAF-S/AF-Iテレコンバーターを装着した場合のフォーカスエイドが可能なフォーカスポイントについては、「AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のフォーカスポイントについて」（□317）をご覧ください。



距離基準マークについて

距離基準マーク  は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。



距離基準マーク 

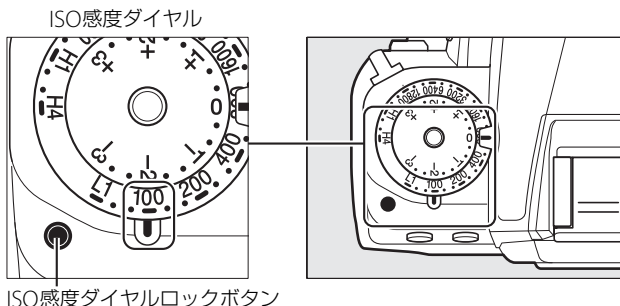
ISO感度

ISO感度を設定する

ISO感度はISO 100～12800の間で1/3ステップで設定できます。また、ISO 100に対して約0.3～1段の減感と、ISO12800に対して約0.3～4段の増感ができます。

■ ISO感度の設定方法

ISO感度ダイヤルロックボタンを押しながら、ISO感度ダイヤルを回す



- ISO感度ダイヤルを回している間、ファインダー内表示にISO感度が表示されます。

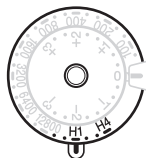


ISO感度を高く設定した場合

ISO感度を高くするほど暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的です。ただし、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。

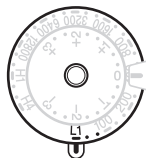
高感度（Hi 0.3～Hi 4）に設定した場合

ISO感度をHi 0.3に設定すると、ISO 12800に対して約0.3段分増感します（ISO 16000相当）。**H4**（Hi 4）では約4段分の増感になります（ISO 204800相当）。これらのISO感度に設定したときは、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。



低感度（Lo 0.3～Lo 1）に設定した場合

ISO感度をLo 0.3に設定すると、ISO 100に対して約0.3段分減感します（ISO 80相当）。**L1**（Lo 1）では約1段分の減感になります（ISO 50相当）。明るい場所で絞りを開きたい場合などに使用してください。これらのISO感度で撮影した画像は、やや硬調な仕上がりになりますので、通常の撮影では**100**以上をお使いください。



関連ページ

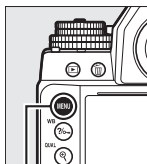
高感度撮影時のノイズを低減する →  **〔高感度ノイズ低減〕** (P.236)

感度自動制御機能を使う

感度自動制御機能は、設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

1 撮影メニューの〔感度自動制御〕で〔感度自動制御〕を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの〔感度自動制御〕で〔感度自動制御〕を選んでマルチセクターの▶を押します。
- [ISO感度] にはISO感度ダイヤルで設定したISO感度が表示されます。

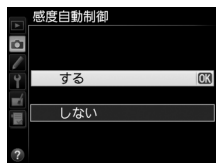


MENUボタン



2 [する] を選ぶ

- [する] を選んでOKボタンを押すと、カメラが自動的にISO感度を変更するようになります。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。
- [しない] を選ぶと、ISO感度ダイヤルで設定したISO感度に固定されます。



3 感度の制御方法を設定する

- カメラが感度を自動的に制御する方法を選びます。



制御上限感度	感度自動制御するときISO感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～Hi 4）を設定できます。ISO感度の下限は100になります。
低速限界設定	露出モードPまたはAで感度自動制御が働き始めるシャッタースピード（1/2000～1秒）を設定できます。また、[オート]に設定すると、レンズの焦点距離に応じてシャッタースピードの低速限界をカメラが自動で設定します（CPUレンズ装着時のみ）。例えば、望遠レンズ使用時は手ブレが発生しやすくなるため、低速限界が自動的に高速側に設定され、ブレを軽減できます。 • [オート]を選んで▶を押すと、補正值の設定画面が表示されます。低速限界をカメラが自動で設定するとき、より高速側または低速側になるように調整できます。 • ISO感度を上欄の[制御上限感度]まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

- **OK** ボタンを押して設定します。

感度自動制御についてのご注意

- ISO感度が高くなると、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。
- [制御上限感度]**で設定したISO感度よりもISO感度ダイヤルで設定したISO感度が高い場合、ISO感度ダイヤルで設定したISO感度を制御上限感度として撮影します。
- フラッシュ撮影時は、**[低速限界設定]**で設定したシャッタースピードよりも、カスタムメニューe1 **[フラッシュ撮影同調速度]** (□□251) で設定したシャッタースピードが優先されます。
- レンズ情報を登録していない非CPUレンズを使用している場合は、低速限界設定が1/30秒に固定されます。
- 別売スピードライト (□□117) の装着時にフラッシュモードをスローシンクロに設定していても、背景の明るさがより適正となるように感度自動制御が機能して感度が自動的に上がり、シャッタースピードが低速にならないことがあります。

測光・露出

測光モードを設定する

適正な露出を得るためにカメラが被写体の明るさを測る方法（測光モード）を設定します。

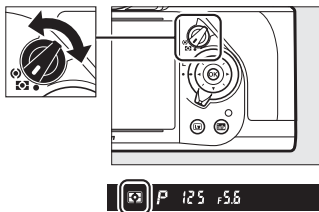
 マルチパターン 測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
 中央部重点 測光	画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。 • 露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。 • 測光範囲はカスタムメニュー b1 〔中央部重点測光範囲〕（□□243）で変更できますが、非CPUレンズ使用時はφ12mm相当になります。
 スポット 測光	フォーカスポイントに重なるφ4mm相当（全画面の約1.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 • 測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、ファインダー撮影時のAFエリアモード（□□62）がオートエリアAFのときや、非CPUレンズ使用時は、中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。

■■ 測光モードの設定方法

測光モードダイヤルを使用したい
測光モードに合わせる

- 測光モードは、ファインダー内表示で確認できます。

測光モードダイヤル



マルチパターン測光とレンズの組み合わせについて

測光モードがマルチパターン測光のときの測光方式は、レンズの種類によって変わります。

• CPUレンズ

- 「3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ」：G、EまたはDタイプのCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報を利用して測光します。
- 「RGBマルチパターン測光Ⅱ」：G、EまたはDタイプ以外のCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報は利用しません。

• 非CPUレンズ

- セットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」(□158) でレンズ情報を設定すると、「RGBマルチパターン測光」になります。レンズ情報を設定しない場合は、中央部重点測光になります。スポット測光に設定することも可能です。

関連ページ

- 中央部重点測光の測光範囲を変更する →  b1 「**中央部重点測光範囲**」(□243)
- 測光モードごとに適正露出の基準を決める →  b2 「**基準露出レベルの調節**」(□243)

AEロックして露出を固定する

AEロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。

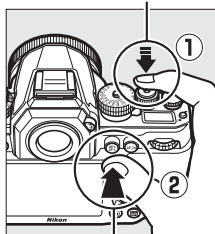
1 測光モードで中央部重点測光またはスポット測光を選ぶ (74)

- マルチパターン測光では、十分な効果が得られないため、おすすめできません。

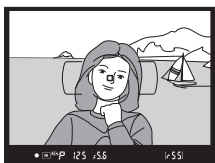
2 露出を合わせたい部分にフォーカスポイントを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま、AE/AFロックボタンを押して、露出を固定する

- AE/AFロックボタンを押している間は、測光モードに応じた部分の露出で固定（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません。
- ファインダー内表示に**AE-L**マークが点灯します。
- オートフォーカス撮影時は、フォーカスロックも同時に行われますので、ピント表示（●）の点灯も確認してください。

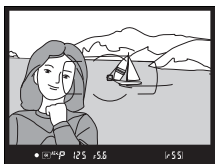
シャッターボタン



AE/AFロックボタン



3 AE/AFロックボタンを押したまま、構図を決めて撮影する



測光エリアについて

- スポット測光で、測光エリアとフォーカスポイントが連動する場合（□74）は、選択しているフォーカスポイントの露出が記憶されます。
- 中央部重点測光に設定した場合は、ファインダー中央部（φ12 mmの円内）を重点的に測光した露出が記憶されます。

AEロック中のカメラ操作について

 AE/AFロックボタンを押している間も以下の操作ができます。

露出モード	操作
P	プログラムシフト（□37）
S	シャッタースピードの変更
A	絞り値の変更

- 表示パネルやファインダー内表示には、変更後のシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードは変更できません。

関連ページ

- シャッターボタンの半押しでAEロックできるようにする →  c1 [半押しAEロック]（□244）
-  AE/AFロックボタンに別の機能を割り当てる →  f6 [AE/AFロックボタンの機能]（□261）

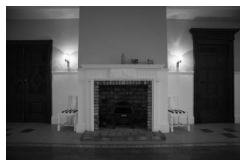


露出補正して画像の明るさを調整する

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることです。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正を行うときは、測光モード（□74）を中央部重点測光またはスポット測光にすると効果的です。露出補正は、1/3段ステップで±3段の範囲で設定できます。



－1段補正



露出補正なし

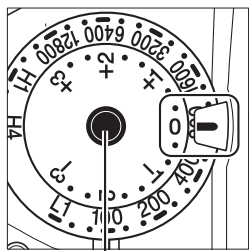


＋1段補正

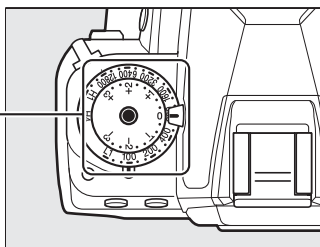
■ 露出補正の設定方法

露出補正ダイヤルロックボタンを押しながら、露出補正ダイヤルを回す

露出補正ダイヤル



露出補正ダイヤルロックボタン



- 露出補正ダイヤルを回している間、ファインダー内表示に補正量が表示されます。



補正なし
(補正量が0のとき)



－0.3段補正



＋2段補正

- 補正量を設定すると、ファインダー内表示に露出補正マーク  が表示されます。また、露出モード **P**、**S**、**A** では、ファインダー内表示に露出補正インジケータが表示され、[0] が点滅します。
- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正するのが基本です。
- 露出補正を解除するには、露出補正ダイヤルを **0** に合わせてください。



露出モードMでの露出補正について

露出モードが **M** のときは、インジケータ表示が変わるだけで、設定したシャッタースピードと絞り値は変わりません。

別売スピードライト使用時の露出補正

別売スピードライト使用時に露出補正を行った場合は、背景露出とスピードライトの発光量の両方に補正が行われ、画像全体の明るさが変わりますが、背景の明るさだけを補正することもできます（カスタムメニュー e4 [フラッシュ使用時の露出補正]、□253）。

関連ページ

露出補正値を変えながら撮影する→「AEブラケットング、フラッシュブラケットングの撮影方法」（□136）

ホワイトバランス

ホワイトバランスを変更する

光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定の**AUTO**（オート）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

ホワイトバランス	設定される色温度	内容
AUTO オート	約3500～8000K※	AUTO （オート）で十分な効果を得るには、G、EまたはDタイプレンズをお使いになることをおすすめします。別売のスピードライトの使用時は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。
AUTO1 標準		
AUTO2 電球色を残す		
 電球	約3000K※	白熱電球下での撮影に適しています。
 蛍光灯	—	蛍光灯など、次の7種類の光源を使った撮影に適しています。
ナトリウム灯混合光	約2700K※	野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光を使った撮影に適しています。
電球色蛍光灯	約3000K※	電球色蛍光灯下での撮影に適しています。
温白色蛍光灯	約3700K※	温白色蛍光灯下での撮影に適しています。
白色蛍光灯	約4200K※	白色蛍光灯下での撮影に適しています。
昼白色蛍光灯	約5000K※	昼白色蛍光灯下での撮影に適しています。
昼光色蛍光灯	約6500K※	昼光色蛍光灯下での撮影に適しています。
高色温度の水銀灯	約7200K※	高色温度の水銀灯などを使った撮影に適しています。
 晴天	約5200K※	晴天の屋外での撮影に適しています。
 フラッシュ	約5400K※	別売のスピードライトを使って撮影する場合に適しています。
 曇天	約6000K※	曇り空の屋外での撮影に適しています。

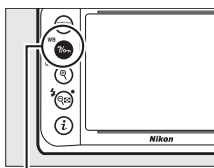
ホワイトバランス	設定される色温度	内容
晴天日陰	約8000K※	晴天の日陰での撮影に適しています。
色温度設定	約2500～10000K	色温度を直接指定できます (□87)。
PRE プリセット マニュアル	—	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、SDカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます (□89)。

※ 微調整が0の場合の値です。

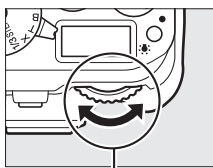
■ ホワイトバランスの設定方法

(WB) ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- ホワイトバランスは、インフォ画面に表示されます。



(WB) ボタン



メインコマンドダイヤル



インフォ画面

✎ [ホワイトバランス] について

ホワイトバランスは撮影メニュー（□228）でも設定できます。



✎ AUTO（オート）について

AUTO（オート）の場合は、撮影メニューで「[AUTO1標準]」と「[AUTO2電球色を残す]」から選べます。「[AUTO2電球色を残す]」を選ばと、電球色の光源下で撮影した際に暖かみのある画像の仕上がりになります。

✎ 蛍光灯（蛍光灯）について

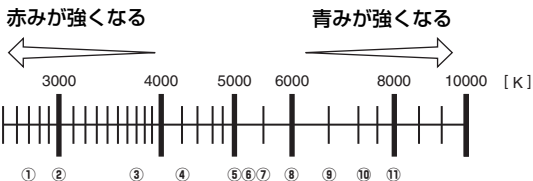
蛍光灯（蛍光灯）の場合は、撮影メニュー（□228）で蛍光灯の種類を選べます。

✔ スタジオ用大型ストロボを使用する場合

スタジオ用大型ストロボを使用する場合は、AUTO（オート）に設定していても適正なホワイトバランスが得られないことがあります。その場合は、⚡（フラッシュ）モードにして微調整を行うか、プリセットマニュアルをお使いください。

✎ 色温度について

光の色には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青みを帯びた光色になります。



- | | |
|-------------------|------------------|
| ① ② ③ ④ | ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ |
| ① ② ③ ④ ⑤ | ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ |
| ナトリウム灯混合光（約2700K） | 晴天（約5200K） |
| 電球（約3000K） | フラッシュ（約5400K） |
| 電球色蛍光灯（約3000K） | 曇天（約6000K） |
| 温白色蛍光灯（約3700K） | 昼光色蛍光灯（約6500K） |
| 白色蛍光灯（約4200K） | 高色温度の水銀灯（約7200K） |
| 昼白色蛍光灯（約5000K） | 晴天日陰（約8000K） |

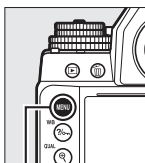
ホワイトバランスを微調整する

ホワイトバランスは、さらに微調整できます。

■ 撮影メニューの【ホワイトバランス】で設定する場合

1 設定したいホワイトバランスを選ぶ

- MENU ボタンを押して、撮影メニューの【ホワイトバランス】で設定したいホワイトバランスを選びます。
- ホワイトバランスを選んでマルチセクターの▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- [オート] の場合は、[AUTO1 標準] または [AUTO2 電球色を残す] を選んで▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- [蛍光灯] の場合は、該当する蛍光灯の種類を選んで▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- [プリセットマニュアル] での微調整画面の表示方法については、「プリセットマニュアルデータの微調整について」(P.97) をご覧ください。

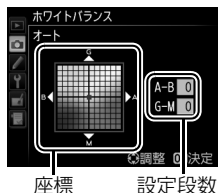


MENUボタン



2 微調整値を設定する

- マルチセクターを操作すると、A（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、各方向6段まで微調整できます。設定した座標上の色に画像を補正します。

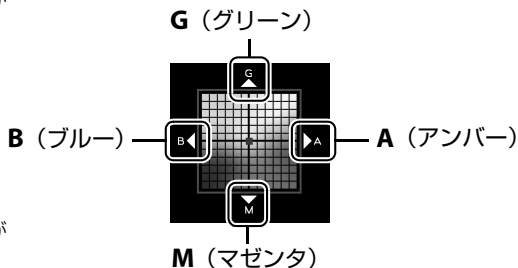


- 座標とホワイトバランスの効果の関係は次の図のようになります。

グリーンが
強くなる



マゼンタが
強くなる

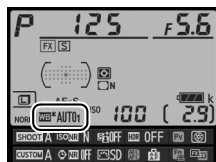


ブルーが強くなる ← → アンバーが強くなる

- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整ができます。

3 微調整値を決定する

- OK ボタンを押して微調整値を決定すると、撮影メニューに戻ります。
- ホワイトバランスを微調整すると、インフォ画面にアスタリスク（*）が表示されます。



✔ ホワイトバランスの微調整画面について

ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを （電球）に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

✎ ミレッド（MIREDD）について

色温度の逆数を百万（ 10^6 ）倍したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近での変化は比較的小さく、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルターの単位としても利用されます。

例）色温度の差（K：ケルビン）：ミレッドの差（M：ミレッド）

4000K－3000K＝1000 K ： 83 M

7000K－6000K＝1000 K ： 24 M

✎ 関連ページ

ホワイトバランスを変えながら撮影する

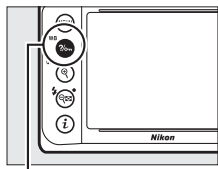
→  e6 [オートブラケティングのセット] (□253)

→ 「WBブラケティングの撮影方法」 (□141)

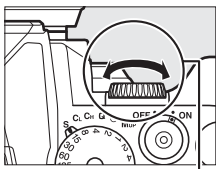
■ ホワイトバランスボタンとサブコマンドダイヤルで 設定する場合

WB (WB) ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

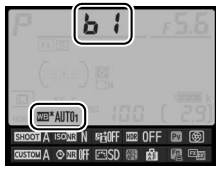
- 現在選択中のホワイトバランスの微調整値は、インフォ画面に表示されます。



WB (WB) ボタン



サブコマンドダイヤル



インフォ画面

- **WB (WB) ボタンとサブコマンドダイヤルで微調整する場合は、A（アンバー）からB（ブルー）への横軸の方向のみ設定できます（□84）。**
- 各方向 6 段まで微調整できます。1 段は約 5 ミレッドに相当します（□85）。
- サブコマンドダイヤルを左に回すとA（アンバー）方向に、右に回すとB（ブルー）方向に色温度の高さを微調整できます。
- 微調整値を0以外に設定すると、インフォ画面にアスタリスク（*）が表示されます。
- **WB (WB) ボタンの操作では、K（色温度設定）と PRE（プリセットマニュアル）のホワイトバランスは微調整できません。撮影メニューで微調整してください（□84）。**

色温度設定で色温度を指定する

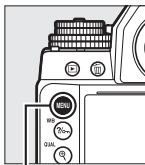
ホワイトバランスを **K**（色温度設定）にしたときは、ホワイトバランスの色温度を直接数値で指定できます。

■ 撮影メニューの【ホワイトバランス】で設定する場合

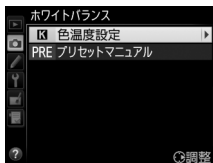
A（アンバー）、B（ブルー）方向とG（グリーン）、M（マゼンタ）方向の両方の色温度（□□84）を設定できます。

1 撮影メニューの【ホワイトバランス】で【色温度設定】を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの【ホワイトバランス】で【色温度設定】を選んでマルチセレクターの▶を押します。



MENUボタン



2 A（アンバー）、B（ブルー）方向の色温度を設定する

- ◀または▶を押して色温度を1桁ずつ選び、▲または▼を押して数値を設定します。



A（アンバー）、
B（ブルー）方向
の色温度

3 G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度を設定する

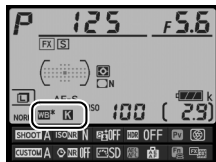
- ◀または▶を押して、G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度にカーソルを移動し、▲または▼を押して数値を設定します。



G（グリーン）、
M（マゼンタ）方向
の色温度

4 色温度を決定する

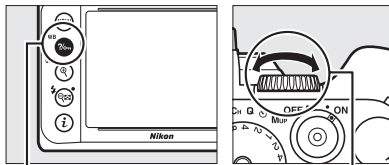
- OK ボタンを押して色温度を決定すると、撮影メニューに戻ります。
- G (グリーン)、M (マゼンタ) 方向の色温度を0以外に設定すると、インフォ画面にアスタリスク (*) が表示されます。



■ ボタン操作で色温度を設定する場合

1/∞ (WB) ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す、またはマルチセレクターの▲▼◀▶を押す

- **1/∞ (WB) ボタン**を押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、色温度が切り替わります (ミレッド単位、☐85)。



1/∞ (WB) ボタン サブコマンドダイヤル

- **1/∞ (WB) ボタン**を押しながらマルチセレクターの◀または▶を押すと、色温度を1桁ずつ選べます。▲または▼を押すと選んだ桁の数値を設定できます (10ケルビン単位)。
- A (アンバー)、B (ブルー) 方向の色温度のみ設定できます。
- 色温度は、インフォ画面に表示されます。



☑ 色温度設定についてのご注意

- 光源が蛍光灯やフラッシュのときは、色温度設定を使わず、それぞれ 蛍 (蛍光灯)、 (フラッシュ) に設定してください。
- ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。

プリセットマニュアルで基準となる白を設定する

プリセットマニュアルでは、撮影する照明下で取得したホワイトバランスデータまたは撮影済みの画像のプリセットマニュアルデータをカメラに保存し、ホワイトバランスを設定します。カクテル照明（自然光と人工照明とが混ざった室内撮影）や特殊照明下で、前記の**AUTO**（オート）や☀（電球）などの各設定や、色温度設定では望ましいホワイトバランスが得られない場合に便利です。

最大4種類のプリセットマニュアルデータ（d-1～d-4）をカメラに保存できます。プリセットマニュアルデータを保存するには、次の方法があります。

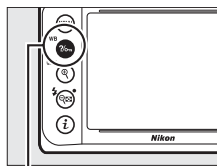
プリセットマニュアルデータをカメラで新規取得して保存する	撮影する照明下で白またはグレーの被写体を基準にして撮影を行い、撮影データから取得して保存します（□□90）。ライブビュー撮影時（□□166）には、液晶モニターに表示中の被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます（スポットホワイトバランス、□□93）。
撮影済みの画像のホワイトバランスデータをコピーして保存する	SD カードにある画像のホワイトバランスデータをコピーして保存します（□□96）。

ファインダー撮影時にプリセットマニュアルデータを新規取得する

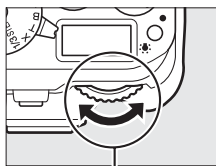
プリセットマニュアルデータを取得する前に：

- プリセットマニュアルデータを取得する場合は、あらかじめホワイトバランスをセットする照明下で、無彩色（白またはグレー）の被写体を用意しておいてください。スタジオ用大型ストロボにてホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（ホワイトバランス取得用の18%標準反射板）にすることをおすすめします。
- 無彩色（白またはグレー）の被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。露出モードが**M**の場合は、露出インジケータを確認して、適正露出になるよう設定してください（□42）。

1 ?/m (WB) ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、インフォ画面のホワイトバランス表示をPREに合わせる



?/m (WB) ボタン



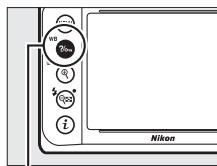
メインコマンドダイヤル



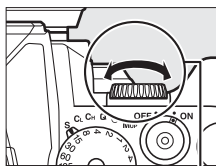
インフォ画面

2 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

- ?/m (WB) ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-4の中から選びます。



?/m (WB) ボタン



サブコマンドダイヤル



インフォ画面

3 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん **WB** ボタンから指を放し、再度 **WB** ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、表示パネルとファインダー内表示に **PrE** の文字が点滅します。



表示パネル



ファインダー内表示

4 **PrE** の点滅中に白またはグレーの被写体を撮影する

- 撮影時に使う照明の下で、用意した無彩色（白またはグレー）の被写体をファインダーいっぱいにとらえてシャッターボタンを全押しすると、プリセットマニュアルデータが取得され、手順2で選んだ保存場所に保存されます。
- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータが正常に取得されます。
- シャッターボタンを押しても、SDカードに画像は記録されません。



✓ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について (ファインダー撮影時)

カメラを操作しないままカスタムメニュー c4 [液晶モニターのパワーオフ時間] の [インフォ画面表示] (□□245) で設定した時間が経過し、さらにカスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□□244) で設定した時間が過ぎると、プリセットマニュアル取得モードが解除されます。

✓ プリセットマニュアルデータ取得時の制限について (ファインダー撮影時)

次の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません：

- HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影時 (□□113)
- 多重露出撮影時 (□□147)

🔧 ホワイトバランスのプロテクト設定について

プロテクト設定 (□□99) されたプリセットマニュアルデータが選ばれている場合、プリセットマニュアルデータは新規取得できません（表示パネルとファインダー内表示で **PrE** が点滅します）。

5 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

- プリセットマニュアルデータが取得されると、表示パネルに **Good** の文字が、ファインダー内表示に **Good** の文字が、それぞれ約6秒間点滅し、プリセットマニュアル取得モードを終了します。



表示パネル



ファインダー内表示

- 被写体が極端に低輝度または高輝度の場合、カメラがプリセットマニュアルデータを取得できないことがあります。この場合、表示パネルとファインダー内表示に **no Good** の文字が、それぞれ約6秒間点滅します。このとき、シャッターボタンを半押しするとプリセットマニュアル取得モード（手順4）に戻ります。



表示パネル



ファインダー内表示

プリセットマニュアルデータについて

- ご購入時のプリセットマニュアルデータ d-1 ～ d-4 は、晴天モードと同じ色温度 5200K に設定されています。
- 撮影メニューから [ホワイトバランス] の [プリセットマニュアル] を選ぶと、取得したプリセットマニュアルデータが右のような撮影画像のサムネイルで表示されます。マルチセレクターでプリセットマニュアルデータを選んで **OK** ボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルを使って撮影できます。

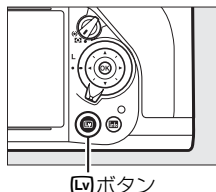


スポットホワイトバランスでライブビュー撮影時にプリセットマニュアルデータを取得する

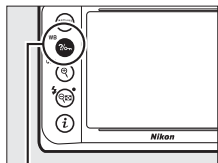
ライブビュー撮影時(□166)には、液晶モニターに表示されている被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます(スポットホワイトバランス)。被写体の一部に白、またはグレーの部分があれば、あらかじめプリセットマニュアル取得用の被写体を用意する必要はなく、望遠レンズ装着時にも、レンズを交換せずにそのままプリセットマニュアルデータを取得できます。

1 Lv ボタンを押す

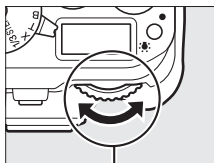
- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。



2 ?/WB (WB) ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、液晶モニターのホワイトバランス表示をPREに合わせる



?/WB (WB) ボタン



メインコマンドダイヤル

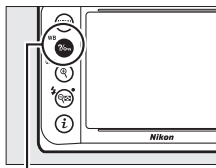


液晶モニター

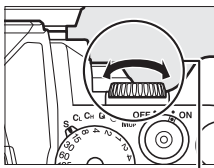


3 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

- **1/6 (WB)** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-4の中から選びます。



1/6 (WB) ボタン



サブコマンドダイヤル



液晶モニター

4 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん **1/6 (WB)** ボタンから指を放し、再度 **1/6 (WB)** ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、液晶モニターに **PRE** が点滅します。



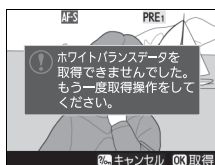
液晶モニター

5 **PRE** の点滅中に、マルチセクターを操作して、**□** を被写体の白またはグレーの部分に重ねる



6 ① ボタンを押すか、シャッターボタンを全押しして、プリセットマニュアルデータを取得する

- データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、手順4の状態に戻ります。□の位置を変えるなどして、再度プリセットマニュアルデータを取得してください。
- 撮影メニューから「ホワイトバランス」の「プリセットマニュアル」を選ぶと、ライブビュー撮影時に取得したプリセットマニュアルデータには、ホワイトバランスを取得した範囲に枠が表示されます。



✓ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について (ライブビュー撮影時)

ライブビュー撮影時のプリセットマニュアル取得モードの時間制限は、カスタムメニュー c4 [液晶モニターのパワーオフ時間] の [ライブビュー表示] で設定した時間になります (□245)。

✓ プリセットマニュアルデータ取得時の制限について (ライブビュー撮影時)

HDR (ハイダイナミックレンジ) 撮影時 (□113) は、プリセットマニュアルデータを取得できません。

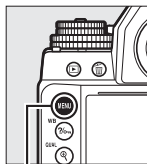
プリセットマニュアルデータを管理する

■ 撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーする

選択したプリセットマニュアルデータの保存場所に、SDカード内の画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとしてコピーできます。

1 撮影メニューの【ホワイトバランス】で【プリセットマニュアル】を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの【ホワイトバランス】で【プリセットマニュアル】を選んでマルチセクターの▶を押します。

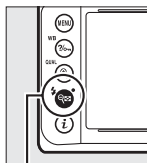


MENUボタン



2 コピー先を選ぶ

- マルチセクターで黄色い枠を移動してd-1～d-4の中からコピー先を選びます。
- Q (⚡) ボタンを押すと設定画面が表示されます。

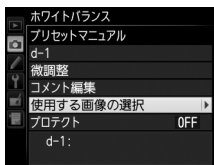


Q (⚡) ボタン



3 【使用する画像の選択】を選ぶ

- 【使用する画像の選択】を選んで▶を押すと、SDカード内の画像が一覧表示されます。



4 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- マルチセクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。



5 OK ボタンを押す

- SDカード内の画像のホワイトバランスデータがコピーされます。
- 選択した画像に画像コメント (□274) がある場合、画像コメントもコピーされます。

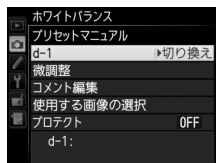


ホワイトバランスデータをコピーしたい画像について

選んだ画像は、 (QUAL) ボタンを押している間、拡大して確認できます。

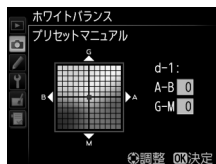
設定画面でのプリセットマニュアルデータの切り換えについて

設定画面で、マルチセクターの▲を押してプリセットマニュアルデータ (d-1～d-4) を選び、▶を押すと、プリセットマニュアルデータが切り替わります。



プリセットマニュアルデータの微調整について

設定画面で「微調整」を選ぶと、微調整画面が表示され、選択中のプリセットマニュアルデータを微調整できます (□83)。

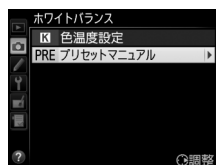


■ プリセットマニュアルデータにコメントを入力する

選択したプリセットマニュアルデータにコメント（最大36文字）を入力します。

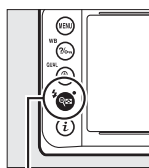
1 撮影メニューの【ホワイトバランス】で【プリセットマニュアル】を選ぶ

- 【プリセットマニュアル】を選んでマルチセレクターの▶を押します。



2 プリセットマニュアルデータを選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して、プリセットマニュアルデータを選びます。
- (⚡) ボタンを押すと設定画面が表示されます。

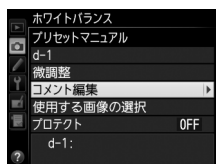


(⚡) ボタン



3 【コメント編集】を選ぶ

- 【コメント編集】を選んで▶を押します。



4 コメントを入力する

- 最大36文字入力できます。コメントの入力方法は、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください（□107）。



■ プリセットマニュアルデータを保護する（プロテクト）

選択したプリセットマニュアルデータにプロテクト（保護）を設定できます。プロテクト設定されたプリセットマニュアルデータは微調整やコメント編集ができなくなります。

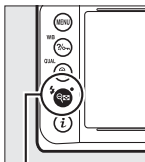
1 撮影メニューの【ホワイトバランス】で【プリセットマニュアル】を選ぶ

- 【プリセットマニュアル】を選んでマルチセクターの▶を押します。



2 プリセットマニュアルデータを選ぶ

- マルチセクターで黄色い枠を移動して、プリセットマニュアルデータを選びます。
- [Q] (⚡) ボタンを押すと設定画面が表示されます。

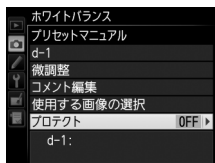


[Q] (⚡) ボタン



3 【プロテクト】を選ぶ

- 【プロテクト】を選んで▶を押します。



4 【する】を選ぶ

- 【する】を選んで[OK]ボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルデータがプロテクト設定されます。
- プリセットマニュアルデータのプロテクトを解除するには、もう一度【プロテクト】を選んでから【しない】を選びます。



画像処理

ピクチャーコントロールを使って 画像の仕上がりを簡単に設定したり、 思い通りに調整する

「ピクチャーコントロール（Picture Control）システム」とは、対応するカメラまたはソフトウェアで調整した画像調整の設定を相互に利用できるニコン独自の画作りシステムです。

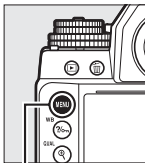
ピクチャーコントロールを選ぶ

このカメラには、被写体や撮影シーンに合わせて選ぶことのできる「ピクチャーコントロール」が搭載されています。

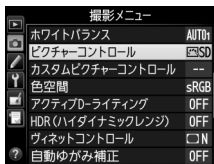
 SD スタンダード	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。 • ほとんどの撮影状況に適しています。
 NL ニュートラル	素材性を重視した自然な画像になります。 • 撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。
 VI ビビッド	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。 • 青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。
 MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
 PT ポートレート	人物の肌が滑らかで自然な画像になります。
 LS 風景	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。

1 撮影メニューの【ピクチャーコントロール】を選ぶ

- MENU ボタンを押して、撮影メニューの【ピクチャーコントロール】を選んでマルチセクターの▶を押します。

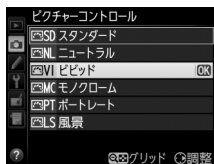


MENU ボタン



2 設定したいピクチャーコントロールを選ぶ

- OK ボタンを押して設定します。

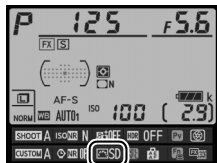


【カスタムピクチャーコントロール】について

撮影メニューで【カスタムピクチャーコントロール】を選ぶと、調整したピクチャーコントロールに名前を付けて登録したり (□106)、SDカードを使って、同じ機種のカメラやピクチャーコントロールに対応するソフトウェアと共用する (□109) ことができます。

撮影中のピクチャーコントロールの確認について

使用しているピクチャーコントロールは、Info ボタンを押すと表示されるインフォ画面で確認できます。



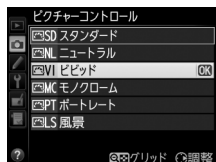
ピクチャーコントロール
アイコン

ピクチャーコントロールを調整する

ピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロール (□106) の設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。輪郭強調、コントラスト、色の濃さ(彩度)をバランス良く自動的に調整できる「クイック調整」や各項目を手動で細かく調整する「手動調整」があります。

1 調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールの一覧画面 (□101) で、マルチセクターの▶を押します。



2 ピクチャーコントロールを調整する

- ▲または▼で調整する項目 (□103) を選んで、◀または▶で値を設定します。
- [クイック調整] を選ぶと、各項目のレベルを自動的に調整します (□103)。
- ⏮️ ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

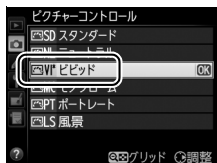


3 OK ボタンを押す



✏️ ピクチャーコントロールを調整した場合の表示について

ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンにアスタリスク (*) が表示されます。



■ レベル調整の設定項目

クイック調整※1		輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。[-2] ~ [+2] の調整ができます。 • 一側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を抑えた画像になり、+側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を強調した画像になります。たとえば「ビビッド」を選んで+側にクイック調整すると、色の鮮やかさを強調します。
手動調整	輪郭強調	輪郭の強弱を調整します。[0]（輪郭強調しない）～[9]までの手動調整と、自動で調整する[A]（オート）があります。 • 数字が大きいほどくっきりとした画像になり、小さいほどソフトな画像になります。
	コントラスト	画像のコントラストを調整します。[-3] ~ [+3] までの手動調整と、自動で調整する[A]（オート）があります。 • 一側にすると軟調な画像になり、+側にすると硬調な画像になります。晴天時の人物撮影や白とびが気になる場合などは一側が、霞んだ遠景の撮影などには+側が適しています。
	明るさ	白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。[-1] ~ [+1] の調整ができます。 • 一側にすると暗くなり、+側にすると明るくなります。
	色の濃さ（彩度）※2	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整します。[-3] ~ [+3] までの手動調整と、自動で調整する[A]（オート）があります。 • 一側にすると鮮やかさが抑えられ、+側にするとより鮮やかになります。
	色合い（色相）※2	画像の色合いを調整します。[-3] ~ [+3] までの調整ができます。 • 肌色を基準にした場合、一側にすると赤みが増し、+側にすると黄色みが増します。
	フィルター効果※3	白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます。フィルター効果は[OFF]、[Y]、[O]、[R]、[G]から選べます（□105）。
	調色※3	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。調色は[B&W]、[Sepia]、[Cyanotype]、[Red]、[Yellow]、[Green]、[Blue Green]、[Blue]、[Purple Blue]、[Red Purple]から選べます（□105）。

※1 「ニュートラル」と「モノクローム」はクイック調整できません。カスタムピクチャーコントロール（□106）の場合も、クイック調整できません。

手動調整した後にクイック調整を行うと、手動調整で設定した値は無効になります。



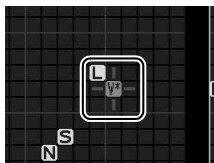
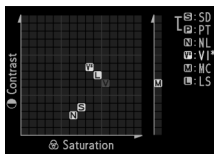
- ※2 **【モノクローム】** や **【モノクローム】** を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときは、表示されません。
- ※3 **【モノクローム】** や **【モノクローム】** を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときのみ表示されます。

【輪郭強調】、【コントラスト】、【色の濃さ（彩度）】の【A】（オート）についてのご注意

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がりが具合は変化します。
- 十分な効果を得るには、Gタイプ、EタイプまたはDタイプのレンズをお使いになることをおすすめします。

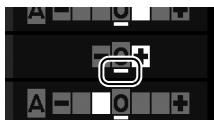
ピクチャーコントロール調整時のグリッド表示

- ピクチャーコントロール調整中に  ボタンを押している間、調整しているピクチャーコントロールのコントラストと彩度が座標で表示され、他のピクチャーコントロールとの関係がわかります。ボタンを放すと、調整画面に戻ります。
- **【モノクローム】** の場合、グリッド表示はコントラストのみ表示されます。
- **【コントラスト】** または **【色の濃さ（彩度）】** に **【A】（オート）** が設定されたピクチャーコントロールは、グリッド表示時はアイコンが緑色で表示されます。また、各軸に平行な上下または左右の線が表示されます。



ピクチャーコントロール調整時のアンダーバーについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示されるアンダーバーは、調整する前の値を示しています。前回調整した値を参考にして調整するときに便利です。



【モノクローム】の【フィルター効果】について

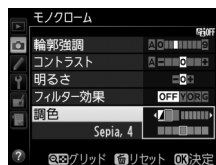
【フィルター効果】には、次のような効果があります。

Y (黄※)	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。[Y] → [O] → [R]の順にコントラストが強くなります。
O (オレンジ※)	
R (赤※)	
G (緑※)	肌の色や唇などを落ち着いた感じに上げます。ポートレート撮影などに使います。

※ 市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。【フィルター効果】で得られる効果は、市販の白黒写真用カラーフィルターよりも強くなります。

【モノクローム】の【調色】について

【調色】の項目（[B&W] 以外）を選んでマルチセクターの▼を押すと、さらに色の濃淡を7段階から選べます。◀または▶を押して選んでください。



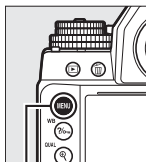
カスタムピクチャーコントロールを登録する

カメラに搭載された「ピクチャーコントロール」は、好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

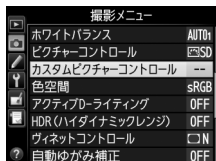
■ カスタムピクチャーコントロールの登録方法

1 撮影メニューの【カスタムピクチャーコントロール】を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの【カスタムピクチャーコントロール】を選んでマルチセクターの▶を押します。

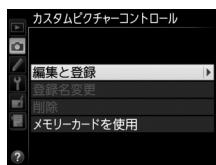


MENUボタン



2 【編集と登録】を選ぶ

- 【編集と登録】を選んで▶を押すと、【編集・登録対象を選択】画面が表示されます。



3 元にするピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合はOKボタンを押します。【登録先の選択】画面が表示されます（手順5へ）。



4 ピクチャーコントロールを調整する

- 項目の内容や調整方法は「ピクチャーコントロール」と同じです。
- OK ボタンを押すと「登録先の選択」画面が表示されます。
- ⏮ ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。



5 登録先を選択する

- C-1～9（カスタム1～9）の中から登録先を選びます。



6 登録名を編集する

- 登録先を選んで▶を押すと、「登録名変更」画面が表示されます。
- 初期状態では、「(元になったピクチャーコントロール名) - XX」が名前エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。



キーボード
エリア

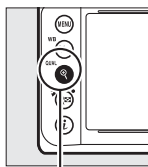
名前エリア

- 登録名は19文字まで入力できます。文字はカーソル位置に挿入されます。
- 登録名を変更しない場合は、手順7へ進みます。
- 名前エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、OK ボタンを押します。
- 名前エリアのカーソルを左右に移動する場合は、Q (⚡) ボタンを押しながらマルチセクターの◀または▶を押します。
- 名前エリアからあふれた文字は削除されます。
- 名前を1文字削除する場合は、Q (⚡) ボタンを押しながら◀または▶を押して削除する文字の上にカーソルを移動させ、⏮ ボタンを押します。

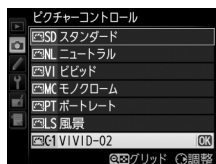


7 ④ (QUAL) ボタンを押す

- 登録名の編集が終了します。
- 登録したピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。

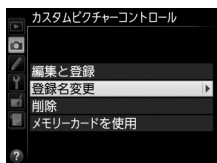


④ (QUAL) ボタン



① 登録名変更について

【カスタムピクチャーコントロール】で【登録名変更】を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールの名前を変更できます。



② 登録したピクチャーコントロールを削除するには

【カスタムピクチャーコントロール】で【削除】を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールを削除できます。

③ 元になったピクチャーコントロールの表示について

カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になったピクチャーコントロールがアイコンで表示されます。

元になった
ピクチャーコントロール



④ カスタム1～9で調整できる項目について

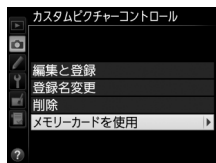
カスタム1～9を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールと同じ項目が調整できます。

SDカードを使ってピクチャーコントロールを 対応ソフトウェアと共用する

付属のViewNX 2や別売のCapture NX 2のピクチャーコントロールユーティリティ（Picture Control Utility）で作成したカスタムピクチャーコントロールを、SDカードからカメラに読み込んで登録したり、カメラで作成したカスタムピクチャーコントロールをSDカードにコピーすることができます。また、SDカード上の不要なカスタムピクチャーコントロールを削除することもできます。

1 【カスタムピクチャーコントロール】画面で【メモリーカードを使用】を選ぶ

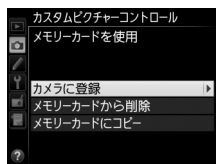
- 【メモリーカードを使用】を選んでマルチセクターの▶を押すと、【メモリーカードを使用】画面が表示されます。



2 【カメラに登録】、【メモリーカードから削除】または【メモリーカードにコピー】を選ぶ

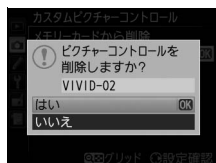
【カメラに登録】：

- SDカードにあるカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録できます。カメラに登録したいカスタムピクチャーコントロールと登録先（C-1～9（カスタム1～9））を選んで名前を付けると、選んだカスタムピクチャーコントロールがカメラに登録されます。



【メモリーカードから削除】：

- SDカードにあるカスタムピクチャーコントロールを選んで削除できます。右のような確認画面が表示されるので、【はい】を選んでOKボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールを削除できます。



[メモリーカードにコピー]：

- カメラにあるカスタムピクチャーコントロールをSDカードにコピーできます。SDカードにコピーしたいカスタムピクチャーコントロールとコピー先（1～99）を選んで OK ボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールがSDカードにコピーされます。



SDカードへのコピー /SDカードからの削除について

- カメラに搭載されているピクチャーコントロール（スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景）は、コピーや削除ができません。
- SDカードに保存できるカスタムピクチャーコントロールは、99個までです。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する

アクティブD-ライティングで撮影する

撮影の前にあらかじめ「**アクティブD-ライティング**」を設定しておくと、ハイライト部の白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。見た目のコントラストに近い画像に仕上がります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するのに効果的です。アクティブD-ライティングを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします (□74)。



アクティブD-ライティング
[しない]



アクティブD-ライティング
[暗A オート]



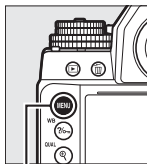
撮影メニュー「**アクティブD-ライティング**」と画像編集メニュー「**D-ライティング**」の違い

「**アクティブD-ライティング**」を設定してから撮影すると、撮影シーンに応じて露出や階調を制御し、ハイライト部やシャドー部および中間調を適切に調整して画像を記録します。一方、「**D-ライティング**」(□286)は、撮影済みの画像に対して階調を再調整してシャドー部を明るく補正します。

■ アクティブD-ライティングの設定方法

1 撮影メニューの【アクティブD-ライティング】を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの【アクティブD-ライティング】を選んでマルチセクターの▶を押します。



MENUボタン



2 効果の度合いを選び、OKボタンを押す

- [暗A オート]、[暗H2 より強め 2]、[暗H1 より強め 1]、[暗H 強め]、[暗N 標準]、[暗L 弱め]、[しない] に設定できます。
- [暗A オート] に設定すると、撮影シーンに応じて自動的に効果の度合いを設定します。



▼ アクティブD-ライティングについてのご注意

- アクティブD-ライティングを設定して撮影をするとき、撮影シーンによっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調される場合があります。
- アクティブD-ライティングを設定していても、ISO感度がHi 0.3以上の場合、アクティブD-ライティングは機能しません。
- 露出モードがMのときは、[暗A オート] に設定していても[暗N 標準] 相当の度合いに固定されます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。

🔗 関連ページ

アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影する
→「ADLブラケティングの撮影方法」(P144)

HDR (ハイダイナミックレンジ) 合成を行う

1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成することにより、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します。明暗差が著しい撮影シーンなどで、シャドー部からハイライト部まで幅広く再現された画像になります。HDRモードを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします(□74)。



露出暗めで
撮影した画像

+



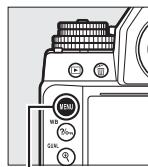
露出明るめで
撮影した画像



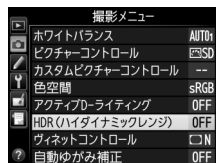
HDRモードで
合成された画像

1 撮影メニューの【HDR (ハイダイナミックレンジ)】を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの【HDR (ハイダイナミックレンジ)】を選び、マルチセクターの▶を押します。



MENUボタン



RAWを含む画質モードについて

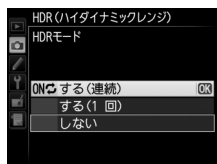
RAWを含む画質モードの場合、HDR撮影はできません。

2 [HDRモード] を設定する

- [HDRモード] を選んで▶を押します。



- ▲または▼を押してHDRモードを設定し、OK ボタンを押します。



ONにする(連続)	HDRモードで続けて撮影します。HDRモードを解除するには、もう一度 [HDRモード] を選んで [しない] を選択してください。
する(1回)	撮影を終了すると、HDRモードが解除されます。
しない	HDRモードを解除します。

- [する(連続)] または [する(1回)] を選ぶと、HDRモードの撮影待機状態になり、ファインダー内表示にHDRが点灯します。



ファインダー内表示



3 [露出差] を設定する

- [露出差] を選んで▶を押します。



- ▲または▼を押して露出差を設定し、OK ボタンを押します。
- 露出差を大きく設定するほど、輝度範囲のより広い被写体に対応できます。
- 被写体の輝度範囲に適した露出差以上に設定すると、不自然な画像になる場合があります。被写体の輝度範囲に合わせて選択してください。
- [オート] に設定すると、シーンに適した露出差が選択されます。

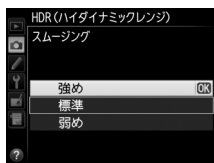


4 [スムージング] を設定する

- [スムージング] を選んで▶を押します。



- ▲または▼を押してスムージング（2枚の画像の境界のなめらかさ）の強さを設定し、OK ボタンを押します。
- スムージングを強めに設定するほど、画像がよりなめらかに合成されます。



5 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、2回連続してシャッターがきれます。
- 合成処理中は、表示パネルに **Job Hdr** が、ファインダー内表示に **Job HDR** が点滅します。この表示が消えるまで撮影できません。
- [する (連続)] の場合、[HDRモード] で [しない] を選んでHDRモードを解除するまで、HDRモードで撮影できます。
- HDRモードが [する (1回)] の場合、1回撮影すると、HDRモードが解除され、HDR マークが消灯します。



✓ HDR撮影時のご注意

- 撮影した画像の画像周辺部は切り取られます。
- 撮影時の手ブレの量が大きい場合は、正しく合成されない場合があります。撮影時は、三脚の使用をおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、正しく合成されない場合があります。
- 撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影がでたり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。[スミング] の設定で調整できます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- 測光モードが中央重点測光またはスポット測光のときや、非CPUレンズ装着時に [露出差] を [オート] に設定すると、露出差は [2 EV] 相当の度合いに固定されます。
- 別売のスピードライトは発光しません。
- レリーズモード (□46) が **CL** または **CH** の場合にシャッターボタンを全押しし続けても連続撮影しません。
- シャッタースピードを **B** (Bulb) または **T** (Time) に設定すると、シャッターはきれません。

✓ HDRモードの制限について

HDRモードは、次の機能とは同時に使用できません：

- オートブラケティング撮影 (□136)
- 多重露出撮影 (□147)

📎 HDRモードとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- HDRモードを [する (連続)] に設定してからインターバルタイマー撮影 (□152) を設定すると、[インターバルタイマー撮影] で設定されたインターバルでHDR撮影ができます。
- HDRモードが [する (1回)] の場合は、1回だけHDRモードで撮影した後、インターバルタイマーとHDRモードが解除されます。



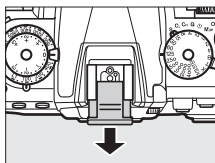
フラッシュ撮影

使用できるスピードライト (別売フラッシュ)

このカメラは、アクセサリシューに別売スピードライト（□119）を装着することでフラッシュ撮影が可能になります。暗いところではもちろん、昼間の屋外撮影などでも、逆光時や主要被写体の陰影を弱めたいとき、人物の目にキャッチライトを入れたいときなどに、補助光としても使用できます。お使いのスピードライトで使用できる機能については、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

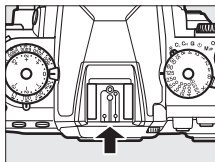
別売スピードライトをカメラに装着するには

1 アクセサリシューカバーを取り外す



2 別売のスピードライトをアクセサリシューに取り付ける

- セーフティーロックピン付きのスピードライトを取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。
- スピードライトの取り付け方は、お使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。



シンクロターミナル

シンクロコードを必要とするスピードライト撮影時に、シンクロコードをシンクロターミナル（JIS-B型外れ防止ネジ付き）に接続してください。ただし、後幕シンクロ撮影ができるスピードライトをアクセサリシューに装着して後幕シンクロを行う場合には、シンクロターミナルに他のスピードライトを接続して増灯撮影などを行わないでください。



他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。



ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) について

ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) は、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、スピードライト撮影に新たな可能性を開く、様々な機能を提供します。

■ ニコンクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトの主な仕様

	ガイドナンバー (ISO 100・m/ISO 200・m、20℃)
SB-910 ※1	34/48 (照射角35mm、スタンダード配光時)
SB-900 ※1	34/48 (照射角35mm、スタンダード配光時)
SB-800	38/53 (照射角35mm時)
SB-700 ※1	28/39 (照射角35mm、スタンダード配光時)
SB-600	30/42 (照射角35mm時)
SB-400 ※2	21/30
SB-300 ※2	18/25
SB-R200 ※3	10/14

※1 カメラのホワイトバランスを**AUTO** (オート) または⚡ (フラッシュ) に設定し、SB-910、SB-900、またはSB-700用カラーフィルターを装着して撮影すると、カメラが自動的にフィルターを識別し、最適なホワイトバランスを設定します。

※2 ワイヤレス機能はありません。

※3 リモート発光用スピードライトSB-R200を使用するには、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800が必要です。

■ SU-800について

ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800は、ワイヤレスでSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて制御できます。SU-800には発光機能はありません。



######

ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト								
SB-910 SB-900 SB-800	SB-700	SB-600	SU-800		SB-R200	SB-400	SB-300	
			コマンダー 撮影	クローズ アップ撮影				
カメラ起動モデリング発光	○	○	○	○	○	○	—	—
カメラからの発光モード設定	—	—	—	—	—	—	○	○
カメラからのスピードライト ファームアップ	○※8	○	—	—	—	—	—	○

- ※1 スポット測光時は設定できません。
- ※2 スピードライト側でも設定できます。
- ※3 AA モードと A モードの選択は、スピードライトのカスタム設定で行います。また、セットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。
- ※4 カメラ側でのみ設定できます。
- ※5 スピードライトのカスタム設定にかかわらず、セットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。
- ※6 発光モードがi-TTL、AA、A、GN、Mの場合のみ動作します。
- ※7 発光モードがi-TTL、AA、Aの場合のみ動作します。
- ※8 SB-910とSB-900のみカメラからのスピードライトファームアップが可能です。

モデリング発光について

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト（SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600など）装着時には、**Pv**ボタンを押すとモデリング発光が行われます。アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時には、使用する全てのスピードライトのモデリング発光が行われるので、照射光の効果を簡単に確認できます。プレビュー時にモデリング発光を行わないようにするには、カスタムメニュー e5 「**モデリング発光**」(□253) を「**しない**」に設定してください。

ガイドナンバーとは

フラッシュの光量を示す値で、大きいほど光が遠くまで届きます。「ガイドナンバー＝絞り値×撮影距離（m）」（ISO感度が100の場合）という関係があります。ガイドナンバーが34（ISO感度100、20℃）のスピードライトの場合、ISO感度が100で絞り値がF5.6なら、 $34 \div 5.6 = \text{約} 6.1\text{m}$ までフラッシュの光が届くことになります。また、実効ガイドナンバーはISO感度が2倍になると約1.4倍（ $\sqrt{2}$ 倍）になります。たとえば、ISO感度が200の場合、絞り値がF5.6なら $34 \div 5.6 \times 1.4 = \text{約} 8.6\text{m}$ まで光が届きます。





その他のスピードライトとの組み合わせで利用できる機能

次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（**A**）あるいはマニュアル発光撮影となります。装着レンズによって機能が変わることはありません。

スピードライト			SB-80DX SB-28DX	SB-50DX	SB-28 SB-26 SB-25 SB-24	SB-30 SB-27 ^{※1} SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	SB-23 SB-29 ^{※2} SB-21B ^{※2} SB-29S ^{※2}
カメラ側	A	外部自動調光	○	—	○	○	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
		マルチフラッシュ	○	—	○	—	—
	REAR ^{※3}	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 このカメラとSB-27を組み合わせると自動的に**TTL**モードになりますが、**TTL**モードでは使えません。SB-27を**A**モードに設定し直してください。

※2 SB-29・21B・29Sでオートフォーカスができるレンズは、AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDとAF-S Micro NIKKOR 60mm F2.8G EDのみです。

※3 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。



▼ スピードライト使用時のご注意

- 詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、このカメラはSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出アンダーになる可能性のある場合には、発光直後にレディーライトが約3秒間点滅し、露出アンダー警告を行います。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO 100～12800相当です。
- ISO感度を12800よりも増感した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならない場合があります。
- 露出モードがPの場合、下表の絞り値よりも絞りを開くことはできません。

ISO感度と開放側の限界絞り (F)							
100	200	400	800	1600	3200	6400	12800
4	5	5.6	6.7	8	9.5	11	13

※ 制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- スピードライトSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- スピードライトSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800の使用時に、AF補助光の照射条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光を自動的に照射します。



- スピードライトSB-910、SB-900のAF補助光は、17～135mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離でオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が 17mmから19mmの場合	AFレンズの焦点距離が 20mmから105mmの場合	AFレンズの焦点距離が 106mmから135mmの場合
		

- スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800のAF補助光は、24～105mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離でオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が 24mmから34mmの場合	AFレンズの焦点距離が 35mmから49mmの場合	AFレンズの焦点距離が 50mmから105mmの場合
		

- スピードライトSB-700のAF補助光は、24～135mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離でオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が
24mmから135mmの場合



- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のパウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

インフォ画面のフラッシュモード表示について

インフォ画面のフラッシュモードでは、別売のスピードライト使用時の発光方式が、次のように表示されます。

	通常発光	FP発光 (□251)
i-TTL-BL調光 スタンダードi-TTL調光		
絞り連動外部自動調光 (AA)		
外部自動調光 (A)		
距離優先マニュアル発光 (GN)		
マニュアル発光		
リピーティング発光		—
アドバンストワイヤレス ライティング		



スピードライトの調光方式について

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト (□119) をカメラに装着し、スピードライトの発光モードをTTLにセットすると、モニター発光を行う専用TTLモード (i-TTLモード) になり、i-TTL-BL調光などによるフラッシュ撮影ができます。ニコンクリエイティブライティングシステム非対応のスピードライトでは、i-TTLモードでの撮影はできません。

i-TTLモード時は、次のような調光方式が利用できます。

i-TTL-BL 調光	2016分割RGBセンサーによる測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL (バランス) 調光を行います。シャッターボタンを押すと、シャッターの開く直前にスピードライトがモニター発光を行い、被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。 • G、EまたはDタイプレンズ装着時は、レンズから得られた被写体までの距離情報も利用して最適な発光量を決定します。 • 非CPUレンズ装着時は、レンズ情報 (開放絞り値、焦点距離) を設定することにより、より精度が向上します (□158)。
スタンダード i-TTL調光	背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光します。主要被写体のみを強調する場合や、フラッシュ撮影で露出補正する場合に適しています。

- 測光モードがスポット測光に設定されている場合、自動的にスタンダードi-TTL調光になります。



フラッシュモードを設定する

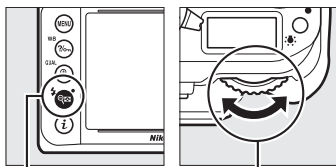
モード	内容
 先幕シンクロ モード	通常のフラッシュ撮影時にはこのモードを設定します。露出モードをPまたはAにセットしてフラッシュ撮影すると、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを1/200～1/60秒（オートFPハイスピードシンクロ時は1/4000～1/60秒）に自動的にセットします。
 赤目軽減 モード	赤目軽減発光機能付きのスピードライトを使用することにより、暗いところで人物の目が赤く写るのを軽減できます（SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-400使用時のみ）。 シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめでできません）。
 赤目軽減 スローシンクロ モード	赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。露出モードはPまたはAに設定してください（SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-400使用時のみ）。夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。 シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
 スローシンクロ モード	露出モードをPまたはAに設定してフラッシュ撮影すると、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30秒まで延長されます。これにより、背景を描写しながらスピードライトを発光させ、夕景や夜景の雰囲気を活かした撮影ができます。 シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
 後幕シンクロ モード	シャッター後幕の走行開始（シャッターが閉じる）直前にスピードライトが発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌道などを表現したい場合などに適しています。 露出モードをPまたはAに設定すると、スローシンクロモードも自動的にセットされます。シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。



フラッシュモードを切り換える

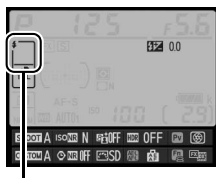
Q[⚡] (⚡) ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- フラッシュモードは、インフォ画面に表示されます。



Q[⚡] (⚡) ボタン

メインコマンドダイヤル



先幕シンクロモード

赤目軽減モード※1

赤目軽減スローシンクロモード※1、2



後幕シンクロモード※4

スローシンクロモード※3

- ※1 スピードライト側が赤目軽減発光機能に対応していない場合は、フラッシュモード表示の赤目軽減マーク[👁]が点滅します。
- ※2 露出モードがSまたはMの場合、赤目軽減スローシンクロモードは設定できません。このモードを選択した場合は自動的に「赤目軽減モード」に変更されます。
- ※3 露出モードがSまたはMの場合、スローシンクロモードは設定できません。このモードを選択した場合は自動的に「先幕シンクロモード」に変更されます。
- ※4 露出モードがPまたはAの場合は、スローシンクロモードも自動的にセットされ、Q[⚡] (⚡) ボタンから指を放すと右のように表示されます。



スタジオ用大型ストロボ使用時について

スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕シンクロモードは使用できません。

別売スピードライト使用時のシャッタースピードと絞り値

別売のスピードライト使用時にカメラで設定できるシャッタースピードと絞り値は、次の通りです。

露出モード	設定可能なシャッタースピード	設定可能な絞り値	
P	カメラが自動的に1/200～1/60秒にセット※1	カメラが自動的に設定	37
S	1/200～30秒※2		38
A	カメラが自動的に1/200～1/60秒にセット※1	任意の絞り値※3	40
M	1/200～30秒、Bulb、Time※2		41

※1 スローシンクロモード、後幕スローシンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード選択時は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。また、カスタムメニューe1 [フラッシュ撮影同調速度] (□251) を [1/250秒 (オートFP)] または [1/200秒 (オートFP)] に設定してオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを装着した場合は、高速側のシャッタースピードが1/4000秒まで制御されます。

※2 カスタムメニューe1 [フラッシュ撮影同調速度] (□251) を [1/250秒 (オートFP)] または [1/200秒 (オートFP)] に設定してオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを装着した場合は、高速側のシャッタースピードを1/4000秒まで設定できます。

※3 調光範囲は設定しているISO感度と絞り値によって決まります。**A**または**M**時の絞り値の設定はスピードライトの調光範囲を考慮して行ってください。

関連ページ

- フラッシュ同調速度を変更する →  e1 [フラッシュ撮影同調速度] (□251)
- フラッシュ時のシャッタースピードを制限する →  e2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] (□252)



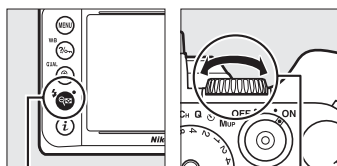
調光補正してフラッシュの発光量を変更する

調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。発光量を多くして被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、発光量の微妙な調整ができます。

■■ 調光補正の設定方法

Q (⚡) ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- 調光露出補正值は、インフォ画面に表示されます。
- 調光補正は、1/3段ステップで-3段～+1段の範囲で設定できます。



Q (⚡) ボタン

サブコマンドダイヤル

- 補正量を設定すると、インフォ画面とファインダー内表示に **0.2** (調光補正) マークが表示されます。
- Q (⚡) ボタンを押すと、インフォ画面とファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。
- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正するのが基本です。
- 調光補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。



補正なし (Q (⚡) ボタンを押したとき)



-0.3段補正



+1段補正

別売スピードライトの調光補正について

カメラ側とスピードライト側で同時に調光補正を行う場合、両方の補正値を加算します。

関連ページ

- フラッシュ撮影時に露出補正した場合に調光量も補正するかどうかを設定する
→  e4 [フラッシュ使用時の露出補正] (□□253)
- 調光補正値を変えながら撮影する → 「AEブラケットング、フラッシュブラケットングの撮影方法」 (□□136)



FVロックして調光量を固定する

別売のニコンクリエイティブライティングシステム (□119) 対応スピードライト使用時は、調光量をロック（固定）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影できます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

- FVロック中にカメラのISO感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。

- 1 カスタムメニュー f4 [Fnボタンの機能] (□257)、f5 [プレビューボタンの機能] (□260)、f6 [AE/AFロックボタンの機能] (□261) のいずれかの [押し時の動作] を [FV-L] に設定する



- 2 FVロック対応スピードライト (□120) をカメラのアクセサリシューに装着する

- 3 スピードライトの電源をONにし、発光モードをTTLまたは「モニター発光あり」のAAまたはAのいずれかにセットする

- 別売スピードライトの発光モードについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

- 4 被写体にピントを合わせる

- 発光量に合わせて被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。



5 モニター発光を行う

- ファインダー内表示に⚡が点灯していることを確認し、**[FV-L]** を割り当てたボタンを押すと、フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、ファインダー内表示に **FL** (FVロック) マークが表示されます。



6 構図を変更する



7 シャッターボタンを全押しして撮影する

- FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影することができます。必要に応じて手順6～7を繰り返してください。

8 FVロックを解除する

- もう一度**[FV-L]** を割り当てたボタンを押すと、FVロックが解除され、ファインダー内表示の**FL**が消灯します。

測光エリアについて

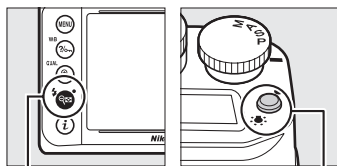
別売スピードライトを使用してFVロックした場合の測光エリアは次のようになります。

撮影状態	発光モード	測光エリア
1 灯撮影時	i-TTLモード	画面中央φ5 mm相当
	絞り連動外部自動調光	スピードライトの外部測光エリア
アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時	i-TTLモード	全画面
	絞り連動外部自動調光	スピードライトの外部測光エリア
	外部自動調光 (マスタースピードライト)	

撮影の便利な機能

ツーボタンリセットで基本的な機能を初期設定に戻す

Q² (⚡) ボタンと² ボタン（それぞれのボタンに緑色の●がついています）を2秒以上同時に押すと、一瞬表示パネルの表示が消え、カメラの機能が次のように初期設定に戻ります。



Q² (⚡) ボタン

² ボタン

■ 撮影メニュー項目※1

撮影メニュー項目			初期設定		
画質モード	NORMAL	55	感度自動制御	しない	72
画像サイズ	サイズL	58	インターバル タイマー撮影	解除※3	152
ホワイトバランス	AUTO1 標準	80	【ピクチャーコン ロール】の調整値※4	解除	102
微調整値	A-B : 0, G-M : 0	83	多重露出	解除※5	147
HDR（ハイダイナ ミックレンジ）	解除※2	113			

※1 現在選択されている撮影メニュー（「A」～「D」のいずれか）の項目のみが解除されます（多重露出とインターバルタイマー撮影は、全ての撮影メニューで共通です）。

※2 HDRモードが「**する（連続）**」または「**する（1回）**」の場合は「**しない**」に設定されます。露出差とスムージングは初期設定には戻りません。

※3 インターバルタイマー撮影が中断されます。開始時刻、撮影間隔、撮影回数×コマ数は初期設定には戻りません。

※4 現在選択中のピクチャーコントロールのみ解除されます。

※5 多重露出撮影が中断され、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます。また、多重露出モードが「**する（連続）**」または「**する（1回）**」の場合は「**しない**」に設定されます。コマ数と自動ゲイン補正は初期設定には戻りません。

■ ■ その他の撮影関連の機能



ファインダー撮影時のAF		
AFモード	AF-S	59
AFエリアモード	シングル ポイントAF	62
ライブビュー撮影時のAF		
AFモード	AF-S	168
AFエリアモード	ノーマル エリアAF	169
フォーカスポイント※1	中央	64
AE-L（ホールド）	解除	66、 76



オートブラケットिंग	解除	136
フラッシュ調光補正	解除（0.0）	130
フラッシュモード	先幕シンクロ モード	127
露出ディレーモード※2	しない	250
FVロック	解除	132
プログラムシフト	解除	37
プラスRAW記録	解除	258

- ※1 AFエリアモードがオートエリアAFのときは、フォーカスポイントは表示されません。
 ※2 現在選択されているカスタムメニュー（「A」～「D」のいずれか）の項目のみが解除されます。



オートブラケティングで露出や調光、ホワイトバランス、アクティブD-ライティングを変えながら撮影する

明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさやフラッシュの発光量の調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

■■ AEブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法

露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。



補正なし



-1段補正



+1段補正

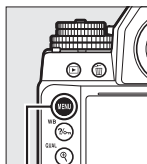


AEブラケティング、フラッシュブラケティングについて

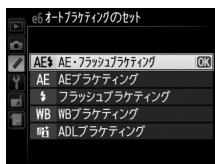
〔AE・フラッシュブラケティング〕では、AEブラケティングとフラッシュブラケティングを同時に行います。AEブラケティングだけを行いたいときは〔AEブラケティング〕を、フラッシュブラケティングだけを行いたいときは〔フラッシュブラケティング〕を選びます。フラッシュブラケティングはi-TTL調光時および絞り連動外部自動調光時（別売の絞り連動外部自動調光対応スピードライト使用時のみ）に使用できます（□120、126）。

1 カスタムメニュー e6 [オートブラケティング のセット] で [AE・フ ラッシュブラケティ ング] を選ぶ

- MENUボタンを押して、カスタムメニュー e6 [オートブラケティングのセット] で [AE・フラッシュブラケティング] を選んで **OK** ボタンを押します。
- [AEブラケティング]、[フラッシュブラケティング] を選んだ場合も操作は同じです。

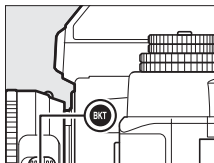


MENUボタン

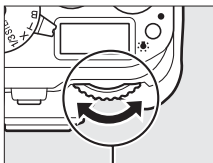


2 撮影コマ数を設定する

- BKTボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。



BKTボタン



メインコマンドダイヤル

撮影コマ数



インフォ画面

オートブラケティング
インジケーター

- **OFF**以外に設定すると、表示パネルに **BKT** マークが、ファインダー内表示に **BKT** が点灯します。
- インフォ画面には **AE・BKT** とオートブラケティングインジケーターが表示されます。マークは、[AEブラケティング] を選んだ場合は **AE・BKT**、[フラッシュブラケティング] を選んだ場合は **FL・BKT** に変更されます。



ファインダー内表示



3 補正ステップを設定する

- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、補正ステップを設定できます。



- 補正ステップは、0.3（1/3段）、0.7（2/3段）、1.0（1段）、2.0（2段）、3.0（3段）から選ぶことができます。
- 補正ステップが0.3のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

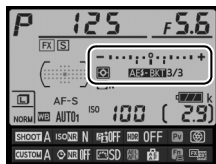
インフォ画面	オートブラケティングインジケータ	撮影コマ数	撮影順序
0F 0.3	-.....°.....+	0	0
+ 3F 0.3	-.....;.....+	3	0/+0.3/+0.7
-- 3F 0.3	-.....;.....+	3	0/-0.7/-0.3
+ 2F 0.3	-.....;.....+	2	0/+0.3
-- 2F 0.3	-.....;.....+	2	0/-0.3
3F 0.3	-.....;.....+	3	0/-0.3/+0.3
5F 0.3	-.....;.....+	5	0/-0.7/-0.3/ +0.3/+0.7



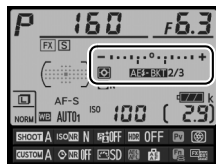
4 撮影する



- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- シャッタースピードと絞り値は補正された値が表示されます。
- インフォ画面を点灯させると、オートブラケティングインジケータが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が、オートブラケティングインジケータ上から消えます。



撮影コマ数：3
補正ステップ：0.7



1コマ撮影した状態

- AEブラケティングと露出補正 (□78) を同時に設定すると、両方の補正値が加算されたAEブラケティング撮影が行えます。

関連ページ

オートブラケティングの撮影順を変更する →  e8 [BKTの順序] (□254)

■■ AE、フラッシュブラケティング撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回してインフォ画面の撮影コマ数を **0F** にしてください（**AE-BKT**、**AE-BKT** または **AE-BKT** マークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツールボタンリセット（□134）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

AE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティング撮影について

- ・レリーズモード（□46）を **CL** または **CH** にセットして連続撮影する場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止し、シャッターボタンを押し直すと次の連続撮影が可能になります。
- ・セルフタイマー撮影時（□48）には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー]（□245）の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3 の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、□137 の手順2で設定した撮影コマ数が1コマずつ撮影されます。
- ・撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- ・撮影中にSDカードの残量がなくなっても、残量のある他のSDカードに交換すれば残りを撮影できます。

AEブラケティング

AEブラケティングでは、露出モードによって補正される内容（シャッタースピード、絞り値）が異なります。

露出モード	変化する内容
P	シャッタースピードと絞り値※1
S	絞り値※1
A	シャッタースピード※1
M	シャッタースピード※2

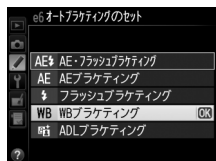
※1 撮影メニュー [感度自動制御] の [感度自動制御]（□72）を [する] に設定し、かつ別売スピードライトを装着していない場合、まずISO感度を変化させ、ISO感度が制御範囲を超えた場合は、シャッタースピードや絞り値を変化させます。

※2 カスタムメニュー e7 [BKT変化要素（Mモード）] により変化する内容をシャッタースピードと絞り値の両方、絞り値のみ、あるいはフラッシュの調光量のみに変更できます（□254）。

■ WBブラケティングの撮影方法

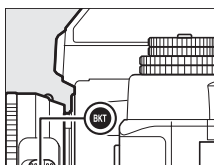
ホワイトバランスの色温度を変えながら撮影します。ホワイトバランスについての説明は、80をご覧ください。

1 カスタムメニュー e6 [オートブラケティングのセット] で [WBブラケティング] を選ぶ

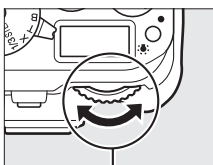


2 撮影コマ数を設定する

- **BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。



BKT ボタン



メインコマンドダイヤル

撮影コマ数



インフォ画面

WBブラケティング
インジケーター

- **3F** 以外に設定すると、表示パネルに **BKT** マークが、ファインダー内表示に **BKT** が点灯します。インフォ画面には **WB-BKT** と WBブラケティングインジケーターが表示されます。



ファインダー内表示

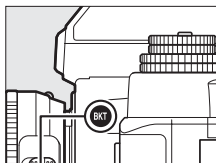
✓ WBブラケティングの制限について

WBブラケティングは、RAWを含む画質モードでは使用できません。

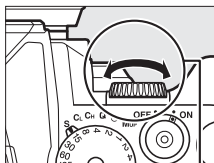
3 補正ステップを設定する

- **BKT** ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップを設定できます。

補正ステップ



BKT ボタン



サブコマンドダイヤル



インフォ画面

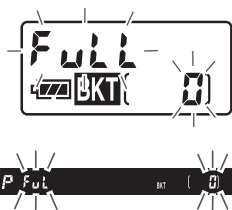
- 補正ステップは、1（1段）、2（2段）、3（3段）から選ぶことができます。
- ホワイトバランス補正ステップの1段は、約5ミレッドに相当します。A方向に数が大きくなるごとにアンバーが強くなります。B方向に数が大きくなるごとにブルーが強くなります（□85）。
- 補正ステップが1のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

インフォ画面	WB ブラケットイング インジケータ	撮影 コマ数	補正 ステップ	撮影順序
0F 1	+ 0 +	0	1段	0
b2F 1	+ 0 +	2	B方向1段	0/B1
A2F 1	+ 0 +	2	A方向1段	0/A1
3F 1	+ 0 +	3	各方向1段	0/A1/B1



4 撮影する

- シャッターボタンを1回全押しすると、設定した全てのコマ数の画像が記録されます。
- ホワイトバランスを微調整している場合は、微調整値にWBブラケットの補正ステップが加算されます。
- WBブラケットの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、表示パネルに **FULL** が、ファインダー内表示に **FuLi** が右図のように点滅し、シャッターがきけません。新しいSDカードに交換すると撮影できます。



■ WBブラケット撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回してインフォ画面の撮影コマ数を **0F** にしてください (**WB-BKT** マークが消灯します)。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツールボタンリセット (□134) でもブラケットを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

WBブラケット撮影について

- WBブラケットでは、色温度 (A (アンバー) から B (ブルー) への横方向) の補正のみを行います (□83)。G (グリーン) から M (マゼンタ) への縦方向の補正は行いません。
- 撮影中に電源をOFFにした場合、全てのコマの記録が終了してから電源が切れます。
- セルフタイマー撮影時 (□48) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] の [撮影コマ数] (□245) で設定した撮影コマ数にかかわらず、□141の手順2で設定した撮影コマ数が全て記録されます。

関連ページ

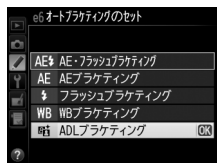
「ミレッド (MIREDD) について」 (□85)



■ ADLブラケティングの撮影方法

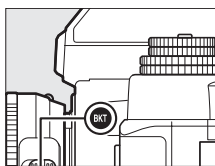
アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影します。アクティブD-ライティングについての説明は、□111をご覧ください。

1 カスタムメニュー e6 [オートブラケティングのセット] で [ADLブラケティング] を選ぶ

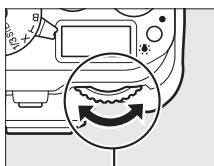


2 撮影コマ数を設定する

- **BKT** ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数を設定できます。



BKT ボタン



メインコマンドダイヤル



撮影コマ数

ADLブラケティング
インジケーター

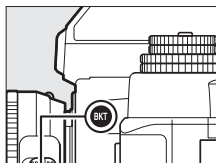
- **3F**以外に設定すると、表示パネルに**BKT**マークが、ファインダー内表示に**BKT**が点灯されます。インフォ画面には**ADL-BKT**とADLブラケティングインジケーターが表示されます。
- 設定した撮影コマ数により、ブラケティングの内容が次のようになります。

撮影コマ数	ブラケティングの内容
2コマ	[しない] → (手順3で設定するアクティブD-ライティングの度合い)
3コマ	[しない] → [弱め] → [標準]
4コマ	[しない] → [弱め] → [標準] → [強め]
5コマ	[しない] → [弱め] → [標準] → [強め] → [より強め1]
	[弱め] → [標準] → [強め] → [より強め1] → [より強め2]

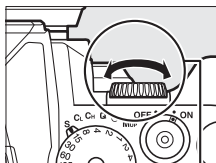
- 撮影コマ数を3コマ以上に設定した場合は、手順4に進んでください。

3 アクティブD-ライティングの度合いを設定する

- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いを設定できます。



BKT ボタン



サブコマンドダイヤル

- アクティブD-ライティングの度合いは、インフォ画面のADLブラケティング度合表示で確認できます。

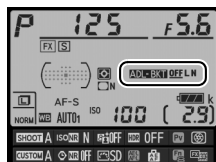
アクティブ D-ライティング の度合い	インフォ画面	アクティブ D-ライティング の度合い	インフォ画面
暗A オート		暗H 強め	
暗L 弱め		暗H1 より強め1	
暗N 標準		暗H2 より強め2	

4 撮影する

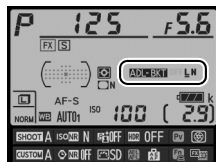
- 設定した撮影コマ数を撮影してください。



- インフォ画面を点灯させると、ADLブラケティングの度合が表示されます。撮影するたびに、ADLブラケティングの度合を示す表示が消えます。



撮影コマ数：3



1コマ撮影した状態

■ ADLブラケティング撮影をやめるには

BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回してインフォ画面の撮影コマ数を $\frac{1}{F}$ にしてください (ADL-BKTマークが消灯します)。ただし、設定したアクティブD-ライティングの度合いは記憶されます。また、ツールボタンリセット (□134) でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定したアクティブD-ライティングの度合いもリセットされます。

🔪 ADLブラケティング撮影について

- レリーズモード (□46) をCLまたはCHにセットして連続撮影する場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止し、シャッターボタンを押し直すと次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時 (□48) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] (□245) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、□144の手順2で設定した撮影コマ数が1コマずつ撮影されます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にSDカードの残量がなくなっても、残量のある他のSDカードに交換すれば残りを撮影できます。

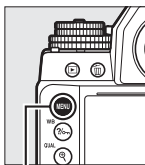
多重露出撮影で1つの画像に重ねて写し込む

多重露出撮影は2～10コマまで重ねて写し込み、1つの画像として記録します。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。

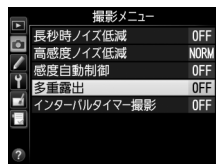
■ 多重露出の撮影方法

1 撮影メニューの[多重露出]を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの[多重露出]を選んで、マルチセクターの▶を押します。



MENUボタン



撮影間隔が長くなる場合について

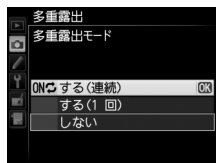
- 多重露出撮影中に、何も操作しないで30秒経過すると、カメラが待機状態に入ります。撮影を中断する前に撮影した画像は記録されます。
- 撮影間隔が長くなる場合は、カスタムメニューc2 [半押しタイマー] (□244) を長めに設定することをおすすめします。カメラが待機状態に入るまでの時間が、c2で設定した時間に30秒を加えたものに延長されます。

2 [多重露出モード] を設定する

- [多重露出モード] を選んで、▶ を押します。



- ▲または▼を押して多重露出モードを設定し、OK ボタンを押します。



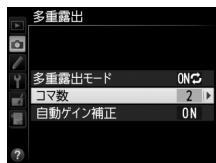
ON する (連続)	同じ設定で続けて多重露出撮影します。多重露出撮影を解除するには、もう一度 [多重露出モード] を選んで [しない] を選択してください。
する (1回)	多重露出撮影を終了すると、多重露出が解除されます。
しない	多重露出撮影を解除します。

- [する (連続)] または [する (1回)] を選ぶと、多重露出の撮影待機状態になり、表示パネルに [] マークが点灯します。



3 [コマ数] (露光回数) を設定する

- [コマ数] を選んで、▶ を押します。

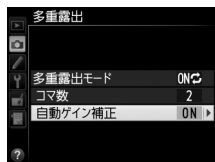


- ▲または▼を押して露光回数を設定し、OK ボタンを押します。

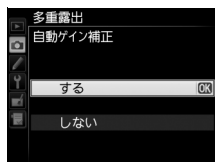


4 「自動ゲイン補正」を設定する

- 「自動ゲイン補正」を選んで、▶を押します。



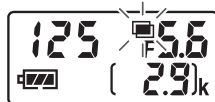
- 自動ゲイン補正の設定後、OKボタンを押します。



する	重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。ただし、背景が暗いときは「しない」にすることをおすすめします。 各コマのゲインは、「1 ÷ 露光回数」となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。
しない	ゲインを補正せず、全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。

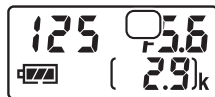
5 1回目の撮影をする

- 撮影を始めると、■マークが点滅します。



6 2回目以降の撮影をする

- 「する（連続）」の場合、「多重露出モード」で「しない」を選んで多重露出モードを解除するまで、多重露出撮影できます。
- 多重露出モードが「する（1回）」の場合、手順3で設定したコマ数分の撮影をすると、多重露出撮影が解除され、■マークが消灯します。



多重露出撮影時のご注意

- 多重露出の撮影途中、画像の再生やメニュー画面の表示で液晶モニターを点灯した場合、液晶モニターが消灯してから操作のないままカスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□244) で設定した時間に30秒を加えた時間が経過すると、画像が記録されて多重露出が解除されます。
- 多重露出撮影中は、ライブビュー撮影ができません。
- 多重露出モードを [する (連続)] または [する (1回)] に設定していても、ライブビュー表示にすると [しない] になります。
- 自動ゲイン補正 (□149) を [しない] に設定した場合、ノイズ (ざらつき、むら、すじ) が発生しやすくなります。
- 多重露出による撮影中は、SDカードを交換しないでください。
- レリーズモード (□46) を **CL** または **CH** に設定して撮影する場合、多重露出モードが [する (1回)] のときは、シャッターボタンを押し続けると、多重露出で設定された撮影コマ数の撮影後、多重露出撮影を解除します。[する (連続)] のときは、シャッターボタンを押し続けている間、多重露出で設定された撮影コマ数で多重露出撮影を繰り返します。
- セルフタイマー撮影時 (□48) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] (□245) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3 の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、多重露出で設定した撮影コマ数の撮影が終了した時点で画像が記録されます。
- 多重露出の撮影データ (撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など) は、1コマ目の内容になります。
- 2回目以降の撮影をするときに、ISO感度ダイヤルを回しても設定は変更されません。

多重露出とインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

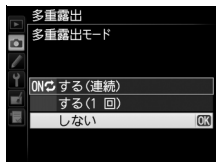
多重露出を設定してから1コマ目を撮影する前にインターバルタイマー撮影 (□152) を設定すると、設定されたインターバルで多重露出撮影ができます。この場合、[インターバルタイマー撮影] で設定されたインターバルで1コマずつ撮影され、[多重露出] で設定されたコマ数の撮影が終了すると、インターバルタイマー撮影を解除します。多重露出が [する (1回)] の場合は、多重露出も解除されます。

多重露出撮影時に利用できない機能について

多重露出撮影中はSDカードの初期化はできません。また、一部のメニュー項目がグレーで表示されて選べません。

■■ 多重露出撮影を中断するには

設定したコマ数分を撮影する前に多重露出撮影を中断するには、多重露出モードを[しない]に設定します。多重露出撮影を中断すると、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（[自動ゲイン補正]を[する]にしていたときは、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。



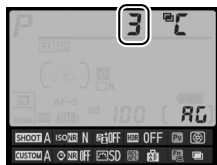
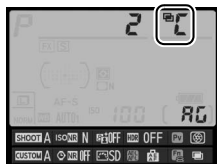
このほか、次の場合も、多重露出は中断されます。

- ツーボタンリセット (134) を行ったとき
- カメラの電源をOFFにしたとき
- バッテリーの残量がなくなったとき
- 多重露出中に撮影した画像を削除したとき

 FnボタンまたはPvボタンとコマンドダイヤルで多重露出モードとコマ数を設定する

カスタムメニュー f4 [Fn ボタンの機能] (□257)、f5 [プレビューボタンの機能] (□260) のコマンドダイヤル併用時の動作が [多重露出] の場合、割り当てたボタンとコマンドダイヤルの操作で手順2の [多重露出モード] と手順3の [コマ数] を設定できます。

- **[多重露出]** を割り当てたボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの多重露出アイコンが **[しない]** (アイコンなし)、 **[する (1回)]**、 **[する (連続)]** に切り替わります。**[する (1回)]** の場合はインフォ画面のアイコンの右側に **1** が、**[する (連続)]** の場合はインフォ画面のアイコンの右側に **∞** が表示されます。
- **[多重露出]** を割り当てたボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと、インフォ画面のコマ数が切り替わります。



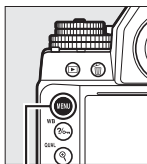
インターバルタイマー撮影で設定した 間隔で撮影する

このカメラは、設定した開始方法（即時または設定時刻）と時間間隔で自動的に撮影を行う、インターバルタイマー撮影が可能です。つぼみがゆっくりと開く様子や、蝶が羽化する様子などを記録したい場合などに便利です。インターバルタイマー撮影は、リリースモードを**S**、**CL**、**CH**または**Q**に設定して撮影してください。

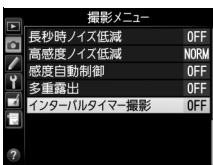
■ インターバルタイマー撮影の開始

1 撮影メニューの【インターバルタイマー撮影】を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの【インターバルタイマー撮影】を選んでマルチセレクターの▶を押します。【インターバルタイマー撮影】画面が表示されます。



MENUボタン



2 【開始トリガー】（開始方法）を設定する

- すぐに撮影する場合、【即時スタート】を選んで▶を押します（手順4へ）。
- 開始時間を決めて撮影する場合、【開始時刻設定】を選んで▶を押します（手順3へ）。



☑ インターバルタイマー撮影を開始する前に

- 試し撮りをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニューの【地域と日時】（□272）で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- カメラを三脚に固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いください。

3 [開始時刻] を設定する

- ◀または▶を押して時間、分を選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。
- [開始トリガー] で [即時スタート] を選んだ場合、この画面は表示されません。



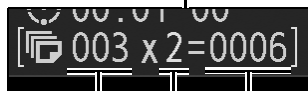
4 [撮影間隔] (インターバル) を設定する

- ◀または▶を押して時間、分、秒を選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。
- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードに1回のコマ数 (手順5) を掛けた値よりも長い時間を設定してください。
- 撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した [撮影回数×コマ数] (手順5) で撮影できないことがあります。



5 [撮影回数×コマ数] を設定する

- ◀または▶を押して撮影回数と1回のコマ数を1桁ずつ選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。



撮影回数 コマ数 合計撮影
 コマ数

6 インターバルタイマー撮影を開始する

- **〔開始〕** を選んで **OK** ボタンを押します。**〔開始トリガー〕** で **〔即時スタート〕** を選んだ場合は、約3秒後に撮影を開始します。**〔開始時刻設定〕** を選んだ場合は、設定した時刻に撮影を開始します。
- 設定した撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。
- 設定のみを行いたいときは、**〔終了〕** を選んで **OK** ボタンを押すと、撮影メニューに戻ります。



▼ インターバルタイマー撮影についてのご注意

- 実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間などが含まれます。撮影間隔が充分な長さ設定されていない場合は、設定した撮影間隔で撮影できず、その回の撮影がキャンセルされることがあります (□156)。
- 設定した **〔開始時刻〕** が現在時刻後1分以内の場合や、シャッタースピードが **B** (Bulb) または **T** (Time) の場合など、インターバルタイマー撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- SDカードのメモリー残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。メモリー残量のあるSDカードに交換し、インターバルタイマー撮影を再開してください (□155)。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップDK-26を取り付けることをおすすめします (□22)。

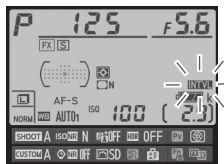
🔪 オートブラケティングとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- インターバルタイマー撮影とオートブラケティングを同時に行う場合は、オートブラケティングを先にセットしてからインターバルタイマーを設定してください。
- インターバルタイマー撮影時に AE・フラッシュブラケティング、AE ブラケティング、フラッシュブラケティングまたは ADL ブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとにオートブラケティングで設定したコマ数が撮影されます。
- インターバルタイマー撮影時に WB ブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとに1コマ撮影し、オートブラケティングで設定したコマ数が記録されます。

インターバルタイマー撮影の待機状態について

インターバルタイマー撮影の待機状態では、インフォ画面に**INTVL**マークが点滅します。撮影直前になると表示パネルのシャッタースピード表示部に残りの撮影回数を、絞り値表示部にその回の残りの撮影コマ数を、それぞれ表示します。

- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影回数と撮影コマ数を表示します。
- 撮影メニューから**【インターバルタイマー撮影】**を選ぶと、液晶モニターのインターバル設定画面に撮影動作、開始時刻、撮影間隔、残りの撮影回数と撮影コマ数が表示されます。ただし、**【撮影動作】**（次ページ参照）以外の設定変更はできません。



■ インターバルタイマー撮影の一時停止と再開

次の場合はインターバルタイマー撮影が一時停止状態になります。

- 撮影待機中に**ⓐ**ボタンを押したとき
- 【撮影動作】** で **【一時停止】** を選んで、**ⓐ**ボタンを押したとき
- 電源をOFFにして、再度ONにしたとき（電源がOFFの間にバッテリーやSDカードを交換しても、一時停止状態が持続します。）
- レリーズモードを**ⓐ**または**MUP**に切り換えたとき

インターバルタイマー撮影を再開する手順は次の通りです。

1 【開始トリガー】 (ⓐ 152) を設定する

- 【開始トリガー】** を選んですぐに撮影する場合は **【即時スタート】** を、開始時刻を設定する場合は **【開始時刻設定】** を選んでマルチセクターの**▶**を押します。



- 【開始時刻設定】** を選んだときは、開始時刻を設定します。



2 インターバルタイマー撮影を再開する

- [再開] を選んで **OK** ボタンを押すと撮影を再開します。



- 撮影途中の回で停止状態になった場合、その回の残りのコマはキャンセルされます。再開した場合は、次の回の1コマ目から撮影されます。



■■ インターバルタイマー撮影の終了

次の場合はインターバルタイマー撮影が終了します。

- [撮影動作] で [終了] を選び、**OK** ボタンを押したとき
- ツーボタンリセット (□134) を行ったとき
- [撮影メニューの管理] (□229) で撮影メニューをリセットしたとき
- オートブラケティング (□136) を設定、または解除したとき
- HDR (ハイダイナミックレンジ) モードを解除したとき (□113)
- 多重露出を解除したとき (□151)
- バッテリーの残量がなくなったとき

インターバルタイマー撮影終了後は通常の撮影待機状態に戻ります。

■■ 撮影のキャンセル

撮影開始予定時刻を8秒過ぎても次の状態にある場合は、その回の撮影をキャンセルし、次の回の撮影時刻から撮影を再開します。

- 前の回のコマを撮影中
- 連続撮影可能コマ数が0のとき
- SDカードに空きがないとき
- AFモードが**AF-S**で、被写体にピントが合わないとき（撮影ごとにピントを合わせます）



レリーズモードについて

レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数が撮影されます。

インターバルタイマー撮影待機中の各種設定について

インターバルタイマー撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作や、画像を再生することができます。ただし、メニュー画面や再生画面を表示している場合、撮影時刻の約4秒前に液晶モニターを消灯して、撮影に入ります。

インターバルタイマー撮影の制限について

インターバルタイマー撮影は、次の機能とは同時に使用できません：

- ライブビュー撮影 (□166)
- 長時間露出撮影 (□43)



非CPUレンズを使用する (レンズ情報手動設定)

このカメラでは、非CPUレンズを装着して露出モード**A**または**M**で撮影ができます。非CPUレンズを使用する場合、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。セットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」でレンズの情報をカメラに登録すると、次の機能が使用できるようになります。

- **焦点距離を設定して使用できる機能：**
 - 別売のスピードライトのオートパワーズーム (□ 120)
 - 再生画面での焦点距離表示 (焦点距離に*印が付きます)
- **開放絞り値 (開放F値) を設定して使用できる機能：**
 - レンズで設定した絞り値表示 (表示パネル、ファインダー内表示)
 - スピードライトの絞り連動外部自動調光
 - 再生画面での絞り値表示 (絞り値に*印が付きます)
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定して使用できる機能：**
 - RGBマルチパターン測光 (レフレックスニッコールなど一部のレンズでは、十分な精度が得られない場合があります。中央部重点測光またはスポット測光に設定して撮影してください)
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定すると精度が向上する機能：**
 - 中央部重点測光
 - スポット測光
 - i-TTL調光



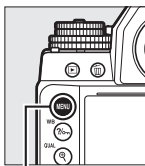
ズームレンズまたはテレコンバーター使用時のご注意

- ズームレンズ使用時やテレコンバーター使用時など、一致する焦点距離が選択項目にないときは、装着レンズの焦点距離に最も近く、かつ大きい値を選んでください。
- テレコンバーターを使用した際の開放絞り値は、合成絞り値を設定してください。

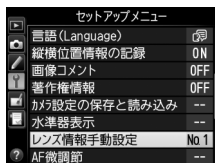
■ レンズ情報の登録方法

1 セットアップメニューの「レンズ情報手動設定」を選ぶ

- MENU ボタンを押して、セットアップメニューの「レンズ情報手動設定」を選んで、マルチセクターの▶を押します。

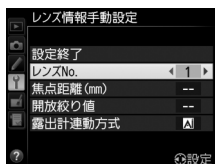


MENU ボタン



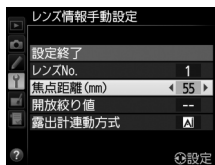
2 「レンズNo.」を選ぶ

- ◀または▶を押して、登録したいレンズNo. (1～9) を選びます。



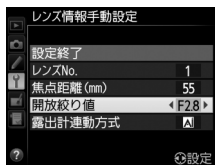
3 「焦点距離 (mm)」を選ぶ

- ◀または▶を押して、レンズの焦点距離 (6～4000) を選びます。



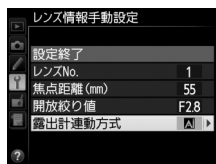
4 「開放絞り値」を選ぶ

- ◀または▶を押して、レンズの開放絞り値 (F1.2～F22) を選びます。

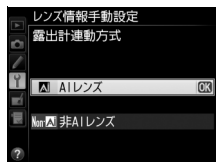


5 「露出計連動方式」で「AIレンズ」を選ぶ

- ▶を押します。



- ▲または▼で使用するレンズの種類を選び、OKボタンを押します。
- 非AI方式レンズを使用する場合 (□162) は「非AIレンズ」を選びます。



6 設定を終了する

- 「設定終了」を選んでOKボタンを押します。
- レンズの設定が保存されて、セッ
トアップメニュー画面に戻ります。



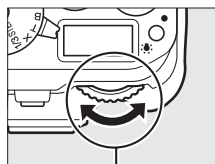
■ レンズ情報の選択方法

レンズ情報を登録した非CPUレンズが複数ある場合、レンズ装着後にレンズNo.を選んでから撮影します。

- 1 カスタムメニュー f4 [Fnボタンの機能] (☞257)、f5 [レビューボタンの機能] (☞260)、f6 [AE/AFロックボタンの機能] (☞261) のいずれかの [コマンドダイヤル併用時の動作] を [手動設定済みレンズの選択] に設定する

- ボタンとコマンドダイヤルの組み合わせに対してレンズの選択機能が割り当てられます。

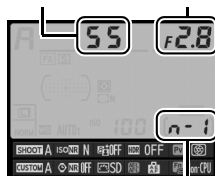
- 2 [手動設定済みレンズの選択] を割り当てたボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回す



メインコマンドダイヤル

- レンズNo.はインフォ画面に表示されます。使用したいレンズの番号が表示されるまでメインコマンドダイヤルを回します。

焦点距離 開放絞り値



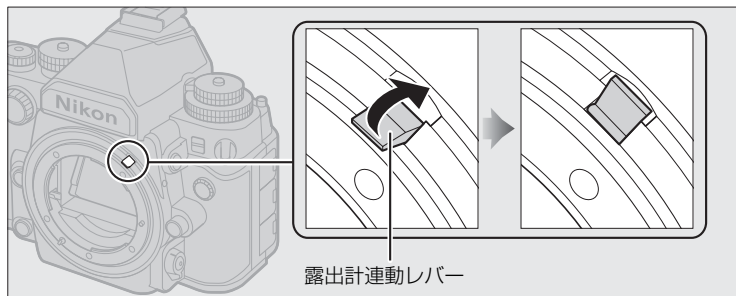
レンズNo.

🔗 ズームレンズ装着時について

非CPUズームレンズを装着してズーミングをした場合、変化するレンズの焦点距離や開放絞り値とカメラで設定されているレンズ情報は連動しません。ズーミングを行った場合は、もう一度レンズ情報を設定してください。

非AI方式レンズを使う

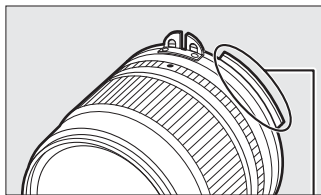
このカメラでは、非AI方式レンズが装着可能です。非AI方式レンズを取り付ける場合、必ず露出計連動レバーを押し上げてからレンズを取り付けてください。露出計連動レバーを押し上げずに非AI方式レンズを取り付けると、カメラやレンズの故障の原因になります。



■ AI方式レンズと非AI方式レンズの違い

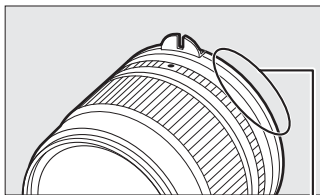
非CPUレンズには、AI方式レンズと非AI方式レンズがあります。

AI方式レンズ



AI方式レンズには露出計連動ガイドが付いています。

非AI方式レンズ



非AI方式レンズには露出計連動ガイドがありません。

AI方式レンズを取り付ける場合

AI方式レンズを取り付ける場合、必ず露出計連動レバーを戻してからレンズを取り付けてください。

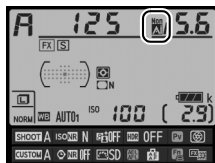
■ 非AI方式レンズを使って撮影する

非AI方式レンズを装着すると、レンズとカメラで絞り値が連動できなくなります。このため、適切な露出を得るにはレンズとカメラの両方で絞り値を設定する必要があります。

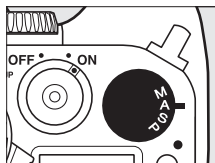
1 レンズ情報を登録 (159) した非AI方式レンズを取り付ける

2 レンズNo.を選択する (161)

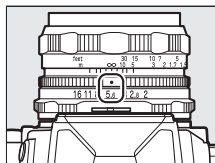
- [レンズ情報手動設定] の [露出計連動方式] が [非AIレンズ] に設定されていることを確認してください。
- 表示パネルの「F」マークが点滅します。
- インフォ画面には  のアイコンが表示されます。



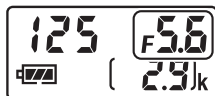
3 露出モードをAまたはMに設定する



4 レンズの絞りリングで絞り値を設定する



5 半押しタイマーがオンのときにサブコマンドダイヤルを回して、手順4で設定したレンズの絞り値をカメラにセットする



6 撮影する

- 絞り値を変更したい場合は、手順4～5を繰り返してください。



位置情報を画像に記録する

このカメラは、アクセサリターミナル（□2）に接続した別売のGPSユニットGP-1またはGP-1Aと通信し、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を記録できます。

■ GP-1/GP-1Aとの接続について

- カメラの電源をOFFにしてから、GP-1/GP-1Aに付属のケーブルをアクセサリターミナルに接続します（□322）。詳しくはGP-1/GP-1Aの使用説明書をご覧ください。
- GP-1/GP-1Aと通信して撮影した画像には、再生時の画像情報に位置情報のページ（□188）が追加されます。

■ GP-1/GP-1Aと接続中のカメラの設定について

MENU ボタンを押して、セットアップメニューの「位置情報」を選んでマルチセクターの▶を押すと、GP-1/GP-1Aとの接続時の半押しタイマー、取得した位置情報の表示、衛星による日時合わせを設定できます。

- 「半押しタイマー」では、カメラとGP-1/GP-1Aを接続しているときの半押しタイマーを設定できます。

有効	カメラを操作していないときは、カスタムメニュー c2 「半押しタイマー」（□244）で設定された時間でオフになります。 - カメラのバッテリーの消耗を少なくすることができます。 - GP-1/GP-1Aとの接続時には、電源をONにした直後または半押しタイマーがオンになった直後は、カメラが位置情報を取得できるまで半押しタイマーがさらに最大1分間延長されます。
無効	GP-1/GP-1Aと接続中は、半押しタイマーがオフになりません。



- [情報表示] では、GP-1/GP-1A接続時に取得した情報を表示します。

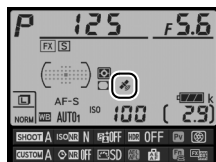
緯度	緯度を表示
経度	経度を表示
標高	標高を表示
UTC	UTC (協定世界時) を表示。UTC (Coordinated Universal Time = 協定世界時) は、GP-1/GP-1Aと接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻とは別に記録されます。

- [衛星による日時合わせ] が [する] の場合、GP-1/GP-1A 接続時に取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。GP-1/GP-1Aを使用して日時を合わせないときは、[しない] を選んでください。

GP-1/GP-1A使用時の表示について

GP-1/GP-1Aとの通信状態は、インフォ画面の衛星受信状態マークで確認できます。

-  (点灯) : GP-1/GP-1Aとの通信中です。
-  (点滅) : GP-1/GP-1Aが取得している情報が確定していないため、位置情報は記録されません。が点灯するまでお待ちください。
-  (消灯) : GP-1/GP-1Aとの通信が2秒以上途絶えると、が消灯します。この状態で撮影した画像データには位置情報は記録されません。

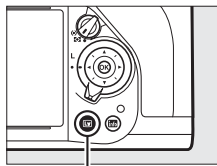


ライブビュー撮影

液晶モニターで被写体を見ながら静止画を撮影できます。

1 ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。



 ボタン

2 フォーカスポイントを被写体に重ねる

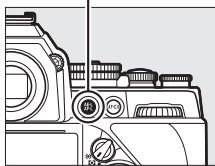
- フォーカスポイントの形状はAFエリアモードによって異なります (□169)。

3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押ししている間のフォーカスポイントは、オートフォーカス作動中は緑色で点滅し、ピントが合うと緑色で点灯します。ピントが合わないとき赤色で点滅します。
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
- 露出を固定 (AEロック) するには、 AE/AFロックボタンを押し続けます (□76)。



 AE/AFロックボタン



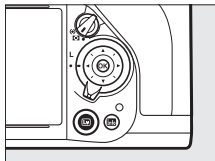
- 露出モードがMの場合は、露出インジケーター (□42) を確認して、適正露出になるよう設定できます。

4 シャッターボタンを全押しして撮影する

- 撮影時は液晶モニターが消灯します。

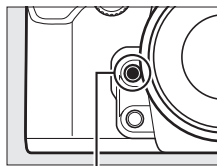


5 [Lv] ボタンを押してライブビューを終了する



露出モードMでの露出確認機能について

露出モード**M**のときに**Pv**ボタンを押すと、現在のシャッタースピード、絞り値、ISO感度の設定によってどのような露出（明るさ）になるのかを液晶モニターで確認できます。



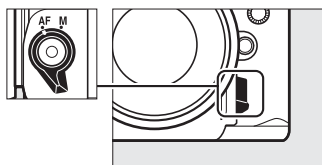
Pvボタン

[Lv]

AFモードを変更する

フォーカスモードセレクトターがAFの場合、ライブビュー時のオートフォーカスでのピントの合わせ方を選べます。

フォーカスモードセレクトター

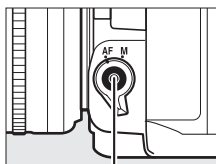


AF-S シングル AFサーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-F 常時AF サーボ	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするまで、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。

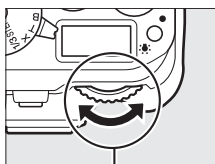
■■ ライブビュー撮影時のAFモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- AFモードは液晶モニターに表示されます。



AFモードボタン



メインコマンドダイヤル



液晶モニター

AFエリアモードを変更する

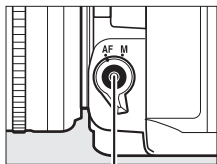
ライブビュー時にオートフォーカスでピントを合わせるフォーカスポイントをカメラがどのように選択するかを設定できます。AFエリアモードは、フォーカスモードセクター(□168)がAFの場合のみ設定できます。

 顔認識AF	記念写真など、人物の顔にピントを合わせたい場合に適しています。カメラが人物の顔を自動的に認識し、フォーカスポイントが黄色の二重枠に変わります。複数の顔を認識した場合(最大35人まで)は、カメラが最も近いと判断した人物の顔を二重枠で表示します。このとき、マルチセクターで二重枠を移動して他の顔を選ぶこともできます。途中で顔が後ろを向くなどしてカメラが顔を認識できなくなると、枠が消えます。
 ワイド エリアAF	風景などを手持ちで撮影する場合に適しています。フォーカスポイントは、マルチセクターで任意の位置に移動できます。OKボタンを押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。
 ノーマル エリアAF	画面の任意の位置にピンポイントでピントを合わせたい場合に適しています。フォーカスポイントは、マルチセクターで任意の位置に移動できます。OKボタンを押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。三脚の使用をおすすめします。
 ターゲット 追尾AF	指定した被写体に追尾させてフォーカスポイントを動かしたい場合に適しています。フォーカスポイントを被写体に重ねてOKボタンを押すと、被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。もう一度OKボタンを押すと、追尾を終了します。

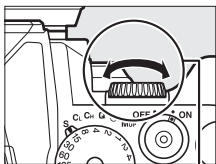
■■ ライブビュー撮影時のAFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- AFエリアモードは液晶モニターに表示されます。



AFモードボタン



サブコマンドダイヤル



液晶モニター



✓ ターゲット追尾AFについてのご注意

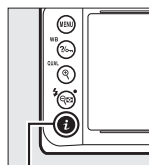
次のような場合は、追尾動作が正常に行われなかったことがありますので、ご注意ください。

- 被写体の色、明るさが背景と似ている場合
- 被写体の大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
- 被写体が大きすぎる/小さすぎる場合
- 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
- 被写体の動きが速すぎる場合
- 被写体が隠れたり、画面から外れた場合

i ボタンを使う

i ボタンを押すと、次の機能の設定を変更できます。項目を選んでマルチセレクターの▶を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 設定終了後、**OK** ボタンを押して決定します。



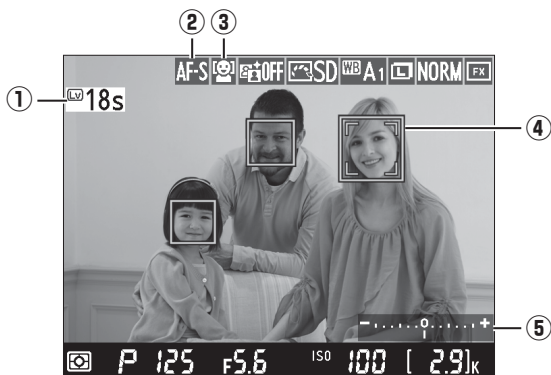
i ボタン



画質モード	画像を記録する際の画質モードを選べます (□□55)。
画像サイズ	画像を記録する際の画像サイズを選べます (□□58)。
ピクチャーコントロール	ピクチャーコントロールを設定できます (□□100)。 
アクティブ D-ライティング	ハイライト部の白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果のある、アクティブ D-ライティングの設定を変えられます (□□111)。
液晶モニターの明るさ	ライブビュー撮影時の液晶モニターの明るさを、▲または▼を押して調整できます。液晶モニターの明るさを調整しても、撮影した画像には反映されません。 

ライブビュー撮影中の情報表示について

(説明のため、全ての表示を点灯させています)



① ライブビュー残り時間	ライブビューが自動的に終了する30秒前から、ライブビュー残り時間のカウントダウンを表示します。	📖 176
② AFモード	ライブビュー撮影時のAFモードを表示します。	📖 168
③ AFエリアモード	ライブビュー撮影時のAFエリアモードを表示します。	📖 169
④ フォーカスポイント	枠内の被写体にピントが合います。フォーカスポイントの形状は、選んだAFエリアモード (📖 169) により異なります。	📖 166
⑤ 露出インジケータ	自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が表示されます(露出モードが M の場合のみ)。	📖 42

ライブビュー時の表示を切り換える

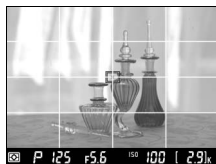
ライブビュー中は、 ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。



情報表示



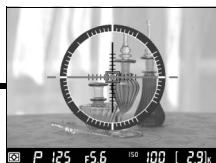
情報表示なし



4分割格子線表示



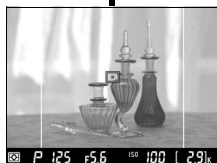
3分割格子線表示



水準器表示 (□278)



アスペクト比 (横:縦)
16:9表示

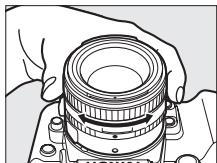


アスペクト比 (横:縦)
1:1表示

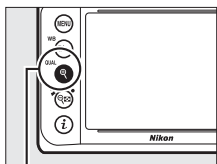
マニュアルフォーカスで撮影する

フォーカスモードセレクターを**M**に合わせて、マニュアルフォーカス(□68)で撮影するときは、次の方法で被写体にピントを合わせます。

- レンズのフォーカスリングを回して、被写体にピントを合わせます。

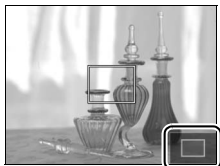


- **QUAL** ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、ピントの状態を細部まで確認できます(最大約15倍)。



QUAL ボタン

- **QUAL** ボタンを押すごとに拡大率が上がり、**QUAL** (⚡) ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- 拡大表示中は、画面の右下に構図のどの部分を拡大しているかを表すナビゲーションウィンドウ(グレーの枠)が表示されます。
- ライブビュー撮影時のAFエリアモードがワイドエリアAFまたはノーマルエリアAFの場合、拡大表示中にマルチセレクターを操作して画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。



ナビゲーション
ウィンドウ

ライブビュー撮影時の露出について

ファインダー撮影時とライブビュー撮影時では、シーンによっては、露出が異なる場合があります。ライブビュー撮影時は、ライブビュー表示に適した測光を行うため、液晶モニターに表示された明るさに近い露出で撮影されます。

ライブビュー撮影時のご注意

- ライブビュー中は、液晶モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪んで見える
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、ライブビュー表示中に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」は、セットアップメニューの【フリッカー低減】(□271) で低減できますが、設定しているシャッタースピードによっては、撮影した静止画に記録されることがあります。
- レンズを取り外すと、ライブビュー撮影は終了します。
- 長時間ライブビューで撮影すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。
- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、ライブビューの開始を制限したり自動的に終了したりすることがあります。
 - 撮影時の気温が高い場合
 - ライブビュー撮影を長時間行った場合
 - 連写（連続撮影）を行った直後などカメラが熱くなってライブビューを開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューを一時休止してください。このとき、カメラボディ表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前に付属のアイピースキャップDK-26を取り付けてください(□22)。
- ライブビュー表示中は、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。

▼ ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

- 自動的にライブビューを終了する30秒前から、液晶モニターの左上にカウントダウンを表示します（□172）。
 - カスタムメニュー c4 [液晶モニターのパワーオフ時間]（□245）の設定により終了する場合は、終了30秒前から黒字で表示し、終了5秒前から赤字で表示します。[液晶モニターのパワーオフ時間]の[ライブビュー表示]を[制限なし]に設定している場合も、カメラ内部の温度上昇などによりライブビューが終了する場合があります。
 - カメラ内部の温度上昇により終了する場合は、終了30秒前から赤字で表示します。撮影条件によっては、ライブビュー開始後すぐにカウントダウンが始まる場合があります。
- 画像再生時はカウントダウンを表示しませんが、カウントダウン時間でライブビューを自動的に終了します。

▼ ライブビュー撮影時のオートフォーカスについてのご注意

- ライブビュー撮影時のオートフォーカスは、通常のオートフォーカスより、ピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
 - 画面の長辺側と平行な線の被写体
 - 明暗差の少ない被写体
 - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
 - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
 - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
 - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
 - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
 - 動く被写体
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- フォーカスポイントが緑色に点滅しているとき（オートフォーカス作動中）は、シャッターはきれません。ただし、赤色に点滅しているとき（ピントがあっていないとカメラが判断したとき）でもシャッターはきれます。
- ピントが合わなくてもピント表示（緑枠）が点灯する場合があります。
- AF-S以外のレンズやテレコンバーターを使用した撮影では、十分なピント精度が出ない場合があります。

HDMI接続時の撮影について

- HDMI 対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。HDMI出力時のライブビュー撮影画面の表示は、右のようになります。
- HDMI-CEC対応機器との接続時にライブビュー撮影を行うには、セットアップメニューの[HDMI]の[機器制御]を[しない]に設定してください (□216)。



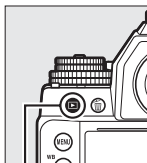
関連ページ

-  ボタンを押して、画面中央にフォーカスポイントを移動したり、拡大表示に切り換えられるようにする→  f2 [OKボタンの機能] (□255)
- ライブビュー表示中のフリッカー現象を低減する→  [フリッカー低減] (□271)
- 「スポットホワイトバランスでライブビュー撮影時にプリセットマニュアルデータを取得する」 (□93)

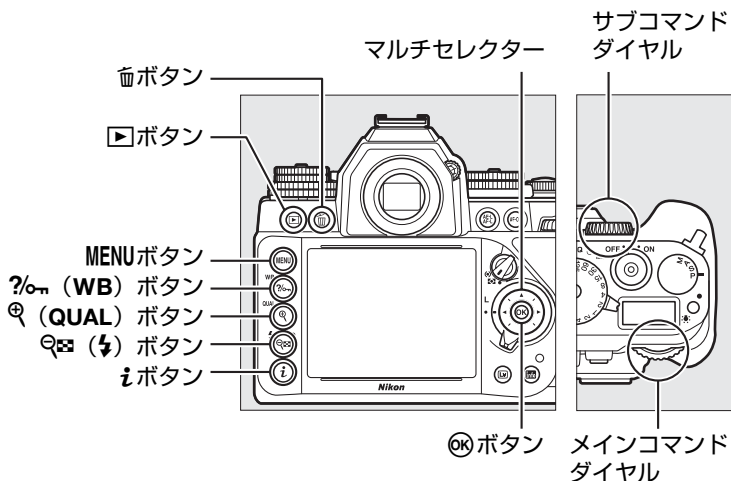
画像の再生

1コマ表示モードで画像を1コマずつ再生する

▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。



▶ボタン



■ 1 コマ表示モードでの操作方法

前後の画像を見る		マルチセクターの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報を切り換える		▲または▼を押すと、画像情報の切り換えができます (□181)。
複数画像を一覧表示する		サムネイル表示モード (□189) に切り替わります。
画像を拡大する	 (QUAL)	表示中の画像を拡大表示します (□193)。
画像を削除する		表示中の画像を削除します (□196)。
画像を保護する	?/100 (WB)	表示中の画像にプロテクト (保護) を設定します (□195)。
撮影に戻る	 / 	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
画像編集メニューを表示する		画像編集メニュー (□283) が表示されます。



縦位置で撮影した画像の場合

再生メニューの「**縦位置自動回転**」(□226)を「**する**」に設定すると、縦位置で撮影された画像を、右のように縦位置で再生します。



撮影直後の画像確認について

- 再生メニューの「**撮影直後の画像確認**」(□226)を「**する**」に設定すると、▶ ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に約4秒間液晶モニターに表示します。
- リリースモードが**CH**や**CL**のときは、撮影終了後に、最初のコマから順次画像を表示します。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、再生メニューの「**縦位置自動回転**」を「**する**」に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

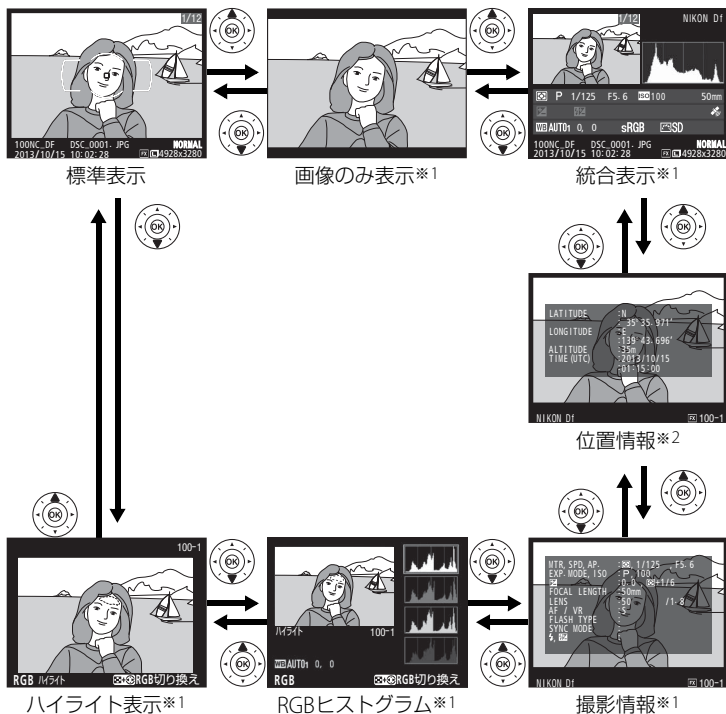
関連ページ

液晶モニターの表示時間を変更する →  c4「**液晶モニターのパワーオフ時間**」(□245)



画像情報を表示する

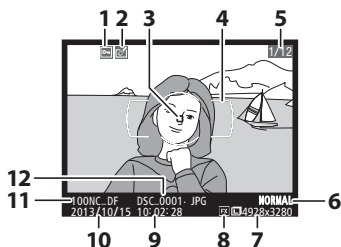
1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセクターの▲または▼を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。



※1 再生メニューの[再生画面設定] (□225) で設定している場合のみ表示します。

※2 GP-1/GP-1A (□164) を使用して撮影した画像の場合のみ表示します。

標準表示



1	プロテクト設定の有無	195
2	画像編集の有無	283
3	フォーカスポイント※1、2	64
4	AFエリアフレーム※1	26
5	コマ番号/フォルダー内全画像数	
6	画質モード	55
7	画像サイズ	58
8	撮像範囲※3	50
9	撮影時刻	25
10	撮影日付	25
11	フォルダー名	230
12	ファイル名	232

※1 再生メニューの[再生画面設定](□225)で[フォーカスポイント]を設定している場合のみ表示します。

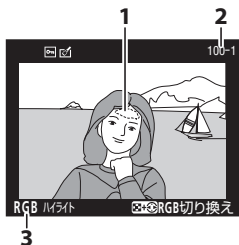
※2 表示されるフォーカスポイントは、撮影時の設定により、次のように異なります。

- ファインダー撮影時のAFモードがAF-Sの場合、最初にロックしたフォーカスポイントを赤く表示します。
- ファインダー撮影時のAFモードがAF-Cで、AFエリアモード(□62)がシングルポイントAF、ダイナミックAFまたは3D-トラッキングの場合、ピントが合ったときはフォーカスポイントを赤く表示し、ピントが合っていないときは表示しません。
- ファインダー撮影時のAFモードがAF-Cで、オートエリアAFの場合、フォーカスポイントを表示しません。

※3 DXフォーマット(□50)で撮影した画像の場合、黄色で表示します。

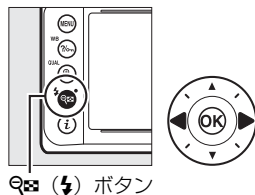


■ ハイライト表示

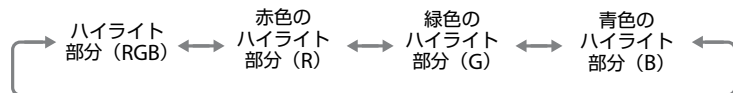


- 1 画像のハイライト部分（画像の中の非常に明るい部分）を各色ごとに点滅表示します※1
- 2 フォルダー番号-コマ番号※2..... 230
- 3 ハイライト部分が点滅表示している色※1

※1 ボタンを押しながらマルチセクターの ◀または▶を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。



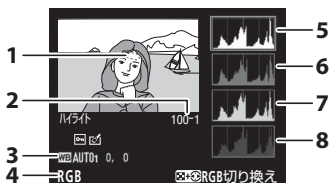
ボタン



※2 DXフォーマット (□□50) で撮影した画像の場合、黄色で表示します。

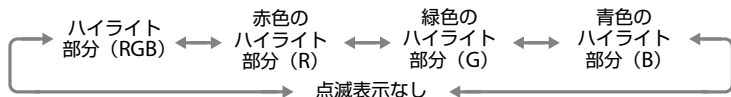
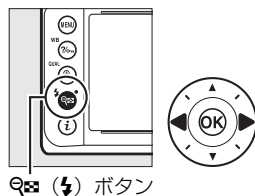


■ RGBヒストグラム



- | | | |
|---|---------------------------|-----|
| 1 | 画像のハイライト部分を各色ごとに点滅表示します※1 | 183 |
| 2 | フォルダー番号-コマ番号※2 | 230 |
| 3 | ホワイトバランス | 80 |
| | ホワイトバランス色温度 | 87 |
| | ホワイトバランス微調整 | 83 |
| | プリセットマニュアル | 89 |
| 4 | ハイライト部分が点滅表示している色※1 | |
| 5 | RGBのヒストグラム | |
| 6 | 赤色 (R) のヒストグラム | |
| 7 | 緑色 (G) のヒストグラム | |
| 8 | 青色 (B) のヒストグラム | |

※1 **Q** (⚡) ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。



※2 DXフォーマット (□50) で撮影した画像の場合、黄色で表示します。

拡大ヒストグラム表示について

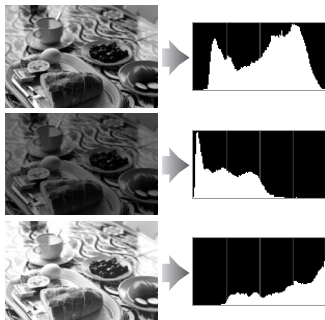
RGBヒストグラム表示で**Q** (QUAL) ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示中にマルチセレクターを操作すると画面をスクロールして見たい部分に移動できます。**Q** (⚡) ボタンを押すと画像を縮小表示します。



ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。



露出補正を+側にすれば山が右側に寄り、-側にすれば山が左側に寄ります。屋外などで周りが明るすぎて液晶モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

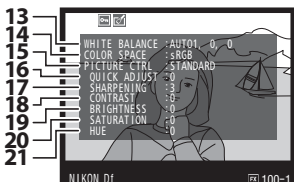
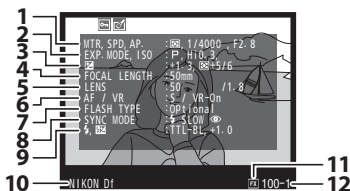
ヒストグラム表示について

- RGBヒストグラムは明るさ（輝度）を表示しています。
- ヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

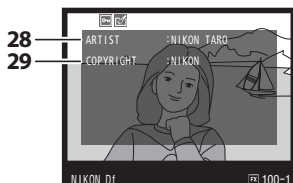
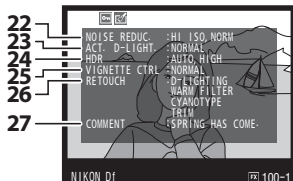


■ 撮影情報

撮影時の設定の詳細を表示します。



1	測光モード	74
	シャッタースピード	38、41
	絞り値	40、41
2	露出モード	35
	ISO感度※1	70
3	露出補正值	78
	基準露出レベルの調節値※2	243
4	焦点距離	158、318
5	レンズ情報	158
6	フォーカスモード	59、68
	レンズのVR（手ブレ補正）機能のON/OFF※3	
7	フラッシュの種類※4	117
	コマンダーモードの有無※4	
8	フラッシュモード※4	127
9	フラッシュ発光方式※4	120、122、252
	フラッシュ調光補正值※4	130
10	カメラ名	
11	撮像範囲※5	50
12	フォルダー番号-コマ番号※5	230
13	ホワイトバランス	80
	ホワイトバランス色温度	87
	ホワイトバランス微調整	83
	プリセットマニュアル	89
14	色空間	233
15	ピクチャーコントロール	100
16	クイック調整※6	103
	元になったピクチャーコントロール※7	100
17	輪郭強調	103
18	コントラスト	103
19	明るさ	103
20	色の濃さ（彩度）※8	103
	フィルター効果※9	103
21	色合い（色相）※8	103
	調色※9	103、105



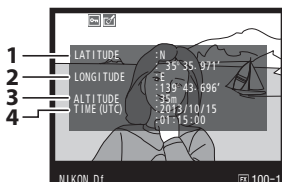
22	高感度ノイズ低減	236
23	長秒時ノイズ低減	236
23	アクティブD-ライティング	111
24	HDRの露出差	115
24	HDRのスムージング	115
25	ヴィネットコントロール	234
26	画像編集メニュー (□□283) で行われた画像編集の内容が一覧表示されます。複数の画像編集が行われた場合は、順番に表示されます。	
27	画像コメント	274

28	撮影者名※10	275
29	著作権者名※10	275

- ※1 感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。
- ※2 カスタムメニュー b2 [基準露出レベルの調節] (□□243) を0以外に設定している場合のみ表示します。
- ※3 VRレンズ装着時のみ表示します。
- ※4 別売のスピードライト使用時のみ表示します (□□117)。
- ※5 DXフォーマット (□□50) で撮影した画像の場合、黄色で表示します。
- ※6 [スタンダード]、[ビビッド]、[ポートレート]、[風景] のとき表示します。
- ※7 [ニュートラル]、[モノクローム]、カスタムピクチャーコントロールのとき表示します。
- ※8 [モノクローム] や [モノクローム] を元にしたカスタムピクチャーコントロールの場合、表示しません。
- ※9 [モノクローム] や [モノクローム] を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときのみ表示します。
- ※10 セットアップメニューの [著作権情報] (□□275) を設定して撮影した画像の場合のみ表示します。

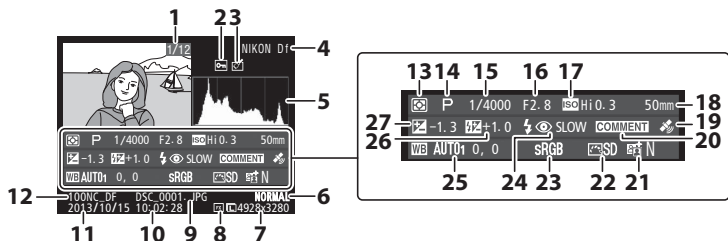


位置情報



- | | |
|---|-------------|
| 1 | 緯度 |
| 2 | 経度 |
| 3 | 標高 |
| 4 | UTC (協定世界時) |

統合表示



1	コマ番号/フォルダー内全画像数	16	絞り値	40、41
2	プロテクト設定の有無	17	ISO感度※2	70
3	画像編集の有無	18	焦点距離	158、318
4	カメラ名	19	位置情報の有無	164
5	画像のヒストグラムを表示します (1/12)。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を表します。	20	画像コメントの有無	274
6	画質モード	21	アクティブD-ライティングの強度	112
7	画像サイズ	22	ピクチャーコントロール	100
8	撮像範囲※1	23	色空間	233
9	ファイル名	24	フラッシュモード※3	127
10	撮影時刻	25	ホワイトバランス	80
11	撮影日付	26	ホワイトバランス色温度	87
12	フォルダ名	27	ホワイトバランス微調整	83
13	測光モード		プリセットマニュアル	89
14	露出モード		フラッシュ調光補正値※3	130
15	シャッタースピード		コマンドモードの有無※3	
			露出補正値	78

※1 DXフォーマット (1/50) で撮影した画像の場合、黄色で表示します。

※2 感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

※3 別売のスピードライト使用時にのみ表示します (1/117)。

サムネイル表示モードで複数の画像を一覧表示する

1コマ表示モードのときに Q (⚡) ボタンを押すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。



■ サムネイル表示モードでの操作方法

表示コマ数を増やす	Q (⚡)	1コマ表示時にボタンを押すと4コマ表示に、4コマ表示時にボタンを押すと9コマ表示に、9コマ表示時にボタンを押すと72コマ表示に切り替わります。
表示コマ数を減らす	(QUAL)	72コマ表示時にボタンを押すと9コマ表示に、9コマ表示時にボタンを押すと4コマ表示に、4コマ表示時にボタンを押すと1コマ表示に切り替わります。
画像を選ぶ		マルチセレクターを操作すると、黄色の枠（カーソル）が動いて、拡大表示 (193) や削除 (196)、プロテクト (195) の対象となる画像を選べます。
1コマ表示する		サムネイル表示モードを終了して、1コマ表示モードに戻ります。
画像を削除する		選んだ画像を削除します (196)。

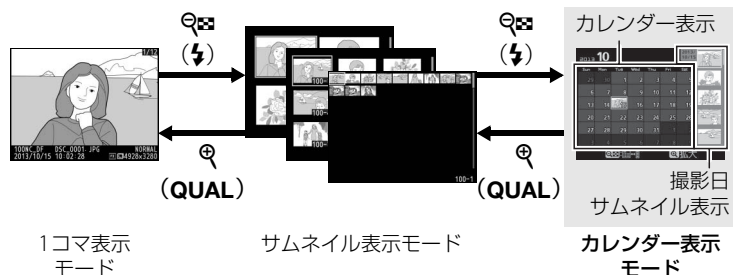


画像を 保護する	?/WB (WB)	選んだ画像にプロテクト（保護）を設定します (□195)。
撮影に戻る	 / 	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
画像編集 メニューを 表示する	<i>i</i>	画像編集メニュー（□283）が表示されます。



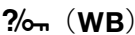
カレンダー表示モードで撮影した日付ごとに画像を表示する

72コマ表示時(□189)に $\mathcal{Q}$ (⚡) ボタンを押すと、撮影した日付ごとに縮小画像を表示する「カレンダー表示モード」に切り替わります。



■ カレンダー表示モードでの操作方法

表示を切り換える	$\mathcal{Q}$ (⚡) / 	- カレンダー表示時に$\mathcal{Q}$ (⚡) ボタンまたは$\odot$ ボタンを押すと、黄色い枠が撮影日サムネイル表示に移動し、選択中の日付に撮影した画像が選べます。 - 撮影日サムネイル表示時に$\mathcal{Q}$ (⚡) ボタンを押すと、カレンダー表示に戻り、日付を選べます。
72コマ表示に戻る/ 画像を拡大する	$\mathcal{Q}$ (QUAL)	- カレンダー表示時は 72 コマ表示に切り替わります。 - 撮影日サムネイル表示時は、$\mathcal{Q}$ (QUAL) ボタンを押している間、拡大表示をします。
日付を選ぶ/ 画像を選ぶ		- カレンダー表示時は、マルチセクターを操作すると黄色の枠（カーソル）が動いて、撮影した日付を選べます。 - 撮影日サムネイル表示時は、マルチセクターの▲または▼を押して1コマ表示(□178)や拡大表示(□193)、プロテクト(□195)、削除(□196)の対象となる画像を選べます。

1コマ表示 する		撮影日サムネイル表示時は、選択した画像を1コマ表示します。
画像を 削除する		• カレンダー表示時にボタンを押すと、選んだ日付の画像を全て削除します。 • 撮影日サムネイル表示時にボタンを押すと、選んだ画像を個別に削除します (□□196)。
画像を 保護する		撮影日サムネイル表示時にボタンを押すと、選んだ画像を個別にプロテクトします (□□195)。
撮影に戻る	 / 	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
画像編集 メニューを 表示する		撮影日サムネイル表示時は、画像編集メニュー (□□283) が表示されます。

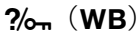


画像を拡大表示する

1コマ表示モードのときに Q （QUAL）ボタンを押すと、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが**L**の場合は約30倍、**M**では約23倍、**S**では約15倍です（撮像範囲が「**FX (36×24) 1.0**」の場合）。拡大表示中に人物の顔を認識した場合、最大35人までの顔を白枠で囲み、サブコマンドダイヤルを回して順次移動することができます。

■ 拡大表示中の操作方法

拡大率を 上げる	Q （QUAL）	ボタンを押すごとに 拡大率が上がります。	
拡大率を 下げる	Q （⚡）	ボタンを押すごとに 拡大率が下がります。	拡大表示中に拡大率を 操作すると、画面の右 下にナビゲーション ウィンドウが表示さ れ、拡大表示中の部分 が黄色い枠で囲んで示 されます。数秒すると 消えます。
画面を スクロール （移動） させる		画面をスクロールさせ て、見たい部分に移動 できます。マルチセレ クターを押し続け ると、高速で移動します。	
人物の顔へ 移動させる		拡大表示中に人物の 顔を認識すると、画面 右下のナビゲーション ウィンドウに白枠 が表示されます。サブ コマンドダイヤルを 回すと、認識した顔に 順次移動します。	
前後の画像 を見る		メインコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の静止画を表示します。	

画像を 保護する	 (WB)	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します (□□195)。
撮影に戻る	 / 	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
画像編集 メニューを 表示する		画像編集メニュー（□□283）が表示されます。



プロテクトで画像を削除できないように保護をする

大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、SDカードを初期化（フォーマット：□□20、267）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

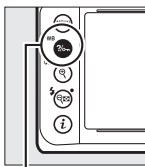
1 プロテクトする画像を選ぶ

- 1コマ表示モード/拡大表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。
- サムネイル表示モード/カレンダー表示モードの場合は、プロテクトする画像をマルチセクターで選びます。



2 ? (WB) ボタンを押す

- ? (WB) アイコンが表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、? (WB) ボタンを押します。



? (WB) ボタン



プロテクトの一括解除について

画像の再生中に、? (WB) ボタンと 冫 ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの「再生フォルダー設定」で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

画像を削除する

SDカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのをご注意ください。ただし、プロテクトおよび非表示設定されている画像は削除できません。

再生中の画像を削除する

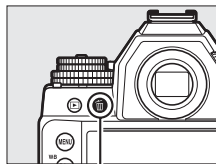
⏮️ ボタンを押すと、表示中の画像を1コマ削除できます。

1 削除する画像を選ぶ

- 1コマ表示モードのときは、削除する画像を表示します。
- サムネイル表示モードまたはカレンダー表示モードのときは、削除する画像を選択します。

2 ⏮️ ボタンを押す

- 削除確認の画面が表示されます。
- ▶️ ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。



⏮️ ボタン



1コマ表示モード



サムネイル表示モード

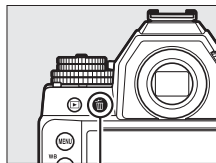


カレンダー表示モード
(撮影日サムネイル表示)



3 もう一度⏮️ ボタンを押す

- 表示中の画像が削除されます。



⏮️ ボタン

選んだ日付の画像を削除するには

カレンダー表示モードのカレンダー表示時に、日付を選んで  ボタンを押すと、選んだ日付の画像を全て削除します。

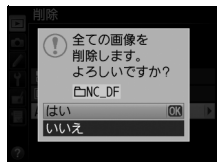
関連ページ

画像の削除後に表示される画像を変更する →  [削除後の次再生画像] (□226)

複数の画像をまとめて削除する

再生メニューの[削除]では、複数の画像を一括して削除できます。たくさん画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

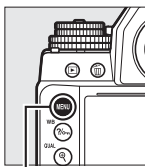
	選択画像削除	選択した画像を削除します。
DATE	日付選択	選択した日付に撮影した画像を一括で削除します (□199)。
ALL	全画像削除	[再生フォルダー設定] (□223) で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。



■ 選択画像削除

1 再生メニューの[削除]で[選択画像削除]を選ぶ

- MENU ボタンを押して再生メニューの[削除]で[選択画像削除]を選びます。マルチセクターの  を押すと、削除画像の選択画面が表示されます。

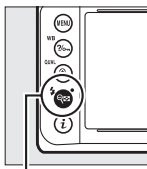


MENU ボタン

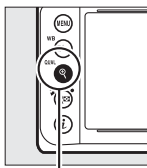


2 削除する画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選びます。
- Q⁺ (⚡) ボタン**を押して設定します。設定すると🗑️アイコンが表示され、もう一度**Q⁺ (⚡) ボタン**を押すと解除されます。
- 削除する画像全てに設定してください。
- Q (QUAL) ボタン**を押している間、選択中の画像を拡大表示します。



Q⁺ (⚡) ボタン

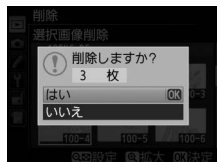


Q (QUAL) ボタン



3 設定を完了する

- OK** ボタンを押して、設定を終了します。
- 確認画面で **はい** を選んで **OK** ボタンを押すと、選択した画像が全て削除されます。



■ 日付選択

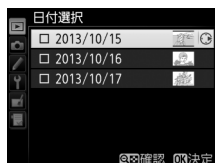
1 「削除」画面で「日付選択」を選ぶ

- 「日付選択」を選んでマルチセクターの▶を押します。



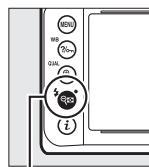
2 日付を選ぶ

- 日付を選んで▶を押すと、日付の横にチェック☑が入ります。もう一度▶を押すと解除されます。



- 削除する日付全てに設定してください。

- Q (⚡) ボタンを押すと、選択している日付に撮影した画像をサムネイル表示して確認できます。もう一度 Q (⚡) ボタンを押すと、日付選択画面に戻ります。

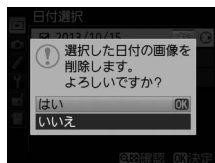


- サムネイル表示中に Q (QUAL) ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

Q (⚡) ボタン

3 設定を完了する

- OK ボタンを押して、設定を終了します。
- 確認画面で「はい」を選択し、OK ボタンを押すと、選択した日付の画像が全て削除されます。



パソコン、プリンター、 テレビとの接続

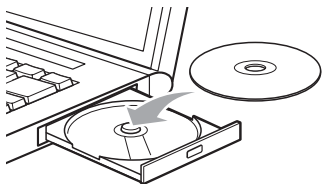
ViewNX 2をインストールする

付属のソフトウェアをインストールして、画像をパソコンに取り込めば、静止画や動画の表示、編集ができます。インストールを始める前に、お使いのパソコンの環境が□202の動作環境に合っているか確認してください。

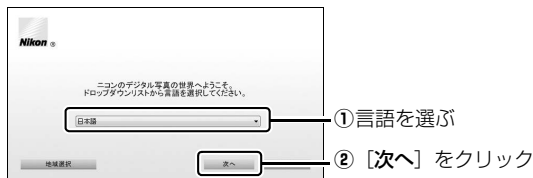


- お使いのカメラに対応していないバージョンのソフトウェアを使用すると、RAW画像をカメラからパソコンへ正常に転送できないことがあります。必ず最新のバージョンのViewNX 2をお使いください。
- 最新版のViewNX 2は、当社ホームページ（□xv）からダウンロードしてインストールすることもできます。

- 1 パソコンを起動し、ViewNX 2 CD-ROMをCD-ROMドライブに入れてインストーラーを起動する**

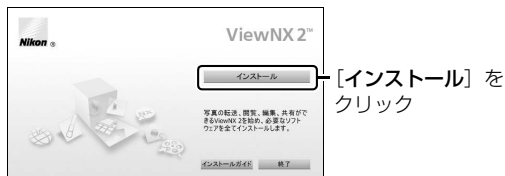


2 言語を選択する



3 インストールを開始する

- 画面の指示に従ってインストールしてください。



4 インストールを終了する

Windows



Mac OS



5 CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す

📎 インストールガイドについて

手順3の画面で「インストールガイド」をクリックすると、ViewNX 2のインストール方法のヘルプを表示します。

📎 Windowsをお使いの場合

ViewNX 2をインストールした後、[スタート] から [すべてのプログラム] → [Link to Nikon] の順にクリックすると、当社のホームページにアクセスできます（インターネットに接続できる環境が必要です）。

ViewNX 2の動作環境について

	Windows	Mac OS
プロセッサー (CPU)	- 静止画: Intel Celeron/Pentium4/ Coreシリーズ1.6GHz以上 - 動画: - 再生時: Pentium D 3.0GHz以上 - 編集時: Intel Core i5以上 1280 × 720 ピクセル以上でフレームレート30fps以上、または1920×1080ピクセル以上で動画再生をする場合: Intel Core i5以上を推奨	- 静止画: Intel Coreシリーズ/Xeonシリーズ - 動画: - 再生時: Core Duo 2GHz以上 - 編集時: Intel Core i5以上 1280 × 720 ピクセル以上でフレームレート30fps以上、または1920×1080ピクセル以上で動画再生をする場合: Intel Core i5以上を推奨
OS	Windows 8、Windows 7、Windows Vista、Windows XP - 全てプリインストールされているモデルに対応 64ビット版Windows XP上では動作しません。	- OS X 10.8、10.7 - Mac OS X 10.6
実装メモリー (RAM)	32ビット版 Windows 8、Windows 7、Windows Vista : 1 GB 以上 (2 GB以上推奨) 64ビット版 Windows 8、Windows 7、Windows Vista : 2 GB 以上 (4 GB以上推奨) - Windows XP : 512 MB以上 (2 GB以上推奨)	- OS X 10.8、10.7 : 2 GB以上 (4 GB以上推奨) - Mac OS X 10.6 : 1 GB以上 (4 GB以上推奨)
ハード ディスク	OS起動ディスクの空き容量が1 GB以上 (3 GB以上推奨)	
モニター	解像度: 1024×768ピクセル(XGA)以上 (1280×1024ピクセル以上推奨) 表示色数: 24ビットカラー以上	解像度: 1024×768ピクセル(XGA)以上 (1280×1024ピクセル以上推奨) 表示色数: 1670万色以上
※ 対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報 (□xv) でご確認ください。		

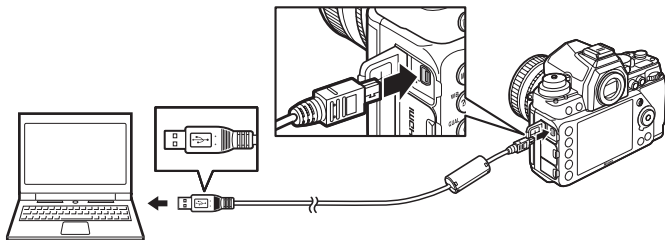


ViewNX 2を使う

パソコンに画像を取り込む

1 画像の入ったSDカードを用意する

- SDカード内の画像は、次の方法でパソコンに取り込みめます。
 - SDカードを入れたカメラの電源をOFFにしてから、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続し、カメラの電源をONにする。



- パソコンに装備されているカードスロットに直接SDカードを差し込む。
- 市販のカードリーダーをパソコンに接続して、SDカードをセットする。

2 ViewNX 2のNikon Transfer 2が起動する

起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2を選びます。

Windows 7をお使いの場合

右の画面が表示されたときは、次の手順でNikon Transfer 2を選びます。

- 1 [画像とビデオのインポート] で使用するプログラムにNikon Transfer 2を選ぶ
 - [画像とビデオのインポート] の [プログラムの変更] をクリックすると表示される画面で、[画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2使用] を選んで、[OK] をクリックします。

- 2 [画像ファイルを取り込む] をダブルクリックする



3 画像をパソコンに取り込む

「転送開始」をクリックすると、記録されている全ての画像がパソコンに取り込まれます（ViewNX 2の初期設定）。



[転送開始]

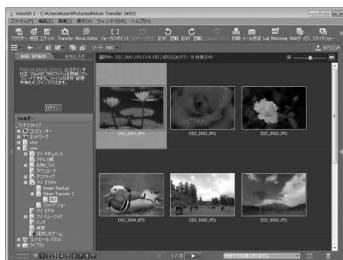
4 接続を解除する

- カメラを接続している場合は、カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜きます。
- カードリーダーやカードスロットをお使いの場合は、パソコン上でリムーバブルディスクの取り外しを行ってから、カードリーダーまたはSDカードを取り外してください。



画像を見る

画像の取り込みが終わると、ViewNX 2 が自動的に起動し、取り込んだ画像が表示されます。



■ 静止画を編集する

ViewNX 2のツールバーで「**エディット**」をクリックします。

階調の補正、シャープネスの調整、画像の切り抜き（クロップ）などの編集ができます。



■ 画像をプリントする

ViewNX 2のツールバーで「**印刷**」をクリックします。ダイアログが表示され、パソコンにつないだプリンターから、画像をプリントできます。

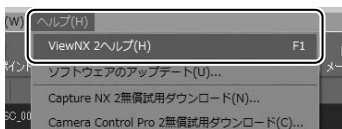


ViewNX 2を手動で起動するには

- Windows : デスクトップの [ViewNX 2] のショートカットアイコンをダブルクリックする
- Mac OS : Dockの [ViewNX 2] アイコンをクリックする

ViewNX 2の詳しい使い方について

ViewNX 2のヘルプを参照してください。



パソコンとの接続時のご注意

- カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源をOFFにしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。
- カメラとパソコンを接続するときは、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターを組み合わせるをお使いになることをおすすめします。
- ケーブルを接続するときは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

端子カバーについて

使用しないときは、カメラの端子カバーを必ず閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。

画像をプリンターで印刷する

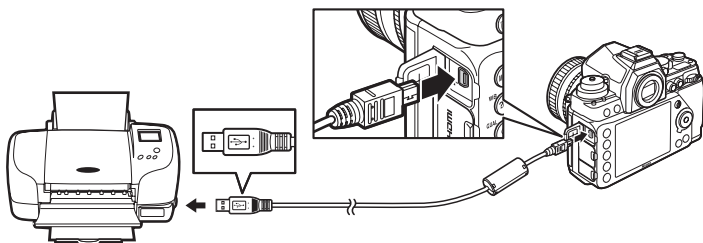
PictBridge（ピクトブリッジ：□363）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを付属のUSB ケーブルで直接接続してSDカード内の画像をプリントできます（ダイレクトプリント）。

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源をOFF、プリンターの電源をONにする

2 カメラとプリンターを接続する

- USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。



3 カメラの電源をONにする

- 正しく接続されると、液晶モニターにPictBridgeのロゴが表示された後、撮影された画像が表示されます。

☒ ダイレクトプリントの前に

- ダイレクトプリント時は、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクタとACアダプターを組み合わせることをおすすめします。
- ダイレクトプリントする画像を撮影する場合は、撮影メニューの[色空間] (□233) を[sRGB] にすることをおすすめします。

☒ USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

1コマだけプリントする

1 プリントしたい画像を選ぶ

- マルチセクターの◀または▶を押してプリントしたい画像を選びます。
- 1コマ表示中にⓀ (QUAL) を押すと、表示中の画像を拡大表示します (□193)。▶ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- Ⓚ (⚡) ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。Ⓚ (QUAL) ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。



2 プリント設定画面を表示する

- Ⓚ ボタンを押すとプリント設定画面が表示されます。



3 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定	▼または▲を押してプリントする用紙のサイズまたは[プリンターの設定]（プリンターの設定を優先）を選んでⓀボタンを押します。プリンターが対応する用紙サイズのみが表示されます。
枚数指定	▼または▲を押して、プリントする枚数（1～99枚）を設定してⓀボタンを押します。
フチ設定	▼または▲を押して、[プリンターの設定]（プリンターの設定を優先）、[あり]（フチありプリント）または[なし]（フチなしプリント）を選んでⓀボタンを押します。
日付 プリント	▼または▲を押して、[プリンターの設定]（プリンターの設定を優先）、[あり]（日付を印刷する）または[なし]（日付を印刷しない）を選んでⓀボタンを押します。
範囲指定	[する]を選んで、▶を押すと、[範囲指定]画面が表示されます。黄色の枠は、プリントされる範囲を示しています。 Ⓚ(⚡) ボタンを押すと枠が小さく（プリント範囲が狭く）なり、Ⓚ(QUAL) ボタンを押すと枠が大きく（プリント範囲が広く）なります。 - マルチセレクターを操作すると、プリント範囲が移動します。 Ⓚボタンを押すと、プリント範囲が決定します。

4 プリントを開始する

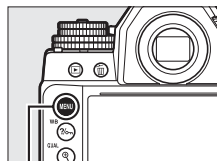
- [プリント実行]を選んで、Ⓚボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度Ⓚボタンを押してください。



複数の画像をプリントする

あらかじめカメラとプリンターを正しく接続してから (□207)、次の手順でプリントしてください。

- 1 「カメラとプリンターを接続する」の
手順3 (□207) の画面でMENUボタン
を押す**



MENUボタン

- 2 プリント方法を選んでマルチセレクト
ターの▶を押す**



プリント 画像選択	プリントする画像と枚数を選んでプリントします。
日付選択	指定した日付に撮影した画像を全てプリントします。
DPOF プリント	再生メニューの [プリント指定 (DPOF)] (□213) で、事前に設定した画像をプリントします。プリント指定した画像と枚数は、手順3の画面に反映されます。
INDEX プリント	SDカードの中のJPEG画像 (□55) を一覧できる「インデックス」をプリントします。 • インデックスプリントできるのは256コマまでです。SDカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります (確認画面が表示されます)。

✔ ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像およびTIFF画像 (□55) はダイレクトプリントできません。RAW画像の場合は画像編集メニューの [RAW現像] (□295) で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- [フチ設定] と [範囲指定] は、接続したプリンターがそれぞれの機能に対応していない場合は、選べません。なお、[範囲指定] で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

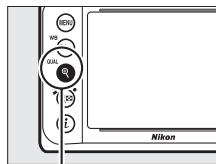
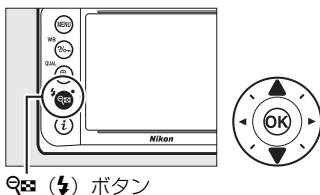
✏ プリンターの設定を優先してプリントしたいときは

[用紙設定]、[フチ設定]、[日付プリント] の設定について、プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に [プリンターの設定] を選んでください。

3 プリントする画像と枚数を設定する

【プリント画像選択】または【DPOFプリント】の場合：

- マルチセレクトターを操作してプリントする画像を選び、**Q** (⚡) ボタンを押しながら▲または▼を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。
- プリントされる画像には、**🖨**アイコンとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、**🖨**アイコンが消え、その画像はプリントされません。
- Q** (QUAL) ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。
- 画像と枚数を設定したら、**OK** ボタンを押します。

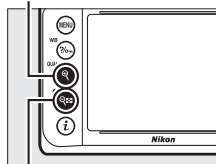


Q (QUAL) ボタン

【日付選択】の場合：

- ▲または▼を押してプリントする日付を選び、▶を押して設定します。
- プリントする枚数は設定できません。選択した日付の画像の全てが1枚ずつプリントされます。
- Q** (⚡) ボタンを押すと、選択している日付に撮影した画像をサムネイル表示して確認できます。もう一度**Q** (⚡) ボタンを押すと、日付選択画面に戻ります。
- サムネイル表示中に**Q** (QUAL) ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

Q (QUAL) ボタン



Q (⚡) ボタン

- 日付を設定したら、**OK** ボタンを押します。

【INDEXプリント】の場合：

- 【INDEXプリント】画面が表示されたら、**OK** ボタンを押します。

4 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。
- 「1コマだけプリントする」の手順3 (□209) と同様に、**[用紙設定]**、**[フチ設定]**、**[日付プリント]** を設定してください。
- [INDEXプリント]** の場合、用紙サイズによっては、プリントできないことがあります（警告画面が表示されます）。



5 プリントを開始する

- [プリント実行]** を選んで⓪ボタンを押すと、プリントが始まります。プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを中断したいときは、もう一度⓪ボタンを押してください。



関連ページ

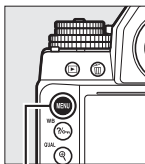
プリント時のエラーについては、「警告メッセージ」(□352) をご覧ください。

プリントしたい画像を指定する（プリント指定）

SDカードをプリンターのカードスロットに挿入して印刷するときや、プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するとき、またはカメラとプリンターを直接接続してダイレクトプリントするとき（□207）に、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定できます（プリンターやプリントサービス店がDPOF規格に対応している必要があります）。プリント指定の方法は次の通りです。

1 再生メニューの【プリント指定（DPOF）】で【設定】を選ぶ

- MENUボタンを押して、再生メニューの【プリント指定（DPOF）】で【設定】を選びます。マルチセクターの▶を押すと、プリント画像の選択画面が表示されます。

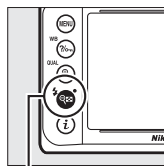


MENUボタン



2 プリントする画像と枚数を設定する

- マルチセクターを操作してプリントする画像を選び、QUAL (⚡) ボタンを押しながら▲または▼を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。



QUAL (⚡) ボタン

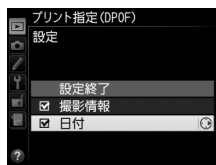


- 設定した画像には、🖨️アイコンとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると🖨️アイコンが消え、その画像はプリントされません。
- QUAL (⚡) ボタンを押している間は、選択中の画像を拡大表示します。
- 画像と枚数を設定したら、OK (Ⓞ) ボタンを押します。



3 プリント指定の項目を設定する

- 撮影情報や日付を画像に写し込まない場合は、そのまま**〔設定終了〕**を選んで**OK**ボタンを押してください。
- 指定した画像全てに撮影情報や日付をプリントしたい場合は、**〔撮影情報〕**または**〔日付〕**を選んで**▶**を押して□に**✓**を入れてください。



4 プリント指定を終了する

- **〔設定終了〕**を選んで、**OK**ボタンを押します。



プリント指定についてのご注意

- ダイレクトプリント時には、**〔プリント指定 (DPOF)〕**の**〔撮影情報〕**、**〔日付〕**の設定は無効になります。ダイレクトプリントで日付をプリントしたい場合は、ダイレクトプリントの**〔日付プリント〕**を**〔あり〕**にしてください。
- SDカードの残量が充分にないときは、プリント指定ができない場合があります。
- RAW画像 (□□55) は、プリント指定ができません。RAW画像は画像編集メニューの**〔RAW現像〕** (□□295) で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- プリント指定を行ったSDカード内のデータを、このカメラ以外で削除しないでください。正しくプリントできなくなる場合があります。

設定したプリント指定を一括で解除したいときは

前ページの手順1の画面で**〔一括解除〕**を選ぶと、**〔プリント指定 (DPOF)〕**で設定した内容を全て解除します。

画像をテレビで見る

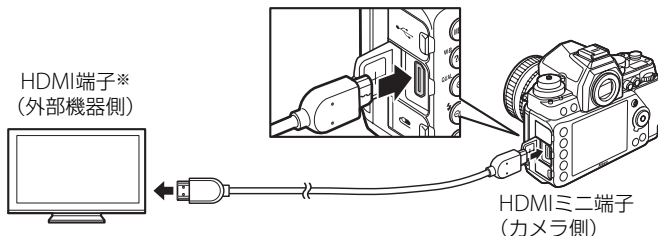
HDMIケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する

カメラをHDMI端子のあるハイビジョンテレビなどと接続できます。接続には市販のHDMIミニ端子用ケーブル（Type C）が必要です。別途お買い求めください。

1 カメラの電源をOFFにする

- HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

2 カメラとハイビジョンテレビを接続する

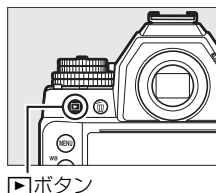


※使用する外部機器の端子に合ったケーブルをお使いください。

3 テレビの入力をHDMI入力に切り換える

4 カメラの電源をONにして、 ボタンを押す

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。



HDMIケーブル接続時のライブビュー撮影について

HDMIケーブルでカメラとテレビをつなぐと、テレビ画面を見ながらライブビュー撮影を行えます（□166）。

HDMI対応機器との接続時の設定を変更する

セットアップメニュー（□266）の[HDMI]で、HDMI対応機器への出力解像度を設定したり、HDMI-CEC対応テレビのリモコンから制御できるように設定できます。

■■ 出力解像度

HDMI対応機器への出力解像度を設定できます。

- [出力解像度] が [オート] の場合、出力先の映像信号形式を自動的に検出します。



■■ 機器制御

HDMI-CEC対応テレビのリモコンを使って、1コマ表示とスライドショー再生のカメラ操作を行えます。

1 カメラとHDMI-CEC対応テレビを接続する

2 HDMI-CEC対応テレビとカメラの電源をONにする

- [機器制御] が [する] の場合、カメラのマルチセクターやⓀボタンの代わりにHDMI-CEC対応テレビのリモコンを使ってカメラを操作できるようになります。
- [機器制御] が [しない] の場合は、HDMI-CEC対応テレビのリモコンでカメラは動作しません。

HDMI、HDMI-CECとは

「HDMI」とは、High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。「HDMI-CEC」とは、HDMI-Consumer Electronics Controlの略で、対応機器間での連携動作を可能にします。

HDMI-CEC対応テレビとの接続時の表示

HDMI-CEC対応テレビとの接続時には、表示パネルの記録可能コマ数表示部に【EE】が表示されます。

機器制御について

詳しくは、テレビの使用説明書などをご覧ください。

テレビでの画像の再生について

- 画像の再生方法は、液晶モニターで再生するときと同じです。
- 1コマ表示モードで画像のみ表示に切り換えると（□□181）、テレビ画面ではフル表示になります。
- テレビ画面では、画像の周辺部が一部ケラレて表示される場合があります。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いになることをおすすめします。



メニューガイド

初期設定一覧

再生、撮影、カスタム、セットアップの各メニューの初期設定は次の通りです。ツーボタンリセット (□134)、撮影メニューのリセット (□229)、またはカスタムメニューのリセット (□239) を行うと、それぞれ別の項目の設定をリセットできます。ツーボタンリセットで初期設定に戻る項目については、「ツーボタンリセットで基本的な機能を初期設定に戻す」(□134) をご覧ください。

再生メニューの初期設定

再生メニュー項目	初期設定
[再生フォルダー設定] (□223)	NC_DF
[撮影直後の画像確認] (□226)	しない
[削除後の次再生画像] (□226)	後ろのコマ
[縦位置自動回転] (□226)	する
[スライドショー] (□226)	
[インターバル設定] (□226)	2 秒

撮影メニューの初期設定

ご購入時の設定に戻すには、撮影メニューの [撮影メニューの管理] で撮影メニューのリセットを行います (□229)。※1

撮影メニュー項目	初期設定
[ファイル名設定] (□232)	DSC
[画質モード] (□55)	NORMAL
[画像サイズ] (□58)	サイズL
[撮像範囲] (□50)	
[撮像範囲設定] (□51)	FX (36×24) 1.0×
[DX自動切り換え] (□51)	する
[JPEG圧縮] (□57)	サイズ優先

撮影メニュー項目	初期設定
[RAW記録] (□□57)	
[記録方式] (□□57)	ロスレス圧縮RAW
[記録ビットモード] (□□57)	14ビット記録
[ホワイトバランス] (□□80)	
微調整値 (□□83)	A-B : 0、G-M : 0
色温度設定 (□□87)	5000K
プリセットマニュアル (□□89)	d-1
[ピクチャーコントロール] (□□100)	スタンダード
[色空間] (□□233)	sRGB
[アクティブD-ライティング] (□□112)	しない
[HDR (ハイダイナミックレンジ)] (□□113)	
[HDRモード] (□□114)	しない
[露出差] (□□115)	オート
[スムージング] (□□115)	標準
[ヴィネットコントロール] (□□234)	標準
[自動ゆがみ補正] (□□235)	しない
[長秒時ノイズ低減] (□□236)	しない
[高感度ノイズ低減] (□□236)	標準
[感度自動制御] (□□72)	しない
[多重露出] (□□147) ※2	
[多重露出モード] (□□148)	しない
[コマ数] (□□148)	2
[自動ゲイン補正] (□□149)	する
[インターバルタイマー撮影] (□□152)	設定解除※3

- ※1 撮影メニューのリセットで初期設定に戻るのは、撮影メニューの**[撮影メニューの管理]** (□□229) で選択されている撮影メニュー（「**A**」～「**D**」のいずれか）の内容だけです（**[多重露出]**、**[インターバルタイマー撮影]**を除く）。
- ※2 撮影メニューのリセットを行うと、全ての撮影メニューで初期状態にリセットされます。なお、多重露出撮影中は、1コマ目を撮影してから設定したコマ数分撮影し終えるまで撮影メニューをリセットできません。
- ※3 撮影メニューのリセットを行うと、実行中のインターバルタイマー撮影は終了します。全ての撮影メニューで初期状態（開始トリガー：即時スタート、時間間隔：1分、設定：1回×1コマ、撮影動作：終了）にリセットされます。



■ カスタムメニューの初期設定

ご購入時の設定に戻すには、カスタムメニューの「カスタムメニューの管理」でカスタムメニューのリセットを行います（□239）。※

カスタムメニュー項目		初期設定
a1	[AF-Cモード時の優先] (□240)	リリース
a2	[AF-Sモード時の優先] (□240)	フォーカス
a3	[AFロックオン] (□241)	3 (標準)
a4	[半押しAFレンズ駆動] (□241)	する
a5	[フォーカスポイント表示] (□242)	
	[フォーカスポイント照明]	オート
	[マニュアルフォーカス時の表示]	する
a6	[フォーカスポイント循環選択] (□242)	しない
a7	[AF点数切り換え] (□242)	39点
b1	[中央部重点測光範囲] (□243)	φ 12 mm
b2	[基準露出レベルの調節] (□243)	
	[マルチパターン測光]	0
	[中央部重点測光]	0
	[スポット測光]	0
c1	[半押しAEロック] (□244)	しない
c2	[半押しタイマー] (□244)	6 秒
c3	[セルフタイマー] (□245)	
	[時間]	10 秒
	[撮影コマ数]	1
	[連続撮影間隔]	0.5秒
c4	[液晶モニターのパワーオフ時間] (□245)	
	[画像の再生]	10 秒
	[メニュー表示]	1分
	[インフォ画面表示]	10 秒
	[撮影直後の画像確認]	4 秒
	[ライブビュー表示]	10分
d1	[電子音設定] (□246)	電子音なし
d2	[ファインダー内格子線表示] (□246)	しない
d3	[ISO感度表示] (□247)	しない
d4	[インフォ画面のガイド表示] (□247)	ガイド表示する
d5	[低速連続撮影速度] (□247)	3コマ/秒
d6	[連続撮影コマ数] (□247)	100

カスタムメニュー項目		初期設定
d7	[連番モード] (□248)	する
d8	[インフォ画面の表示設定] (□249)	自動
d9	[イルミネーター点灯] (□249)	しない
d10	[露出ディレーモード] (□250)	しない
e1	[フラッシュ撮影同調速度] (□251)	1/200 秒
e2	[フラッシュ時シャッタースピード制限] (□252)	1/60 秒
e3	[外付けフラッシュ発光] (□252)	TTLモード
e4	[フラッシュ使用時の露出補正] (□253)	全体を補正
e5	[モデリング発光] (□253)	する
e6	[オートブラケットングのセット] (□253)	AE・フラッシュブラケットング
e7	[BKT変化要素 (Mモード)] (□254)	フラッシュ・シャッタースピード
e8	[BKTの順序] (□254)	[0] → [-] → [+]
f1	[※ ボタンの機能] (□255)	※の点灯/消灯
f2	[OKボタンの機能] (□255)	
	[撮影モード]	フォーカスポイント 中央リセット
	[再生モード]	1コマとサムネイルの 切り換え
f3	[マルチセクターの半押し起動] (□256)	
	[Fnボタンの機能] (□257)	
	[押し時の動作]	設定しない
f4	[コマンドダイヤル併用時の動作]	
	撮像範囲選択	
	[プレビューボタンの機能] (□260)	
f5	[押し時の動作]	
	プレビュー	
	[コマンドダイヤル併用時の動作]	
f6	設定しない	
	[AE/AFロックボタンの機能] (□261)	
	[押し時の動作]	
f6	AE-L/AF-L	
	[コマンドダイヤル併用時の動作]	
	設定しない	



カスタムメニュー項目		初期設定
f7	[コマンドダイアルの設定] (□261)	
	[回転方向の変更] (□261)	しない
	[メインとサブの入れ換え] (□262)	しない
	[絞り値の設定方法] (□262)	サブコマンドダイアル
	[再生/メニュー画面で使用] (□263)	しない
f8	[ボタンのホールド設定] (□264)	しない
f9	[カードなし時リリース] (□264)	リリース許可
f10	[インジケーターの+/-方向] (□265)	
f11	[シャッタースピードの簡易シフト] (□265)	しない

※ 初期設定に戻るのは、カスタムメニューの [カスタムメニューの管理] (□239) で選択されているカスタムメニュー (「A」～「D」のいずれか) の内容だけです。

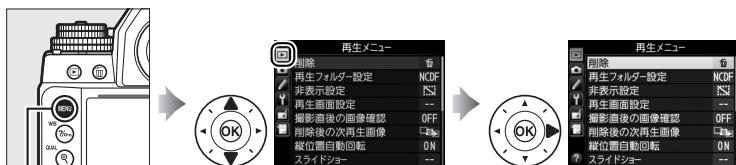
■ セットアップメニューの初期設定

セットアップメニュー項目		初期設定
[液晶モニターの明るさ] (□268)		0
[インフォ画面の自動表示] (□268)		自動表示しない
[イメージセンサークリーニング] (□326)		
[電源スイッチに連動] (□328)		電源ONとOFFで実行
[フリッカー低減] (□271)		オート
[地域と日時] (□272)		
[夏時間の設定] (□272)		しない
[縦横位置情報の記録] (□273)		する
[HDMI] (□216)		
[出力解像度] (□216)		オート
[機器制御] (□216)		する
[位置情報] (□164)		
[半押しタイマー] (□164)		有効
[衛星による日時合わせ] (□164)		する
[ワイヤレスリモートコントローラーのFnボタン] (□280)		カメラのFnボタンと同じ
[ワイヤレスモバイルアダプター] (□280)		有効
[Eye-Fi送信機能] (□281)		有効



▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブの▶アイコンを選ぶと、再生メニューが表示されます。



MENUボタン

再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	📖
削除	197
再生フォルダー設定	223
非表示設定	224
再生画面設定	225
撮影直後の画像確認	226

メニュー項目	📖
削除後の次再生画像	226
縦位置自動回転	226
スライドショー	226
プリント指定 (DPOF)	213

📎 関連ページ

「再生メニューの初期設定」(📖218)

再生フォルダー設定

MENUボタン → ▶再生メニュー

画像はSDカード内のフォルダーに保存されます。

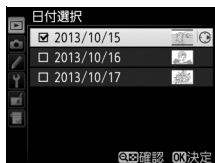
画像の再生 (📖178) 時に表示するフォルダーを設定します。

NC_DF	Dfで作成された全てのフォルダー内の画像を再生します。
全てのフォルダー	SDカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。
記録中のフォルダー	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。



非表示設定した画像は、非表示設定画面以外では表示されません。

設定	画像ごとに非表示設定します。
日付選択	選択した日付に撮影した画像を一括で非表示設定します。 - 非表示設定したい日付を選択し、マルチセクターの▶を押すと、日付の左側のチェックボックスがオン☑になります。 - もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ□になります。 - OK ボタンを押すと、設定を完了します。
一括解除	非表示設定を一括で解除します。



■ 画像ごとに非表示設定する

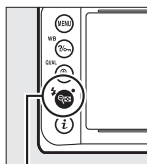
1 [設定] を選ぶ

- [設定] を選んでマルチセクターの▶を押すと、画像の選択画面が表示されます。



2 非表示する画像を選ぶ

- マルチセクターを操作して画像を選び、Q&A (⚡) ボタンを押して設定します。設定するとが表示されます。もう一度Q&A (⚡) ボタンを押すと、が消えます。



Q&A (⚡) ボタン



- 非表示にする画像全てに設定してください。
- Q (QUAL) ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

3 設定を完了する

- **OK** ボタンを押して、設定を終了します。



✓ 非表示設定についてのご注意

- SDカードを初期化すると、非表示設定した画像も削除されますのでご注意ください。
- プロテクトと非表示の両方を設定した画像の非表示設定を解除すると、プロテクト設定も解除されます。

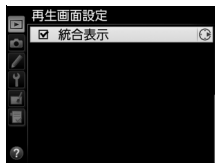
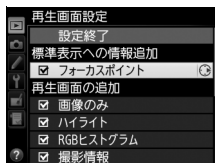
再生画面設定

MENU ボタン → 再生メニュー

標準表示画面（ 182）で、選択したフォーカスポイントまたはピント合わせに使用したフォーカスポイントを表示するかどうかを設定できます。また、1コマ表示時の画像情報表示に、画像のみ表示、ハイライト表示、RGBヒストグラム表示、撮影情報表示、統合表示を表示するかどうかも設定できます。

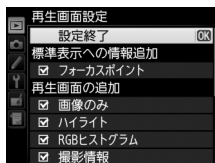
1 項目を選ぶ

- 画像情報に表示したい項目を選択し、マルチセクターの **▶** を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン ☒ になります。
- もう一度 **▶** を押すと、チェックボックスがオフ ☐ になります。



2 [設定終了] を選ぶ

- **[設定終了]** を選んで **OK** ボタンを押すと、設定が完了します。



撮影直後の画像確認

MENU ボタン → 再生メニュー

撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。[しない] を選択した場合に撮影画像を表示確認するには、 ボタンを押してください。

削除後の次再生画像

MENU ボタン → 再生メニュー

画像を削除した後に表示する画像を設定できます。

後ろのコマ	削除した画像の次に撮影した画像を表示します。 最後の画像を削除した場合は、1つ前の画像を表示します。
前のコマ	削除した画像の前に撮影した画像を表示します。 最初の画像を削除した場合は、次に撮影した画像を表示します。
直前コマ送り 方向に従う	- 直前のコマ送りが前の画像から後の画像の順番のときは、[後ろのコマ] と同じ動作になります。 - 直前のコマ送りが後の画像から前の画像の順番のときは、[前のコマ] と同じ動作になります。

縦位置自動回転

MENU ボタン → 再生メニュー

縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示します。

縦位置自動回転についてのご注意

- [縦位置自動回転] を [する] に設定しても、セットアップメニューの [縦横位置情報の記録] (□273) を [しない] にして撮影した画像は、全て横位置で表示されます。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、[縦位置自動回転] を [する] に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

スライドショー

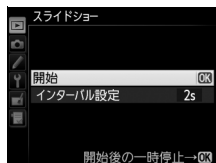
MENU ボタン → 再生メニュー

撮影した画像を記録された順番に1コマずつ連続再生します。[再生フォルダー設定] (□223) で設定されたフォルダー内の画像が記録された順番で再生されます。ただし、[非表示設定] (□224) されている画像は再生されません。

開始	スライドショーを開始します。
インターバル設定	1コマの画像を表示する時間を設定します。

■ スライドショーを再生する

「開始」を選んで $\odot$ ボタンを押すと、スライドショーが始まります。スライドショーの再生中は、次の操作が可能です。



1コマ進む/戻る		マルチセレクトの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報を切り換える		▲または▼を押すと、画像情報の切り換えができます(□181)。画像情報を「画像のみ」に切り換えると、画像だけをスライドショーで再生できます。
一時停止する/ 再開する		スライドショーが一時停止します。もう一度 $\odot$ ボタンを押すと再開します。
再生メニューに戻る	MENU	スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る		スライドショーを中止して、1コマ表示モード(□178)、サムネイル表示モード(□189)またはカレンダー表示モード(□191)に戻ります。
撮影に戻る		シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影できます。

再生が終わると、右のような画面が表示されます。「再開」を選んで $\odot$ ボタンを押すと、スライドショーが再開します。「終了」を選んで $\odot$ ボタンを押すと、スライドショーが終了します。



撮影メニュー：撮影で使える便利な機能

MENU ボタンを押して、タブの  アイコンを選ぶと、撮影メニューが表示されます。



MENU ボタン

撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📖
撮影メニューの管理	229
記録フォルダー設定	230
ファイル名設定	232
画質モード	55
画像サイズ	58
撮像範囲	50
JPEG圧縮	57
RAW記録	57
ホワイトバランス	80
ピクチャーコントロール	100
カスタムピクチャーコントロール	106

メニュー項目	📖
色空間	233
アクティブD-ライティング	111
HDR（ハイダイナミックレンジ）	113
ヴィネットコントロール	234
自動ゆがみ補正	235
長秒時ノイズ低減	236
高感度ノイズ低減	236
感度自動制御	72
多重露出	147
インターバルタイマー撮影	152

関連ページ

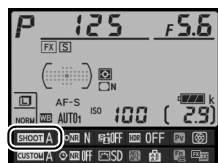
「撮影メニューの初期設定」(📖218)

カメラは、撮影メニューの設定内容を、「A」、「B」、「C」、「D」の4通り記憶できます。それぞれの撮影メニューで設定した内容は、他の撮影メニューには反映されません。ただし、ピクチャーコントロールの調整値（クイック調整および手動調整）、[多重露出]、[インターバルタイマー撮影]での設定は、全ての撮影メニューで共通になります。

[撮影メニューの管理] で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでから撮影メニューの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時の撮影メニューを選び直すことで呼び出せます。

撮影メニュー設定表示について

インフォ画面には、**SHOOT** と撮影メニュー名（「A」～「D」）が表示されます。

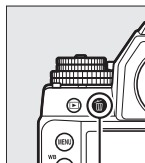


名前編集

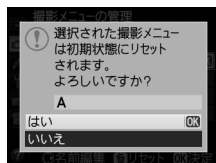
撮影メニュー「A」～「D」の名前を編集するには、名前を変更したい撮影メニューを選んでマルチセクターの▶を押します。名前は20文字まで入力できます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください（□107）。

撮影メニューのリセット

撮影メニュー「A」～「D」を個別にリセットできます。リセットしたい撮影メニューを選んで 冂 ボタンを押すと、確認画面が表示されます。[はい]を選んで OK ボタンを押すと、選んだ撮影メニューの設定をリセットして初期設定に戻します。



冂 ボタン



記録フォルダーの新規作成や既存フォルダーからの選択を行います。新規作成の場合は「**フォルダー番号指定**」でフォルダー番号を設定します。既存フォルダーから選択する場合は「**既存フォルダーから選択**」を選びます。

■ フォルダー番号指定

記録するフォルダー番号を指定します。フォルダーが存在しない場合は新しく作成します。

1 「フォルダー番号指定」を選ぶ

- 「**フォルダー番号指定**」を選んでマルチセクターの▶を押すと、「**フォルダー番号指定**」画面が表示されます。



2 フォルダー番号の桁を選ぶ

- ◀または▶を押して、フォルダー番号の変更したい桁を選びます。

3 フォルダー番号を変更する

- ▲または▼を押して、フォルダー番号の数値を変更します。

4 フォルダー番号を設定する

- OK ボタンを押すと、新規フォルダーを作成して撮影メニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、作成した新規フォルダーに保存します。
- 作成済みのフォルダー番号を指定すると、フォルダー番号の左にフォルダーマーク (□、📁、📂) が表示されます。
□または📁を選んでOK ボタンを押すと、指定したフォルダーを記録フォルダーに設定して撮影メニューに戻ります。
- キャンセルしたい場合は、MENU ボタンを押すと撮影メニューに戻ります。

📁 フォルダーマークについて

「**フォルダー番号指定**」画面では、フォルダー番号の左に、画像の入っていないフォルダーのときは□、フォルダー内のファイル数が999個またはファイル番号が9999に達しているフォルダーのときは📁、その他のフォルダーのときは📂のフォルダーマークが表示されます。📁が表示されているフォルダーには、画像は記録できません。

■ 既存フォルダーから選択

既存のフォルダーから選択します。

1 「既存フォルダーから選択」を選ぶ

- 「既存フォルダーから選択」を選んでマルチセクターの▶を押すと、「既存フォルダーから選択」画面が表示されます。



2 フォルダーを選ぶ

- ▲または▼を押して、画像を記録するフォルダーを選びます。

3 画像を記録するフォルダーを設定する

- Ⓞ ボタンを押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、選んだフォルダーに保存します。

✓ フォルダー番号およびファイル番号についてのご注意

フォルダー番号が999に達しているときに、ファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達した場合は、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。ただし、次の場合、SDカードにまだ空き容量があれば、さらに撮影を続けられます。

- フォルダー番号が999以下で、その内のファイル数が999に達していないフォルダーを記録フォルダーとして選んだ場合
- フォルダー番号が999以下のフォルダーを新規に作成し、それを記録フォルダーとして選んだ場合

🔗 大容量のSDカードを使用する場合

すでにたくさんのフォルダーや画像が記録されているSDカードを使用する場合、SDカードを挿入したときや、カメラの電源をONにしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生ができるまでに時間がかかることがあります。



このカメラで撮影した画像には、自動的にDSC_nnnn.xxxというファイル名が付きます。[ファイル名設定]では、「DSC」の3文字を任意に変更できます。ファイル名の設定方法は、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください（□107）。



ファイル名について

- このカメラで撮影された画像にはDSC_nnnn.xxxという名称が付きます。
nnnnには0001～9999までの数字が入ります。xxxには選んだ画質モードによって、次の拡張子が入ります。
 - NEF：RAWの場合
 - TIF：TIFF（RGB）の場合
 - JPG：FINE/NORMAL/BASICの場合
 - NDF：イメージダストオフデータの場合
- 撮影メニューの[色空間]で[Adobe RGB]（□233）を選んだ場合は_DSCnnnn.xxxという名称が付きます。
- 同時記録されたRAW画像とJPEG画像のファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF、JPGになります。

記録する画像の色空間を指定します。[sRGB] 色空間は画像調整を行わずに再生やプリントをする場合に適しています。[Adobe RGB] 色空間は、[sRGB] に比べて色域が広いいため、商業印刷に適しています。

色空間についてのご注意

- カラーマネージメント機能を持たないアプリケーションで画像を開く場合、または印刷する場合には、sRGB色空間をおすすめします。
- Adobe RGB色空間で記録したJPEG画像は、DCFオプション色空間に対応しています。DCFオプション色空間に対応しているアプリケーションやプリンターの場合、自動的に正しい色空間が設定されます。DCFオプション色空間に対応していないアプリケーションやプリンターの場合は、Adobe RGB色空間に設定してください。詳細については、アプリケーションやプリンターの説明書をご覧ください。
- Adobe RGB色空間で記録したTIFF画像には、ICCプロファイルが埋め込まれています。Adobe Photoshopなどのカラーマネージメント機能を持ったアプリケーションで画像を開く場合、自動的に正しい色空間が設定されます。詳細については、アプリケーションの説明書をご覧ください。
- ExifPrint、市販プリンターなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスなどでプリントする場合、sRGB色空間をおすすめします。Adobe RGB色空間で記録すると、彩度が低下する場合があります。

ViewNX 2またはCapture NX 2をお使いの場合

付属のViewNX 2や別売のCapture NX 2をお使いいただくと、正しい色空間での処理が自動的に行われます。

色空間とは

色を数値化して表現するときに、どの色にどの数値を対応させるかを定めたもので、「カラースペース」ともいいます。

ヴィネットコントロールは、レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに応じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。Gタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズを装着しているときのみ機能します（DXレンズ、PCレンズを除く）。

☐ H 強め	
☐ N 標準	効果が強い順に、[強め]、[標準]、[弱め] になります。
☐ L 弱め	
しない	周辺光量の低下を補正しません。

ヴィネットコントロールについてのご注意

- 次の場合、ヴィネットコントロールの効果は適用されません。
 - DXレンズを装着して撮影メニュー [撮像範囲] (□50) の [DX自動切り換え] を [する] に設定している場合または [撮像範囲設定] を [DX (24×16) 1.5×] に設定している場合
 - 撮影メニューの [多重露出] (□147) を設定しているとき
- TIFFおよびJPEG画像の場合、使用するレンズ、撮影条件や撮影シーンの組み合わせによっては、周辺光量が過剰に補正されて画像周辺部が明るくなることや補正が不足して暗くなること、画像にノイズ（むら）が発生することがあります。また、調整したピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールを設定している場合も、適切な補正ができない場合があります。初期設定は [標準] ですが、試し撮りをして、撮影状況に適した設定を選択することをおすすめします。

〔する〕にすると、広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影します。

- 〔自動ゆがみ補正〕は、Gタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズを装着した場合のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズを装着した場合は機能しません。また、対応レンズ以外を装着した場合については、動作を保証しません。

自動ゆがみ補正についてのご注意

- 〔する〕の場合、シャッターをきってから、記録が始まるまで時間がかかる場合があります。
- ゆがみを大きく補正するほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着している場合は、自動ゆがみ補正を行う前に、〔DX自動切り換え〕を〔する〕に設定するか、〔撮像範囲設定〕を〔DX (24×16) 1.5×〕に設定してください (□50)。その他の撮像範囲で撮影すると、画像周辺部が大きく切り取れたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。

関連ページ

撮影した画像のゆがみを補正する →  〔ゆがみ補正〕 (□300)

低速シャッタースピードになったときに発生するノイズ（ざらつき、むら、輝点）を低減します。

する	シャッタースピードが1秒より低速になった場合に、長秒時ノイズの低減処理を行います。
しない	長秒時ノイズの低減処理を行いません。

長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、表示パネルとファインダー内表示に **Job nr** が点滅します。この表示が消えるまで、撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理を行う場合、画像を記録するまでの時間は、長秒時ノイズ低減を行わない場合の約2倍になります。



▼ 長秒時ノイズ低減についてのご注意

- 連続撮影速度は遅くなり、連続撮影可能コマ数も少なくなります。
- 処理中に電源をOFFにすると、処理は行われず、長秒時ノイズの低減処理を行う前の画像が保存されます。

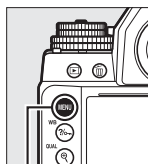
高感度ノイズ低減

感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき、むら、すじ）を低減します。

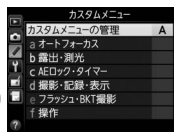
強め	全てのISO感度で高感度ノイズの低減処理を行います。ISO感度が高くなるほど、効果的です。 ・ノイズ低減の効果は、強い順に [強め] 、 [標準] 、 [弱め] になります。
標準	
弱め	
しない	ISO感度が3200以上の高感度になったときのみ、ノイズ低減処理を行います。この場合のノイズ低減効果は [弱め] よりもさらに弱くなります。

カスタムメニュー： 撮影に関するさらに詳細な設定

MENUボタンを押して、タブの  アイコンを選ぶと、カスタムメニューが表示されます。

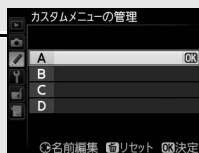
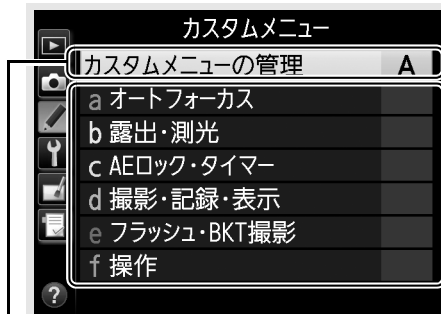


MENUボタン



カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更できます。カスタムメニュー画面は、2つの階層で構成されています。

<第1階層>



カスタムメニューの
管理 (□239)

<第2階層>



カスタムメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	
カスタムメニューの管理	239
a オートフォーカス	
a1 AF-Cモード時の優先	240
a2 AF-Sモード時の優先	240
a3 AFロックオン	241
a4 半押しAFレンズ駆動	241
a5 フォーカスポイント表示	242
a6 フォーカスポイント循環選択	242
a7 AF点数切り換え	242
b 露出・測光	
b1 中央部重点測光範囲	243
b2 基準露出レベルの調節	243
c AEロック・タイマー	
c1 半押しAEロック	244
c2 半押しタイマー	244
c3 セルフタイマー	245
c4 液晶モニターのパワーオフ時間	245
d 撮影・記録・表示	
d1 電子音設定	246
d2 ファインダー内格子線表示	246
d3 ISO感度表示	247
d4 インフォ画面のガイド表示	247
d5 低速連続撮影速度	247
d6 連続撮影コマ数	247
d7 連番モード	248
d8 インフォ画面の表示設定	249
d9 イルミネーター点灯	249
d10 露出ディレーモード	250

メニュー項目	
e フラッシュ・BKT撮影	
e1 フラッシュ撮影同調速度	251
e2 フラッシュ時シャッター スピード制限	252
e3 外付けフラッシュ発光	252
e4 フラッシュ使用時の露出補正	253
e5 モデリング発光	253
e6 オートブラケティングの セット	253
e7 BKT変化要素 (Mモード)	254
e8 BKTの順序	254
f 操作	
f1 ※ボタンの機能	255
f2 OKボタンの機能	255
f3 マルチセクターの 半押し起動	256
f4 Fnボタンの機能	257
f5 プレビューボタンの機能	260
f6 AE/AFロックボタンの機能	261
f7 コマンドダイヤルの設定	261
f8 ボタンのホールド設定	264
f9 カードなし時リリース	264
f10 インジケーターの+/-方向	265
f11 シャッタースピードの 簡易シフト	265

※ 設定内容が初期設定と異なる場合、変更されたメニュー項目の左上にアスタリスク (*) を表示します。



関連ページ

「カスタムメニューの初期設定」(□220)

カメラは、カスタムメニューの設定内容を、「A」、「B」、「C」、「D」の4通り記憶できます。それぞれのカスタムメニューで設定した内容は、他のカスタムメニューには反映されません。

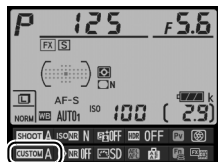
「カスタムメニューの管理」で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでからカスタムメニューの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時のカスタムメニューを選び直すことで呼び出せます。

■ 名前編集

カスタムメニュー「A」～「D」の名前を編集するには、名前を変更したいカスタムメニューを選んでマルチセクターの▶を押します。名前は20文字まで入力できます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください(□107)。

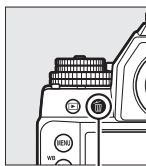
🔑 カスタムメニュー設定表示について

インフォ画面には、CUSTOMとカスタムメニュー名(「A」～「D」)が表示されます。

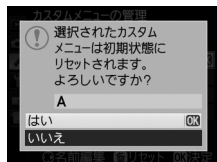


■ カスタムメニューのリセット

カスタムメニュー「A」～「D」を個別にリセットできます。リセットしたいカスタムメニューを選んで⏏ボタンを押すと、確認画面が表示されます。[はい]を選んでOKボタンを押すと、選んだカスタムメニューの設定をリセットして初期設定に戻します。



⏏ボタン



a : オートフォーカス

a1 : AF-Cモード時の優先

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のとき（ 59）にシャッターボタンを全押しした場合の動作を設定できます。

 リリース	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
 フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを押してもシャッターをきることができません。

- AFモードが**AF-C**のときは、[**AF-Cモード時の優先**] の設定にかかわらず、ピント表示（●）が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。

a2 : AF-Sモード時の優先

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-S**のとき（ 59）にシャッターボタンを全押しした場合の動作を設定できます。

 リリース	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
 フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを押してもシャッターをきることができません。

- AFモードが**AF-S**のときは、[**AF-Sモード時の優先**] の設定にかかわらず、ピント表示（●）が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、シャッターをきるまでフォーカスロックが行われます。



a3 : AFロックオン

MENU ボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のときに、被写体との距離が瞬時に大きく変わった場合のピント合わせの動作について設定できます。

AF  5 (強め)	被写体との距離が瞬時に大きく変わったとき、一定時間経過してから被写体を追従するピント合わせを行います。被写体とカメラの間を障害物が横切るような撮影など、意図に反して障害物にピント合わせを行うことを防止します。 被写体との距離が瞬時に大きく変わってから、追従するピント合わせを開始するまでの時間が長い順に、[5 (強め)]、[4]、[3 (標準)]、[2]、[1 (弱め)] になります。
AF  4	
AF  3 (標準)	
AF  2	
AF  1 (弱め)	被写体との距離が瞬時に大きく変わったときは、すぐに追従するようにピント合わせを行います。距離の異なる複数の被写体を次々と撮影するようなときに便利です。
しない	

a4 : 半押しAFレンズ駆動

MENU ボタン →  カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときの、ピント合わせの動作を設定できます。**[しない]** を選んだ場合は、**AF-ON** ボタンを押したときにピント合わせを行い、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。



a5：フォーカスポイント表示

MENUボタン→カスタムメニュー

ファインダー内のフォーカスポイントの点灯に関する設定ができます。

■■ フォーカスポイント照明

ファインダー内のフォーカスポイントの照明方法を設定できます。

オート	被写体が暗いときは、自動的にフォーカスポイントを赤色に照明します。
する	被写体の明るさにかかわらず常にフォーカスポイントが赤色に照明します。背景が明るいときは、照明が見えづらい場合があります。
しない	フォーカスポイントを照明しません。また、撮像範囲外の記録されない部分をうす暗く表示します (□□52)。

■■ マニュアルフォーカス時の表示

[する] に設定すると、マニュアルフォーカスでの撮影時にフォーカスポイントが点灯します。

a6：フォーカスポイント循環選択

MENUボタン→カスタムメニュー

フォーカスポイントをマルチセクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。

[する] を選んだ場合、一番端のフォーカスポイント (①) を選んでいるときに、さらにマルチセクターを同方向 (右図の場合は▶) に押すと、反対側の端のフォーカスポイント (②) に移動します。



a7：AF点数切り換え

MENUボタン→カスタムメニュー

手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。

AF39 39点	39点全てのフォーカスポイントを選べます。	
AF11 11点	11点のフォーカスポイントから選べます。フォーカスポイントの位置をすばやく動かしたいときに便利です。	

b : 露出・測光

b1 : 中央部重点測光範囲

MENU ボタン → カスタムメニュー

中央部重点測光は、ファインダー中央部を重点的に測光して、露出値を決定します。中央部重点測光の範囲を変更できます。

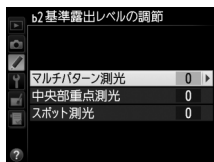
- 非CPUレンズを装着しているときの測光範囲は $\phi 12\text{mm}$ 相当になります。



b2 : 基準露出レベルの調節

MENU ボタン → カスタムメニュー

適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめ（+側）または暗め（-側）に調節できます。1/6段ステップ幅で±1段の範囲で設定できます。初期設定は0です。



✓ 基準露出レベルの調節について

- カスタムメニュー b2 [基準露出レベルの調節] は、カスタムメニュー「A」～「D」ごとに設定します。カスタムメニューを切り換えるときは、カスタムメニュー b2 の設定の違いにご注意ください。
- カスタムメニュー b2 [基準露出レベルの調節] を 0 以外に設定しても、 マークは表示されませんのでご注意ください。設定した基準露出レベルは、カスタムメニュー b2 の画面でのみ確認できます。
- 基準露出レベルの調節の設定は、ツーボタンリセットでは解除できません。

c : AEロック・タイマー

c1 : 半押しAEロック

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

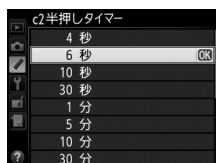
シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行うかどうかを設定できます。

c2 : 半押しタイマー

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししてから何も操作しないで一定時間が過ぎると、待機状態に入ります。この待機状態になるまでの時間を変更できます。

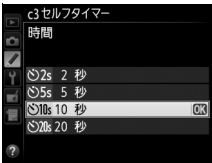
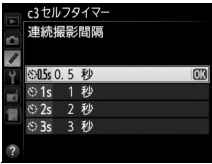
- 待機状態になると、表示パネルのシャッター速度と絞り値の表示とファインダー内の表示が消灯します。
- 半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。



c3：セルフタイマー

MENUボタン → カスタムメニュー

セルフタイマー撮影時 (□48) にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数、連続撮影するときの撮影間隔を設定できます。

時間	シャッターがきれるまでの時間を選べます。	
撮影コマ数	マルチセクターの▲または▼を押して、1コマ～9コマの間で設定できます。	
連続撮影間隔	[撮影コマ数] を2コマ以上に設定した場合に、連続撮影するときの撮影間隔を選べます。	

c4：液晶モニターのパワーオフ時間

MENUボタン → カスタムメニュー

液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。

- [画像の再生]、[メニュー表示]、[インフォ画面表示]、[撮影直後の画像確認]、[ライブビュー表示] で液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を個別に設定できます。
- 初期設定は、[画像の再生] と [インフォ画面表示] の場合は10秒、[メニュー表示] は1分、[撮影直後の画像確認] は4秒、[ライブビュー表示] は10分です。
- 液晶モニターの表示時間を延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。



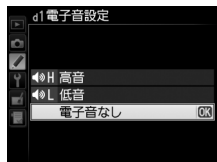
d : 撮影・記録・表示

d1 : 電子音設定

MENUボタン → カスタムメニュー

電子音の音の高さを設定できます。

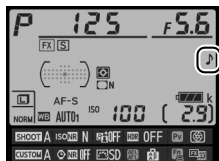
電子音の音の高さを「高音」と「低音」から選べます。「電子音なし」を選ぶと、電子音は鳴りません。



- 「電子音なし」以外に設定すると、次の場合に電子音が鳴ります。
 - セルフタイマー作動中
 - オートフォーカスのピントが合ったとき（ただし、AFモード（59）がAF-Cのときは電子音は鳴りません）
 - 「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとしたとき（21）
- レリーズモードがQ（46）の場合は、「電子音設定」の設定にかかわらず、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

電子音設定時の表示について

「電子音なし」以外の場合はインフォ画面に♪（電子音あり）マークが表示されます。



d2 : ファインダー内格子線表示

MENUボタン → カスタムメニュー

ファインダー内に構図用格子線（9）を表示するかどうかを設定できます。



d3：ISO感度表示

MENU ボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

[する] に設定すると、ファインダーの記録可能コマ数表示部に、ISO感度を表示できます。

d4：インフォ画面のガイド表示

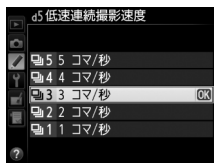
MENU ボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

インフォ画面で選んだ項目の文字表示ガイドを表示するかどうかを設定します (□13)。

d5：低速連続撮影速度

MENU ボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

リリースモードがCLのときの連続撮影速度を [5コマ/秒] ～ [1コマ/秒] の間で設定できます (□46)。



鉛筆アイコン インターバルタイマー撮影速度について

リリースモードをSに設定してインターバルタイマー撮影を行った場合、カスタムメニュー d5で設定した連続撮影速度で撮影されます。

d6：連続撮影コマ数

MENU ボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

連続撮影を最大何コマまで継続できるかを設定できます。マルチセレクトの▲または▼を押して、1コマ～100コマの間で設定します。

鉛筆アイコン 連続撮影コマ数について

カスタムメニュー d6 [連続撮影コマ数] で設定するコマ数は、連続撮影を継続できる最大のコマ数です。ただし、連続撮影速度を維持したまま連続撮影できるコマ数には、画質モードなどによって上限があります (□365)。このコマ数を超えると「**CC**」と表示され、連続撮影速度は低下します。



ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する	SDカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、連番でファイル番号を付けます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない	SDカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。 ・連番モードを[する]から[しない]に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に[する]に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きます。
リセット	[する]を設定したときのファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーに画像ファイルがない場合は0001から連番で画像が記録されます。すでにファイルがある場合には、そのファイル番号の次の番号からファイル番号が付きます。

ファイル番号について

- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が999に達しているときにファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達すると、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。この場合は、カスタムメニュー d7 [連番モード] を[リセット]した後、SDカードを初期化するか、交換してください。

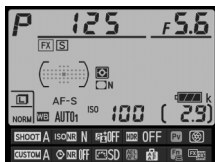
フォルダーの自動作成について

- 撮影中に記録フォルダー内に999個のファイルが記録された場合、SDカード内に存在する最大フォルダー番号+1という番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。
- 撮影中にファイル番号が9999となった場合、SDカード内に存在する最大フォルダー番号+1の番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。

d8：インフォ画面の表示設定

MENU ボタン → カスタムメニュー

明るい場所や暗い場所で液晶モニターが見づらいときにインフォ画面（□10）の見え方を設定できます。



黒文字表示



白文字表示

AUTO 自動	インフォ画面の表示を見やすくするように、カメラが自動的に白黒反転します。明るい場所では黒文字表示に、暗い場所では明るさを抑えた白文字表示に切り替わります。	
手動	B 黒文字	明るい場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、液晶モニターが点灯し、文字を黒く表示します。
	W 白文字	暗い場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、液晶モニターの明るさを抑え、文字を白く表示します。

d9：イルミネーター点灯

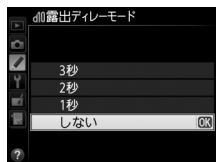
MENU ボタン → カスタムメニュー

[しない] に設定すると、 ボタンを押したときだけ表示パネルのイルミネーター（照明）が点灯します（□5）。[する] に設定すると、 ボタンを押さなくても、半押しタイマー（□32）の作動中には表示パネルのイルミネーター（照明）を常に点灯します。ただし、バッテリーの消耗は早くなります。

- カスタムメニュー d9 [イルミネーター点灯] の設定にかかわらず、シャッターボタンを押している間、イルミネーターは消灯します。



顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に抑えるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約1～3秒後にシャッターがきれるように変更できます。



e：フラッシュ・BKT撮影

e1：フラッシュ撮影同調速度

MENU ボタン → カスタムメニュー

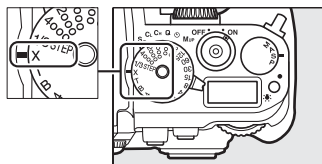
フラッシュ撮影時の同調速度を設定できます。

1/250秒 (オートFP)	フラッシュ撮影時の同調速度を1/250秒または1/200秒に設定します。別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライト(□120) 使用時は1/250秒または1/200秒より速いシャッタースピードでは自動的にFP発光に切り替わります。※
1/200秒 (オートFP)	
1/200秒	
1/160秒	フラッシュ撮影時の同調速度を、1/200～1/60秒の範囲で設定できます。
1/125秒	
1/100秒	
1/80秒	
1/60秒	

※ 露出モード**P**または**A**で、表示パネルまたはファインダー内表示のシャッタースピードがカスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] で設定した同調速度を示す場合、実際に制御されるシャッタースピードが同調速度よりわずかでも高速側であれば、FP発光に切り替わります。

シャッタースピードの同調速度を固定するには

露出モード**S**または**M**のときに、シャッタースピードの同調速度をカスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] で設定した値に固定するには、シャッターモードダイヤルを**X**に合わせてください。表示パネルとファインダー内表示に**X**（フラッシュシンクロマーク）と設定した同調速度が表示されます。



FP発光について

フラッシュ撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できます(□129)。**[1/250秒 (オートFP)]** や **[1/200秒 (オートFP)]** に設定すると、シャッタースピードがフラッシュ撮影同調速度よりも高速側になった場合、自動的にFP発光に切り替わります。日中でも、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影ができます。

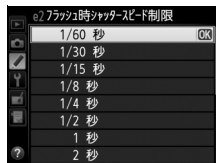
- FP発光に切り替わると、インフォ画面のフラッシュモードに「FP」が表示されます(□125)。

e2：フラッシュ時シャッター スピード制限

MENUボタン → カスタムメニュー

露出モードが**P**または**A**の場合のフラッシュ撮影時のシャッタースピードの低速側の制限を、**[1/60秒] ～ [30秒]** から設定できます。

- スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や露出モードが**S**または**M**の場合には、カスタムメニューe2**[フラッシュ時シャッタースピード制限]**の設定にかかわらず、シャッタースピードの低速側の制限は30秒になります。



e3：外付けフラッシュ発光

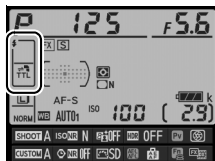
MENUボタン → カスタムメニュー

別売スピードライトSB-400またはSB-300使用時のフラッシュの発光方式を設定できます。

TTL TTLモード	フラッシュの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます (□126)。
M マニュアル発光モード	指定した発光量でフラッシュが発光します。モニター発光は行いません。

フラッシュの発光方式について

フラッシュの発光方式は、インフォ画面のフラッシュモードで確認できます (□10、125)。



e4：フラッシュ使用時の露出補正

MENUボタン→カスタムメニュー

フラッシュ撮影時に露出補正を設定した場合のフラッシュの調光を設定できます。

  全体を補正	露出と調光量を同時に補正します。全体の露出が変化します。
 背景のみ補正	背景の露出だけを補正します。

e5：モデリング発光

MENUボタン→カスタムメニュー

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト(□119) 使用時にカメラのPvボタンを押したときに、陰影の状況を把握するためのモデリング発光を行わないように設定できます。

e6：オートブラケットिंगのセット

MENUボタン→カスタムメニュー

オートブラケットिंग(□136)の種類を設定できます。

 AE・フラッシュ ブラケットिंग	露出値(AE)とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。
 AEブラケットिंग	露出値を変えながら撮影します。
 フラッシュ ブラケットिंग	フラッシュの発光量を変えながら撮影します。
 WB WBブラケットिंग (□141)	1回の撮影でホワイトバランス(WB)を変えた画像を記録します。複数の光源が混在しているなど、ホワイトバランスを決めにくいときや、微妙な白の色みを好みで選びたいときなどに便利です。RAW画像を含む画質モードを設定したときは、WBブラケットिंगは使用できません。
 ADL ADLブラケットिंग (□144)	アクティブD-ライティング(□111)の効果の度合いを変えながら撮影します。



e7 : BKT変化要素 (Mモード)

MENU ボタン → カスタムメニュー

露出モードMでオートブラケティングを行うときに変化する内容は、カスタムメニュー e6 [オートブラケティングのセット] と e7 [BKT変化要素 (Mモード)] との組み合わせによって次のようになります。

カスタムメニュー e7 [BKT変化要素 (Mモード)]	カスタムメニュー e6 [オートブラケティングのセット]	
	AE・フラッシュ ブラケティング※	AEブラケティング※
 フラッシュ・シャッタースピード	シャッタースピードとフラッシュの調光レベル	シャッタースピード
 フラッシュ・シャッタースピード・絞り値	シャッタースピード、絞り値、フラッシュの調光レベル	シャッタースピードと絞り値
 フラッシュ・絞り値	絞り値とフラッシュの調光レベル	絞り値
 フラッシュ	フラッシュの調光レベル	—

※ カスタムメニュー e7 が [フラッシュ・シャッタースピード]、[フラッシュ・シャッタースピード・絞り値]、[フラッシュ・絞り値] のいずれかのときに、[感度自動制御] の [感度自動制御] (72) が [する] に設定され、フラッシュを使用していない場合、ブラケティング1コマ目のISO感度で固定されます。

フラッシュ調光レベルについて

フラッシュブラケティング中は、フラッシュ調光レベルは、i-TTL調光時または絞り連動外部自動調光時のみ変化します。

e8 : BKTの順序

MENU ボタン → カスタムメニュー

オートブラケティングの補正順序を変更できます。

 [0] → [-] → [+]	「補正なし」→「一側に補正」→「+側に補正」の順になります。
 [-] → [0] → [+]	「一側に補正」→「補正なし」→「+側に補正」の順になります。

- カスタムメニュー e6 [オートブラケティングのセット] が [ADL ブラケティング] の場合、e8の設定を変更しても補正順序は変わりません。

f : 操作

f1 : 点灯ボタンの機能

MENU ボタン → 点灯カスタムメニュー

点灯ボタンを押したときの機能を設定できます。

	点灯ボタンの点灯/消灯	表示パネルが点灯します。
	点灯ボタンとインフォ画面の点灯/消灯	表示パネルとインフォ画面が点灯します。

f2 : OKボタンの機能

MENU ボタン → OK カスタムメニュー

ファインダー撮影時とライブビュー撮影時または再生時にOKボタンを押したときの機能を設定できます。

撮影モード

RESET	フォーカスポイント 中央リセット	OK ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
	選択フォーカスポイント表示	OK ボタンを押すと、選択中のフォーカスポイントが点灯します。
	使用しない	OK ボタンは機能しません。



再生モード

 1コマとサムネイルの切り換え	OK ボタンを押すごとに、1コマ表示とサムネイル表示（4コマ、9コマ、72コマ）を切り換えます。
 ヒストグラム表示	OK ボタンを押している間、ヒストグラム（185）を表示します。サムネイル表示時もヒストグラム表示できます。
 拡大画面との切り換え	OK ボタンを押すと、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度 OK ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 - ファインダー撮影した画像は撮影時のフォーカスポイント、ライブビュー撮影した画像は画面中央を中心にして拡大表示されます。 「拡大画面との切り換え」を選んで ▶ を押すと、拡大率を「低倍率」、「中倍率」、「高倍率」から選べます。 - サムネイル表示時も拡大表示できます。
 フォルダー指定	OK ボタンを押すと、「フォルダー指定メニュー」画面が表示され、画像を再生するフォルダーを指定できます。

ライブビュー

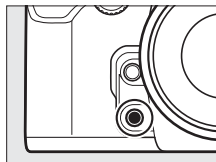
RESET フォーカスポイント中央リセット	ライブビュー表示中に OK ボタンを押すと、フォーカスポイントが画面中央に移動します。
 拡大画面との切り換え	ライブビュー表示中に OK ボタンを押すと、フォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度 OK ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 「拡大画面との切り換え」を選んで ▶ を押すと、拡大率を「低倍率」、「中倍率」、「高倍率」から選べます。
使用しない	OK ボタンは機能しません。

f3：マルチセレクトの半押し起動

MENU ボタン → カスタムメニュー

半押しタイマー（32）がきれたときにマルチセレクトを操作すると、半押しタイマーが起動するように設定できます。

Fnボタンを単独で押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。



■ 押し時の動作

Fnボタンを単独で押したときの機能を設定できます。

 プレビュー	レンズの絞り羽根が絞り込まれ、被写界深度が確認できます (□40)。
 FV-L	別売のスピードライト (□119) 使用時は、1回押すとFVロック (□132) を行い、もう一度Fnボタンを押すと解除します。
 AE-L/AF-L	Fnボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	Fnボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L (リリースで リセット)	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。もう一度Fnボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがきれると、AEロックを解除します。
 AE-L (ホールド)	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度Fnボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AF-L	Fnボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AF-ON	Fnボタンを押している間、AF-ONボタンを押し続けたときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。
 フラッシュ 発光禁止	Fnボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。

BKT  BKT自動連写	カスタムメニューe6 [オートブラケットのセット] が [WB ブラケット] 以外の場合でリリースモードが CH または CL のときは、Fn ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間、1 回分のブラケット設定コマ数を撮影し終えた後も、引き続きブラケット撮影をします。また、リリースモードが S または Q のときは、Fn ボタンを押しながらシャッターボタンを全押し続けると、1 回分のブラケット設定コマ数を連続撮影します。 [オートブラケットのセット] が [WB ブラケット] の場合は、Fn ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間連続撮影して、各コマに対して WB ブラケットを行います。
+RAW  プラスRAW記録	画質モードが JPEG (FINE)、JPEG (NORMAL)、JPEG (BASIC) の場合、Fn ボタンを押すと表示パネルの画質モードに「RAW」が表示され、押してから 1 回の撮影のみ RAW 画像が JPEG 画像と同時に記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度 Fn ボタンを押すと [プラスRAW記録] を解除します。
 マルチパターン測光簡易設定	Fn ボタンを押している間、測光モードがマルチパターン測光になります。
 中央部重点測光簡易設定	Fn ボタンを押している間、測光モードが中央部重点測光になります。
 スポット測光簡易設定	Fn ボタンを押している間、測光モードがスポット測光になります。
 ファインダー内格子線表示	Fn ボタンを 1 回押すと、ファインダーに格子線を表示します (□9)。もう一度 Fn ボタンを押すと、格子線表示を終了します。
 ファインダー内水準器	1 回押すと、ファインダー内表示にローリング方向の水準器インジケータを表示します (□259)。もう一度 Fn ボタンを押すと、水準器表示を終了します。
 マイメニュー	Fn を押すと、マイメニュー (□309) を表示します。
 マイメニューのトップ項目先へジャンプ	マイメニューの最上位に登録してある項目へジャンプします。よく使うメニュー項目をマイメニューの最上位に登録して、この機能を使うと便利です。
 再生	Fn ボタンに  ボタンと同じ機能を割り当てます。望遠レンズなどを使用していて、 ボタンを左手で操作できないときに便利です。
設定しない	Fn ボタンは機能しません。

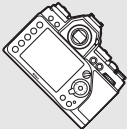
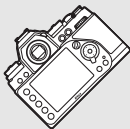
✎【押し時の動作】と【コマンドダイヤル併用時の動作】が併用できない場合について

【押し時の動作】と【コマンドダイヤル併用時の動作】の機能が同時に設定できない場合は、メッセージが表示され、先に設定していた内容が【設定しない】に変更されます。

✎水準器インジケータについて

【押し時の動作】を【ファインダー内水準器】に設定してFnボタンを押すと、カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、ファインダーに水準器インジケータを表示します。この「水準器インジケータ」の見方は次の通りです。

ローリング方向

カメラが時計回りに傾いている場合	カメラが正位置の場合 (傾いていない場合)	カメラが反時計回りに傾いている場合
		
◀■■■■ 0 ■■■▶	■■ 0 ■■	■■ 0 ■■■▶

- カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。
- ファインダーに表示できる水準器インジケータはローリング方向のみです。液晶モニターにローリングとピッチングの両方向の水準器を表示するには、セットアップメニューの【水準器表示】をお使いください（□□278）。

■■ コマンドダイヤル併用時の動作

Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

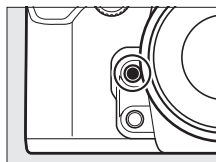
 撮像範囲選択	Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、【撮像範囲】（□□50）の設定を切り換えられます。
Non-CPU 手動設定済み レンズの選択	Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在使用中のレンズの情報を、セットアップメニューの【レンズ情報手動設定】（□□158）で設定したレンズNo.のものに切り換えます。
 アクティブD-ライティング設定	Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、アクティブD-ライティング（□□111）の設定を切り換えられます。

HDR	HDR (ハイダイナミックレンジ)	Fn ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、 [HDRモード] が切り替わります (□113)。 Fn ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、 [露出差] を変更できます。
ISO-A	感度自動制御	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、 [感度自動制御] (□72) の設定を切り換えられます。
	多重露出	Fn ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、 [多重露出モード] が切り替わります (□147)。 Fn ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、多重露出の [コマ数] を変更できます。
	設定しない	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

f5：プレビューボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

Pvボタンを単独で押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。



■■ 押し時の動作

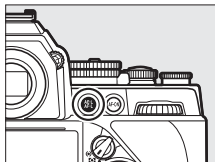
Pvボタンを単独で押したときの機能は、カスタムメニュー f4 **[Fnボタンの機能]** → **[押し時の動作]** (□257) と同じです。初期設定は**[プレビュー]** (□167) です。

■■ コマンドダイヤル併用時の動作

Pvボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は、カスタムメニュー f4 **[Fnボタンの機能]** → **[コマンドダイヤル併用時の動作]** (□259) と同じです。初期設定は**[設定しない]** です。



AE/AFロックボタンを単独で押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。



■ 押し時の動作

AE/AFロックボタンを単独で押したときの機能は、カスタムメニュー f4 [Fnボタンの機能] → [押し時の動作] (□257) と同じです。初期設定は [AE-L/AF-L] です。

■ コマンドダイヤル併用時の動作

AE/AFロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は、カスタムメニュー f4 [Fnボタンの機能] → [コマンドダイヤル併用時の動作] (□259) とほぼ同じですが [HDR (ハイダイナミックレンジ)]、[多重露出] は選べません。初期設定は [設定しない] です。

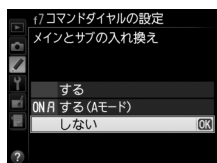
メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を変更できます。

■ 回転方向の変更

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルを操作するときの回転方向を逆方向に変更できます。

■ ■ メインとサブの入れ換え

シャッタースピードを設定するメインコマンドダイヤルと、絞り値を設定するサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えられます。



する	メインコマンドダイヤルで絞り値を、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。
ON/A する (Aモード)	露出モードが A のときのみ、メインコマンドダイヤルで絞り値を設定できます。
しない	メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを、サブコマンドダイヤルで絞り値を設定します。

■ ■ 絞り値の設定方法

CPUレンズの装着時に、露出モード**A**または**M**でレンズの絞りリングを使って絞り値を設定できるように変更できます。

サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤルで絞り値をセットします（「メインとサブの入れ換え」を「する」に設定した場合は、メインコマンドダイヤルでセットします）。
絞りリング	レンズの絞りリングで絞り値をセットします。絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、絞り値の表示は1段ステップになります。

- 絞りリングのないレンズ（Gタイプ、Eタイプレンズ）装着時は、**「絞り値の設定方法」**での設定にかかわらず、絞り値はサブコマンドダイヤルで設定します。
- 非CPUレンズ装着時は、**「絞り値の設定方法」**での設定にかかわらず、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。



再生/メニュー画面で使用

画像のコマ送りやメニュー操作を、マルチセクターでの操作から、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの操作でも行えるように変更できます。

する	再生時： • 1コマ表示時には、メインコマンドダイヤルで撮影画像をコマ送りします。サブコマンドダイヤルで画像情報の表示ページを切り換えます。 • サムネイル表示時には、メインコマンドダイヤルを回すと、黄色の枠（カーソル）が左右に移動し、サブコマンドダイヤルを回すと、上下に移動します。 メニュー画面表示時※： メインコマンドダイヤルで選択項目を切り換えます。サブコマンドダイヤルを時計方向に回すと、サブメニューに移動します。反時計回りに回すと、前の画面に戻ります。
ON  (撮影後確認時を除く)	[する] と同じ内容ですが、撮影直後の画像確認時は操作できません。
しない	再生時の表示画像の切り換え、画像の選択、およびメニュー画面での項目の選択は、マルチセクターを操作して行います。

※ サブコマンドダイヤルでは項目を決定することはできません。項目を決定するには、 ボタンかマルチセクターの  を押してください。



ボタンを押しながらコマンドダイヤルを操作するとき、指を放しても設定できる状態が維持できます。

[ボタンのホールド設定] の対象ボタンは、 (Q) ボタン、 (QUAL) ボタン、 (WB) ボタン、AFモードボタンおよびBKTボタンです。また、カスタムメニュー f4 [Fn ボタンの機能]、f5 [プレビューボタンの機能] または f6 [AE/AF ロックボタンの機能] でそれぞれのボタンに [コマンドダイヤル併用時の動作] が割り当てられている場合も、[ボタンのホールド設定] の対象になります。

する	1回ボタンを押すと、ボタンを放しても設定できる状態が維持され、コマンドダイヤルで設定できます。もう一度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、半押しタイマーがきれると、解除されます。 カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] が [制限なし] に設定されている場合は、自動的に解除されません。
しない	ボタンを押し続けている間のみ設定できる状態となります。

f9：カードなし時リリース

カメラにSDカードを入れていないときのリリース操作を設定できます。

LOCK リリース禁止	SDカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK リリース許可	SDカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。再生時には [デモモード] と表示され、画像は記録できません。

f10：インジケータの +/-方向

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー内表示およびインフォ画面 (info) での露出、露出補正、オートブラケティングのインジケータの+と-方向を入れ換えることができます。

+0- 	インジケータの+側を左に、-側を右に表示します。
-0+ 	インジケータの-側を左に、+側を右に表示します。

f11：シャッタースピードの 簡易シフト

MENUボタン →  カスタムメニュー

[する] に設定すると、シャッタースピードダイヤルで設定したシャッタースピードを、メインコマンドダイヤルで1/3ステップずつ±2/3段までシフトできます。

☒ シャッタースピードダイヤルを4（赤文字、4秒）に設定している 場合

メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを最長30秒まで設定できます。



Y セットアップメニュー： カメラを使いやすくする基本設定

MENUボタンを押して、タブのYアイコンを選ぶと、セットアップメニューが表示されます。



MENUボタン

セットアップメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📖
カードの初期化（フォーマット）	267
液晶モニターの明るさ	268
インフォ画面の自動表示	268
イメージセンサークリーニング	326
クリーニングミラーアップ※1	329
イメージダストオフデータ取得	269
フリッカー低減	271
地域と日時	272
言語（Language）	273
縦横位置情報の記録	273
画像コメント	274
著作権情報	275

メニュー項目	📖
カメラ設定の保存と読み込み	276
水準器表示	278
レンズ情報手動設定	158
AF微調節	279
HDMI	216
位置情報	164
ワイヤレスリモートコントローラーのFnボタン	280
ワイヤレスモバイルアダプター	280
Eye-Fi送信機能※2	281
ファームウェアバージョン	282

※1 バッテリー残量表示が🔋以下のときは選べません。

※2 この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ表示されます。



関連ページ

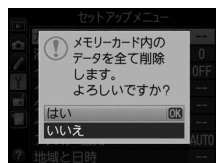
「セットアップメニューの初期設定」（📖222）



このカメラに他の機器で使ったSDカードを初めて入れたときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。**SDカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**必要なデータがある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください（□203）。

1 【カードの初期化（フォーマット）】画面で【はい】を選ぶ

- 初期化をキャンセルするには、【いいえ】を選びます。



2 OKボタンを押す

- 初期化が完了してセットアップメニュー画面に戻るまで、電源をOFFにしたり、バッテリーやSDカードを取り出したりしないでください。



液晶モニターの明るさ

MENUボタン →  セットアップメニュー

画像の再生時、メニュー表示時、インフォ画面表示時の液晶モニターの明るさを、マルチセレクトの▲または▼を押して調整できます。+にすると明るく、-にすると暗くなります。



ライブビュー表示中の液晶モニターの明るさを調整するには

ライブビュー表示中の液晶モニターの明るさを調整するには、「**i** ボタンを使う」(□171) をご覧ください。

インフォ画面の自動表示

MENUボタン →  セットアップメニュー

[自動表示する] が選ばれている場合、シャッターボタンを半押しして指を放すと、液晶モニターにインフォ画面を表示します。

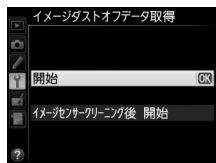


別売のCapture NX 2 (□321) の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子の前面にあるローパスフィルターに付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、Capture NX 2の使用説明書をご覧ください。

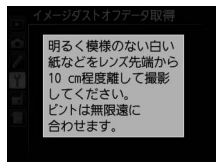
■ イメージダストオフデータ取得の手順

1 イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

- ・[開始] を選んでOKボタンを押すと、[イメージダストオフデータ取得] 画面が表示されます。



- ・[イメージセンサークリーニング後 開始] を選んでOKボタンを押すと、すぐにイメージセンサークリーニングを実行します。イメージセンサークリーニングの実行後に、[イメージダストオフデータ取得] 画面が表示されます。
- ・表示パネルとファインダー内表示には、右のように表示されます。
- ・データ取得を取り消したいときは、MENUボタンを押してください。



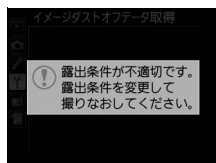
2 レンズ先端から10cm程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- ・オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- ・マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。



3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを押すと、液晶モニターが消灯します。
- 被写体が暗いとき、ノイズ低減が自動的に実行される場合があります。その場合、SDカードへの記録に時間がかかることがあります。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。

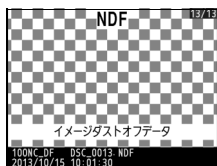


イメージセンサークリーニングについてのご注意

イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致なくなるため、Capture NX 2のイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、[イメージセンサークリーニング後 開始] を選択後に撮影することをおすすめします。

イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、[イメージダストオフデータ取得] を選べません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のレンズ（DXレンズを除く）をおすすめします（□314）。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、右の画面が表示されます。



蛍光灯や水銀灯などの光源下で、ライブビュー表示中（□166）に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」を低減できます。通常はカメラが自動的に電源周波数を選ぶ[オート]をお使いください。[オート]にしている場合、フリッカー低減効果が得られない場合は、お使いの地域の電源周波数に応じて、[50 Hz]と[60 Hz]から選びます。東日本など電源周波数が50 Hzの地域では[50 Hz]を選び、西日本など電源周波数が60 Hzの地域では[60 Hz]を選んでください。



✓ フリッカー低減についてのご注意

- [オート]に設定してもフリッカー低減効果が得られない場合や電源周波数がわからない場合は、設定を切り換えて試し撮りをするをおすすめします。
- 被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。絞りを絞込んで（より大きい数値にして）ください。

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。



現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、[日時の設定] で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。	
日時の設定	[現在地の設定] で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。	
日付の表示順	液晶モニターに表示される、日付の年、月、日の表示順を、[年/月/日]、[月/日/年]、[日/月/年] から選びます。	
夏時間の設定	現在地で夏時間（サマータイム制）が実施されている場合は[する]に、そうでない場合は[しない]に設定します。[する]にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は[しない]です。	

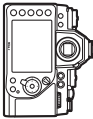
- 日時が設定されていない場合、インフォ画面に時刻未設定マーク **CLOCK** が点滅して警告します。



メニュー画面やメッセージの表示言語を選びます。

縦横位置情報の記録

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。

する	液晶モニターや付属のViewNX 2、別売のCapture NX 2 (□321) で画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に回転表示されます。 記録されるカメラの縦横位置情報は、次の3種類です。  横位置  縦位置 時計回りに 90°回転  縦位置 反時計回りに 90°回転
しない	縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示します。

✓ 縦横位置情報記録についてのご注意

カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

📎 再生メニュー【縦位置自動回転】

再生メニューの【縦位置自動回転】(□226)では、【縦横位置情報の記録】を【する】に設定して縦位置で撮影された画像を、液晶モニターに縦位置で表示するように変更できます。

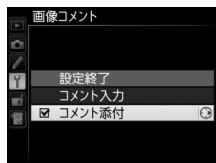
あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、付属のViewNX 2や別売のCapture NX 2 (□321)のメタデータで確認できます。

■ コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。[コメント入力]を選んでマルチセクターの▶を押すと、画像コメントの入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□107)。

■ コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、[コメント添付]を選んで▶を押し、チェックボックスをオン☒にします。[設定終了]を選んでOKボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。



画像情報に表示される画像コメントについて

入力・添付された画像コメントは、「撮影情報」の「画像コメント」に表示されます (□187)。

撮影した画像に著作権情報を添付することができます。添付された著作権情報は、付属のViewNX 2や別売のCapture NX 2 (□321) のメタデータで確認できます。

■■ 撮影者名入力、著作権者名入力

36文字までの撮影者名と、54文字までの著作権者名を登録できます。[撮影者名入力] または [著作権者名入力] を選んでマルチセクターの▶を押すと名前を入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□107)。

■■ 著作権情報添付

登録した著作権情報を画像に添付したいときは、[著作権情報添付] を選んで▶を押し、チェックボックスをオン☒にします。[設定終了] を選んでOKボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全て著作権情報が添付されます。



✓ 著作権情報に関するご注意

- カメラを貸したり譲渡したりする場合は、撮影者名や著作権者名の違法な使用を防ぐため、[著作権情報添付] の設定を必ず解除してください。また、撮影者名と著作権者名は空欄にしてください。
- [著作権情報] の使用によって生じたトラブルや損害など、当社は一切責任を負いません。

🔗 画像情報に表示される著作権情報について

入力・添付された著作権情報は、「撮影情報」に表示されます (□187)。

カメラの各機能の設定データをSDカードに保存できます。また、SDカードに保存されている設定データをカメラで読み込むこともできるので、複数のDfを同じ設定で使う場合などに便利です。設定を保存、読み込みできる機能は次の通りです。

再生 メニュー	再生画面設定
	撮影直後の画像確認
	削除後の次再生画像
	縦位置自動回転
撮影 メニュー (A~D 全メニュー)	撮影メニューの管理
	ファイル名設定
	画質モード
	画像サイズ
	撮像範囲
	JPEG圧縮
	RAW記録
	ホワイトバランス (微調整値、プリセット マニュアルデータ)
	ピクチャーコントロール
	色空間
	アクティブ
	D-ライティング
	ヴェネットコントロール
	自動ゆがみ補正
	長秒時ノイズ低減
	高感度ノイズ低減
	感度自動制御
カスタム メニュー (A~D 全メニュー)	全メニュー

セットアップ メニュー	インフォ画面の 自動表示
	イメージセンサー クリーニング
	フリッカー低減
	地域と日時 (日時の設定を除く)
	言語 (Language)
	縦横位置情報の記録
	画像コメント
	著作権情報
	レンズ情報手動設定
	HDMI
	位置情報
	ワイヤレスリモート コントローラーの Fnボタン
	ワイヤレスモバイル アダプター
	Eye-Fi送信機能
マイメニュー/ 最近設定した 項目	マイメニューに登録し たメニュー項目
	最近設定したメニュー 項目
	このタブの機能変更



■■ 保存

カメラの設定データをSDカードに保存します。SDカードに空き容量がない場合は、エラーメッセージが表示され、設定データは保存されません。保存された設定データは他機種のカメラとの互換性はありません。

■■ 読み込み

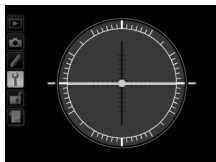
SDカードからカメラの設定データを読み込みます。SDカードが装着されていないときや、SDカードに設定データが記録されていないときは、「読み込み」は選べません。

設定データについてのご注意

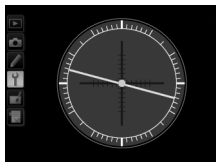
SDカードに保存したカメラの設定データのファイル名は「NCSETUPD」です。ファイル名を変更すると、設定データを読み込めなくなるためご注意ください。

カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、液晶モニターにローリング方向とピッチング方向の水準器を表示します。

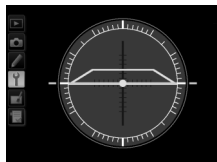
- カメラを正位置（傾きのない状態）にすると、ローリング方向の場合は水準器表示の基準線が緑色に変わります。ピッチング方向の場合は中央の●が緑色に変わります。
- 水準器の1目盛は、5° を表します。



カメラがローリング方向、ピッチング方向とも正位置の場合



カメラがローリング方向に傾いている場合



カメラがピッチング方向に傾いている場合

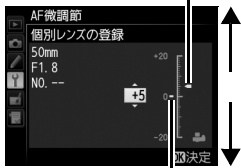
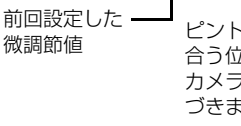
水準器の精度について

カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。測定できない状態までカメラを傾けると、水準器の目盛が消灯します。

関連ページ

- ファインダーにローリング方向の水準器インジケータを表示する →  f4 [Fnボタンの機能] (□258、259)
- ライブビュー時に水準器を表示する → 「ライブビュー時の表示を切り換える」 (□173)

装着したレンズごとに最適なピント合わせを行いたいときに、自分でピント位置を調節できます。通常はAF微調節を行う必要はありません。必要な場合のみ調節を行ってください。正常なレンズを調整すると、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。

AF微調節 (する/しない)	する	AF微調節の設定が有効になります。
	しない	AF微調節を行いません。
個別レンズ の登録	装着しているCPUレンズの微調節値を登録できます。マルチセクターの▲または▼を押して、+20～-20の範囲で調節できます。最大12種類のレンズを登録できます。 • 非CPUレンズや、すでに登録してあるレンズと同じ種類のレンズは登録できません。	今回の微調節値  ピントが合う位置がカメラから遠ざかります。
その他レンズ の登録	[個別レンズの登録] で登録していないCPUレンズを装着したときに、一律で微調節する値を設定します。▲または▼を押して、+20～-20の範囲で調節できます。	前回設定した微調節値  ピントが合う位置がカメラに近づきます。
個別レンズ 登録リスト	[個別レンズの登録] で登録したレンズを一覧表示します。登録リストからレンズを選んで▶を押すと、右の画面が表示されます。 • [識別番号入力] 画面では、レンズの識別番号を変更できます。▲または▼を押して識別番号を選んで、OKボタンを押します。[個別レンズの登録] は同じ種類のレンズを複数登録できないため、たとえば、同じレンズを数本所有しているときに登録したレンズのシリアル番号の末尾2桁などを設定しておく、どのレンズで登録したかを識別できるので便利です。	

✓ AF微調節設定時のご注意

AF微調節を行うと、レンズの無限遠側または至近側で、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。

✓ ライブビュー撮影時のAF微調節について

ライブビュー撮影時にオートフォーカスでピント合わせを行うときは、[AF微調節]で設定した微調節値は適用されません。

🔍 個別レンズの登録について

同じ種類のレンズは複数登録できませんが、テレコンバーターを装着した場合は違うレンズとして個別登録できます。

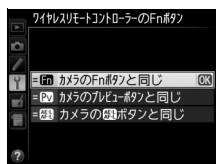
🔍 登録したレンズを削除するには

[個別レンズの登録] で登録したレンズを削除するには、[個別レンズ登録リスト] 画面の一覧表示から削除したいレンズを選んで、 ボタンを押します。

ワイヤレスリモートコントローラーのFnボタン

MENUボタン →  セットアップメニュー

別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-1またはWR-T10 (□322) のFnボタンを押したときの機能を、カメラのどのボタンと合わせるかを設定できます。



ワイヤレスモバイルアダプター

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラのUSB端子に接続した別売のワイヤレスモバイルアダプター WU-1a (□322) を使って、スマートデバイスと通信するかどうかを設定できます。

有効	Wireless Mobile Utilityをインストールしたスマートデバイスと双方向無線通信を行います。
無効	スマートデバイスとの通信を停止します。カメラのバッテリーの消耗を少なくすることができます。

- 電波の出力が禁止されている場所では、設定を[無効]にしてください。

このメニューは、市販のEye-Fiカードをカメラに挿入したときのみ、表示されます。

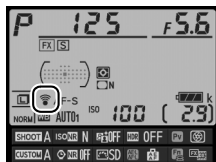
有効	カメラで作成した画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。
無効	Eye-Fi送信機能を使用しません。

- 電波の状態が悪い場合、**[有効]** に設定していても送信できないことがあります。
- 電波の出力が禁止されている場所では、設定を**[無効]** にしてください。

🔑 Eye-Fiカード使用時の表示について

カメラ内のEye-Fiカードの通信状態は、インフォ画面のEye-Fi通信マークで確認できます。

- 📶: **[Eye-Fi送信機能]** が**[無効]** に設定されています。
- 📶 (点灯): 画像の送信を待っています。
- 📶 (点滅): 画像の送信中です。
- 📶: 未送信の画像がありません。
- 📶: エラーが発生しました。Eye-Fiカードをコントロールできません。
 - 表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部で**[Red]**が点滅している場合は、📶350をご覧ください。
 - **[Red]**が点滅していない場合は、続けて撮影できます。ただし、Eye-Fi送信機能の設定を変更できないことがあります。



🔑 アドホックモードの接続について

Eye-Fiカードでアドホックモードを使う場合は、通信の手続きに時間がかかることがあるため、カスタムメニュー c2 **[半押しタイマー]** を30秒以上に設定してください。

☑ Eye-Fiカードを使用するときの注意

- Eye-Fiカードの使用方法はEye-Fiカードの使用説明書をご覧ください。Eye-Fiカードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。
- このカメラにはEye-Fiカードの通信機能をON/OFFする機能がありますが、Eye-Fiカードの全ての機能を保障するものではありません。
- Eye-Fi カードは、ご購入された国でのみ使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。
- Eye-Fi カードの販売の有無は地域によって異なりますので、カードメーカーにお問い合わせください。
- Eye-Fiカードのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。



Eye-Fi送信機能が無効のときの警告表示について

【無効】に設定しているときでも、電波が出力される場合があります。液晶モニターに警告メッセージ (E350) が表示された場合は、カメラの電源をOFFにしてEye-Fiカードを取り出してください。

ファームウェアバージョン

MENUボタン → セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。



画像編集メニュー： 撮影した画像に行う編集機能

MENUボタンを押して、タブのアイコンを選ぶと、画像編集メニューが表示されます。



MENUボタン

画像編集メニューでは、SDカード内の撮影済み画像を編集することができます。編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像として記録されます。画像編集メニューの項目は次の通りです。

- カメラにSDカードが入っていない場合やSDカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューはグレーで表示されて選択できません。

メニュー項目	📖
 D-ライティング	286
 赤目補正	287
 トリミング	288
 モノトーン	289
 フィルター効果	290
 カラーカスタマイズ	291
 画像合成※1	292
 RAW現像	295
 リサイズ	297
 簡単レタッチ	299

メニュー項目	📖
 傾き補正	299
 ゆがみ補正	300
 魚眼効果	301
 塗り絵	301
 カラースケッチ	302
 アオリ効果	303
 ミニチュア効果	304
 セレクトカラー	305
 編集前後の画像表示※2	307

※1 MENUボタンを押して、タブのアイコンを選んだときのみ表示されます。

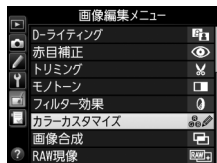
※2 編集前または編集後の画像を1コマ表示して*i*ボタンを押したときのみ表示されます。



■ 画像編集の操作方法

1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

マルチセレクトの▲または▼でメニュー項目を選び、▶を押します。



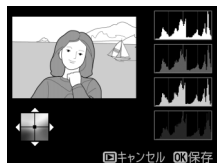
2 画像を選ぶ

- マルチセレクトで画像を選びます。
- **Q (QUAL)** ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
- 画像を選んで**OK**ボタンを押すと、編集画面が表示されます。



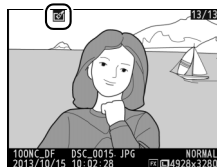
3 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、**MENU** ボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。



4 編集した画像を記録する

- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。
- 画像編集した画像には☑が付きます。

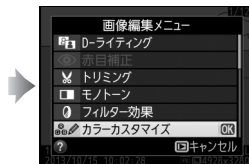


1コマ表示モードで選んだ画像を編集する

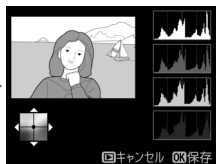
1コマ表示モード(□178)で静止画を選んでから**i**ボタンを押すと、画像編集メニューが表示され、選んだ画像を編集できます。



静止画を選んで**i**ボタンを押す



メニュー項目を選び、**OK**ボタンを押す



選んだ画像を編集する

画像編集についてのご注意

- RAW画像とJPEG画像を同時記録した場合(□56)、RAW画像が画像編集の対象になります。
- このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまましばらく経過すると、液晶モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。カスタムメニューc4[液晶モニターのパワーオフ時間](□245)の[メニュー表示]の時間を長く設定することをおすすめします。

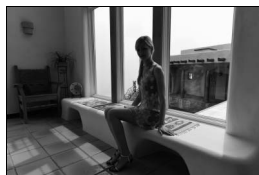
繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、退色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません([画像合成]を除く)。
- 画像編集の組み合わせによっては繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、画像編集メニューでグレーで表示されて選べません。

画質モードと画像サイズについて

[D-Lighting]、[赤目補正]、[モノトーン]、[フィルター効果]、[カラーカスタマイズ]、[簡単レタッチ]、[傾き補正]、[ゆがみ補正]、[魚眼効果]、[塗り絵]、[カラスケッチ]、[アオリ効果]、[ミニチュア効果]、[セレクトカラー]で作成した画像は、元画像と同じ画質モードと画像サイズで記録します。ただし、元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、[画質モード]が[FINE]、[画像サイズ]が[サイズL]のJPEG画像を作成します。TIFF(RGB)で撮影された画像の場合、画質モードは[FINE]になりますが、元画像と同じ画像サイズで記録します。また、どの画質モードで撮影した画像も、[JPEG圧縮]は[サイズ優先]になります。

D-ライティングでは、画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。



D-ライティング前



D-ライティング後

編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。

- マルチセレクトの▲または▼を押して、効果の度合いを[強め]、[標準]、[弱め]の3段階から選びます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。

編集画面では、プレビュー画像が表示され、次の操作ができます。

拡大率を 上げる	 (QUAL)	Ⓚ (QUAL) ボタンを押すごとにプレビュー画像の拡大率が上がります。	拡大表示中にこれらの操作を行うと、画面の右下に画像全体が表示され、拡大部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えますが、もう一度操作すると表示されます。
拡大率を 下げる	 (⚡)	プレビュー画像の拡大再生中は、  ボタンを押すごとに、プレビュー画像の拡大率が下がります。	
画面を スクロール (移動) する		プレビュー画像の拡大再生中は、画面をスクロールして、見たい部分に移動できます。マルチセクターを押し続けると、高速で移動します。	
拡大表示を 終了する		拡大表示中に  ボタンを押すと、拡大表示を終了します。	
画像を 保存する		補正した画像が記録されます。	

赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。

赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。



画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。



切り抜く範囲を狭くする		⌂ (⚡) ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲は狭くなります。
切り抜く範囲を広くする	⌂ (QUAL)	⌂ (QUAL) ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲は広くなります。
画像のアスペクト比 (横：縦) を変更する		メインコマンドダイヤルを回すと、アスペクト比(横：縦)を3：2、4：3、5：4、1：1、16：9に変更できます。
切り抜く範囲を移動する		トリミングで切り抜く範囲を移動します。マルチセクターを押し続けると、高速で移動します。
トリミングを実行して 画像を保存する		トリミングした画像が記録されます。

▼ トリミング画像についてのご注意

- トリミング画像は、拡大表示できないことがあります。
- トリミング画像の画質モード (□55) は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードや [TIFF (RGB)] のときは [FINE] になり、[FINE]、[NORMAL]、[BASIC] のときは元画像と同じ画質モードになります。
- トリミング画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミング時の拡大率とアスペクト比 (横：縦) により変わります。



モノトーンの画像（1種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。

〔モノトーン〕を選ばと、右のメニューが表示され、色調を選ぶことができます。



白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- 〔セピア〕または〔クール〕を選んだ場合は、マルチセクターで色の濃さを調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。
- OKボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

濃くする

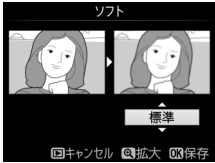


薄くする



画像全体の色調を演出できます。

スカイ ライト	スカイライトフィルターのように、 画像の青みを抑える効果がありま す。	
ウォーム トーン	画像を暖色にする効果があります。	編集画面では、プレビュー画 像を表示します。
赤強調	赤色が強調されます。	
緑強調	緑色が強調されます。	
青強調	青色が強調されます。	
クロス スクリーン	クロスフィルターのように、太陽の 反射や街灯などの光源から、放射状 に光の筋が伸びる効果があります。 • [光線の本数]：光線の本数を、3 種類から選べます。 • [クロスの量]：クロスフィルタ ーがかかる光源の量を3段階から選 べます。 • [光線の傾き]：光線の傾きを3段 階から選べます。 • [光線の長さ]：放射状に伸びる光 の長さを3段階から選べます。	 マルチセクターで強調の度 合い（色の濃さ）を調整でき ます。▲を押すと色が濃くな り、▼を押すと色が薄くなり ます。 【確認】を選んで$\odot$ボタンを 押すと、現在設定している内 容を画像に反映します。$\odot$ (QUAL) ボタンを押している 間、1コマ表示モードと同じ大 きさで画像を確認できます。 保存する場合は【保存】を選 んで$\odot$ ボタンを押してくだ さい。

ソフト	ソフトフィルターのように、画像をソフトな雰囲気仕上げます。	 ▲または▼を押すと、効果の度合いを「強め」、「標準」、「弱め」から選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。
-----	-------------------------------	--

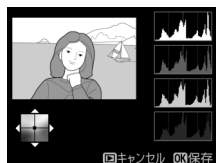
- OK ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

カラーカスタマイズ

MENU ボタン →  画像編集メニュー

画像全体の色調を調整できます。

右のような画面が表示され、マルチセクターで画像全体の色調を調整できます。▲▼◀▶を押すたびに、画面全体の色調が次のように変わります。



色調を操作すると、プレビュー画像と画面右側のRGBヒストグラム(色の分布図: □184)に反映されます。

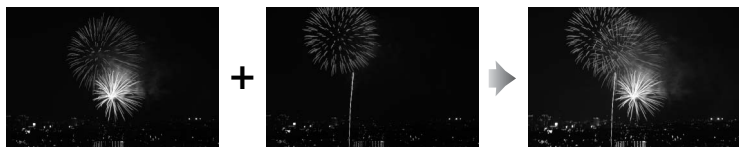
- OK ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

プレビュー画像の拡大表示について

調整画面で  (QUAL) ボタンを押すと、プレビュー画像を拡大表示し、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。拡大表示中に  (WB) ボタンを押すと、色調の調整と拡大表示の操作を切り換えられます。拡大表示中にマルチセクターを操作して画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。  () ボタンを押すと画像を縮小表示します。



SDカードに記録されているRAW画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。



1 画像編集メニュー画面で「画像合成」を選ぶ

- 「画像合成」を選んでマルチセクターの▶を押すと、右のような画面が表示され、「画像1」欄がハイライト表示されます。



2 合成する画像の1コマ目を選ぶ

- OKボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネール一覧から、1コマ目の画像を選びます。
- ⌕ (QUAL) ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 1コマ目の画像を決定する

- OKボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、「画像1」欄にプレビューが表示されます。



4 2コマ目の画像を選ぶ

- ▶を押して「画像2」を選び、手順2～3と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。



5 ゲインを調節する

- プレビュー欄に「画像1」と「画像2」を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、「画像1」または「画像2」を選んでから▲または▼を押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で、0.1ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。



6 「プレビュー」欄に移動する

- ◀または▶を押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、「保存」を選んでOKボタンを押してください。



7 合成画像を確認する

- 「合成」を選び、OKボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、Q（？）ボタンを押してください。手順6の画面に戻ります。



8 合成画像を保存する

- もう一度 **OK** ボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。



✓ 画像合成についてのご注意

- 合成できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラやRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成画像の画質モード（□□55）と画像サイズ（□□58）は、合成時のカメラの設定と同じになります。画像合成をする前に、これらの設定を確認してください。合成した画像をさらに別のRAW画像と合成したいときは、画質モードをRAWに設定してください。
- 【撮像範囲】と【記録ビットモード】が同じRAW画像のみ合成できます。
- 合成時にRAWを含む画質モードが選ばれている場合、元画像と同じ記録ビットモードになります。また、記録方式は合成時のカメラの設定になります。
- 合成時の画質モードがJPEGの場合、【JPEG圧縮】は【サイズ優先】になります。
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など）は、【画像1】で選んだ画像の内容を引き継ぎます。ただし、著作権情報は引き継ぎません。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。



RAW現像（パソコンを使わずに RAW画像をJPEG画像に変換する）

MENUボタン →  画像編集メニュー

RAWを含む画質モード（□55）で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成できます。

1 画像編集メニュー画面で [RAW現像] を選ぶ

- [RAW現像] を選んでマルチセクターの▶を押すと、RAW画像がサムネイル表示されます。

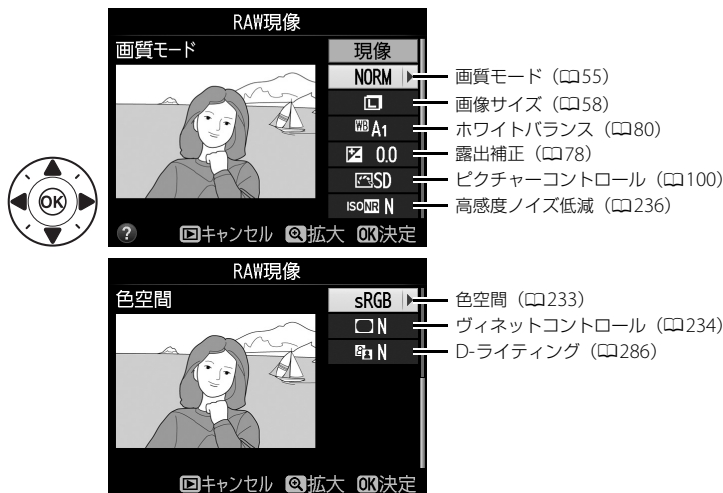


2 RAW現像する画像を選ぶ

- マルチセクターを操作してRAW現像する画像を選んでOKボタンを押します。
-  (QUAL) ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 表示されている項目をそれぞれ設定する



4 RAW現像する

- [現像] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- RAW現像後のJPEG画像が保存されます。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、**MENU**ボタンを押してください。



RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 多重露出撮影した画像や [画像合成] で編集した画像の場合、[ホワイトバランス] と [ヴィネットコントロール] は選べません。
- [露出補正] で設定できる明るさ (−2〜+2) は、通常の露出補正の段数とは異なります。
- RAW現像の [ピクチャーコントロール] では、調整時のグリッド表示はできません (□104)。

サイズの小さい画像を作成します。

■ 複数の画像を選んでリサイズ画像を作成する

MENUボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像のリサイズ画像を一度に作成できます。

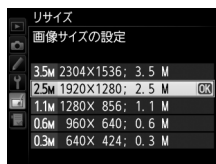
1 画像編集メニュー画面で「リサイズ」を選ぶ

- 「リサイズ」を選んでマルチセクターの▶を押します。



2 画像サイズを設定する

- 「画像サイズの設定」を選んで▶を押します。
- ▲または▼で画像サイズを選び、OKボタンを押します。



3 「画像選択」を選ぶ

- 「画像選択」を選んで▶を押すと、画像の選択画面が表示されます。



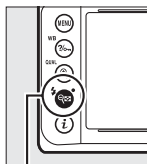
4 リサイズしたい画像を選ぶ

- マルチセクターを操作して、リサイズしたい画像を選びます。
- **Q (QUAL)** ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



5 設定する

- **Q (QUAL)** ボタンを押して設定します。設定すると  が表示されます。もう一度 **Q (QUAL)** ボタンを押すと、 が消えます。
- リサイズする画像全てに設定したら、**OK** ボタンを押します。

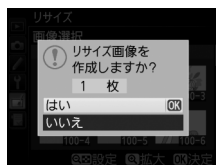


Q (QUAL) ボタン



6 リサイズ画像を作成する

- 確認画面で **「はい」** を選択し、**OK** ボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。



リサイズ画像についてのご注意

- リサイズ画像は、拡大表示できないことがあります。
- リサイズ画像の画質モード (□55) は、元画像の画質モードが **[TIFF (RGB)]** や **RAW** を含む画質モードのときは **[FINE]** になり、**[FINE]**、**[NORMAL]**、**[BASIC]** のときは元画像と同じ画質モードになります。

コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成できます。

カメラがD-ライティングの機能を使って、画像の暗い部分を明るく補正したり、コントラストと彩度（色の鮮やかさ）を高めたりします。

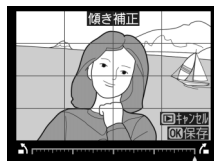
- マルチセクターの▲または▼を押すと、効果の度合いを「強め」、「標準」、「弱め」から選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



傾き補正

画像の傾きを±5°の範囲（約0.25°ステップ）で補正できます。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- 補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



傾きを補正する		マルチセクターの▶を押すと時計回りに傾き、◀を押すと反時計回りに傾きます。
キャンセルする		編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
傾き補正を実行して画像を保存する		傾き補正した画像が記録されます。

広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。[オート] を選ぶと選択した画像のゆがみを自動的に判別して補正しますが、好みに応じて微調整することもできます。[マニュアル] を選ぶと自分でゆがみを補正できます。



- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- [オート] は、Gタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズで撮影した画像のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズで撮影した画像には機能しません。また、対応レンズ以外で撮影した画像については、動作を保証しません。
- [自動ゆがみ補正] (□235) を行った画像の場合、[マニュアル] のみ選べます。

ゆがみを補正する		• たる型のゆがみを補正するには、マルチセクターの▶を押します。 • 糸巻き型のゆがみを補正するには、◀を押します。
キャンセルする		編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
ゆがみ補正を実行して画像を保存する		ゆがみ補正した画像が記録されます。

ゆがみ補正についてのご注意

- 補正するゆがみが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着し、撮像範囲を「FX (36×24) 1.0×」に設定して撮影した画像の場合、画像周辺部が大きく切り取られたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。

魚眼効果

MENUボタン → 画像編集メニュー

フィッシュアイ（魚眼）レンズで撮影したような画像になります。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- 魚眼効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



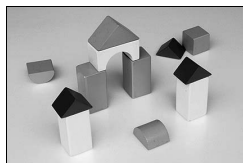
魚眼効果を調節する		マルチセクターの▶を押すほど、魚眼効果は大きくなり、◀を押すほど小さくなります。
キャンセルする		編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
魚眼効果を実行して画像を保存する		魚眼効果の画像が記録されます。

塗り絵

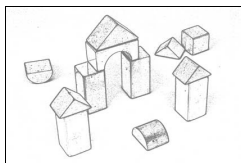
MENUボタン → 画像編集メニュー

輪郭を抽出して塗り絵の原画風の画像を作成できます。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- ⓪ ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



塗り絵処理前



塗り絵処理後



輪郭を抽出して色をつけることで、スケッチ風の画像を作成できます。

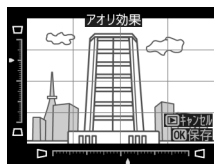
- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。



色の濃さを変える		マルチセクターの▲または▼を押して「色の濃さ」を選んでから、▶を押すと色が濃くなり、◀を押すと薄くなります。
線の濃さを変える		▲または▼を押して「線の濃さ」を選んでから、▶を押すと線が濃くなり、◀を押すと薄くなります。「線の濃さ」を濃くすると、画像全体の色も濃くなります。
キャンセルする		編集集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
カラースケッチ画像を保存する		カラースケッチ画像が記録されます。

高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを補正します。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- アオリ効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



アオリ効果を 調節する		マルチセクターの▲▼◀▶でアオリの効果を変更できます。
キャンセルする		編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
アオリ効果を実行して 画像を保存する		アオリ効果の画像が記録されます。



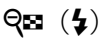
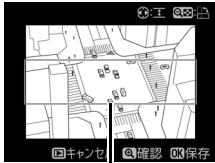
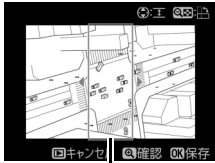
アオリ効果処理前



アオリ効果処理後

ミニチュア（模型）を接写したように加工します。ミニチュア効果には、高いところから見下ろして撮影した画像が適しています。

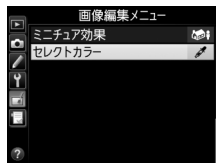
- [ミニチュア効果] を選ぶと、黄色い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

効果をかける方向を変える		Q (⚡) ボタンを押すと、効果をかける方向を縦と横から選べます。	
ぼかさない範囲を決める		横方向に効果をかける場合、マルチセクターの▲または▼を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。	 ぼかさない範囲
		縦方向に効果をかける場合、◀または▶を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。	 ぼかさない範囲
効果をかける幅を変える		横方向に効果をかける場合、◀または▶で効果をかける幅の広さを選びます。	
		縦方向に効果をかける場合、▲または▼で効果をかける幅の広さを選びます。	
プレビューを表示する		Q (QUAL) プレビューが表示され、効果を確認できます。	
キャンセルする		編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。	
ミニチュア効果を実行して画像を保存する		ミニチュア効果の画像が記録されます。	

選択した色のみを残し、それ以外の色をモノトーン（白黒）に加工します。

1 画像編集メニュー画面で 「セレクトカラー」を選ぶ

- 「セレクトカラー」を選んでマルチセクターの▶を押すと、画像の選択画面が表示されます。



2 加工する画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選び、
OK ボタンを押します。
- Q (QUAL) ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 残したい色を抽出する

- マルチセクターを操作して、色取得の枠を画像上の残したい色に重ねます。
- Q (QUAL) ボタンを押すと拡大表示され、残したい色を細部まで確認できます。
Q (QUAL) ボタンを押すと縮小表示します。



AE/AFロックボタン



- 残したい色の彩度によっては、抽出しにくい場合があります。彩度の高い色の抽出をおすすめします。
- AE/AFロックボタンを押すと、色の枠に抽出した色が表示されます。

4 色の感度の枠を選ぶ

- メインコマンドダイヤルを回して、色の感度の枠を選びます。
- 抽出した色以外の色は、モノトーンで表示されます。



色の感度



5 抽出する色の感度を設定する

- ▲または▼を押して、抽出する色の感度を [1] ~ [7] から設定します。数値が大きいくほど抽出する色の色相が広くなり、小さいほど狭くなります。
- 色の感度を高く設定しすぎると、選択した色に近い色相の色も抽出されます。



6 抽出する色を追加する

- メインコマンドダイヤルを回して、別の色の枠と感度の枠を選び、手順3~5と同じ手順で色を抽出し、色の感度を設定します。
- 最大3色まで設定できます。
- 抽出した色の枠を選んで⌂ボタンを押すと、抽出した色をリセットします。
- 抽出した全ての色を削除したい場合は、⌂ボタンを押し続けます。確認画面で [はい] を選んでOKボタンを押すと、全ての色をリセットします。



7 決定する

- OKボタンを押すと、セレクトカラー画像が保存され、1コマ表示になります。



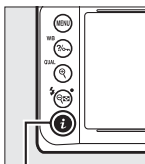
編集前後の画像表示

画像編集を行った画像を、編集元の画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を1コマ表示して **i** ボタンを押したときのみ表示されます。

■ 編集前後の画像表示方法

1 1コマ表示モードで画像を選ぶ

- 画像編集で作成した画像 (☑が表示されている画像) または画像編集の元画像のみを選べます。
- 画像を選んで **i** ボタンを押すと、画像編集メニュー項目を表示します。

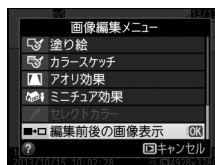


i ボタン



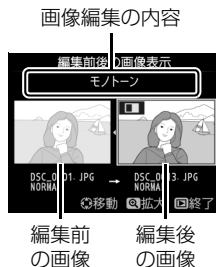
2 [編集前後の画像表示] を選ぶ

- [編集前後の画像表示] を選んで **OK** ボタンを押すと、[編集前後の画像表示] 画面を表示します。



3 編集前と編集後の画像を比較する

- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- マルチセクターの◀または▶で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、▲または▼で2枚の元画像を切り換えられます。
- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、▲または▼で編集後の画像を切り換えられます。
- ④ (QUAL) ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- OK ボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を1コマ表示モードで再生します。
- 再生ボタンを押すと、再生画面に戻ります。

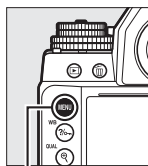


✓ 編集前後の画像表示についてのご注意

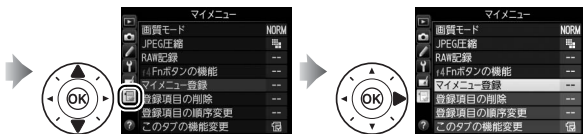
- プロテクト (□195) が設定されている画像の場合、編集前の画像は表示されません。
- 編集元の画像を削除した場合や非表示設定 (□224) にした場合も、編集前の画像は表示されません。

マイメニュー / 最近設定した項目

MENU ボタンを押して、タブの  アイコンを選ぶと、[マイメニュー] 画面が表示されます。



MENU ボタン



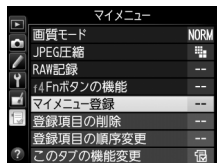
マイメニュー：よく使うメニューを登録する

再生、撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。

マイメニューに登録する

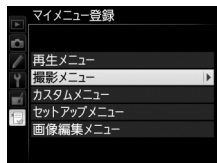
1 マイメニュー画面で [マイメニュー登録] を選ぶ

- [マイメニュー登録] を選んで、マルチセレクターの  を押します。



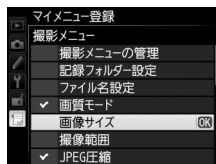
2 登録したいメニューを選ぶ

- 登録したいメニューを選んで  を押すと、選んだメニューが一覧表示されます。



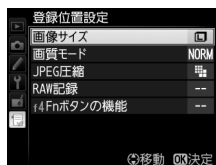
3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

- マイメニューに登録する項目を選んで **OK** ボタンを押します。



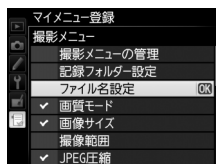
4 登録する項目の表示位置を選ぶ

- **▲**または**▼**で登録する項目の表示位置を選んで、**OK** ボタンを押します。



5 マイメニューに表示したい全ての項目を登録する

- **✓**が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
- 左横に **□** が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。
- 手順1～4を繰り返して、マイメニューに表示したい項目を全て登録します。



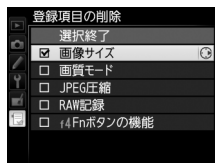
■ 登録した項目を削除する

1 マイメニュー画面で「登録項目の削除」を選ぶ

- 「登録項目の削除」を選び、マルチセクターの▶を押します。

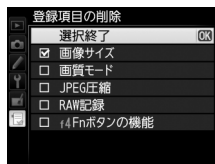
2 削除したいメニュー項目を選ぶ

- ▶を押すと、項目の左側のチェックボックスが☑になります。
- 削除したい全ての項目に✓を入れます。



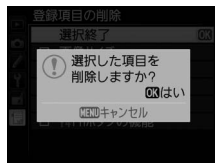
3 「選択終了」を選ぶ

- 「選択終了」を選んでOKボタンを押すと、確認画面が表示されます。



4 選んだ項目を削除する

- OKボタンを押すと、選択した項目が削除されます。



ボタン操作で登録した項目を削除するには

「マイメニュー」画面で削除したい項目を選んで⌂ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度⌂ボタンを押すと、選択した項目を削除します。

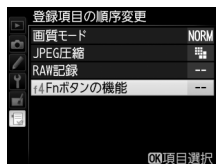
■ 登録した項目の表示順序を変える

1 マイメニュー画面で「登録項目の順序変更」を選ぶ

- 「登録項目の順序変更」を選び、マルチセクターの▶を押します。

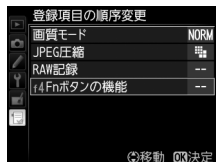
2 順番を変えたい項目を選ぶ

- 順番を変えたい項目を選んで、
OK ボタンを押します。



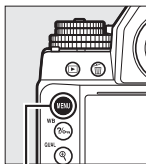
3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

- ▲または▼で移動したい位置を選んで、OK ボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。
- 必要に応じて手順2～3を繰り返します。



4 マイメニュー画面に戻る

MENU ボタンを押すと、マイメニュー画面に戻ります。



MENU ボタン



■「マイメニュー」を「最近設定した項目」に変更する

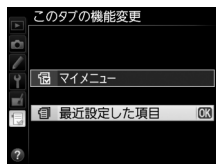
1 マイメニュー画面で「このタブの機能変更」を選ぶ

- 「このタブの機能変更」を選び、マルチセレクターの▶を押します。



2 「最近設定した項目」を選ぶ

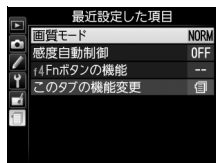
- 「このタブの機能変更」画面で「最近設定した項目」を選んで、OKボタンを押します。
- 「マイメニュー」が「最近設定した項目」に切り替わります。



📄 最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

■「最近設定した項目」の設定方法

メニューを設定するたびに「最近設定した項目」に追加されます。最大20項目まで登録されます。



✏️ 最近設定した項目を削除するには

「最近設定した項目」画面で削除したい項目を選んで🗑️ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度🗑️ボタンを押すと、選択した項目を削除します。

✏️ 「最近設定した項目」から「マイメニュー」に戻すには

「最近設定した項目」の「このタブの機能変更」を選択すると、「マイメニュー」を「最近設定した項目」に変更するの手順2と同じ画面が表示されます。

🗑️「マイメニュー」を選んでOKボタンを押すと、「マイメニュー」に切り替わります。



資料

このカメラで使えるアクセサリやカメラの主な仕様など、カメラを使うときに役立つ情報を記載しています。また、カメラの動作がおかしいときや警告メッセージが表示されたときの対処方法についても説明しています。

使用できるレンズ

CPUレンズ（IXニッコールを除く）をおすすめします。とくにGタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズは、カメラの機能を最大限に引き出すことができます。

モード レンズ	フォーカスモード			露出モード		測光モード		
	AF (オート フォーカス)	フォーカス エイド	M (マニュアル フォーカス)	P S	A M	マルチパターン 測光		中央部 重点測光/ スポット 測光
						3D-RGB	RGB	
CPUレンズ※1	Gタイプレンズ※2、 Eタイプレンズ※2、 Dタイプレンズ※2、 AF-Iレンズ、 AF-Sレンズ	○	○	○	○	○	×	○※3
	PC-E NIKKOR シリーズ※4	×	○※5	○	○※5	○※5	×	○※3、5
	PCマイクロ 85mm F2.8D※6	×	○※5	○	×	○※7	×	○※3、5
	AF-S/AF-Iテレコン バーター※8	○	○	○	○	○	×	○※3
	Gタイプ、Eタイプ、 Dタイプ以外の AFレンズ（F3AF用 を除く）	○※9	○※9	○	○	×	○	○※3
	AI-Pニッコール	×	○※10	○	○	×	○	○※3



非CPUレンズなど※11	AI-S、AI、AI改造レンズ、シリーズEレンズ※12	×	○※10	○	×	○※13	×	○※14	○※15
	非AI方式レンズ	×	○※10	○	×	○※16	×	○※16	○※15
	メディカル120mm f/4	×	○	○	×	○※17	×	×	×
	レフレックスレンズ	×	×	○	×	○※13	×	×	○※15
	PCニッコール	×	○※5	○	×	○※18	×	×	○
	AI-S、AIテレコンバーター※19	×	○※20	○	×	○※13	×	○※14	○※15
	ベローズアタッチメントPB-6 ※21	×	○※20	○	×	○※22	×	×	○
	オート接写リング (PK-11A、12、13、PN-11)	×	○※20	○	×	○※13	×	×	○

- ※1 IXレンズは装着できません。
- ※2 このカメラはVRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。
- ※3 フォーカスポイントの選択によりスポット測光エリアの移動が可能（□74）。
- ※4 PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D EDの装着時にアオリ操作をすると、レンズとカメラボディが接触してキズが付いたり、ケガをする可能性があります。充分ご注意ください。
- ※5 アオリ操作をしていない場合のみ可能。
- ※6 カメラの測光モード、および調光制御機能は、アオリ操作（シフトまたはティルト）をしているとき、または開放絞り以外に絞り値が設定されているときには、正しく機能しません。
- ※7 露出モードは**M**で使用可能。
- ※8 AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用です（□317）。オートフォーカスとフォーカスイド可能なフォーカスポイントについては、□317をご覧ください。
- ※9 AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S（New）、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
- ※10 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。
- ※11 一部装着不可能なレンズ（□318）があります。
- ※12 AI ED80–200mm f/2.8Sの三脚座を回転するとカメラと干渉するため、回転方向に制限があります。AI ED200–400mm f/4Sをカメラに装着したままでのフィルター交換はできません。
- ※13 レンズ情報手動設定（□158）でレンズの開放絞り値を設定することにより表示パネル、ファインダー内表示に絞り値が表示されます。
- ※14 レンズ情報手動設定（□158）でレンズの焦点距離、開放絞り値を設定することにより可能です。一部のレンズでは焦点距離と開放絞り値を設定しても十分な精度が得られない場合があります。この場合は中央部重点測光またはスポット測光を選択して撮影してください。



- ※15 レンズ情報手動設定 (□158) で焦点距離、開放絞り値を設定することにより、測光の精度が向上します。
 - ※16 レンズ情報手動設定 (□158) でレンズの焦点距離、開放絞り値を設定し、露出連動方式を「非AIレンズ」に設定することにより可能です。レンズで設定した絞り値をカメラにもセットして撮影してください (□163)。
 - ※17 露出モードがMでフラッシュ同調シャッタースピードより1段以上低速のシャッタースピードのときに使えます。
 - ※18 絞り込み測光で使用します。露出モードがAの場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、AEロック後にアオリ操作を行ってください。露出モードがMの場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、あおる前に測光して露出を決定してください。
 - ※19 AI 28-85mm f/3.5-4.5S、AI 35-105mm f/3.5-4.5S、AI 35-135mm f/3.5-4.5S、AF-S 80-200mm f/2.8Dレンズの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。詳細はテレコンバーターの使用説明書をご覧ください。
 - ※20 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。
 - ※21 オート接写リングPK-12またはPK-13を併用すると装着できます。カメラの姿勢、位置によりPB-6Dが必要です。
 - ※22 絞り込み測光で使用可能、露出モードがAの場合はベローズアタッチメント側で絞り込みを行い、測光後撮影してください。
- 複写装置PF-4へはカメラアダプター PA-4を併用すると装備できます。
 - 高感度撮影時には、オートフォーカス作動中にノイズ (すじ) が発生することがあります。この場合は、マニュアルフォーカスまたはフォーカスロックを利用して撮影してください。

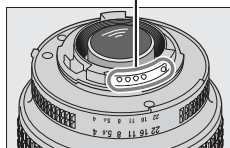
レンズの開放F値とは

レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値を意味します。レンズ名称の最後のほうに「f/2.8」「f/3.5-5.6」などと記されています。

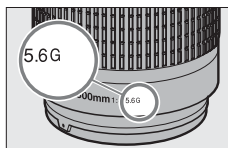
CPUレンズ、Gタイプレンズ、Eタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

CPUレンズにはCPU信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Eタイプレンズには「E」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。GタイプレンズとEタイプレンズには、絞りリングがありません。

CPU信号接点

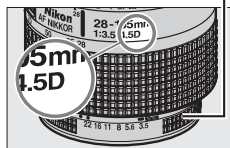


CPUレンズ



G/Eタイプレンズ

絞りリング



Dタイプレンズ

AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のフォーカスポイントについて

- AF-S/AF-Iテレコンバーターを装着して撮影を行う場合、オートフォーカスとフォーカスイドが可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです（合成絞り値がF5.6より暗い場合は、コントラストの低い被写体や輝度の低い被写体の撮影時にピントが合わないことがあります）。

テレコンバーター	装着レンズの開放F値	フォーカスポイント	テレコンバーター	装着レンズの開放F値	フォーカスポイント
TC-14E/ TC-14E II	F4まで		TC-20E/ TC-20E II/ TC-20E III	F2.8まで	
	F5.6			F4	
TC-17E II	F2.8まで			F5.6	— ※3
	F4		TC-800- 1.25EED	F5.6	
	F5.6	— ※3			

※1 中央のフォーカスポイント以外はラインセンサーによってピント情報を取得します。

※2 AFエリアモード（□62）が3D-トラッキングまたはオートエリアAFの場合、シングルポイントAFに変更されます。

※3 この組み合わせの場合、オートフォーカス撮影はできません。

- AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDをお使いの場合、オートフォーカス撮影はできません。



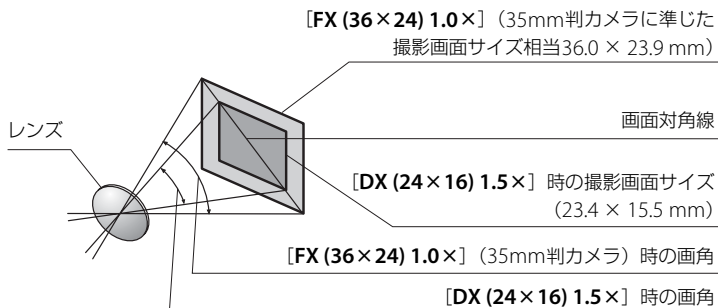
❏ 使用できないレンズ

次の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーター TC-16AS
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
- 2.1cm f/4
- K2リング
- F3AF用（AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S）
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3

✎ レンズの画角と焦点距離について

Dfでは、さまざまな当社製35mm判カメラ用レンズが使用できます。[DX自動切り換え] (□51) を [する] に設定している場合、35mm判カメラのレンズを装着すると、35mm判カメラと同じ画角（フィルム面に写し込む範囲）の [FX (36×24) 1.0×] で撮影できます。DXレンズを装着すると、カメラが判別して自動的に [DX (24×16) 1.5×] に切り換えます。[DX自動切り換え] の設定を変えて、使用しているレンズと異なる画角で撮影することもできます。たとえば、35mm判カメラのレンズの使用時に、[DX (24×16) 1.5×] に設定し、画角を狭くして撮影することもできます。このため、[撮像範囲] の設定によっては、同じレンズで撮影しても、画角と画面サイズが異なることにご注意ください。



35mm判カメラの撮影画面サイズは、対角線の長さで [DX (24×16) 1.5×] のときの約1.5倍です。したがって、Dfに35mm判カメラのレンズを装着したときのレンズに表記されている焦点距離は、[DX (24×16) 1.5×] のときの約1.5倍に相当します。たとえば、焦点距離50 mmのレンズを装着したときは、[DX (24×16) 1.5×] では約75 mmの焦点距離に相当する画角になります。

使用できるアクセサリー

Dfには撮影領域を広げるさまざまなアクセサリーが用意されています。

電源	• Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a (□17、18) ニコンデジタルカメラDf用のバッテリーです。 - EN-EL14aの代わりにEN-EL14も使えます。 • バッテリーチャージャー MH-24※1 (□17) Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a/EN-EL14用のチャージャーです。 • パワーコネクター EP-5A、ACアダプター EH-5b※2 ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。 - このカメラは、カメラ本体と AC アダプターを接続するためにパワーコネクター EP-5Aが必要です。カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する方法については、「カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法」(□323)をご覧ください。 - EH-5bの代わりにACアダプター EH-5/EH-5aも使えます。 ※1 家庭用電源のAC 100～240 V、50/60 Hzに対応しています。日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめの上、お買い求めください。 ※2 日本国内専用電源コード (AC 100V対応) 付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。
ケーブル リリース	• ケーブルリリースAR-3 リリースソケットにケーブルリリースAR-3を使用して撮影すると、夜景や接写撮影などシャッタースピードが低速になるときに手ぶれ防止の効果があります。



• **接眼目当て DK-19**

接眼部に取り付けて使用する、ゴム製の接眼目当てです。ファインダー視野がよりはっきり確認でき、目の疲れを軽減します。

• **接眼補助レンズ DK-17C**

遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。−3、−2、0、+1、+2m⁻¹の5種類が用意されています。視度補正は個人差が大きいため店頭で実際に取り付けてお選びください。このカメラには視度調節機能が付いています（−3〜+1m⁻¹）ので、この範囲外の視度補正が必要となきにお使いください。

• **マグニファイングアイピース DK-17M**

ファインダー接眼部に取り付けることにより、ファインダー倍率を約1.2倍に拡大します。

• **マグニファイヤー DG-2**

ファインダー中央部の像を拡大します。より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。

• **アイピースアダプター DK-18**

このカメラにマグニファイヤーDG-2やアングルファインダーDR-3を取り付けるためのアダプターです。

• **アンティフォグ ファインダーアイピース DK-14、DK-17A**

寒いときや湿度が高い場合など、ファインダーのくもりの発生を防止し、クリアなファインダー像を提供します。

• **変倍アングルファインダー DR-5**

変倍アングルファインダーDR-5をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。全視野が見える1倍と、より精密なピント確認作業が可能な2倍*の2種類の倍率を選択できます。また、視度調節も可能です。

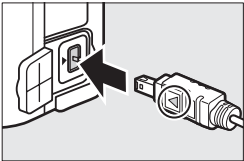
※2倍では周辺部にケラレが生じます。

• **アングルファインダー DR-4**

アングルファインダー DR-4をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。

フィルター	• フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、NC フィルターをお使いください。 • カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL、C-PL II）をお使いください。 • 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 • 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND25、ND45、ND4、ND85、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、RGBマルチパターン測光、または3D-RGBマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。 • 特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスイドが行えないことがありますのでご注意ください。
ニコンデジタルカメラ専用ソフトウェア	• Capture NX 2 画像を詳細に編集できる、画像編集用ソフトウェアです。選択コントロールポイントや自動レタッチブラシなどさまざまな機能を備えています。 • Camera Control Pro 2 パソコンからカメラを操作して静止画を撮影したり、撮影した画像を直接パソコンへ保存したりできる、カメラコントロール用ソフトウェアです。Camera Control Pro 2で画像の記録先の設定が「PC」になっている場合、カメラとパソコンを接続してCamera Control Pro 2を起動すると、表示パネルにPC接続中マークが表示されます。 • ソフトウェアは必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。ご使用のパソコンがインターネットに接続されている場合、OSログオン後に所定時間を経過すると、ニコンメッセージセンター2はソフトウェアの更新情報などを確認します（初期設定）。更新情報がある場合は、「通知の画面」が自動的に表示されます。 • 対応OSについては、当社ホームページのサポート情報（□xv）でご確認ください。
ボディーキャップ	• ボディーキャップBF-1B、BF-1A レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。



ワイヤレス リモート コントローラー	• ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-T10 ワイヤレスリモートコントローラーWR-R10をカメラのアクセサリターミナルに取り付けると、ワイヤレスリモートコントローラーWR-T10からの操作で無線での遠隔撮影を行えます。 • ワイヤレスリモートコントローラー WR-1 WR-1 は、2 台以上を組み合わせ、送信機と受信機として使います。受信機に設定したWR-1をカメラのアクセサリターミナルに取り付けると、送信機に設定したWR-1からの操作で、遠隔撮影することができます。
アクセサリ ターミナル	アクセサリターミナルに次のアクセサリを接続することができます。 • リモートコードMC-DC2 (□43) • GPSユニットGP-1 (□164) • GPSユニットGP-1A (□164) 図のようにアクセサリターミナルの▷マークとコネクタの◁マークを合わせて、コネクタをアクセサリターミナルに接続します。  使用しないときは、カメラの端子カバーを必ず閉じてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。
ワイヤレス モバイル アダプター	• ワイヤレスモバイルアダプター WU-1a Wireless Mobile Utilityをインストールしたスマートデバイスと、無線で画像転送やリモート撮影ができます。

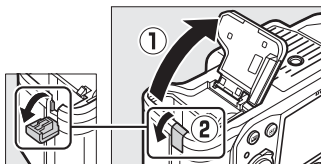
使用できるアクセサリについて

- 国または地域によって、販売していない場合があります。
- アクセサリの最新情報は、当社ホームページやカタログなどでご確認ください。

カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法

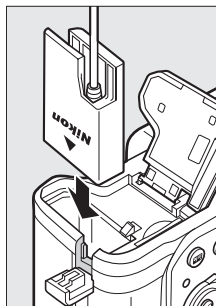
カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する前に、カメラ本体の電源がOFFになっていることを確認してください。

1 カメラのバッテリー /SDカードカバー (①) とパワーコネクターカバー (②) を開ける



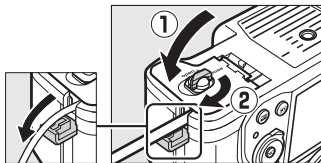
2 パワーコネクター EP-5Aを入れる

- パワーコネクターは、接点の向きに注意しながら入れてください。
- バッテリーロックレバーをパワーコネクター側面で押しながら、パワーコネクターを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがパワーコネクターに掛かり、パワーコネクターがロックされます。



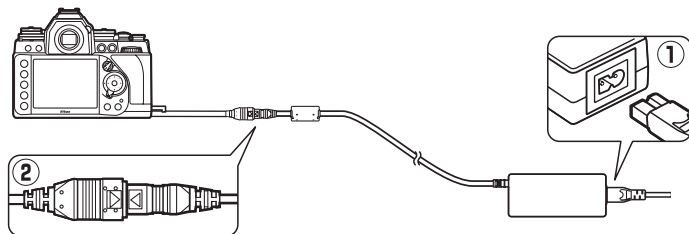
3 カメラのバッテリー /SDカードカバーを閉じる

- パワーコネクターのコードがパワーコネクターカバーを開けた部分から出るように注意して、バッテリー /SDカードカバーを閉じます。



4 パワーコネクターとACアダプターを接続する

- 電源コードのACプラグを、ACアダプターのACプラグ差し込み口に差し込みます (①)。
- パワーコネクターのDCプラグコネクターにACアダプターのDCプラグを差し込みます (②)。
- パワーコネクターとACアダプターの使用時には、液晶モニター上のバッテリー残量表示がに変わります。



カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%をこえる場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または-10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブローアード払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブローアード払います。スプレー缶タイプのプロアーは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニター	ほこりや糸くずをブローアード払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。



ローパスフィルターのお手入れについて

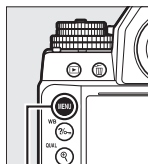
レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、ローパスフィルターを振動させてゴミをふるい落とすことができます。

イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的にを行う方法があります。

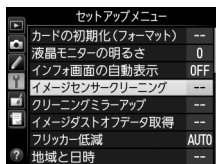
■ セットアップメニューの【イメージセンサークリーニング】から操作する

1 セットアップメニューの【イメージセンサークリーニング】を選ぶ

- MENU ボタンを押して、セットアップメニューの【イメージセンサークリーニング】を選びます。マルチセクターの▶を押すと、【イメージセンサークリーニング】画面が表示されます。

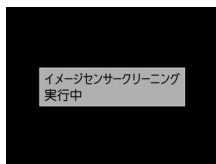
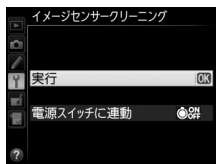


MENU ボタン



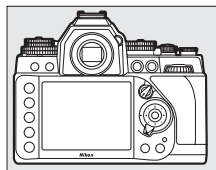
2 実行を選ぶ

- **「実行」** を選んで **OK** ボタンを押すと、イメージセンサークリーニングが開始されます。実行中は、表示パネルに **buss** が点滅し、撮像素子のチェックも行われます。
- **buss** が表示されている間は、カメラの操作はできません。バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。



イメージセンサークリーニング時のカメラの向きについて

効果的にゴミをふるい落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えとときの向き）にしてイメージセンサークリーニングを行ってください。

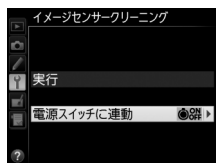


■ 電源のON/OFF時にイメージセンサークリーニング する

 ON 電源ONで実行	電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
 OFF 電源OFFで実行	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
 ON/OFF 電源ONとOFFで実行	電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
実行しない	電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

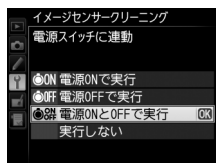
1 [イメージセンサークリーニング] 画面で[電源スイッチに連動]を選ぶ

- [電源スイッチに連動]を選んでマルチセレクターの▶を押すと、[電源スイッチに連動]画面が表示されます。



2 イメージセンサークリーニングの方法を選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



▼ イメージセンサークリーニングについてのご注意

- 電源スイッチに連動してイメージセンサークリーニングが作動しているときにカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、ローパスフィルターを市販のプロアーで掃除する(□□329)か、ニコンサービス機関にご相談ください。
- イメージセンサークリーニングを連続で行うと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。



■ ローパスフィルターをブローで掃除する

イメージセンサークリーニング (□326) でゴミやほこりを取りきれないときは、ローパスフィルターを次の手順でクリーニングできます。ただし、ローパスフィルターは非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

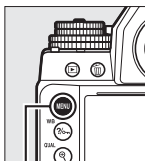
- 作業中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターを組み合わせしてお使いください。
- セットアップメニューの「クリーニングミラーアップ」を使用します。バッテリー残量表示が  以下の場合、「クリーニングミラーアップ」は操作できません。

1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

レンズを取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

2 セットアップメニューで「クリーニングミラーアップ」を選ぶ

- MENUボタンを押して、セットアップメニューの「クリーニングミラーアップ」を選んでマルチセクターの▶を押します。

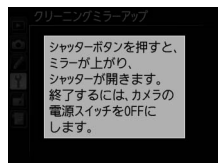


MENUボタン



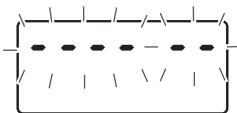
3 OKボタンを押す

- クリーニングミラーアップの待機状態になります。
- 液晶モニター、表示パネル、ファインダー内表示に右のように表示されます。
- ローパスフィルターのお手入れを止めるには、カメラの電源をOFFにしてください。



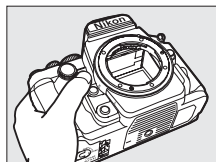
4 シャッターボタンを全押しする

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
- このとき、表示パネルは右のような点滅表示になります。ファインダー内の表示は消灯します。



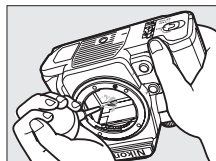
5 ローパスフィルターに光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。



6 ローパスフィルターに付いたゴミやほこりをブローで払う

- ブラシの付いていないブローアーをお使いください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブローアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。



7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディーキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

✓ 作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、ただちに作業を終了してください。



ローパスフィルター上のゴミ付着について

ニコンデジタルカメラは撮像素子の前面にあるローパスフィルターに付着するゴミについて、当社の品質基準に基づいて製造しています。しかし、このカメラはレンズ交換方式のため、レンズ交換の際にカメラ内にゴミが入り込むことがあり、撮影条件によっては、撮像素子の前面のローパスフィルターに付着したゴミが写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換は避け、レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。その際、ボディーキャップのゴミも必ず除去してください。ローパスフィルターに付着したゴミを、イメージセンサークリーニング（□326）で取り除ききれないときは、上記の手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、別売のCapture NX 2（□321）や画像加工アプリケーションなどで修正できます。



カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気が表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。



● ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● ローパスフィルターの手入れ方法について

撮像素子の前面にあるローパスフィルターのクリーニングの方法については 326、329ページをご覧ください。

● レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

● シャッター幕に触れない

シャッター幕は非常に薄いので、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。防虫剤のあるところ、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストロボの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくことより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態では、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。



● 液晶モニターについて

- モニター画面は、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブローアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。



バッテリーの取り扱いについて

● 使用上のご注意

- バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。
 - バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
 - バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
 - バッテリーの端子は、汚さないように注意する。
 - 必ず指定のバッテリーを使う。
 - バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
 - カメラやチャージャーから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、または不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因になります。
- しばらく使わない場合は、カメラでバッテリーを使い切った状態でカメラから取り外し、涼しいところで保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。
- 使用後のバッテリーは半年以内に充電するようおすすめします。長期間保管する場合は、半年に一回程度充電した後、カメラでバッテリーを使い切ってから涼しいところで保管してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラやチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れていますので、過放電になり使えなくなるおそれがあります。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。



● バッテリーの残量について

- 電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響を及ぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。
- 十分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリーをお求めください。

● 充電が完了したバッテリーを続けて再充電しない

バッテリー性能が劣化します。

● 小型充電式電池のリサイクル

不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。



Li-ion00

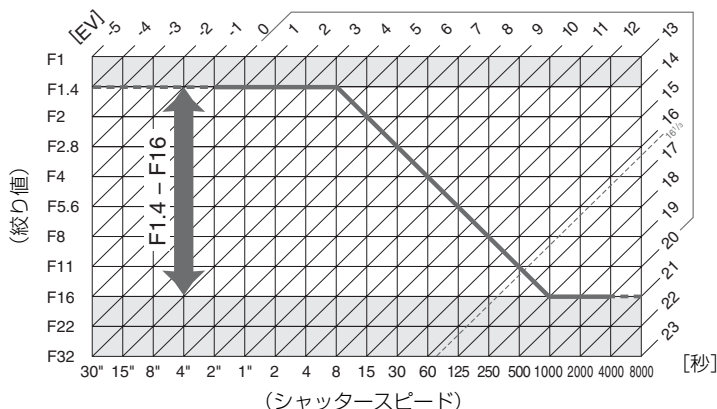
数字の有無と
数値は、電池
によって異な
ります。

露出モードP（プログラムオート）のプログラム線図

次のグラフは、露出モードが**P**のとき（□37）の露出制御プログラム（ISO 100の場合）を表しています。

— ISO 100、開放絞りF1.4・最小絞りF16のレンズ
（例：AF-S NIKKOR 50mm f/1.4G）の場合

測光範囲：EV 0－20



- 測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO 100の場合 $16\frac{1}{3}$ を超えるEV値では、全て $16\frac{1}{3}$ として制御されます。



故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前に、次の項目をご確認ください。

電源・表示関連

● 電源ONの状態、カメラの操作ができない

- 画像の記録などの処理が終わるまでお待ちください。
- 操作できない状態が続くときは、電源をOFFにする操作をしてください。
- 電源がOFFにならない場合は、バッテリーを入れ直してください。
- ACアダプター使用時は付け直してください。
 - 記録中であったデータは保存されません。
 - 保存済みのデータはバッテリーやACアダプターの取り外しでは失われます。

● ファインダー内がはっきり見えない

視度調節ダイヤルで調節してください。調節後も見え方が不十分な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いください（□26、320）。

● ファインダー内が暗い

バッテリー残量は充分ですか？ バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量が無い場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります（□17、27）。

● ファインダー内や表示パネル、液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう

カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] や c4 [液晶モニターのパワーオフ時間] で、表示が消えるまでの時間を設定できます（□244、245）。

● 表示パネルやファインダー内の表示が薄い、表示が遅い

低温や高温のときは表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなることがあります。

● ファインダー内に線や模様が見える

液晶の特性上、フォーカスポイントなどから外側に延びる細い線が見えたり、フォーカスポイントを照明するときにファインダー内が赤くなることがありますが、いずれも故障ではありません。



撮影関連

● 電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる

SDカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。

● シャッターがきれない

- 残量のあるSDカードが入っていますか？ (□18、28)
- SDカードがロックされていませんか？ (□21)
- カスタムメニュー f9 [カードなし時リリース] が [リリース禁止] になっていませんか？ (□264)
- ピント表示 (●) は点灯していますか？
- Gタイプ、Eタイプレンズ以外のCPUレンズを装着している場合は、レンズの絞りリングを最小絞り（もっとも大きい数値）に設定しないとシャッターがきれません。表示パネルに **FE E** と表示されている場合、カスタムメニュー f7 [コマンドダイヤルの設定] の [絞り値の設定方法] を [絞りリング] に設定すると、レンズの絞りリングで絞り値を設定できます (□262)。
- 露出計連動レバーを押上げたままGタイプ、Eタイプレンズ以外のCPUレンズを装着していませんか？ (□162)

● シャッターがきれいのが遅い

カスタムメニュー d10 [露出ディレイモード] を [しない] にしてください (□250)。

● 連続撮影できない

HDR撮影時は、連続撮影できません (□113)。

● ピントが合わない

- マニュアルフォーカスになっていませんか？ オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードセクターを **AF** に合わせてください (□59)。
- 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください (□66、68)。
明暗差がはっきりしない/遠くのものや近くのものが混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい
- カスタムメニュー f4 [Fnボタンの機能] (□257)、f5 [プレビューボタンの機能] (□260) または f6 [AE/AFロックボタンの機能] (□261) の押し時の動作が [AF-ON] の場合、シャッターボタンの半押しではオートフォーカスは作動しません。[AF-ON] の機能を割り当てたボタンを押してピントを合わせてください。



● コマンドダイヤルで設定できるシャッタースピードの範囲が狭い

フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは、カスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] で、1/200～1/60 秒の範囲で設定できます。[1/250 秒 (オートFP)] または [1/200 秒 (オートFP)] に設定して、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFPハイスピードシンクロが可能です (□251)。

● シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない

AFモードが**AF-C**のときは、AE/AFロックボタンを押してフォーカスをロックしてください (□66)。

● フォーカスポイントを選べない

- フォーカスポイントロックレバーが**L** (ロック) の位置になっていませんか? (□64)
- AFエリアモードがオートエリアAFのときは、選べません (□62)。
- AFエリアモードを顔認識AFにしてライブビュー撮影を行っている場合は、選べません (□169)。
- 画像の再生時またはメニューの操作時には、フォーカスポイントを選べません (□178、218)。
- 半押しタイマーがオフになっていませんか? フォーカスポイントを選択するには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてください (□32)。

● AFエリアモードを変更できない

フォーカスモードセレクターが**M** (マニュアルフォーカス) になっていませんか? (□68)

● 画像サイズを変更できない

[画質モード] が [RAW] のときは、画像サイズを変更できません (□56)。

● 画像の記録に時間がかかる

撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] が [する] になっていませんか? (□236)

● 画像がざらつく

- ISO感度が高くなっていませんか？ 撮影メニュー [高感度ノイズ低減] を [強め]、[標準]、[弱め] のいずれかに設定すれば、ざらつきを低減できます (□236)。
- シャッタースピードが1秒より低速な場合は、ざらつきが発生しやすくなります。撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] を [する] にして撮影すると、ざらつきを低減できます (□236)。
- アクティブD-ライティングを設定していませんか？ 撮影シーンによっては、ざらつきが強調される場合があります (□111)。

● 画像にゴミが写り込む

- レンズの前面または背面（マウント側）が汚れていませんか？
- 撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミが付着していませんか？ イメージセンサークリーニングを行ってください (□326)。

● 画像の色合いがおかしい

- ホワイトバランスは正しく設定されていますか？ (□80)
- 撮影メニュー [ピクチャーコントロール] は正しく設定されていますか？ (□100)

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない

被写体が明るすぎるか、暗すぎます (□92)。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません (□96)。

● ホワイトバランス (WB) ブラケティング撮影ができない

- RAW または RAW を含む画質モードの場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません (□55、141)。
- ホワイトバランスブラケティングと多重露出による撮影を同時に行うことはできません (□147)。

● [ピクチャーコントロール] の効果が安定しない

[ピクチャーコントロール]、[カスタムピクチャーコントロール] の調整画面で、[輪郭強調]、[コントラスト]、[色の濃さ (彩度)] のいずれかが [A] (オート) に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を [A] (オート) 以外に設定してください (□104)。

● 測光モードが変更できない

AELロック中は、測光モードを変更できません (□77)。



● 露出補正ができない

露出モードが**M**の場合、露出補正を行っても、露出インジケータの表示が変化するだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません(□78)。

● 画像の一部が赤っぽくなる

シャッタースピードをBulbにした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなることがあります。この現象は、撮影メニュー[長秒時ノイズ低減]を[する]に設定することで低減できます(□236)。

● 画像にむらが出る

シャッタースピードをBulbにした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部にむらが出ることがあります。この現象は、撮影メニュー[長秒時ノイズ低減]を[する]に設定することで低減できます(□236)。

● ライブビュー表示中の液晶モニターに表示された明るさと、撮影した画像の明るさ(露出)が違う

次の条件で撮影した場合、液晶モニターに表示された明るさと、撮影した画像の明るさが異なることがあります。

- 測光モードが、中央部重点測光またはスポット測光(□74)のとき
- 露出モードが**M**のとき(□167)
- 被写体が明るすぎるまたは暗すぎる時
- アクティブD-ライティング設定時(□111)
- 長時間露出(バルブ、タイム)撮影時(□43)
- フラッシュ撮影時(□117)

● ライブビュー表示中に画面にちらつきや横縞が生じる

セットアップメニュー[フリッカー低減]の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください(□271)。

● ライブビュー表示中に横帯状の明るい部分が生じる

撮影している周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合には、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生することがあります。

再生関連

● RAW画像が表示されない

「画質モード」を「RAW + FINE」、[RAW + NORMAL]、[RAW + BASIC]にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません (□56)。

● 他のカメラで撮影した画像が表示されない

この機種以外のカメラで撮影した画像は、正常に表示されないことがあります。

● 全ての画像が表示されない

再生メニュー「再生フォルダー設定」を「全てのフォルダー」にしてください (□223)。

● 画像の縦位置・横位置が正しく表示されない

- 再生メニュー「縦位置自動回転」が「しない」になっていませんか？ (□226)
- セットアップメニュー「縦横位置情報の記録」が「しない」になっていませんか？ (□273)
- 撮影直後の画像確認では自動回転はしません (□226)。
- カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります (□273)。

● 画像が削除できない

- SDカードがロックされていませんか？ (□21)
- 画像にプロテクトが設定されていませんか？ (□195)

● 画像が編集できない

このカメラでは編集できない画像です (□285)。

● 「撮影画像がありません」と表示される

SDカードの交換直後に画像を再生するときは、再生メニュー「再生フォルダー設定」を「全てのフォルダー」にしてください (□223)。

● プリント指定ができない

- SDカードがロックされていませんか？ (□21)
- SDカードの空き容量が不足していませんか？ (□28)

● ダイレクトプリントができない

RAW画像やTIFF画像はダイレクトプリントできません (□210)。

● RAW画像をプリントできない

- 画像編集メニューの「RAW現像」などでRAW画像からJPEG画像を作成してからプリントしてください (□295)。
- RAW 画像はパソコンに転送してから、付属ソフトウェアや別売のCapture NX 2などのソフトウェアを使ってプリントしてください (□321)。



● **画像がHDMI対応機器で再生できない**

市販のHDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください (□215)。

● **HDMI-CEC対応機器のリモコンから制御できない**

- セットアップメニューの [HDMI] の [機器制御] が [する] になっているか確認してください (□216)。
- テレビ側のHDMI-CECの設定については、テレビの使用説明書などをご覧ください。

● **画像をパソコンに転送できない**

お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります (□202)。カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに保存してください。

● **Capture NX 2で画像が表示されない**

ソフトウェアのバージョンが最新になっていますか？ (□321)

● **Capture NX 2でイメージダストオフ機能が動作しない**

次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、ローパスフィルター表面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません。

- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
- イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき (□269)

● **【ピクチャーコントロール】または【アクティブD-ライティング】の効果がパソコンで確認できない**

RAW画像で記録した場合、当社製ソフトウェア以外では機能しません。RAW画像の現像は付属のViewNX 2や、別売のCapture NX 2をお使いください。

その他

● 撮影日時が正しく表示されない

カメラの内蔵時計は合っていますか？ カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないので、定期的に日時設定を行うことをおすすめします（□25、272）。

● 表示されているメニュー項目が選べない

- SDカードをカメラに挿入していないときは、選べない項目があります。
 - 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選べない場合があります。
-



警告メッセージ

表示パネル、ファインダー、液晶モニターに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

こんなとき		原因	対処方法	📖
表示パネル	ファインダー内表示			
 (点減)	 (点減)	• レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。 • 露出計連動レバーを押し上げたままGタイプ、Eタイプレンズ以外のCPUレンズを取り付けています。	• レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。 • 露出計連動レバーを戻してください。	24 162
		バッテリー残量は残りわずかです。	バッテリー交換の準備をしてください。	27
 (点減)	 (点減)	• バッテリーが消耗しています。 • バッテリーとの情報通信ができません。	• バッテリーを交換してください。 • バッテリーを充電してください。 • このバッテリーは使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。 • 極端に消耗したバッテリーを使用している場合は、充電してください。 • カメラと通信できないバッテリーを使用している場合は、ニコン純正品のバッテリーと交換してください。	18 17 379 17 xv、319



こんなとき		原因	対処方法	
表示パネル	ファインダー内表示			
ΔF	ΔF	開放絞りからの絞り段数が表示されています。非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で、レンズの開放絞り値が設定されていません。	レンズの開放絞り値を設定すると、レンズの絞り値が表示されます。	158
—	▶ ◀ (点滅)	オートフォーカスでピント合わせができません。	構図を変えるか、マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。	68



こんなとき		原因	対処方法	
表示パネル	ファインダー内表示			
(シャッタースピード表示、 絞り値表示のいずれかまたは 露出インジケーターが点滅)		被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	- ISO感度を低くしてください。 - 露出モードがPのときは市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください（S、Aのときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。	70 321
			露出モードがSのときはシャッタースピードをより高速側にセットしてください。	38
			露出モードがAのときは絞りを絞り込んでください（より大きい数値）。	40
		被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	- ISO感度を高くしてください。 - 露出モードがPのときはフラッシュを使用してください（S、Aのときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。	70 117
			露出モードがSのときはシャッタースピードをより低速側にセットしてください。	38
			露出モードがAのときは絞りを開いてください（より小さい数値）。	40



こんなとき		原因	対処方法	📖
表示パネル	ファインダー内表示			
b u l b (点滅)	b u l b (点滅)	露出モードが S のときにシャッタースピードが B (Bulb) にセットされています。	- シャッタースピードを変えてください。 - 露出モードMで撮影してください。	38、41
- - (点滅)	- - (点滅)	露出モードが S のときにシャッタースピードが T (Time) にセットされています。	- シャッタースピードを変えてください。 - 露出モードMで撮影してください。	38、41
b u s y (点滅)	b s y (点滅)	カメラが処理を行っています。	カメラが処理を終えるまでお待ちください。	—
—	 (点滅)	フラッシュがフル発光しました。	撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO感度などをご確認ください。	123
F u l l (点滅)	F u l (点滅)	- 画像を記録する空き容量がありません。 - カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。	- SDカードに記録されている画像を削除して、SDカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 - 新しいSDカードに交換してください。	196 18
E r r (点滅)	E r r (点滅)	撮影中に何らかの異常を検出しました。	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。	379



こんなとき		原因	対処方法	
液晶モニター	表示 パネル			
メモリーカードが入っていません。	[- E -]	SDカードが入っていないか、正しくセットされていません。	SDカードを正しくセットしてください。	18
このメモリーカードは壊れている可能性があるため、使用できません。 カードを交換してください。	[Err, Err] (点滅)	- SDカードへのアクセス異常です。 - 新規フォルダーが作成できません。	- このカメラ用のSDカードであるかどうかを確認してください。 - SDカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関にご連絡願います。 - SDカードに記録されている画像を削除して、SDカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 - 新しいSDカードに交換してください。	364 379 196
		Eye-Fiカードをコントロールできません。	- Eye-Fiカードのファームウェアが最新版になっているか確認してください。 - 新しいSDカードに交換するか、必要な画像をパソコンなどに転送してバックアップした後、カメラでEye-Fiカードをフォーマットしてからご使用ください。	281 18
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	[Err, ---] (点滅)	SDカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。	SDカードのロックを解除してください。	21

こんなとき		原因	対処方法	📖
液晶モニター	表示 パネル			
Eye-Fiカードは書き込み禁止の状態では使用できません。	[Card, Error] (点滅)	Eye-Fiカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。	Eye-Fiカードのロックを解除してください。	21
このメモリーカードは初期化(フォーマット)されていません。フォーマットしてください。	[Format] (点滅)	SDカードが正しく初期化されていません。	- SDカードを初期化してください。 - 正しく初期化されたSDカードに交換してください。	20、 267 18
時計がリセットされました	—	内蔵時計の日時が設定されていません。	日時を設定してください。	25
接続中のスピードライトはバージョンアップに失敗しているため使用できません。サービス機関にお問い合わせください。	—	バージョンアップに失敗したスピードライトがカメラに装着されています。	接続中のスピードライトはバージョンアップに失敗しているため使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。	379
ライブビューを開始できません。しばらくお待ちください。	—	カメラ内部の温度が高くなっています。	カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影を一時休止してください。	175
撮影画像がありません。	—	- 撮影画像がありません。 - 再生するフォルダーの指定に問題があります。	- 画像が記録されているSDカードを入れてください。 - 再生メニューの「再生フォルダー設定」で、表示可能な画像があるフォルダーを選択してください。	18 223
全ての画像が非表示に設定されています。	—	記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。	再生メニューの「非表示設定」で、画像の非表示設定を解除してください。	224



こんなとき		原因	対処方法	
液晶モニター	表示 パネル			
このファイルは表示できません。	—	- パソコンで編集した画像など、DCF規格外の画像ファイルのため再生できません。 - 画像ファイルに異常があるため再生できません。	パソコンで編集された画像を上書き保存しないでください。	—
このファイルは選択できません。	—	編集できない画像です。	このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。	285
プリンターの状態を確認してください。*	—	プリンターに異常があります。	用紙切れなどエラーの原因を取り除いた後、 〔継続〕 を選んで ⓧ ボタンを押すと、プリントが再開されます（エラー内容によっては、 〔継続〕 を選べない場合があります）。	207
用紙を確認してください。*	—	指定したサイズの用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、 〔継続〕 を選んで ⓧ ボタンを押して、プリントを再開してください。	207
紙詰まりです。*	—	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、 〔継続〕 を選んで ⓧ ボタンを押して、プリントを再開してください。	207
用紙がありません。*	—	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、 〔継続〕 を選んで ⓧ ボタンを押して、プリントを再開してください。	207



こんなとき		原因	対処方法	
液晶モニター	表示パネル			
インクを確認してください。※	—	インクに異常があります。	インクを確認した後、 〔継続〕 を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	207
インクがありません。※	—	インクがなくなりました。	インクを交換した後、 〔継続〕 を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	207

※プリンターの使用説明書も併せてご覧ください。



主な仕様

ニコンデジタルカメラ Df

型式	
型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
実撮影画角	ニコンFXフォーマット
有効画素数	
有効画素数	1625万画素
撮像素子	
方式	36.0×23.9mmサイズCMOSセンサー
総画素数	1661万画素
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、イメージダストオフデータ取得（別売Capture NX 2必要）
記録形式	
記録画素数	• 撮像範囲 [FX (36×24) 1.0×] の場合： 4928×3280ピクセル（サイズL） 3696×2456ピクセル（サイズM） 2464×1640ピクセル（サイズS） • 撮像範囲 [DX (24×16) 1.5×] の場合： 3200×2128ピクセル（サイズL） 2400×1592ピクセル（サイズM） 1600×1064ピクセル（サイズS）
画質モード	• RAW 12ビット/14ビット（ロスレス圧縮、圧縮、非圧縮） • TIFF（RGB） • JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16）サイズ優先時、画質優先選択可能 • RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景、いずれも調整可能、カスタムピクチャーコントロール登録可能
記録媒体	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード（SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードはUHS-I規格に対応）
対応規格	DCF 2.0（Design rule for Camera File system）、DPOF（Digital Print Order Format）、Exif 2.3（Exchangeable image file format for digital still cameras）、PictBridge



ファインダー	
ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	• FX : 上下左右とも約100% (対実画面) • DX : 上下左右とも約97% (対実画面)
倍率	約0.7倍 (50mm f/1.4レンズ使用、 ∞ 、 -1.0 m^{-1} のとき)
アイポイント	接眼レンズ面中央から15 mm (-1.0 m^{-1} のとき)
視度調節範囲	$-3 \sim +1\text{ m}^{-1}$
ファインダー スクリーン	B型クリアマットスクリーンⅧ (AFエリアフレーム付、構図用格子線表示可能)
ミラー	クイックリターン式
プレビュー	Pv ボタンによる絞り込み可能、露出モード A 、 M では設定絞り値まで絞り込み可能、露出モード P 、 S では制御絞り値まで絞り込み可能
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式
レンズ	
交換レンズ	• DXレンズ (撮像範囲は [DX (24×16) 1.5×]) • G、EまたはDタイプレンズ (PCレンズ一部制限あり) • G、EまたはDタイプ以外のAFレンズ (IX用レンズ、F3AF用レンズ使用不可) • Pタイプレンズ • 非CPUレンズ • 開放F値がF5.6以上明るいレンズで、フォーカスイド可能。ただしフォーカスポイント中央7点は開放F値がF8以上明るいレンズで、中央33点は開放F値がF7.1以上明るいレンズでフォーカスイド可能
シャッター	
型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	• シャッタースピードダイヤル使用時: 1/4000～4秒 (1ステップ)、Bulb、Time、X200 • メインコマンドダイヤル使用時: 1/4000～30秒 (1/3ステップ)、Bulb、Time
フラッシュ同調 シャッタースピード	X=1/200秒、1/250秒以下の低速シャッタースピードで同調



レリーズ機能

レリーズモード	S ：単写、 CL ：低速連続撮影、 CH ：高速連続撮影、 Q ：静音撮影、 ⊙ ：セルフタイマー撮影、 MUP ：ミラーアップ撮影
連続撮影速度	• CL：約1～5コマ/秒 • CH：約5.5コマ/秒
セルフタイマー	作動時間：2、5、10、20秒、撮影コマ数：1～9コマ、連続撮影間隔：0.5、1、2、3秒

露出制御

測光方式	2016分割RGBセンサーによるTTL開放測光方式
測光モード	• マルチパターン測光：3D-RGBマルチパターン測光II（G、EまたはDタイプレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光II（その他のCPUレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光（非CPUレンズのレンズ情報手動設定時） • 中央部重点測光：φ12 mm 相当を測光（中央部重点度約75%）、φ8 mm、φ15 mm、φ20 mm、画面全体の平均のいずれかに変更可能（非CPUレンズ使用時はφ12 mmに固定） • スポット測光：約φ4 mm相当（全画面の約1.5%）を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動（非CPUレンズ使用時は中央に固定）
測光範囲	• マルチパターン測光、中央部重点測光：0～20 EV • スポット測光：2～20 EV（ISO 100、f/1.4レンズ使用時、常温20℃）
露出計連動	CPU連動方式、AI方式併用（露出計連動レバー可倒式）
露出モード	P ：プログラムオート（プログラムシフト可能）、 S ：シャッター優先オート、 A ：絞り優先オート、 M ：マニュアル
露出補正	範囲：±3段、補正ステップ：1/3ステップ
オートブラケティング	• AE、フラッシュブライケティング時、撮影コマ数：2～5コマ、補正ステップ：1/3、2/3、1、2、3ステップ • ホワイトバランスブラケティング時、撮影コマ数：2～3コマ、補正ステップ：1～3ステップ • アクティブD-ライティングブラケティング時、撮影コマ数：2～5コマ、撮影コマ数が2コマの場合のみアクティブD-ライティングの効果の度合いを選択可能
AEロック	AE/AF ロックボタンによる輝度値ロック方式
ISO感度 （推奨露光指数）	ISO 100～12800（1/3ステップ）、ISO 100に対し約0.3、0.7、1段（ISO 50相当）の減感、ISO 12800に対し約0.3、0.7、1、2、3、4段（ISO 204800相当）の増感、感度自動制御が可能
アクティブ D-ライティング	オート、より強め2、より強め1、強め、標準、弱め、しない



オートフォーカス

方式	TTL位相差検出方式：フォーカスポイント39点（うち、クロスタイプセンサー9点、F5.6超～F8未満は中央33点、F8は中央7点）、マルチCAM4800オートフォーカスセンサーモジュールで検出、AF微調節可能
検出範囲	-1～+19 EV（ISO 100、常温（20℃））
レンズサーボ	• オートフォーカス（AF）：シングルAFサーボ（AF-S）、コンティニュアスAFサーボ（AF-C）を選択可能、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 • マニュアルフォーカス（M）：フォーカスイド可能
フォーカスポイント	• AF39点設定時：39点のフォーカスポイントから1点を選択 • AF11点設定時：11点のフォーカスポイントから1点を選択
AFエリアモード	シングルポイントAFモード、ダイナミックAFモード（9点、21点、39点）、3D-トラッキング、オートエリアAFモード
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはシングルAFサーボ（AF-S）時にシャッターボタン半押し

フラッシュ

調光方式	2016分割RGBセンサーによるTTL調光制御 ：SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-400またはSB-300でi-TTL-BL調光（マルチパターン測光または中央部重点測光）、スタンダードi-TTL調光（スポット測光）可能
フラッシュモード	先幕シンクロ、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ、後幕スローシンクロ • オートFPハイスピードシンクロ可能
調光補正	範囲：-3～+1段、補正ステップ：1/3、1/2ステップ
レディーライト	別売スピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリシュー	ホットシュー（ISO 518）装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付
ニコンクリエイティブライティングシステム	• SB-910、SB-900、SB-800またはSB-700を主灯、SU-800をコマンダーとしたアドバンスドワイヤレスライティング（SB-600、SB-R200はリモートのみ）に対応 • オートFPハイスピードシンクロ、発光色温度情報伝達、モデリング発光、FVロックに対応（SB-400またはSB-300は発光色温度情報伝達、FVロックのみ対応）
シンクロターミナル	シンクロターミナル（ISO 519）装備（外れ防止ネジ付）



ホワイトバランス	
ホワイトバランス	オート（2種）、電球、蛍光灯（7種）、晴天、フラッシュ、曇天、晴天日陰、プリセットマニュアル（4件登録可、ライブビュー時にスポットホワイトバランス取得可能）、色温度設定（2500K～10000K）、いずれも微調整可能
ライブビュー機能	
レンズサーボ	• オートフォーカス（AF）：シングルAFサーボ（AF-S）、常時AFサーボ（AF-F） • マニュアルフォーカス（M）
AFエリアモード	顔認識AF、ワイドエリアAF、ノーマルエリアAF、ターゲット追尾AF
フォーカス	コントラストAF方式、全画面の任意の位置でAF可能（顔認識AFまたはターゲット追尾AFのときは、カメラが決めた位置でAF可能）
液晶モニター	
液晶モニター	3.2型低温ポリシリコンTFT液晶モニター、約92万ドット（VGA）、視野角約170°、視野率約100%、明るさ調整可能
再生機能	
再生機能	1コマ再生、サムネイル（4、9、72分割またはカレンダーモード）、拡大再生、スライドショー、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影情報表示、位置情報表示、撮影画像の縦位置自動回転
インターフェース	
USB	Hi-Speed USB
HDMI出力	HDMIミニ端子（Type C）装備
アクセサリターミナル	• ワイヤレスリモートコントローラー：WR-1、WR-R10（別売） • リモートコード：MC-DC2（別売） • GPSユニット：GP-1/GP-1A（別売）
表示言語	
表示言語	日本語、英語
電源	
使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a（1個使用）
ACアダプター	ACアダプター EH-5b（パワーコネクタ EP-5Aと組み合わせて使用）（別売）
三脚ネジ穴	
三脚ネジ穴	1/4（ISO 1222）
寸法・質量	
寸法（W×H×D）	約143.5 × 110 × 66.5 mm



寸法・質量

質量	約765 g (バッテリーおよびSDメモリーカードを含む、ボディーキャップを除く)
	約710 g (本体のみ)

動作環境

温度	0℃～40℃
湿度	85%以下 (結露しないこと)

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、CIPA (カメラ映像機器工業会) 規格による温度条件23℃ (±3℃) で、フル充電バッテリー使用時のものです。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

バッテリーチャージャー MH-24

電源	AC 100 ～ 240 V、50/60 Hz、MAX 0.2 A
定格入力容量	18 ～ 24 VA
充電出力	DC 8.4 V、0.9 A
適応電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a
充電時間	EN-EL14a充電時：約1時間50分 ※残量の少ない状態からの充電時間 (周囲温度25℃)
使用温度	0℃～40℃
寸法 (W×H×D)	約70×26×97 mm
質量	約89 g

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a

形式	リチウムイオン充電電池
定格容量	7.2 V、1230 mAh
使用温度	0℃～40℃
寸法 (W×H×D)	約38 × 53 × 14 mm
質量	約49 g (端子カバーを除く)

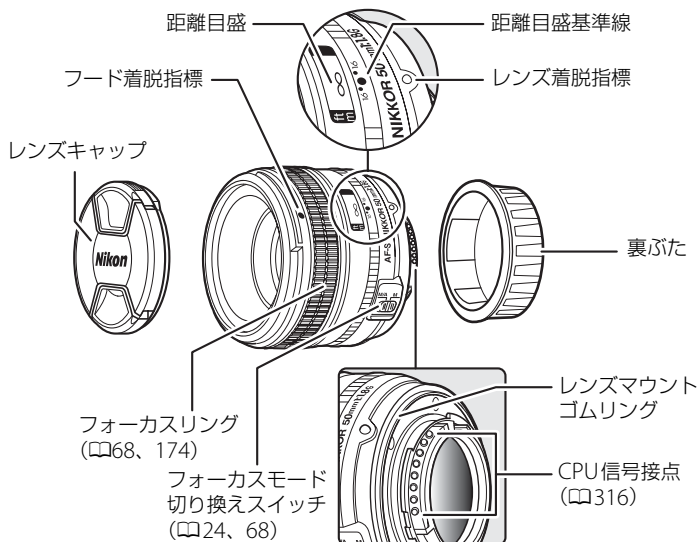


レンズ AF-S NIKKOR 50mm f/1.8G (Special Edition)

形式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-Sレンズ
焦点距離	50 mm
最大口径比	1 : 1.8
レンズ構成	6 群7 枚（非球面レンズ1 枚）
画角	• 47°（35mm判一眼レフカメラ、FXフォーマットのデジタル一眼レフカメラ） • 31° 30'（DX フォーマットのデジタル一眼レフカメラ）
撮影距離情報	カメラへの撮影距離情報を出力可能
ピント合わせ	超音波モーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能
撮影距離目盛	∞～0.45 m
最短撮影距離	撮像面から0.45 m
絞り羽根枚数	7 枚（円形絞り）
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲	f/1.8—16
測光方式	開放測光
アタッチメントサイズ	58 mm（P=0.75 mm）
寸法	約73 mm（最大径）× 52.5 mm（レンズマウント基準面からレンズ先端まで）
質量	約190 g



AF-S NIKKOR 50mm f/1.8G (Special Edition) について



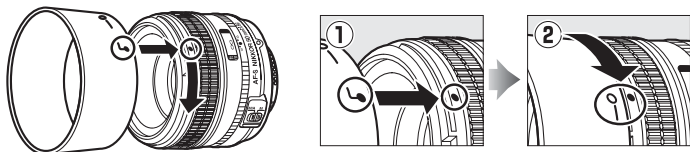
🔍 レンズのお手入れと取り扱い上のご注意

- フードをレンズに装着した状態で、フードだけを持たないでください。
- CPU信号接点は汚さないようにご注意ください。
- レンズマウントゴムリングが破損した場合は、そのまま使用せず販売店または二コサービス機関に修理を依頼してください。
- レンズ面の清掃は、ホコリを拭う程度にしてください。指紋がついたときは、柔らかい清潔な木綿の布に無水アルコール（エタノール）または市販のレンズクリーナーを少量湿らせ、レンズの中心から外周へ渦巻状に、拭きムラ、拭き残りのないように注意して拭いてください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- レンズ表面の汚れや傷を防ぐためには、NCフィルターをお使いいただけます。また、レンズのフードも役立ちます。
- レンズをケースに入れるときは、必ずレンズキャップと裏ぶたを取り付けてください。
- レンズを長期間使用しないときは、カビやサビを防ぐために、高温多湿のところを避けて風通しのよい場所に保管してください。また、直射日光のあたるところ、防虫剤のあるところも避けてください。
- レンズを水に濡らすと、部品がサビつくなどして故障の原因となりますのでご注意ください。
- ストープの前など、高温になるところに置かないでください。極端に温度が高くなると、外観の一部に使用している強化プラスチックが変形することがあります。

🔧 付属アクセサリ

- 58mmスプリング式レンズキャップ LC-58
- 裏ぶた LF-4
- ソフトケース CL-1013
- バヨネットフード HB-47

バヨネットフード HB-47の取り付け方



🔧 使用できるアクセサリ

- 58mmネジ込み式フィルター

このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0**：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **DPOF (Digital Print Order Format)**：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- **Exif Version 2.3**：(Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras)：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報をいかして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **PictBridge**：デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。
- **HDMI (High-Definition Multimedia Interface)**：家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。

商標説明

- PictBridgeロゴは商標です。
- SDロゴ、SDHCロゴ、およびSDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Mac OSおよびOS Xは米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

HDMI

- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。



使用できるSDカード

次のSDカードの動作を確認しています。

	SD メモリーカード	SDHC メモリーカード※2	SDXC メモリーカード※3
SanDisk社製	2 GB※1	4 GB、8 GB、 16 GB、32 GB	64 GB
東芝製	2 GB※1	4 GB、8 GB、 16 GB、32 GB	64 GB
Panasonic製	2 GB※1	4 GB、6 GB、8 GB、 12 GB、16 GB、 24 GB、32 GB	48 GB、64 GB
LEXAR MEDIA社製	2 GB※1	4 GB、8 GB、16GB	—
プラチナIIシリーズ	2 GB※1	4 GB、8 GB、 16 GB、32 GB	—
プロフェッショナル シリーズ	2 GB※1	4 GB、8 GB、 16 GB、32 GB	—
フルHDビデオ カードシリーズ	—	4GB、8GB、16GB	—

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC 規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。このカメラは、UHS-I規格に対応しています。

※3 SDXC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDXC規格に対応している必要があります。このカメラは、UHS-I規格に対応しています。



- 上記SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、SDカードメーカーにご相談ください。その他のメーカー製のSDカードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。



記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

撮像範囲（□50）、画質モード（□55）と、画像サイズ（□58）の組み合わせによって、8 GBのSDカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、次のようになります※1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

■■【撮像範囲】が【FX (36×24) 1.0×】の場合※2

画質モード	画像 サイズ	1コマあたりの ファイルサイズ	記録可能 コマ数※3	連続撮影可能 コマ数※3、4
RAW (ロスレス圧縮RAW/12ビット記録)	—	約15.4 MB	279コマ	37コマ
RAW (ロスレス圧縮RAW/14ビット記録)	—	約19.4 MB	216コマ	29コマ
RAW (圧縮RAW/12ビット記録)	—	約13.9 MB	377コマ	47コマ
RAW (圧縮RAW/14ビット記録)	—	約17.0 MB	315コマ	38コマ
RAW (非圧縮RAW/12ビット記録)	—	約26.5 MB	279コマ	30コマ
RAW (非圧縮RAW/14ビット記録)	—	約34.3 MB	216コマ	25コマ
TIFF (RGB)	L	約49.1 MB	151コマ	21コマ
	M	約28.3 MB	265コマ	25コマ
	S	約13.2 MB	566コマ	36コマ
FINE※5	L	約7.9 MB	729コマ	100コマ
	M	約5.4 MB	1100コマ	100コマ
	S	約3.0 MB	2200コマ	100コマ
NORMAL※5	L	約4.5 MB	1400コマ	100コマ
	M	約2.8 MB	2300コマ	100コマ
	S	約1.6 MB	4300コマ	100コマ
BASIC※5	L	約2.2 MB	2800コマ	100コマ
	M	約1.5 MB	4600コマ	100コマ
	S	約0.9 MB	8000コマ	100コマ



■■【撮像範囲】が【DX (24×16) 1.5×】の場合※6

画質モード	画像 サイズ	1コマあたりの ファイルサイズ	記録可能 コマ数※3	連続撮影可能 コマ数※3、4
RAW (ロスレス圧縮RAW/12ビット記録)	—	約7.2 MB	618コマ	100コマ
RAW (ロスレス圧縮RAW/14ビット記録)	—	約8.9 MB	484コマ	96コマ
RAW (圧縮RAW/12ビット記録)	—	約6.6 MB	818コマ	100コマ
RAW (圧縮RAW/14ビット記録)	—	約7.9 MB	692コマ	100コマ
RAW (非圧縮RAW/12ビット記録)	—	約12.0 MB	618コマ	72コマ
RAW (非圧縮RAW/14ビット記録)	—	約15.3 MB	484コマ	53コマ
TIFF (RGB)	L	約21.5 MB	349コマ	29コマ
	M	約12.6 MB	593コマ	39コマ
	S	約6.2 MB	1100コマ	69コマ
FINE※5	L	約3.7 MB	1500コマ	100コマ
	M	約2.8 MB	2200コマ	100コマ
	S	約1.9 MB	3600コマ	100コマ
NORMAL※5	L	約2.3 MB	2900コマ	100コマ
	M	約1.6 MB	4400コマ	100コマ
	S	約1.1 MB	7100コマ	100コマ
BASIC※5	L	約1.2 MB	5700コマ	100コマ
	M	約0.9 MB	8600コマ	100コマ
	S	約0.7 MB	12100コマ	100コマ

※1 SanDisk社製8 GBのSDHC UHS-Iカード (SDSDXPA-008G-J35) を使用した場合

※2 【撮像範囲】の【DX自動切り換え】が【する】でDXレンズ以外のレンズを装着した場合を含みます。

※3 撮影条件により、記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数は、増減することがあります。

※4 ISO感度がISO 100の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。

- 【JPEG圧縮】を【画質優先】に設定してJPEG画像を撮影した場合
- ISO感度 (□70) をHi 0.3以上に設定してRAWを含む撮影をした場合
- 【長秒時ノイズ低減】(□236) を【する】に設定した場合
- 【自動ゆがみ補正】(□235) を【する】に設定した場合

- ※5 1コマあたりのファイルサイズおよび記録可能コマ数は、**[JPEG圧縮]** (📖57) が **[サイズ優先]** に設定されている場合です。**[JPEG圧縮]** を **[画質優先]** に設定した場合、記録可能コマ数は減少します。
- ※6 **[撮像範囲]** の **[DX自動切り換え]** が **[する]** でDXレンズを装着した場合があります。



カスタムメニュー d6 [連続撮影コマ数] (📖247)

カスタムメニュー d6 **[連続撮影コマ数]** では、連続撮影時の連続撮影コマ数を1～100コマの範囲で設定できます。



撮影可能コマ数（電池寿命）について

カメラ単体の撮影可能コマ数（電池寿命）は、次の通りです。

● [CIPA基準準拠※1]

約1400コマ（カメラ本体でLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL14a使用時）

● [当社試験条件※2]

約2900コマ（カメラ本体でEN-EL14a使用時）

※1 初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。装着レンズAF-S NIKKOR 50mm f/1.8G (Special Edition)、温度23 (±2) °C。

※2 画質モードBASIC、画像サイズM、シャッタースピード1/250秒、シャッターの半押しを3秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6回連続リリースした後、液晶モニターを5秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S NIKKOR 50mm f/1.8G (Special Edition)、温度20°C。

※ バッテリーの充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。

次の場合はバッテリーの消耗が早くなります。

- ライブビュー撮影などで液晶モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAW、TIFF (RGB) に設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- GPSユニットGP-1/GP-1A、ワイヤレスモバイルアダプターWU-1a、ワイヤレスリモートコントローラーWR-R10/WR-1、Eye-Fiカードを使用した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合

Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL14aの性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、十分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。



索引

マーク・英数字

P (プログラムオート)	37
S (シャッター優先オート)	38
A (絞り優先オート)	40
M (マニュアル)	41
B (Bulb)	44
T (Time)	44
1/3STEP (1/3ステップ)	39
S (1コマ撮影)	6, 46
CL (低速連続撮影)	6, 46, 247
CH (高速連続撮影)	6, 46
Q (静音撮影)	6, 46
☺ (セルフタイマー撮影)	6, 46, 48
MUP (ミラーアップ撮影)	6, 46, 49
☺ (顔認識AF)	169
☺ (ワイドエリアAF)	169
☺ (ノーマルエリアAF)	169
☺ (ターゲット追尾AF)	169
☺ (マルチパターン測光)	74
☺ (中央部重点測光)	74
☺ (スポット測光)	74
Fn (ファンクション) ボタン	257
Pv (プレビュー) ボタン	40, 260
BKT (ブラケットング) ボタン	137, 141, 144
info (インフォ) ボタン	10, 173
i (アイ) ボタン	13, 171, 285
Lv (ライブビュー) ボタン	93, 166
? (ヘルプ)	14
☼ (イルミネーター) ボタン	5, 134, 249, 255
☼ ボタンの機能	255
r (連続撮影可能コマ数)	30, 47, 365
12ビット記録	57
14ビット記録	57
1コマ撮影	6, 46

1コマ表示	178
2016分割RGBセンサー	126, 356, 357
3D-RGBマルチパターン測光II	75
3D-トラッキング	62, 63, 64
ACアダプター	319, 323
ADLブラケットング (オートブラケット ングのセット)	144, 253
Adobe RGB (色空間)	233
AE-Lマーク	66, 76
AE/AFロックボタンの機能	261
AEブラケットング (オートブラケティ ングのセット)	136, 253
AEロック	76
AE・フラッシュブラケットング (オー トブラケットングのセット)	136, 253
AF-C (コンティニユアスAFサーボ)	59, 240
AF-Cモード時の優先	240
AF-F (常時AFサーボ)	168
AF-ONボタン	60, 67, 241
AF-S (シングルAFサーボ)	59, 168, 240
AF-Sモード時の優先	240
AFエリアフレーム	26
AFエリアモード	62, 169
AF点数切り換え	242
AF微調節	279
AFモード	59, 168
AFモードボタン	60, 63, 168, 170
AFロックオン	241
A-M切り換えスイッチ	24
AUTO1 標準	80, 82
AUTO2 電球色を残す	80, 82
BASIC	55
BKTの順序	254
BKT変化要素 (Mモード)	254
Camera Control Pro 2	321



Capture NX 2	. 56, 109, 233, 269, 273, 274, 275, 321
CEC	216
CPU信号接点	316, 361
CPUレンズ	24, 314, 316
DCF Version 2.0	363
DPOFプリント (PictBridge)	210
DPOF (Digital Print Order Format)	213, 363
DX (24×16) 1.5× (撮像範囲)	51, 52, 54
DX自動切り換え (撮像範囲)	51
DXフォーマット	51
Dタイプレンズ	316
D-ライティング	286
Exif Version 2.3	363
Eye-Fi送信機能	281
Eタイプレンズ	316
FINE	55
Fnボタンの機能	257
FP発光	251
FVロック	132
FX (36×24) 1.0× (撮像範囲)	51, 54
FXフォーマット	51
GPSユニット	164, 322
Gタイプレンズ	316
HDMI-CEC	216
HDMIミニ端子	215
HDMI (High-Definition Multimedia Interface)	215, 363
HDR (ハイダイナミックレンジ)	113
Hi	71
INDEXプリント (PictBridge)	210
ISO感度	70, 247
ISO感度ダイヤル	70
ISO感度ダイヤルロックボタン	70
ISO感度表示	247
i-TTL-BL調光	120, 126
JPEG	55, 57
JPEG圧縮	57

L (画像サイズ)	58
Li-ionリチャージャブルバッテリー	17, 359
Lo	71
M (画像サイズ)	58
M (マニュアルフォーカス)	68, 174
NEF	55
NORMAL	55
OKボタンの機能	255
PictBridge (ピクトブリッジ)	207, 363
PRE (プリセットマニュアル)	81, 89
RAW	55, 56, 57, 295
RAW記録	57
RAW現像	295
RGBヒストグラム表示	184
RGBマルチパターン測光	75, 158
S (画像サイズ)	58
SDカード	18, 20, 21, 27, 267, 364
sRGB (色空間)	233
TIFF (RGB)	55
USBケーブル	203, 207
UTC	165, 188
ViewNX 2	. 56, 109, 200, 203, 233, 273, 274, 275
WBブラケットティング (オートブラケット ングのセット)	141, 253

ア

アイピース	22, 320
アイピースキャップ	22
青強調 (フィルター効果)	290
アオリ効果	303
赤強調 (フィルター効果)	290
赤目軽減スローシンクロモード	127
赤目軽減モード	127
赤目補正	287
明るさ (ピクチャーコントロール)	103
アクセサリ (使用できるアクセサ リ)	319



アクセサリシュー	117
アクセサリターミナル	164, 322
アクティブD-ライティング	111
アクティブD-ライティングブラケット ング (ADLブラケット)	144
圧縮RAW	57
後幕シンクロモード	127
位置情報	164, 188
イメージセンサークリーニング	326
イメージダストオフ機能 (Capture NX 2)	269, 344
イメージダストオフデータ取得	269
イルミネーター	5, 249
イルミネーター点灯	249
色合い (色相) (ピクチャーコントロー ル)	103
色温度	80, 82, 87
色温度設定 (ホワイトバランス) ..	81, 87
色空間	233
色の濃さ (彩度) (ピクチャーコント ロール)	103
印刷 (プリント)	207
インジケータの+/-方向	265
インターバル設定 (スライドショー)	226
インターバルタイマー撮影	152
インデックスプリント	210
インフォ画面	10
インフォ画面のガイド表示	247
インフォ画面の自動表示	268
インフォ画面の表示設定	249
ヴィネットコントロール	234
ウォームトーン (フィルター効果)	290
液晶モニター	10, 178
液晶モニターの明るさ	268
液晶モニターのパワーオフ時間	245
オート (ホワイトバランス)	80
オートFPハイスピードシンクロ	120, 129, 251

オートエリアAF	63, 64
オートフォーカス	59, 61, 62, 64, 66, 168, 169
オートブラケット	136, 253, 254
オートブラケットのセット	253

カ

カードなし時リリース	264
カードの初期化 (フォーマット)	20, 267
開放F値	69, 158, 316
開放絞り	69, 158, 316
顔認識AF	169
画角	318
拡大表示	193
画質モード	55
画質優先 (JPEG圧縮)	57
カスタムピクチャーコントロール	106
カスタムメニュー	237
カスタムメニューの管理	239
画像合成	292
画像コメント	274
画像サイズ	58
画像情報	181
画像編集メニュー	283
画像を確認する	33
画像を削除する	34
画像をテレビで見る	215
傾き補正	299
カメラ設定の保存と読み込み	276
カラーカスタマイズ	291
カラースケッチ	302
カレンダー表示	191
簡単レタッチ	299
感度	70, 236
感度自動制御	72
基準露出レベルの調節	243
魚眼効果	301
距離基準マーク	69
距離情報	75



距離目盛	361
距離目盛基準線	361
記録可能コマ数	28, 365
記録ビットモード (RAW記録)	57
記録フォルダー設定	230
記録方式 (RAW記録)	57
クイック調整	103
クール (モノトーン)	289
クリーニングミラーアップ	329
クリエイティブライティングシステム	119
クロススクリーン (フィルター効果)	290
蛍光灯 (ホワイトバランス)	80
ケーブルリリース	319
言語 (Language)	273
現在地の設定 (地域と日時)	272
高感度 (Hi)	71
高感度ノイズ低減	236
高速連続撮影	6, 46
コマ送り	226, 263
コマンドダイヤルの設定	261
コンティニュアスAFサーボ (AF-C)	59
コントラスト (ピクチャーコントロール)	103

サ

最近設定した項目	313
最小絞り	24
サイズ	58, 288
サイズ優先 (JPEG圧縮)	57
再生	33, 178, 215
再生画面設定	225
再生フォルダー	223
再生フォルダー設定	223
再生メニュー	223
先幕シンクロモード	127
削除	34, 196
削除後の次再生画像	226

撮影画面サイズ	318
撮影コマ数	247
撮影情報	186
撮影直後の画像確認	180, 226
撮影メニュー	228
撮影メニューの管理	229
撮像範囲	50
サムネイル	256
サムネイル表示	189
自動ゆがみ補正	235
視度調節	26, 320
視度調節ダイヤル	26
絞り値	40, 41, 42, 262
絞り優先オート	40
シャッタースピード	38, 39, 41
シャッタースピードダイヤル	38, 39, 41
シャッタースピードダイヤル	38, 39, 41
ロックボタン	38, 41
シャッタースピードの簡易シフト	265
シャッターボタン	30, 31, 66, 76, 132
シャッターボタンの半押し	31
シャッター優先オート	38
常時AFサーボ (AF-F)	168
使用できるレンズ	314
情報表示	165
初期化 (フォーマット)	20, 267
初期設定一覧	218
白黒 (モノトーン)	289
シングルAFサーボ (AF-S)	59, 168
シングルポイントAF	62, 64
シンクロターミナル	118
水準器	173, 259
水準器表示	278
推奨SDカード	364
スカイライト (フィルター効果)	290
スタンダード (ピクチャーコントロール)	100
スタンダードi-TTL調光	120, 126
スピードライト	117, 252

スポット測光.....	74
スポットホワイトバランス.....	93
スライドショー.....	226
スローシンクロモード.....	127
静音撮影.....	6, 46
制御上限感度（感度自動制御）.....	73
晴天（ホワイトバランス）.....	80
晴天日陰（ホワイトバランス）.....	81
接眼補助レンズ.....	320
設定の保存.....	276
セットアップメニュー.....	266
セピア（モノトーン）.....	289
セルフタイマー.....	245
セルフタイマー撮影.....	6, 46, 48
セレクトカラー.....	305
全押し（シャッターボタン）.....	31
全画像削除.....	197
選択画像削除.....	197
測光モード.....	74
測光モードダイヤル.....	75
外付けフラッシュ発光.....	252
ソフト（フィルター効果）.....	291

タ

ターゲット追尾AF.....	169
ダイナミックAF.....	62, 64
タイム撮影.....	43
ダイレクトプリント.....	207
多重露出.....	147
縦位置自動回転.....	226
縦横位置情報の記録.....	273
地域と日時.....	25, 272
チャージャー.....	17
中央部重点測光.....	74, 243
中央部重点測光範囲.....	243
調光補正.....	130
長時間露出.....	43
調色（ピクチャーコントロール）.....	103, 105
長秒時ノイズ低減.....	236

著作権情報.....	275
ツボボタンリセット.....	134
低感度（Lo）.....	71
低速限界設定（感度自動制御）.....	73
低速連続撮影.....	6, 46, 247
低速連続撮影速度.....	247
デモモード.....	264
テレビ.....	215
電球（ホワイトバランス）.....	80
電子音設定.....	246
統合表示.....	188
同調シャッタースピード... ..	129, 251, 340
登録項目の削除（マイメニュー）.....	311
登録項目の順序変更（マイメニュー）.....	312
時計用電池.....	25
トリミング.....	288
曇天（ホワイトバランス）.....	80

ナ

夏時間の設定（地域と日時）.....	272
ニコクリイェイティブライティングシステム.....	119
日時の設定（地域と日時）.....	25, 272
ニュートラル（ピクチャーコントロール）.....	100
塗り絵.....	301
ノイズ低減.....	236
ノーマルエリアAF.....	169

ハ

ハイダイナミックレンジ.....	113
ハイビジョンテレビと接続する.....	215
ハイライト表示.....	183
バッテリー.....	17, 18, 27, 359
バッテリー残量表示.....	27
バッテリーチャージャー.....	17, 359
バッテリーを充電する.....	17
バルブ撮影.....	43
パワーオフ時間.....	245



パワーコネクター	319, 323
範囲指定 (PictBridge)	209
半押しAEロック	244
半押しAFレンズ駆動	241
半押しタイマー	32, 244
半押し (シャッターボタン)	30, 31
非AI方式レンズ	24, 162
非CPUレンズ	36, 158, 315
非圧縮RAW	57
ピクチャーコントロール	100
ピクチャーコントロールユーティリ ティ	109
被写界深度	40
ヒストグラム表示	184, 256
日付選択 (PictBridge)	210
日付選択 (削除)	197
日付と時刻を設定する	25
日付の表示順 (地域と日時)	272
日付プリント (PictBridge)	209
ピッチング	278
ビビッド (ピクチャーコントロール)	100
非表示設定	224
表示パネル	7
標準表示	182
ピント	30
ファームウェアバージョン	282
ファイル名設定	232
ファインダー内格子線表示	246
ファインダー (視度調節)	26, 320
フィルター効果	290
フィルター効果 (ピクチャーコントロー ル)	103, 105
風景 (ピクチャーコントロール)	100
フォーカスエイド	69
フォーカスポイント	30, 64, 166, 169, 242
フォーカスポイント循環選択	242
フォーカスポイント表示	242
フォーカスモード	68, 168, 240

フォーカスモード切り換えスイッチ	24, 361
フォーカスモードセレクトー	59, 168, 174
フォーカスリング	68, 174, 361
フォーカスロック (AFロック)	66
フォーマット (カードの初期化)	267
フチ設定 (PictBridge)	209
ブラケティング	136, 141, 144, 253, 254
フラッシュ	117
フラッシュ (ホワイトバランス)	80
フラッシュ撮影同調速度	251
フラッシュ使用時の露出補正	253
フラッシュ時シャッタースピード制限	252
フラッシュブラケティング (オートブラ ケティングのセット)	136, 253
フラッシュモード	127, 128
フレンジバック	69
プリセットマニュアル (ホワイト balan ス)	81, 89
フリッカー低減	271
プリント	207
プリント画像選択 (PictBridge)	210
プリント実行 (PictBridge)	209, 212
プリント指定 (DPOF)	213
プリント設定 (PictBridge)	209, 212
レビューボタンの機能	260
プログラムオート	37
プログラムシフト	37
プログラム線図	337
プロテクト	195
ヘルプ	14
編集前後の画像表示	307
ポートレート (ピクチャーコントロー ル)	100
ボタンのホールド設定	264
ボディキャップ	3
ホワイトバランス	80



ホワイトバランスの微調整	83
ホワイトバランスブラケティング (WBブラケティング)	141

マ

枚数指定 (PictBridge)	209
マイメニュー	309
マイメニュー登録 (マイメニュー)	309
マニュアル (露出)	41
マニュアルフォーカス	68, 174
マルチセクターの半押し起動	256
マルチパターン測光	74
緑強調 (フィルター効果)	290
ミニチュア効果	304
ミラーアップ撮影	6, 46, 49
ミレッド	85
メモリーカード	18, 20, 21, 27, 267, 364
モデリング発光	253
モニター発光	126, 133, 252
モノクローム (ピクチャーコントロール)	100
モノトーン	289

ヤ

ゆがみ補正	300
用紙設定 (PictBridge)	209
予測駆動フォーカス	60

ラ

ライブビュー	166
リサイズ	297
リセット	134, 229, 239
リモートコード	43, 322
輪郭強調 (ピクチャーコントロール)	103
レディーライト	123
レリーズモード	46
レリーズモードダイヤル	6, 46

連写	6, 46
レンズキャップ	361
レンズ情報手動設定	158
レンズ着脱指標	361
レンズの取り付け	23
レンズの取り外し	24
レンズマウント	69
レンズ (使用できるレンズ)	314
連続撮影	46
連続撮影コマ数	247
連番モード	248
ローパスフィルター	326
ローリング	259, 278
露出	74, 76, 78, 136
露出インジケーター	42
露出ディレーモード	250
露出補正	78
露出補正ダイヤル	78
露出補正ダイヤルロックボタン	78
露出モード	28, 35
露出モードダイヤル	7, 28, 35
ロスレス圧縮RAW	57

ワ

ワイドエリアAF	169
ワイヤレスモバイルアダプター	280, 322
ワイヤレスリモートコントローラー	43, 322
ワイヤレスリモートコントローラーの Fnボタン	280





A series of horizontal lines for writing, spanning the width of the page. The lines are evenly spaced and extend from the left margin to the right margin.







アフターサービスについて

■この製品の使い方や修理に関するお問い合わせは

- 使い方に関するご質問は、裏面に記載の「ニコン カスタマーサポートセンター」にお問い合わせください。
- 修理に関するご質問は、裏面に記載の「修理センター」にお問い合わせください。

【お願い】

- お問い合わせいただく場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、「問題が発生したときの症状」、「表示されたメッセージ」、「症状の発生頻度」など。
- ソフトウェアのトラブルの場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
「ソフトウェア名およびバージョン」、「パソコンの機種名」、「OSのバージョン」、「メモリー容量」、「ハードディスクの空き容量」、「問題が発生したときの症状」、「症状の発生頻度」、エラーメッセージが表示されている場合はエラーメッセージの内容など。
- ファクシミリや郵送で問い合わせの場合は「ご住所」、「お名前」、「フリガナ」、「電話番号」、「FAX番号」を（会社の場合は会社名と部署名も）明確にお書きください。

■修理を依頼される場合は

- ニコンサービス機関（裏面に記載の「修理センター」など）、ご購入店、または最寄りの販売店にご依頼ください。
- ニコンサービス機関につきましては、詳しくは「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。

【お願い】

- 修理に出されるときは、メモリーカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。
※ 内蔵メモリーがあるカメラでは、内蔵メモリー内に画像データがあるときは、消去される場合があります。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後7年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ニコンサービス機関またはご購入店へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。



製品の使い方に関するお問い合わせ

<ニコン カスタマーサポートセンター>

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。



0570-02-8000

※ 一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30～18:00(年末年始、夏期休業日等を除く毎日)
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03)6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、(03)5977-7499 にお送りください。

修理サービスのご案内

修理品のお引き取りを依頼される場合は

<ニコン ピックアップサービス>

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者(ヤマト運輸)が、梱包資材のお届け・修理品のお引き取り、修理後のお届け・集金までを一括して提供するサービスです。全国一律の料金にて承ります。※宅配便で扱える大きさや重さには制限があるため、取り扱いできない製品もございます。



0120-02-8155

営業時間：9:00～18:00 (年末年始12/29～1/4を除く毎日)

※上記のフリーダイヤルはピックアップサービス専用です。ニコン指定の配送業者(ヤマト運輸)にて承ります。
製品や修理に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンター、または修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

<(株)ニコンイメージングジャパン 修理センター>

230-0052 横浜市鶴見区生麦2-2-26



0570-02-8200

※ 一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30～18:00 (土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日)
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03)6702-0577 におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がありません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

インターネットご利用の方へ

<ニコンイメージング/サポートページ>

●<http://www.nikon-image.com/support/>

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデートに関する情報がご覧いただけます。

※製品をより有効にご利用いただくために、定期的にアクセスされるようおすすめします。

●<http://www.nikon-image.com/support/repair/>

「ニコン ピックアップサービス」のお申し込みや修理見積りも金額の確認、インターネットを利用して修理を申し込まれた場合の修理状況や納期の確認などをご覧いただけます。

※お問い合わせや修理を依頼をされるときには、裏面の「アフターサービスについて」も参照ください。

株式会社 **ニコン**

株式会社 **ニコン イメージング ジャパン**

Printed in Japan

SB3101(10)

6MB19110-01

© 2013 Nikon Corporation